清武町埋蔵文化財調査報告書　第29集

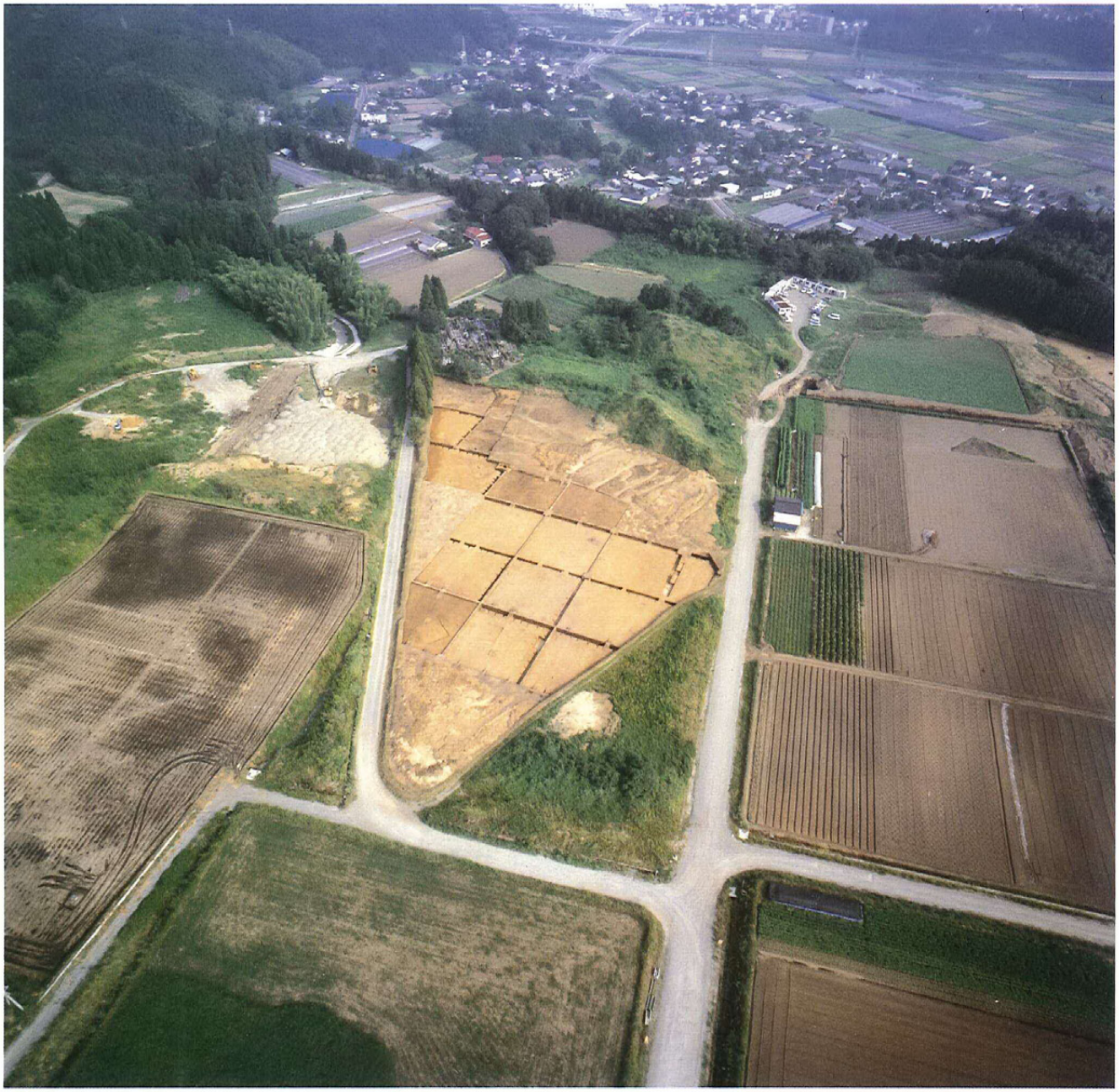
SIMOINOHARU

下猪ノ原遺跡第一地区

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

2010

清武町教育委員会



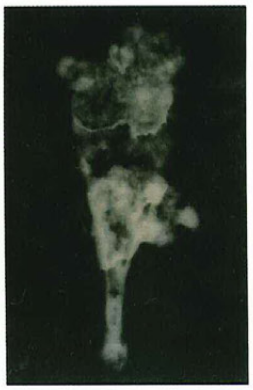
下猪ノ原遺跡第１地区全景

角錐状石器製作ブロックの接合資料と敲石

瀬戸内技法関連遺物

縄文時代早期集石遺構　（SI-8 ～ 11）

縄文時代早期 玦状耳飾



弥生時代木棺墓出土鉄鏃

序

本書は清武町船引地区で県営農地保全整備事業に伴い平成14・15年度に発掘調査の行われた下猪ノ原遺跡第一地区の調査報告書です。

下猪ノ原遺跡第一地区では約二万年前の旧石器時代から中世・近世までの幅広い時期の人々の生活を見ることができました。中でも旧石器時代の角錐状石器や瀬戸内技法に関する接合資料、縄文時代早期の玦状耳飾の出土例は希少であり、旧石器時代の石器製作技術や縄文時代の装身行為を考える上で大変重要な資料であります。

本報告書が近年全国的に注目されている南九州の旧石器時代や縄文時代早期の文化研究に役立つとともに学校教育又は生涯学習の資料として活用され、文化財保護の意識向上に向かえば幸いです。

最後に発掘調査を実施するにあたり、多大なご協力を頂きました船引地区改良区をはじめとする地元の皆様並びに関係各局に対し、心よりお礼申し上げます。

平成22年2月

清武町教育委員会

教育長　　神川　孝志

例　言

1．　本書は県営農地保全整備事業（船引工区）に伴い、平成14・15年度に発掘調査の行われた下猪ノ原遺跡第一地区の調査報告書である。

2．　現場における測量・実測作業は秋成雅博・富田卓見及び実測補助員が行った。
実測補助員…

若杉知和

（50音順）

3．　遺物の整理並びに報告書作成業務については平成21年度に清武町埋蔵文化財センターで行った。（一部は平成15年度に行い、概要については報告を行っている）
整理作業員…

（50音順）

4．　本書で使用した写真について現場における撮影は秋成が行い、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。また、遺物撮影については秋成が清武町埋蔵文化財センターで行った。

5．　本書で使用した放射性炭素年代についてはデータ測定を㈱古環境研究所に委託した。尚掲載している放射性炭素年代測定については加速器質量分析法による補正^{14}C年代である。

6．　石器実測図の作成については一部を民間会社（岡三リビック・九州文化財研究所・埋蔵文化財サポートシステム）に委託し、監修は秋成が行った。

7．　本書で使用した土層及び土器の色調等は『新版　標準土色帖（1997年後期版）』の土色に準拠した。

8．　本書に使用した方位は磁北と座標北がある。座標北を用いる場合にはG．Nと表示する。
またレベルは海抜絶対高である。

9．　本書で使用した記号は以下のとおりである。
ＳＣ…土坑・土坑墓・陥し穴状遺構　ＳＥ…溝状遺構　ＳＧ…道路状遺構　ＳＩ…集石遺構
ＳＲ…礫群

10．　本書の作成にあたり、以下の方々から貴重なご指導とご助言を頂きました。記して感謝いたします。（敬称略）
菅付和樹・松林豊樹・松本茂・藤木聡・今塩屋毅行・和田理啓（宮崎県埋蔵文化財センター）、柳田裕三（佐世保市教育委員会）、赤崎広志・松田清孝（宮崎県立総合博物館）、桒畑光博山下大輔・栗山葉子（都城市教育委員会）、島田正浩・藤木晶子・森田浩史・金丸武司（宮崎市教育委員会）、青山尚友・古屋美樹・丹俊詞

11．　本書の執筆・編集は秋成が行った。なお縄文時代早期の土器の所見については今村結記の協力を得た。

12．　出土遺物その他の諸記録は清武町埋蔵文化財センターに保管している。

目　次

第１章　はじめに …… 1

第１節　調査の経過 …… 1

1　調査に到る経緯
2　調査組織

第２節　遺跡の環境 …… 2

1　立地と環境

第３節　基本層序と調査の概要 …… 3

1　基本層序
2　調査方法
3　調査日誌抄録

第２章　旧石器時代の調査 …… 8

第１節　礫群とその出土遺物 …… 8

第２節　包含層出土遺物について …… 8

1　ブロック外出土遺物
2　第１ブロック
3　第２ブロック
4　第３ブロック
5　第４ブロック

第３章　縄文時代早期の調査 …… 60

第１節　遺構について …… 60

1　集石遺構と土坑
2　陥し穴状遺構
3　焼土を伴う土抗

第２節　包含層出土遺物について …… 71

1　縄文土器
2　石器・石製品

第４章　アカホヤ火山灰層上面の調査 …… 94

第１節　弥生時代の遺構と遺物について …… 94
第２節　中世の遺構について …… 94
第３節　時期不明の遺構について …… 97

第５章　まとめ …… 105

附編　清武町下猪ノ原遺跡第１地区における自然化学分析 …… 107
（株式会社　古環境研究所）

調査抄録 …… 111

挿　図　目　次

第1図　遺跡位置図（S＝1/25000）…… 4
第2図　遺跡周辺地形図（S＝1/2000）…… 5
第3図　基本土層図（S＝1/30）…… 6
第4図　調査区削平状況図（S＝1/750）…… 7
第5図　旧石器時代調査範囲図（S＝1/750）…… 9
第6図　礫群実測図（S＝1/30）…… 10
第7図　礫群内出土遺物（S＝1/2　2/3）…… 11
第8図　ブロック外出土旧石器（S＝1/2　2/3）…… 12
第9図　第1ブロック分布図（S＝1/30）…… 13
第10図　第1ブロック旧石器実測図①（S＝2/3）…… 14
第11図　第1ブロック旧石器実測図②（S＝2/3）…… 15
第12図　第1ブロック旧石器実測図③（S＝2/3）…… 16
第13図　第1ブロック旧石器実測図④（S＝2/3）…… 17
第14図　第1ブロック旧石器実測図⑤（S＝2/3）…… 18
第15図　第1ブロック旧石器実測図⑥（S＝2/3）…… 19
第16図　第1ブロック旧石器実測図⑦（S＝2/3）…… 20
第17図　第1ブロック旧石器実測図⑧（S＝2/3）…… 21
第18図　第1ブロック旧石器実測図⑨（S＝2/3）…… 22
第19図　第1ブロック旧石器実測図⑩（S＝2/3）…… 23
第20図　第1ブロック旧石器実測図⑪（S＝1/2　2/3）…… 24
第21図　第2ブロック分布図（S＝1/100）…… 25
第22図　第2ブロック旧石器実測図①（S＝1/2　2/3）…… 26
第23図　第2ブロック旧石器実測図②（S＝2/3）…… 27
第24図　第3ブロック分布図（S＝1/40）…… 28
第25図　第3ブロック旧石器実測図①（S＝2/3）…… 29
第26図　第3ブロック旧石器実測図②（S＝2/3）…… 30
第27図　第3ブロック旧石器実測図③（S＝2/3）…… 31
第28図　第3ブロック旧石器実測図④（S＝2/3）…… 32
第29図　第3ブロック旧石器実測図⑤（S＝2/3）…… 33
第30図　第3ブロック旧石器実測図⑥（S＝2/3）…… 34
第31図　第3ブロック旧石器実測図⑦（S＝2/3）…… 35
第32図　第3ブロック旧石器実測図⑧（S＝2/3）…… 36
第33図　第3ブロック旧石器実測図⑨（S＝2/3）…… 37
第34図　第3ブロック旧石器実測図⑩（S＝2/3）…… 38
第35図　第3ブロック旧石器実測図⑪（S＝2/3）…… 39
第36図　第3ブロック旧石器実測図⑫（S＝1/2　2/3）…… 40
第37図　第4ブロック分布図（S＝1/100）…… 41
第38図　第4ブロック旧石器実測図①（S＝1/2　2/3）…… 42
第39図　第4ブロック旧石器実測図②（S＝2/3）…… 43
第40図　縄文時代早期遺構配置図（S＝1/750）…… 62
第41図　集石遺構実測図①（S＝1/30）…… 63
第42図　集石遺構実測図②（S＝1/30）…… 64
第43図　集石遺構実測図③（S＝1/30）…… 65
第44図　集石遺構実測図④（S＝1/30）…… 66
第45図　集石遺構実測図⑤（S＝1/30）
及び出土遺物実測図（S＝1/3）…… 67
第46図　集石遺構実測図⑥（S＝1/30）…… 68
第47図　集石遺構実測図⑦（S＝1/30）…… 69
第48図　土坑実測図①（S＝1/30）…… 70
第49図　土坑実測図②（S＝1/30）…… 71
第50図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図
（S＝1/750）…… 73
第51図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①
（S＝1/3）…… 74
第52図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②
（S＝1/3）…… 75
第53図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③
（S＝1/3）…… 76
第54図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図
（器種別）（S＝1/750）…… 78
第55図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図
（石材別）（S＝1/750）…… 79
第56図　縄文時代早期遺物包含層石器実測図①
（S＝2/3）…… 80
第57図　縄文時代早期遺物包含層石器実測図②
（S＝2/3）…… 81
第58図　縄文時代早期遺物包含層石器実測図③
（S＝1/2　2/3）…… 82
第59図　アカホヤ火山灰層上面遺構配置図
（S＝1/750）…… 95
第60図　弥生時代土壙墓実測図①（S＝1/30）…… 96
第61図　弥生時代土壙墓実測図②（S＝1/30）…… 97
第62図　弥生時代土壙墓実測図③（S＝1/30）
及び出土遺物実測図（S＝2/3）…… 98
第63図　道路状遺構（SG-1）及び溝状遺構（SE-2）
土層断面図（S＝1/250）…… 99
第64図　SG-1 床面及び断面実測図
（S＝1/80）…… 100
第65図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑実測図
（S＝1/30）…… 101

表　目　次

第 1 表　船引地区遺跡郡の発掘調査概要一覧表 …… 2
第 2 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表① …… 44
第 3 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表② …… 45
第 4 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表③ …… 46
第 5 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表④ …… 47
第 6 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑤ …… 48
第 7 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑥ …… 49
第 8 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑦ …… 50
第 9 表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑧ …… 51
第 10 表　集石遺構計測表 …… 61
第 11 表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表 …… 83
第 12 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表① …… 84
第 13 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表② …… 85
第 14 表　弥生時代墳墓計測表 …… 98

図　版　目　次

巻頭カラー 1　下猪ノ原遺跡第 1 地区全景
巻頭カラー 2　角錐状石器製作ブロックの接合資料と敲石
巻頭カラー 3　瀬戸内技法関連遺物
巻頭カラー 4　縄文時代早期集石遺構（SI-8 ～ 11）・縄文時代早期　玦状耳飾・弥生時代木棺墓出土鉄鏃
写真図版 1　土層断面 …… 6
写真図版 2　旧石器時代礫群 …… 52
写真図版 3　旧石器時代遺物包含層出土石器① …… 53
写真図版 4　旧石器時代遺物包含層出土石器② …… 54
写真図版 5　旧石器時代遺物包含層出土石器③ …… 55
写真図版 6　旧石器時代遺物包含層出土石器④ …… 56
写真図版 7　旧石器時代遺物包含層出土石器⑤ …… 57
写真図版 8　旧石器時代遺物包含層出土石器⑥ …… 58
写真図版 9　旧石器時代遺物包含層出土石器⑦ …… 59
写真図版 10　縄文時代早期集石遺構① …… 86
写真図版 11　縄文時代早期集石遺構② …… 87
写真図版 12　縄文時代早期集石遺構③・土坑① …… 88
写真図版 13　縄文時代早期土坑② …… 89
写真図版 14　縄文時代早期遺物包含層出土土器① …… 90
写真図版 15　縄文時代早期遺物包含層出土土器② …… 91
写真図版 16　縄文時代早期遺物包含層出土石器① …… 92
写真図版 17　縄文時代早期遺物包含層出土石器② …… 93
写真図版 18　アカホヤ火山灰層上面検出遺構① …… 102
写真図版 19　アカホヤ火山灰層上面検出遺構② …… 103
写真図版 20　アカホヤ火山灰層上面検出遺構③ …… 104

第１章　はじめに

第１節　調査の経過

１．調査に到る経緯

平成７年度から実施されている県営農地保全整備事業（船引工区）において、平成15年度事業区に下猪ノ原遺跡の一部が含まれることが確認された。遺跡の取扱いについて、宮崎県教育委員会、宮崎県中部農林振興局、船引地区土地改良区、清武町教育委員会等関係各局で協議を行った。

その結果、やむを得ず削平などにより、遺跡の現状保存が困難な事業区については宮崎県中部農林振興局の委託を受け、清武町教育委員会が発掘調査を実施することとなった。調査機関は平成14年11月21日から平成15年12月24日で調査面積は約7000㎡である。

２．調査組織

調査主体　清武町教育委員会

調　査（平成14・15年度）

事　務　局

教育長	湯　地　敏　郎
教育次長	小　城　員　久
社会教育課長	川　越　繁　美（平成14年度）
	松　元　一　夫（平成15年度）
社会教育課文化係長	伊　東　　但

調　査　員

社会教育課主任	井　田　　篤
社会教育課主事	秋　成　雅　博（調査担当）
社会教育課嘱託	冨　田　卓　見（調査担当）

整理作業（平成21年度）

事　務　局

教育長	神　川　孝　志
教育次長	児　玉　秀　樹
生涯学習課課長	日　高　貞　幸
生涯学習課課長補佐兼文化振興係長	川　越　　健
生涯学習課主査	井　田　　篤

調　査　員

生涯学習課主任	秋　成　雅　博（報告書担当）
生涯学習課嘱託	今　村　結　記

第２節　遺跡の環境

１．立地と環境（第１・２図）

清武町は宮崎平野の南西部に位置している。本遺跡は町の北西部の船引地区に所在し、町内を北西から東へ流れる清武川左岸のシラス台地の南東端部（標高は 65 ～ 63 m）に立地する。このシラス台地の中腹には湧水地点が多く存在しており、遺跡が立地するには良い条件であったと考えられ、台地上には数多くの遺跡が存在する。

下猪ノ原遺跡の周辺では県営農地保全整備事業（時屋工区・船引工区）や東九州自動車道建設に伴い発掘調査が行われ、現在その調査件数は 18 遺跡 26 調査区域に及び、旧石器時代から近世までの様々な遺構・遺物が確認されている。その中でも縄文時代早期の遺構・遺物の調査成果は突出しており、五反畑遺跡Ａ地区を除く全ての遺跡で縄文時代早期の調査が行われている。第１表に各調査区の概要を示す。

第１表　船引地区遺跡群の発掘調査概要一覧表

No	遺跡名	調査面積（㎡）	主な時代（特徴的な遺構・遺物）	調査機関
1	上の原第1遺跡	48000	縄文早期・縄文（中期～晩期：石刀）・弥生時代	宮崎県埋蔵文化財センター
2	上の原第１遺跡(B地区)	2100	旧石器・縄文早期・縄文晩期・弥生時代（磨製石剣）・古墳時代	宮崎県埋蔵文化財センター
3	上の原第2遺跡	45500	縄文早期･縄文（中期～後期:竪穴住居など)･近世（墓など）	宮崎県埋蔵文化財センター
4	上の原第3遺跡	15500	縄文早期・古墳時代（竪穴住居など）	宮崎県埋蔵文化財センター
5	上の原第4遺跡	3400	弥生時代・古墳時代	宮崎県埋蔵文化財センター
6	白ヶ野第3遺跡（B区）	25000	縄文早期・弥生時代・古代	宮崎県埋蔵文化財センター
7	白ヶ野遺跡（A地区）	300	縄文時代・近世	宮崎県埋蔵文化財センター
8	白ヶ野第2･3遺跡	18000	旧石器･縄文草創期（御子柴型石斧など)･縄文早期･縄文（前期～晩期：竪穴住居跡）・古代・近世	宮崎県埋蔵文化財センター
9	白ヶ野第１遺跡	17200	旧石器・縄文（早期～晩期）・弥生時代	清武町教育委員会
10	白ヶ野第４遺跡	1900	縄文早期（垂飾・腕輪など）	清武町教育委員会
11	滑川第１遺跡	17620	縄文（草創期～早期）・縄文（前期～晩期：蛇紋岩製石斧・825 gの姫島産黒曜石製の石核など）・弥生時代・古墳時代	清武町教育委員会
12	滑川第２遺跡	10420	旧石器・縄文早期（1250 gの姫島産黒曜石製石核など）・縄文（前期～晩期）・弥生時代（管玉など）・古代	清武町教育委員会
13	滑川第３遺跡	6940	旧石器・縄文早期・縄文（前期～晩期）・弥生時代	清武町教育委員会
14	山田第１遺跡	7700	旧石器・縄文（草創期～早期）・弥生時代・古墳時代	清武町教育委員会
15	山田第２遺跡	4300	縄文早期・弥生時代・古代	清武町教育委員会
16	坂元遺跡	9000	旧石器・縄文早期（埋設土器など）・弥生時代	清武町教育委員会
17	坂元第２遺跡	530	旧石器・縄文早期	清武町教育委員会
18	下猪ノ原遺跡第1地区	7000	旧石器・縄文早期・弥生時代・古代	清武町教育委員会
19	下猪ノ原遺跡第２地区	1200	旧石器・縄文早期（環状遺棄遺構・埋設土器・石器の埋納遺構など）・弥生時代・古代	清武町教育委員会
20	清武上猪ノ原遺跡第１地区	14000	縄文草創期（集石など）・縄文早期（埋設土器・完形の耳栓など）・弥生時代・古代	清武町教育委員会
21	清武上猪ノ原遺跡第２地区	15200	旧石器・縄文草創期（集石など）・縄文早期（埋設土器など）	清武町教育委員会
22	清武上猪ノ原遺跡第３地区	2000	縄文早期（石斧の埋納遺構など）・縄文後期・中世	清武町教育委員会
23	清武上猪ノ原遺跡第４地区	1300	旧石器・縄文草創期・縄文早期（竪穴状遺構・埋設土器・環状石斧など）	清武町教育委員会
24	清武上猪ノ原遺跡第５地区	3700	旧石器・縄文草創期（竪穴住居跡・矢柄研磨器など）・縄文早期（直径４mを超える集石など）・縄文（前期～後期）・古代・中世	清武町教育委員会
25	五反畑遺跡Ａ地区	1370	縄文後期・古代（土坑墓・墨書土器・長沙窯系水差など）	清武町教育委員会
26	五反畑遺跡Ｂ地区	1110	旧石器・縄文早期（石器の埋納遺構など）・弥生時代・古墳時代（木棺墓・石棺墓・珠文鏡など）	清武町教育委員会

第３節　基本層序と調査の概要

１．基本層序（第３図・図版１）

当遺跡の土層の堆積状況は、調査区の南東部は当台地上の他の遺跡とほぼ同じ状況であり第３図・図版１のとおりであった。しかし、調査区の中央部付近においては土層の堆積状況が良くない部分があり、基本層序10層がまったく存在しない箇所が見られた。

２．調査方法

当遺跡の調査前は畑地であった。調査は重機による表土の剥ぎ取りから行った。耕作土（基本層序１層）を除去したところ、調査区の東南側の一部の区域ではアカホヤ火山灰層上位の黒色シルト質ローム層（クロボク）・褐色シルト質ローム層（二次堆積のアカホヤ火山灰）が確認されたので、その区域においては一旦精査を行い遺構・遺物の検出に勤めた。しかし、遺構は検出されず、遺物等の混入もほとんどみられなかったので、この二つの土層については耕作土と同様に重機により除去した。

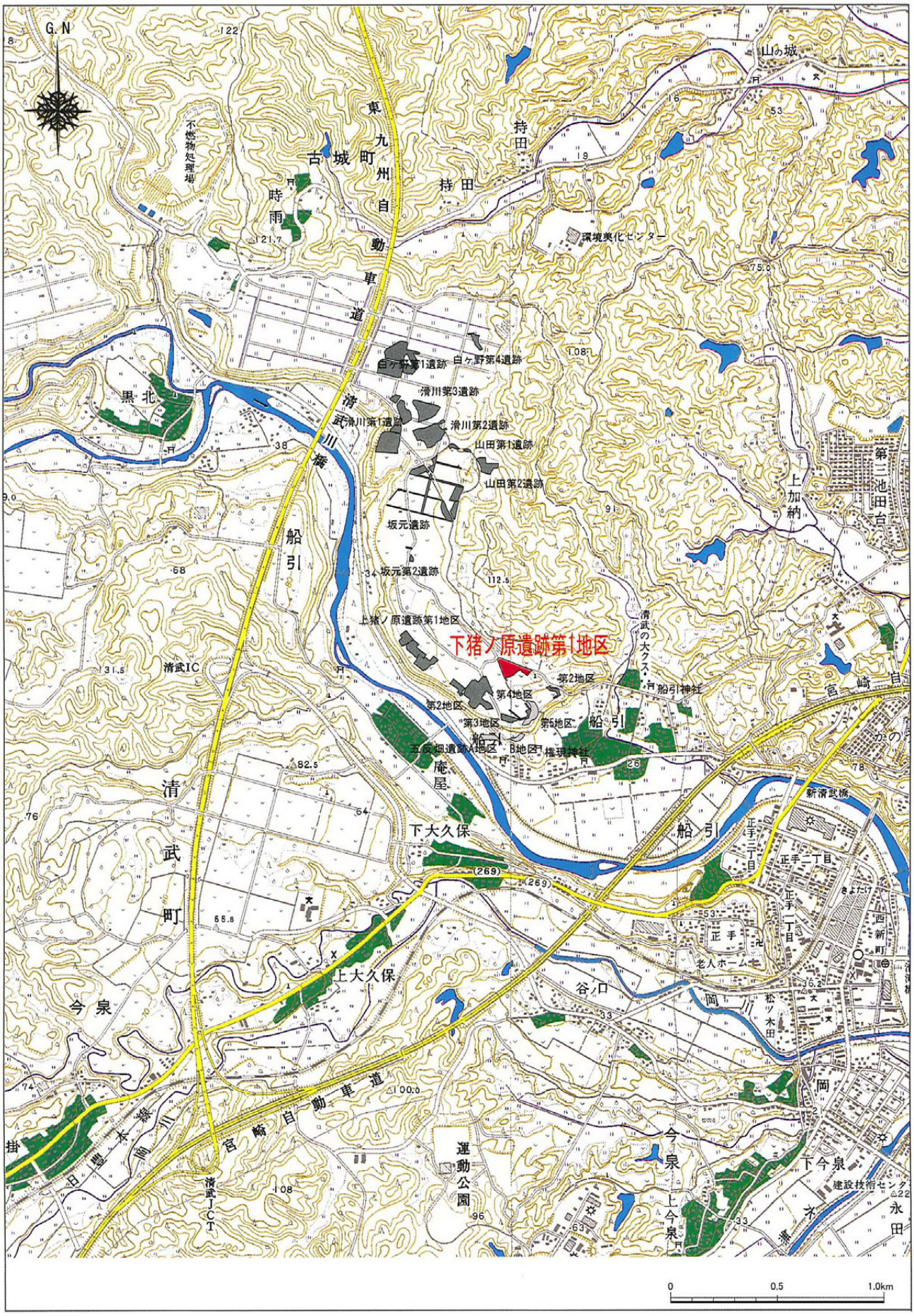
耕作土～褐色シルト質ローム層を重機で除去したところ、調査区の北部と東南部の一部では削平を受けていたため残存していなかったが、広い範囲でアカホヤ火山灰層（基本層序２層）が確認された（第４図）。この２層の上面にて縄文前期以降の遺構検出を行った。その結果道路状遺構２条、溝状遺構７条、土坑墓４基、土坑３基が確認され、それらの調査を行った。

２層上面での調査終了後、再び重機により２層を除去し、縄文時代早期の遺物包含層である黒色ローム層（基本層序３層）を露出させ、鬼界カルデラ噴火直前の当遺跡の地形を把握するため、この３層の上面にて等高線の記録作業を行った。縄文時代早期の調査は調査区内を20m × 20mのグリットで区分けを行い、ジョレンやネジリ鎌を使用して遺物包含層の掘り下げを行った。縄文早期の遺物包含層からは遺物とともに、集石遺構25基、陥し穴状遺構１基、床面や埋土に焼土を伴う土坑７基が検出された。

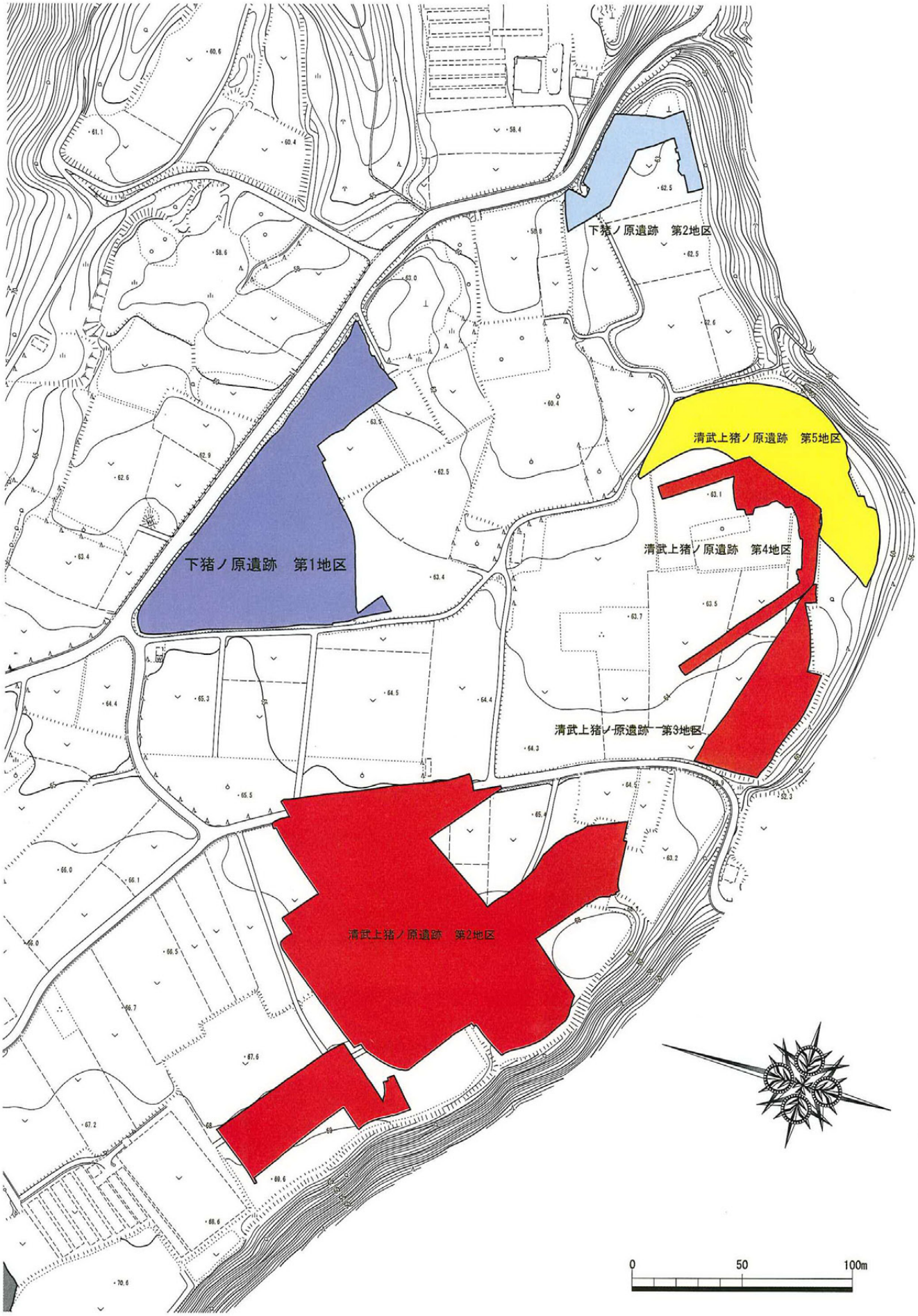
旧石器時代の調査については工事計画より、調査区の東南側を重点的に行うこととなった。調査区の東南部以外の箇所については、縄文早期の遺物包含層を掘り下げるために設定したグリットの土層観察を行うためのあぜ沿いに幅１ｍのトレンチを設定し、手グワとネジリ鎌を使用して掘り下げを行って遺構・遺物の検出に努めた。この区域における旧石器時代の調査については、縄文時代早期の調査が終了したところから随時おこなうこととなった。また調査区の東南部では縄文早期の遺物包含層の掘り下げが終了した箇所において、旧石器時代の遺物確認のためのトレンチを設定し、そのトレンチを手グワとネジリ鎌により掘り下げを行い、遺物が検出されたトレンチを拡張していく形で旧石器時代の調査範囲を設定していった。その結果、調査区の東南部では約680㎡の旧石器時代の調査が行われ、最終的に本遺跡における旧石器時代の総調査面積は約2000㎡に及んだ。

３．調査日誌抄録

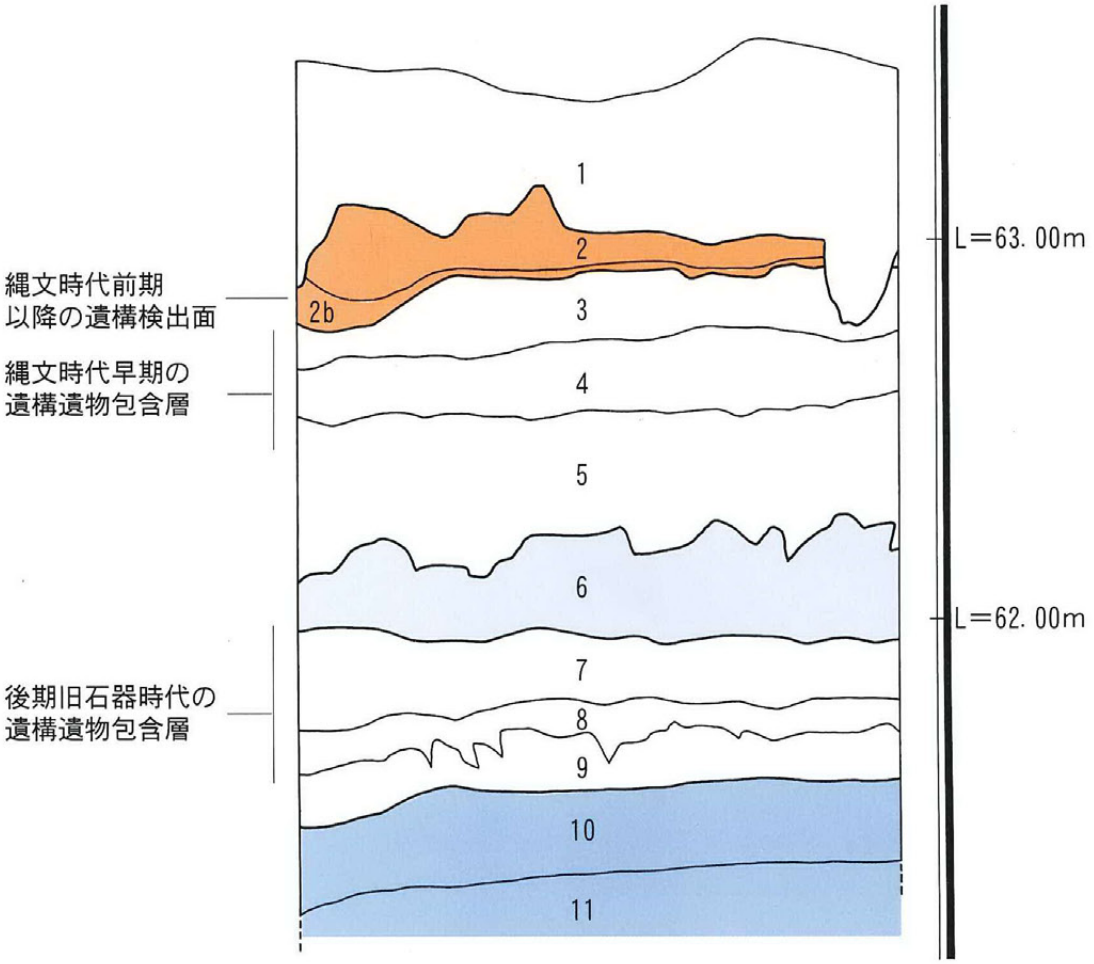
H14. 11.21　重機による表土の剥ぎ取り開始
　　12.10　アカホヤ火山灰層上面遺構検出
H15. 01.07　重機によるアカホヤ火山灰層の剥ぎ取り開始
　　01.20　縄文時代早期の調査開始（調査区北側より）
　　01.21　玦状耳飾出土
　　02.10　アカホヤ火山灰層上面の調査終了
　　03.11　旧石器時代遺物包含層の確認トレンチの掘り下げ
　　（縄文時代早期の調査が終了した区域から随時行う）
　　07.25　清武町児童文化センターのふるさと教室（発掘体験・現地見学）
　　08.02　きよたけ歴史館のきよたけの歴史講座（発掘体験・現地見学）
　　09.18　調査区空中写真撮影
　　12.02　縄文時代早期の調査終了
　　12.24　旧石器時代の調査終了（本調査区の調査終了）



第１図　遺跡位置図（S＝1/25000）



第２図　遺跡周辺地形図（S＝1/2000）



写真図版１　土層断面

1　耕作土

2　黄褐色ローム層（Hue10YR5/6）
　　…アカホヤ火山灰層。

2b　黄褐色砂質ローム層（Hue10YR5/6）
　　…アカホヤ火山灰の軽石層。

3　黒色ローム層（Hue10YR2/1）…硬質。

4　黒褐色砂質ローム層（Hue10YR3/2）…やや軟質。

5　暗褐色砂質ローム層（Hue10YR3/3）
　　…霧島小林軽石を少量含む。

6　褐色ローム層（Hue10YR4/4）
　　…霧島小林軽石を多量に含む。硬質。

7　褐色ローム層（Hue7.5YR4/3）
　　…霧島小林軽石層を少量含む。

8　褐色ローム層（Hue10YR4/6）…軟質。

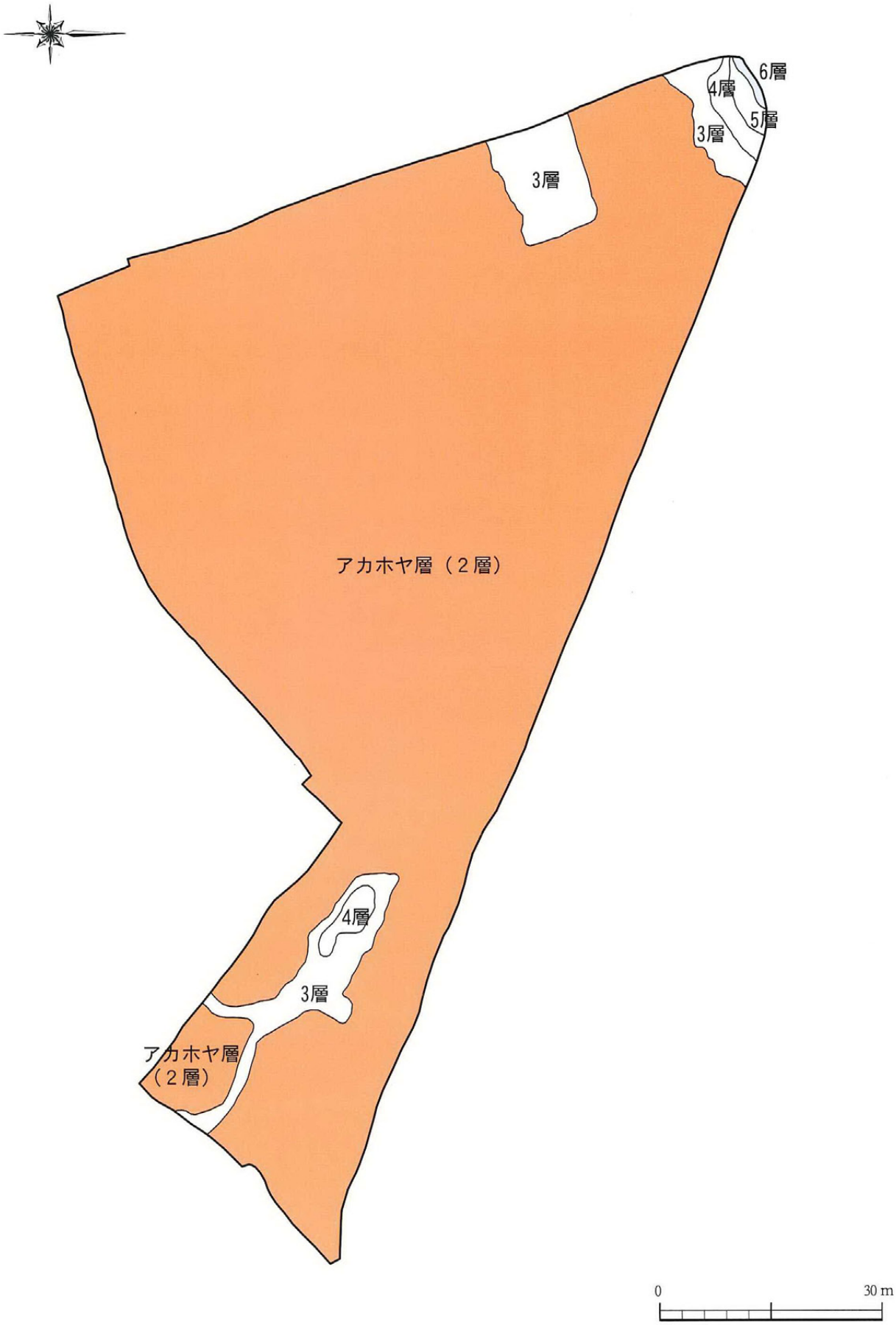
9　黄褐色ローム層（Hue10YR5/8）
　　…10層のブロックを少量含む。

10　黄褐色シルト質ローム層（Hue2.5YR5/3）
　　…シラス（2次堆積か？）。

11　暗灰黄色砂質ローム層（Hue2.5YR5/2）
　　…シラス（凝灰岩質）。

0　1m

第３図　基本土層図（S＝1/30）



第４図　調査区削平状況図（S ＝ 1/750）

第２章　旧石器時代の調査

本調査区における旧石器時代の調査方法は前章に述べている。旧石器時代の調査においては1031点の石器と163点の礫が出土している。なお、今回の報告にあたり剥片石器については肉眼観察によりその母岩を分類した。

第１節　礫群とその出土遺物

礫群は全部で４基検出された。SR-4以外は全てシラス（基本層序の11層）の直上の層から検出されているが、SR-1～３の検出された付近は基本層序の９～10層が存在しない範囲であったので、検出層位としては８層であるがシラスの直上での検出となっている。SR-4については基本層序が全て存在する場所での検出事例であり、検出層位は８層である。以下に個別に報告を行う。

SR-1は礫の範囲が2.8m×1mを測り、礫の総数は９点、総重量は8.9kgを量る。使用礫は全て砂岩である。本遺構の礫の接合作業をおこなったが１点も接合しなかった。遺物は砂岩製の敲石が１点出土している。

１は砂岩製の敲石である。端部に使用痕が見られる。

SR-2は礫の範囲が3.5m×1.4mを測り、礫の総数は20点、総重量は2.65kgを量る。使用礫は全て砂岩である。本遺構の礫の接合作業の結果、４点が接合したため、本来の構成礫の個体数は18個である。遺物はホルンフェルス製の石核１点、剥片１点、砕片１点、上牛鼻産黒曜石製の石核１点、剥片１点、砕片２点が出土している。

２はホルンフェルス製の剥片素材の石核である。熱を受けているためか表面の風化が著しく、剥落している部分が見られる。

SR-3は礫の範囲が1.9m×1.5mを測り、礫の総数は39点、総重量は8.5kgを量る。使用礫は全て砂岩である。本遺構の礫の接合作業の結果、全てが接合したため、本来の構成礫の個体数としては７個であった。遺物は頁岩製の角錐状石器１点、頁岩製のスクレイパー１点、流紋岩製のスクレイパー１点、頁岩製の剥片１点、砂岩製の剥片１点、砕片１点、敲石１点が出土している。

３は頁岩製のスクレイパーである。ななめ剥ぎの剥片を素材としており、主要剥離面側からの調整で片縁に鋸歯状の刃部加工を施す。４は頁岩製の角錐状石器である。背面に自然面を残しており、やや斜め剥ぎの剥片を素材としている。主要剥離面側からの調整で両側縁を鋸歯状にしている。５は流紋岩製のスクレイパーである。背面の刃部以外は全て自然面を残していることから円礫のファーストフレイクを素材としている。３と同様に主要剥離面側からの調整で片縁に鋸歯状の刃部加工を施す。６は砂岩製、７は頁岩製の斜め剥ぎの剥片である。８は砂岩製の敲石である。端部に使用痕が見られる。

SR-4は礫の範囲が1.3m×1.2mを測り、礫の総数は22点、総重量は3.1kgを量る。使用礫は全て砂岩である。本遺構の礫の接合作業の結果、14点が接合したため、本来の構成礫の個体数は12個であった。

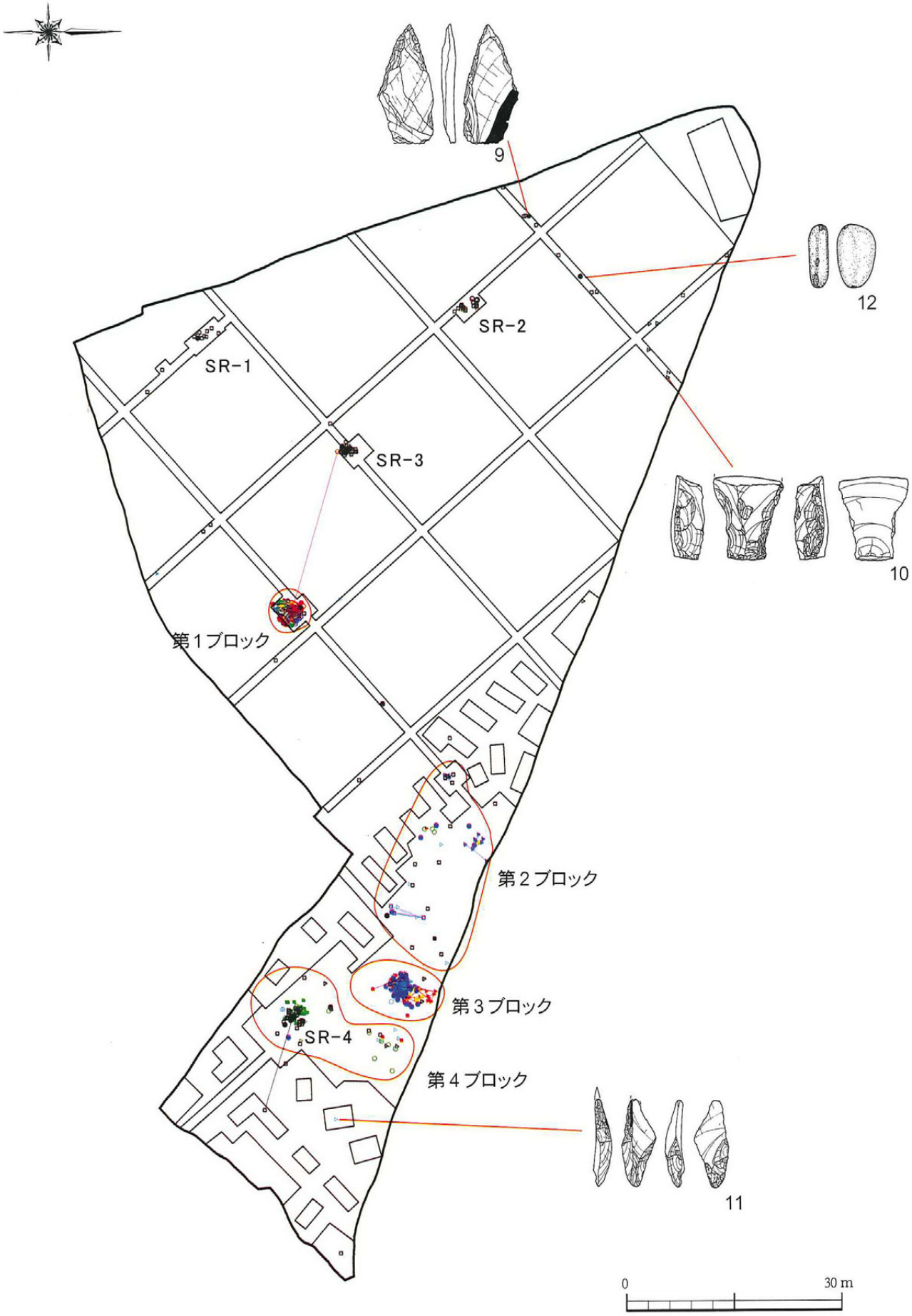
第２節　包含層出土遺物について

遺物包含層中の掘り下げによって４ヶ所の遺物集中部（ブロック）が検出された。以下にブロックごとに接合資料・製品類を中心に報告を行う。なお各個別資料の詳細については計測分類表を参照していただきたい。

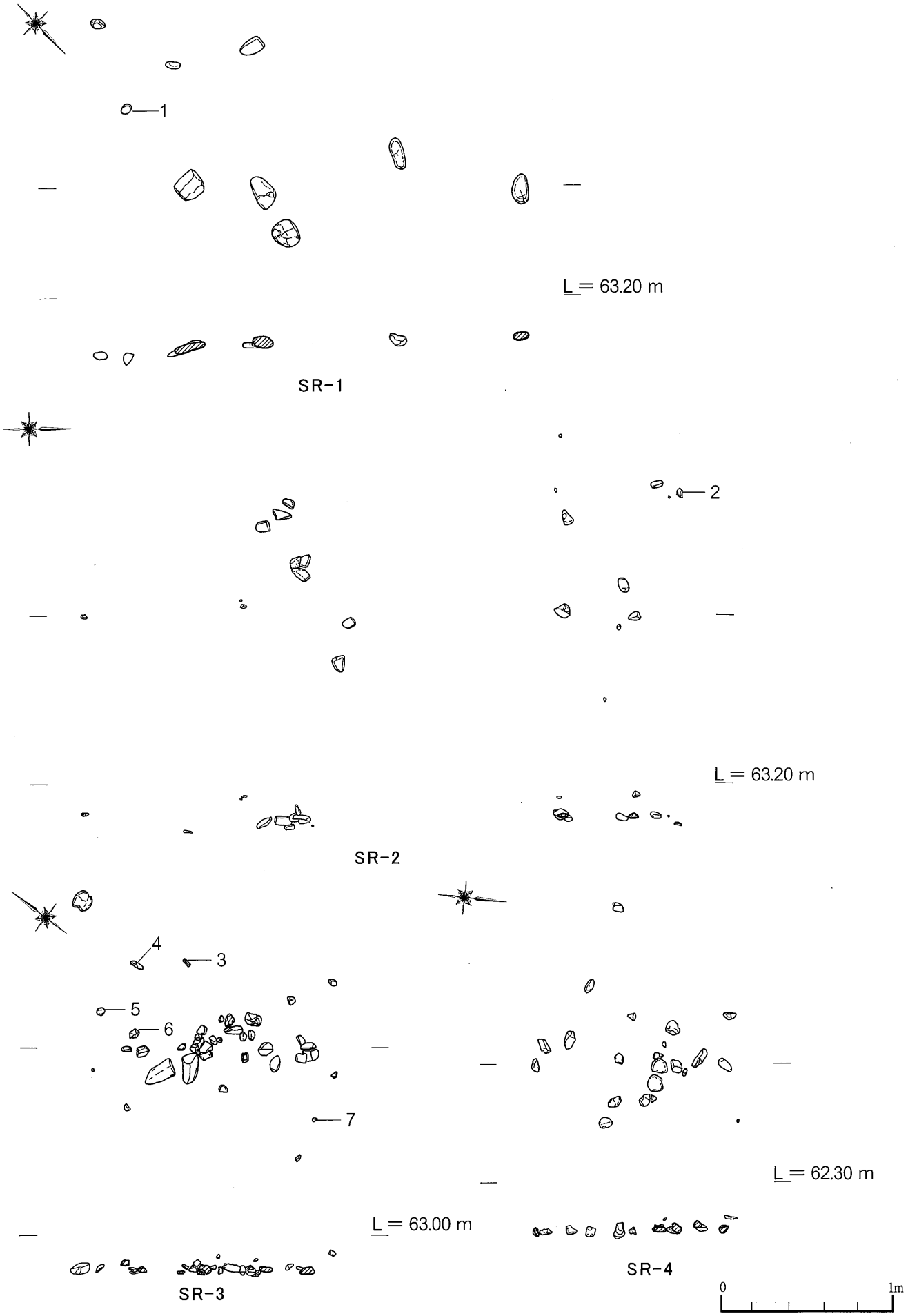
１．ブロック外出土遺物

調査区に設定したトレンチから出土した遺物で、第１～第４ブロックからは平面分布が離れて出土しているものである。開発深度の都合上、トレンチを拡張できなかった部分の石器群についてはその全容を確認することはできなかったが、重要な遺物が出土しているためここで報告を行う。

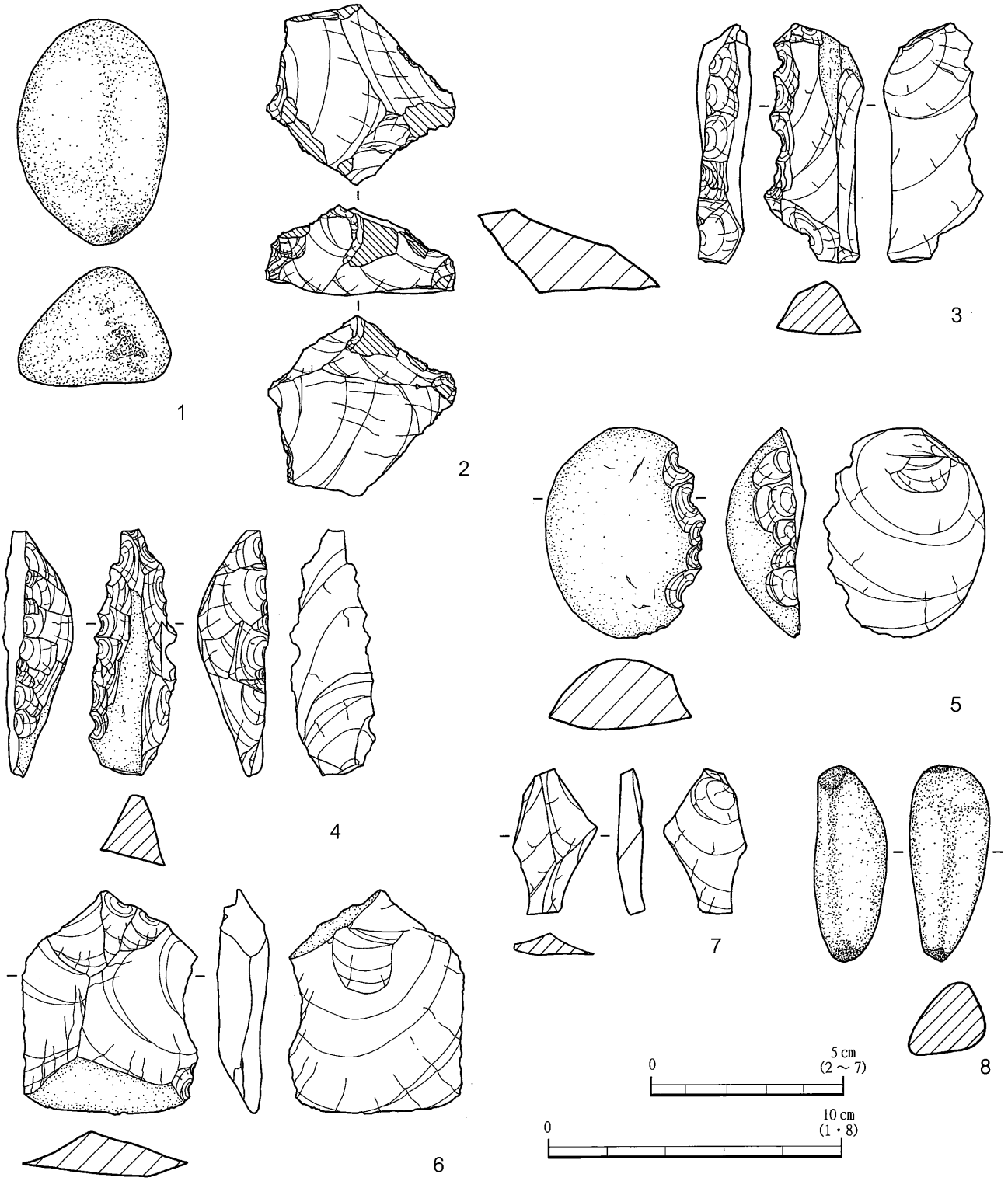
9は粘板岩製の槍先形尖頭器である。調査区西側から出土している。このあたりは基本層序の9～10層が存在しなかったので、出土層位は8層であるがシラス（基本層序11層）の直上の層からの出土となっている。薄手の剥片に周縁加工を施し、全体の成形をおこなうが、基部の加工は粗い反面、尖頭部についての調整は入念である。基部の一部を欠損している。10は砂岩製の剥片尖頭器である。調査区の北側の7層から出土している。尖端部を欠損しており、基部の抉りはあまり顕著ではない。一部に稜上調整が認められる。11は流紋岩製の二側縁加工の



第5図　旧石器時代調査範囲図（S＝1/750）



第６図　礫群実測図（S＝1/30）

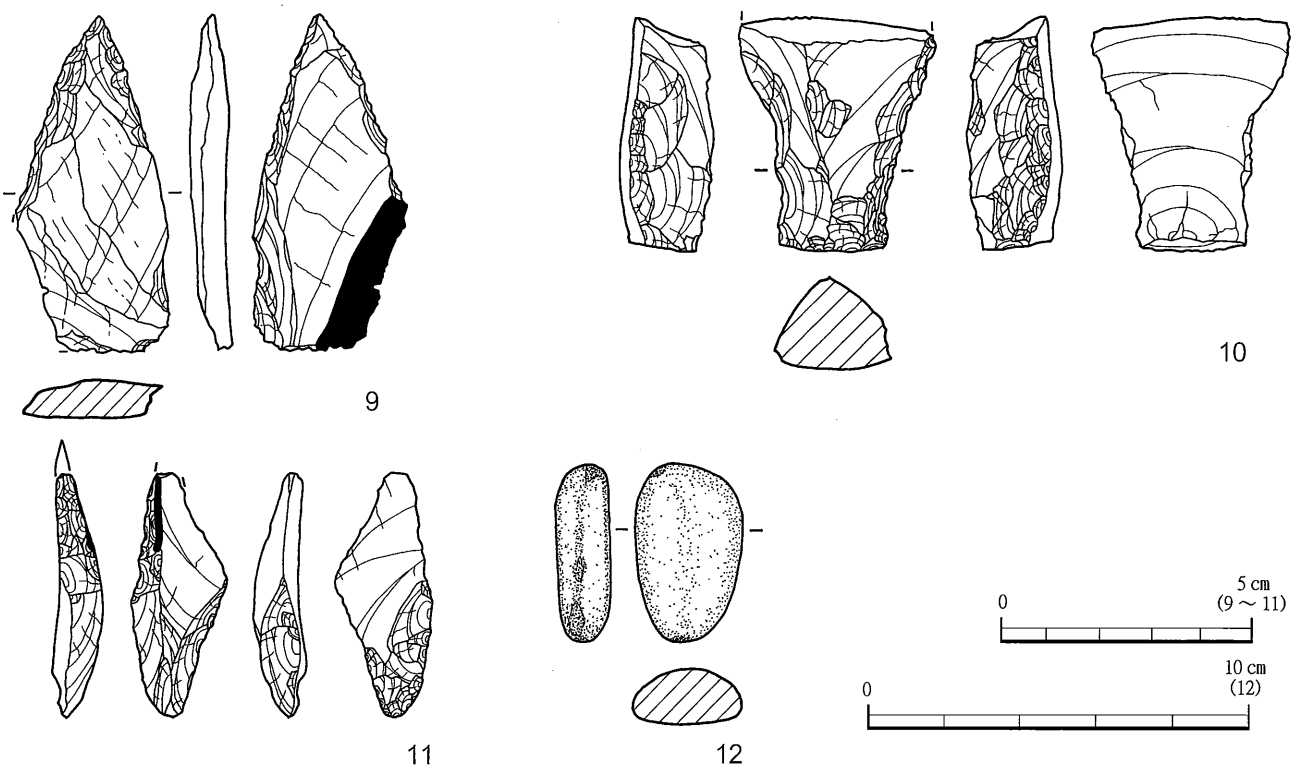


第７図　礫群内出土遺物（S＝1/2　2/3）

ナイフ形石器である。調査区の東側の6層から出土している。主要剥離面側には平坦剥離が認められる。先端部を欠損している。12は砂岩製の敲石である。調査区の西側の7層から出土している。

２．第１ブロック

調査区中央付近で検出された石器の集中部で、土層確認のためのトレンチの掘り下げによって検出されたブロックである。石器の分布状況は非常に集中しており、本ブロックからは角錐状石器9点（欠損品・未製品ばかりである）、剥片・砕片692点、敲石3点が出土しており、出土石器の様相から本ブロックは角錐状石器の製作址で



第８図　ブロック外出土旧石器（S＝1/2　2/3）

あることが明らかである。

石器の集中域の範囲は4.5m×3.2m程度である。接合作業の結果からは52組の接合資料があることがわかった。そのうち1組が約20m北側に位置するSR-3付近で出土した剥片と接合している。その他の接合資料については全て本ブロック内での接合関係である。本ブロックでは7種類の母岩が確認されている。

以下に主な資料については母岩別に解説をおこなう。なお、剥片の折れ面同士の接合資料や剥片2点の接合資料などは今回報告する資料と類似するものに関しては一部を割愛している。

母岩Ａ（頁岩：接合資料1～14　この他に6組ある）

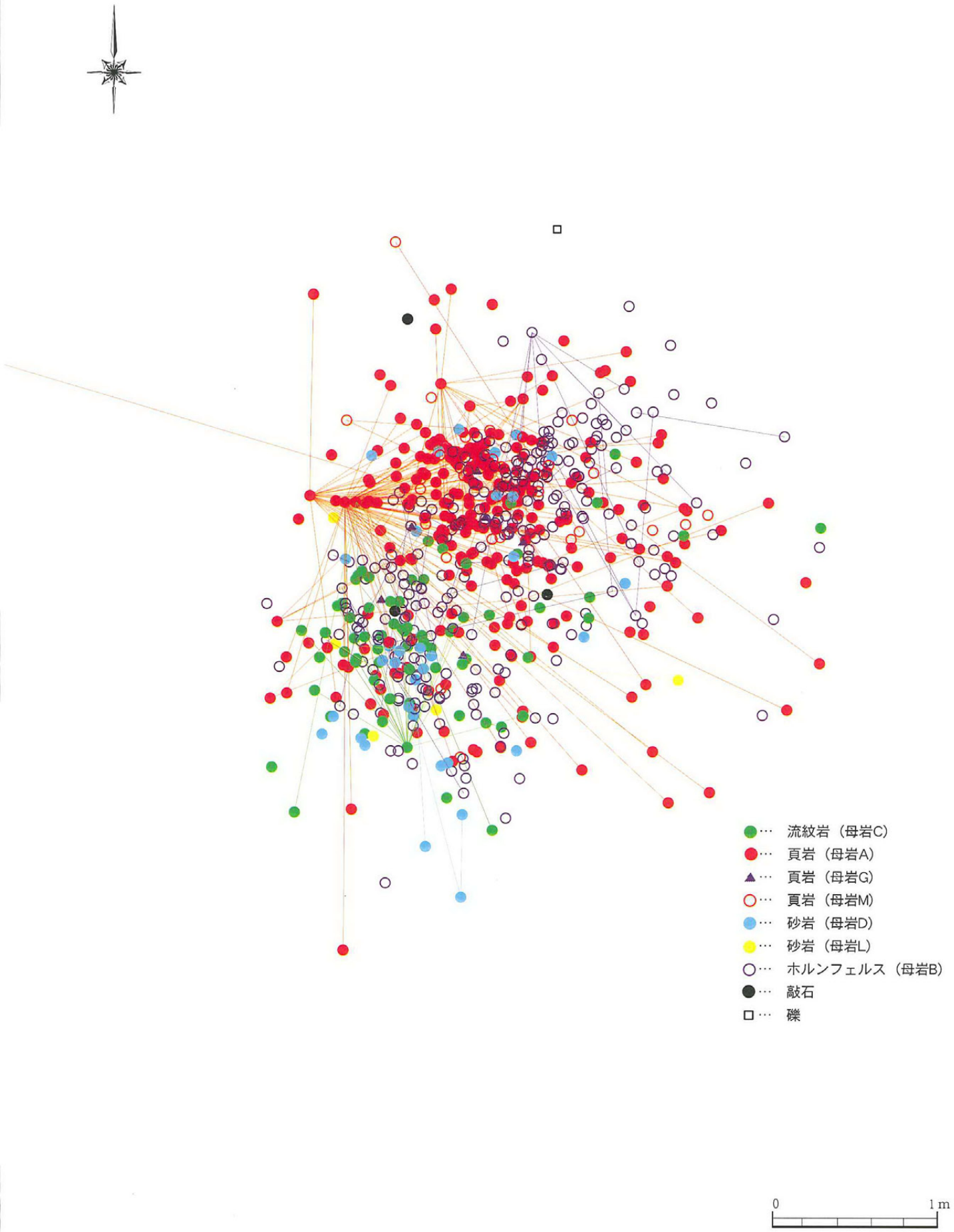
母岩Ａは赤褐色～黒褐色の頁岩である。本ブロックで最も接合状況のよい母岩で、全部で270点出土している。

接合資料１は角錐状石器の未製品１点及び剥片69点の接合資料である。ほとんどが角錐状石器の製作時に生産された調整剥片であり、それらが接合することによって本資料は４点の角錐状石器の素材剥片と１点の偶発的に生産された剥片の接合資料となっている。基本的には縦長剥片を作出し、その縁辺から調整剥片を作出することで角錐状石器を製作していたようである。接合した素材剥片の剥ぎ取り順序は**ピンク→水色→紫→赤→緑**となっている。なお青は節理により赤から外れた剥片で、調整剥片を作出していないので素材剥片ではない。

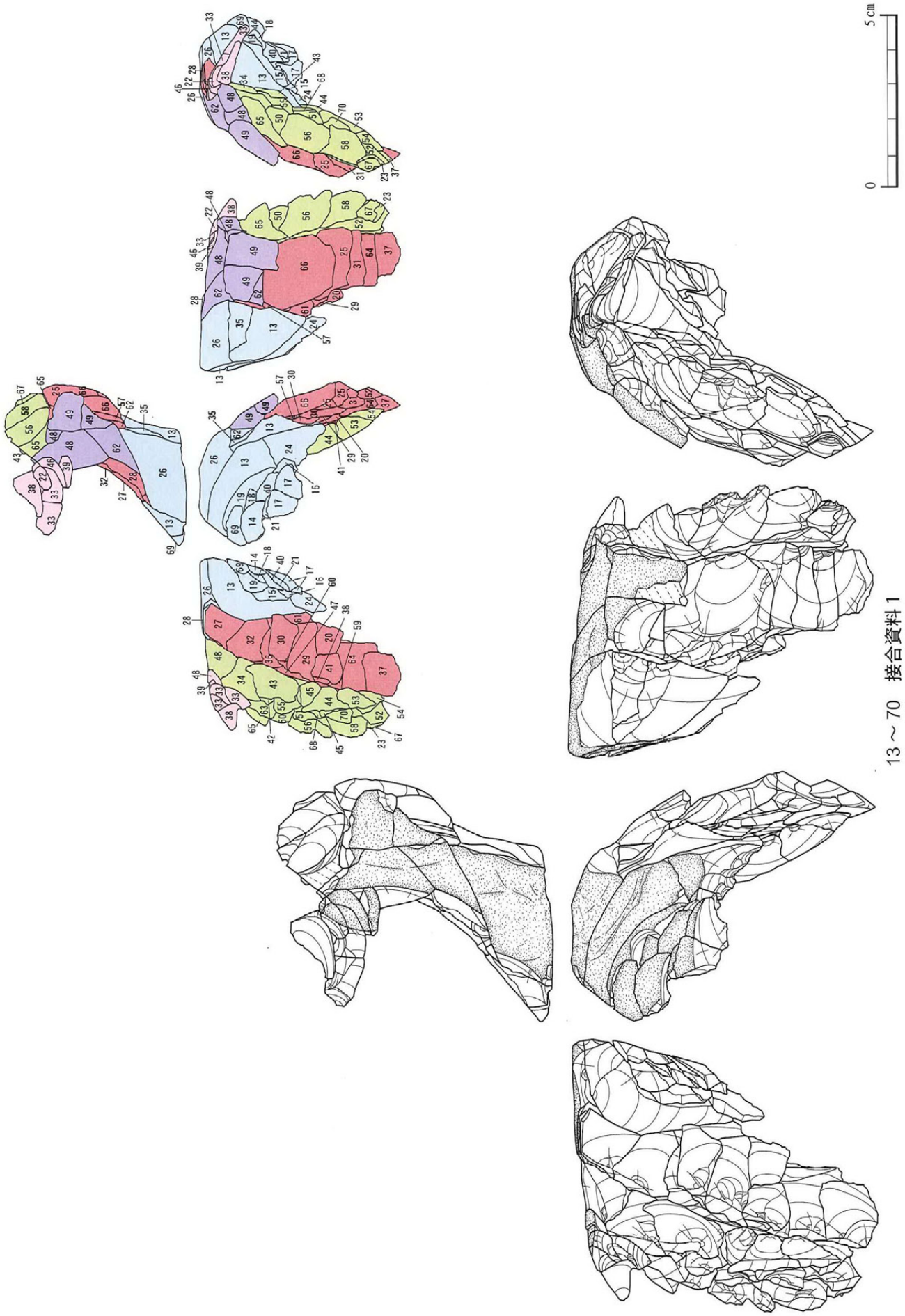
接合資料２は剥片28点の接合資料である。接合資料１と同様ほとんどが調整剥片であり、接合作業の結果７枚の角錐状石器の素材剥片の接合資料となっている。本資料も縦長剥片を作出しようとしたものである。73は打面再生剥片で横剥ぎであるが、これを素材として調整剥片を生産し角錐状石器を製作しようとしている。接合した素材剥片の剥ぎ取りの順序は**ピンク→白→赤→緑→黄→紫・水色→オレンジ**となっている。なお青・水色はもともと一回の打撃により作出された一枚の剥片であるが縦裂け現象により二つに分かれた剥片でその水色の部分だけを素材剥片として角錐状石器を製作しようとして調整剥片を生産している。

接合資料３は剥片17点の接合資料である。幅広の縦長剥片の主要剥離面側から打撃を加えて１～2.5cm程度の剥片を連続的に作出している。これらの剥片は角錐状石器の調整剥片であり、素材剥片の片縁部である。なお、この接合資料を構成する剥片のほとんどに自然面が確認される。

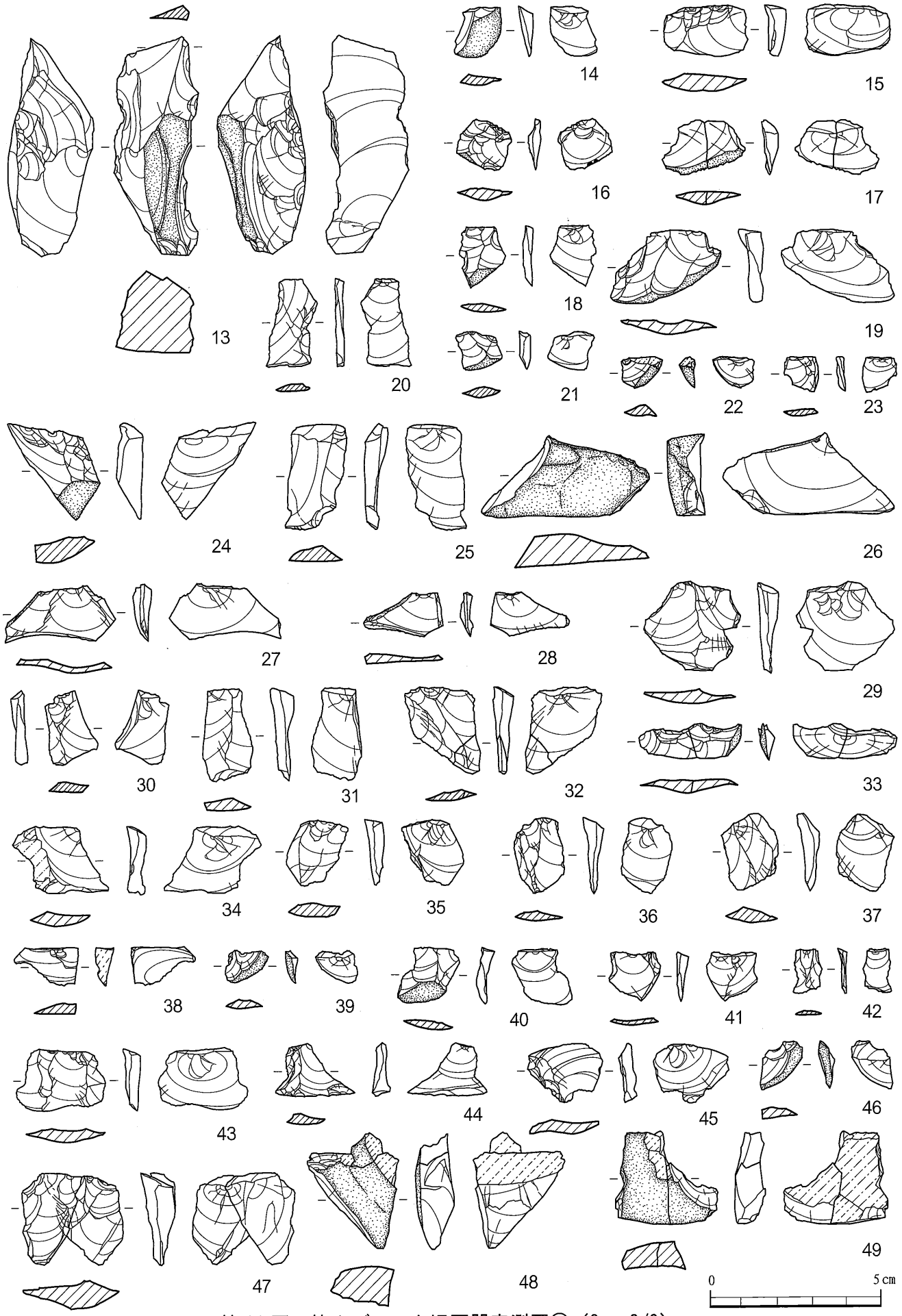
接合資料４・５は角錐状石器１点と剥片４～５点の接合資料である。いずれも素材剥片の打面部を基部としている。調整剥片は主要剥離面側から作出している。角錐状石器自体（116・122）は両者ともは先端部が折れたこ



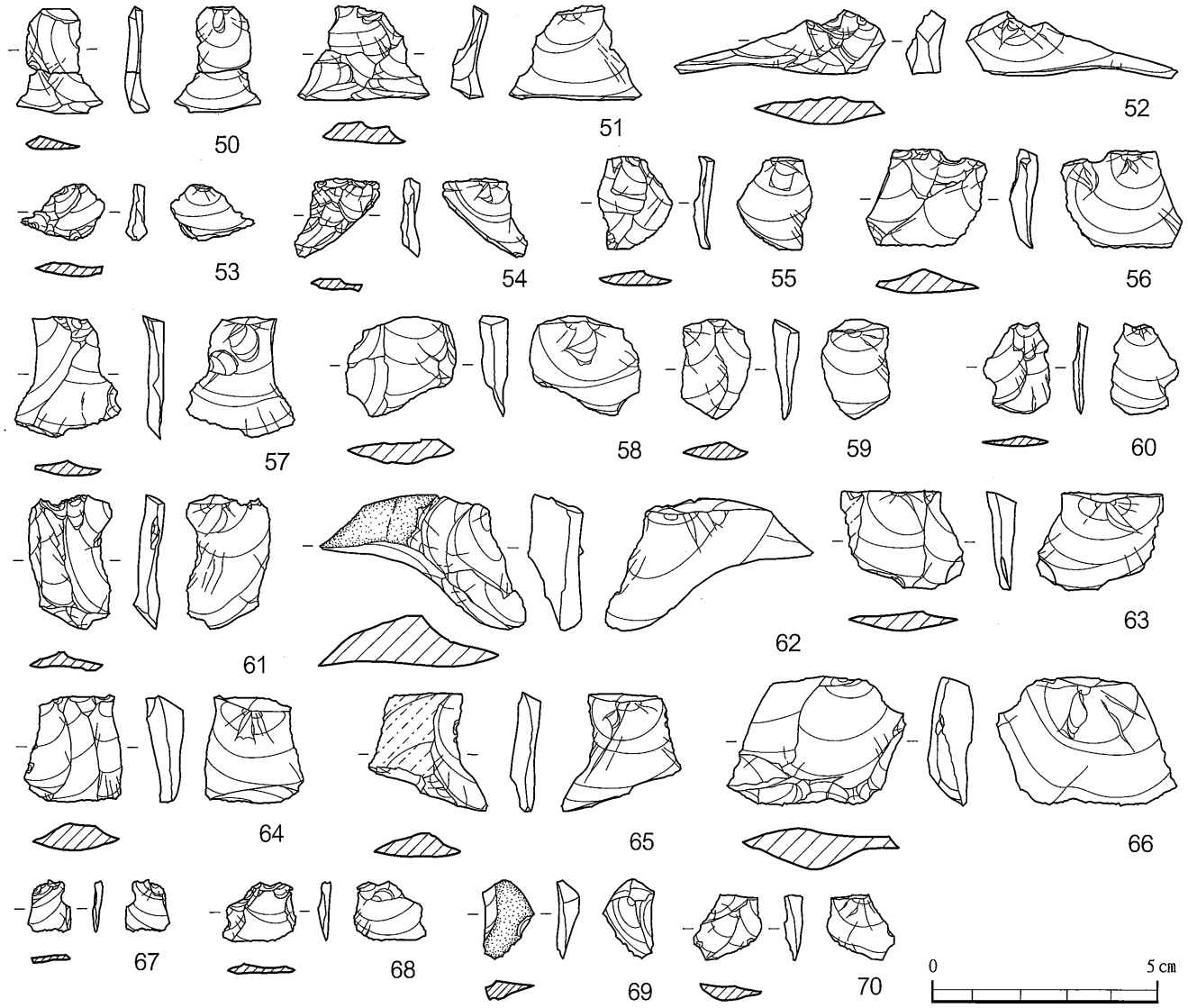
第９図　第１ブロック分布図（S＝1/30）



第10図　第1ブロック旧石器実測図①（S＝2/3）



第11図　第1ブロック旧石器実測図②（S＝2/3）



第12図　第1ブロック旧石器実測図③（S＝2/3）

とにより本ブロックに遺棄されたものであろう。126は稜上調整のときに作出された剥片である

接合資料6～14は剥片4～2点の接合資料である。接合資料3の一部分のような資料である。

母岩B（ホルンフェルス：接合資料15～18　この他に18組ある）

母岩Bは灰白色～黒褐色のホルンフェルスである。重量が軽く、風化が著しいものが多いため稜線が不明瞭になっているものや折れている資料が多く見られる。全部で275点出土している。

接合資料15は剥片7点の接合資料で、接合資料3と同じような接合状況である。

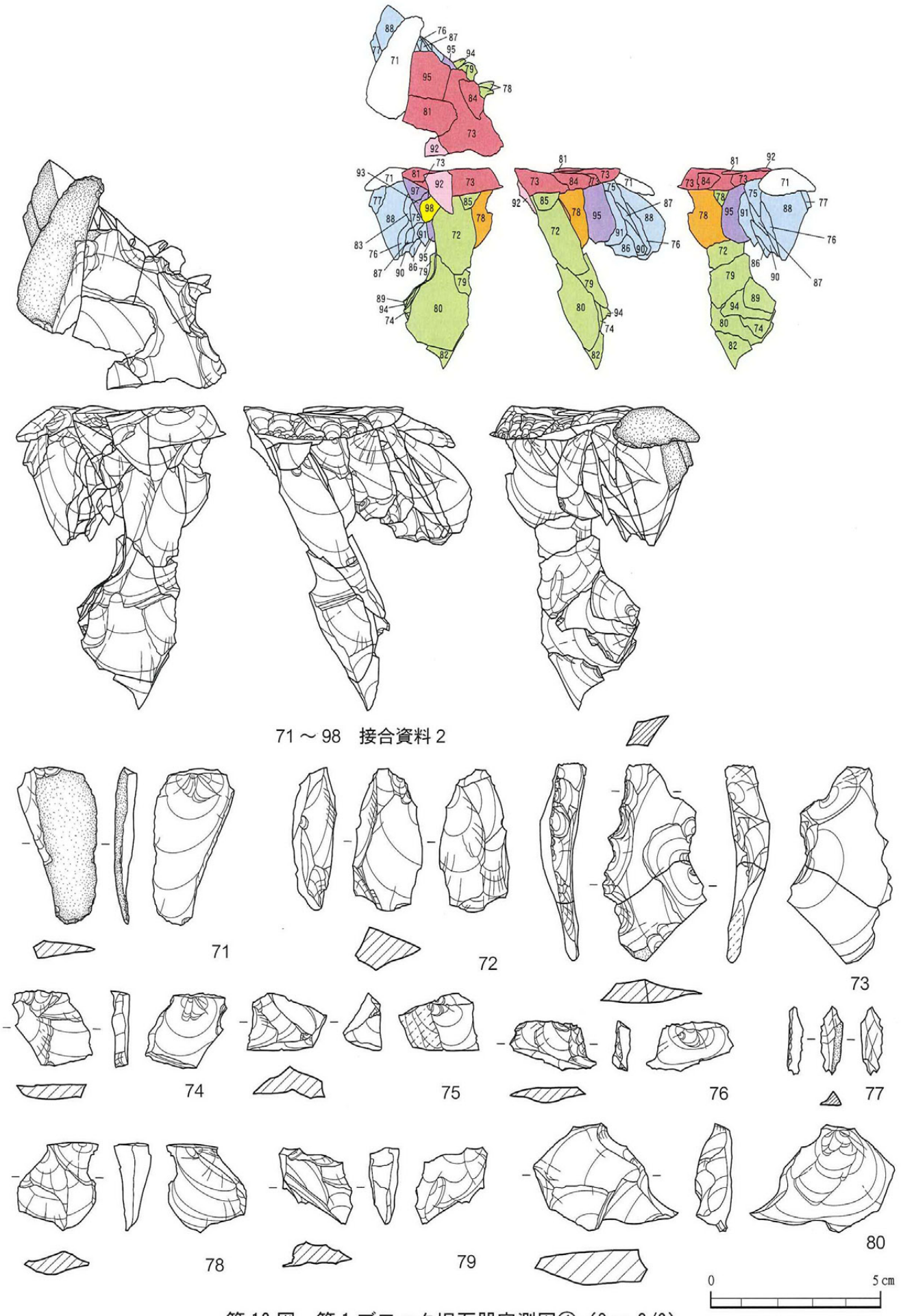
接合資料16～18は角錐状石器1点と剥片1～4点の接合資料で、接合資料4･5と同じような接合状況である。161は角錐状石器の未製品で縦長剥片の斜軸を中心軸にするように全体の形状を整えようとしている。

母岩C（流紋岩：接合資料19～21）

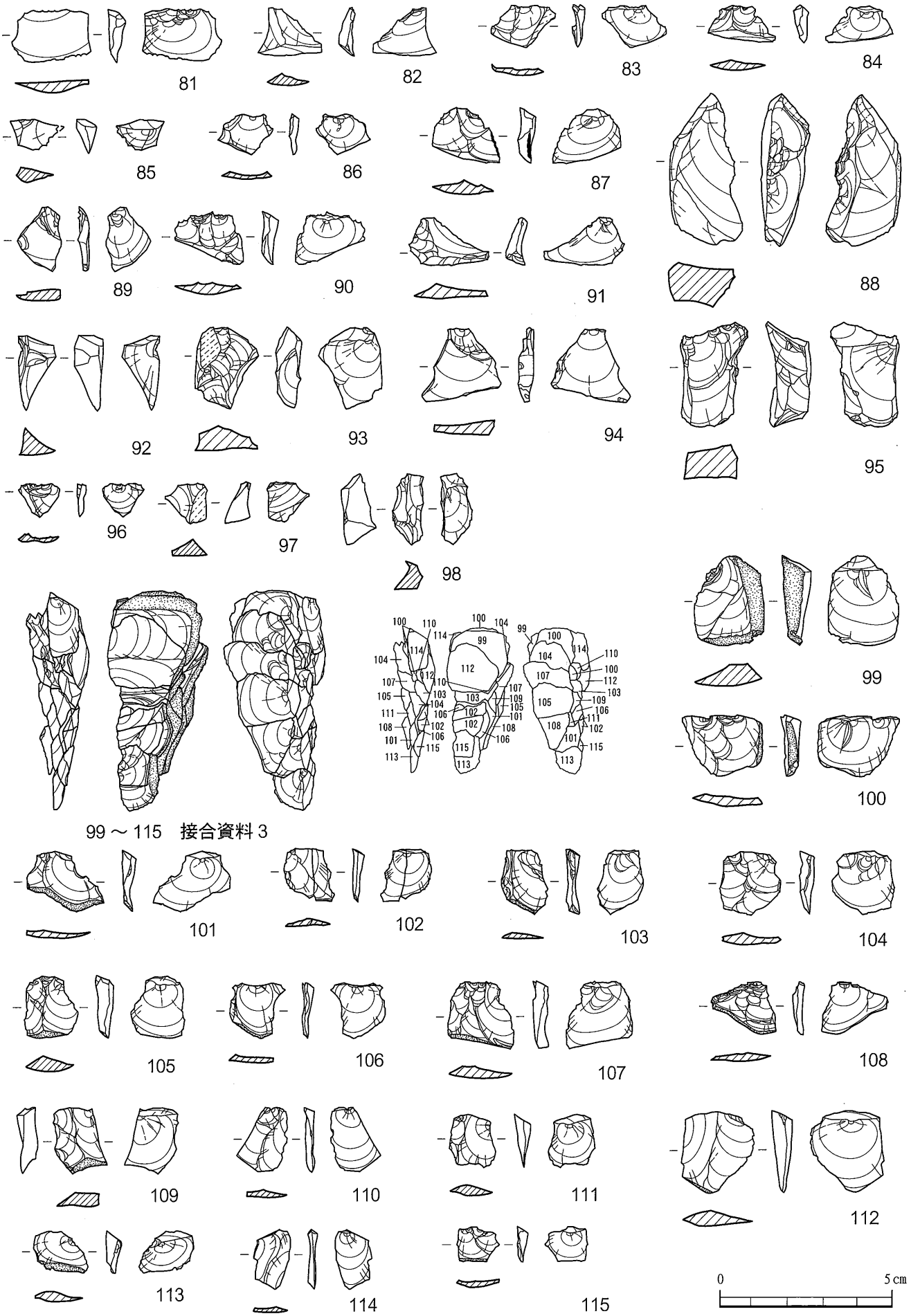
母岩Cは灰白色～灰色の流紋岩である。剥離面には黒褐色の筋状の模様が入り、自然面・剥離面共に灰白色に縁取られた黒褐色の粒子が見られる。全部で70点出土している。

接合資料19は剥片27点の接合資料である。剥片27点全て角錐状石器の製作時に作出された調整剥片であると考えられる。分厚い礫面を残す剥片を素材としており、図中の▲をつなぐライン上に角錐状石器がはまっていたものと推測される。そのラインの右側から調整剥片を一定量作出した後、左側の調整剥片を一定量作出し、また右側に戻って調整剥片を作出している。

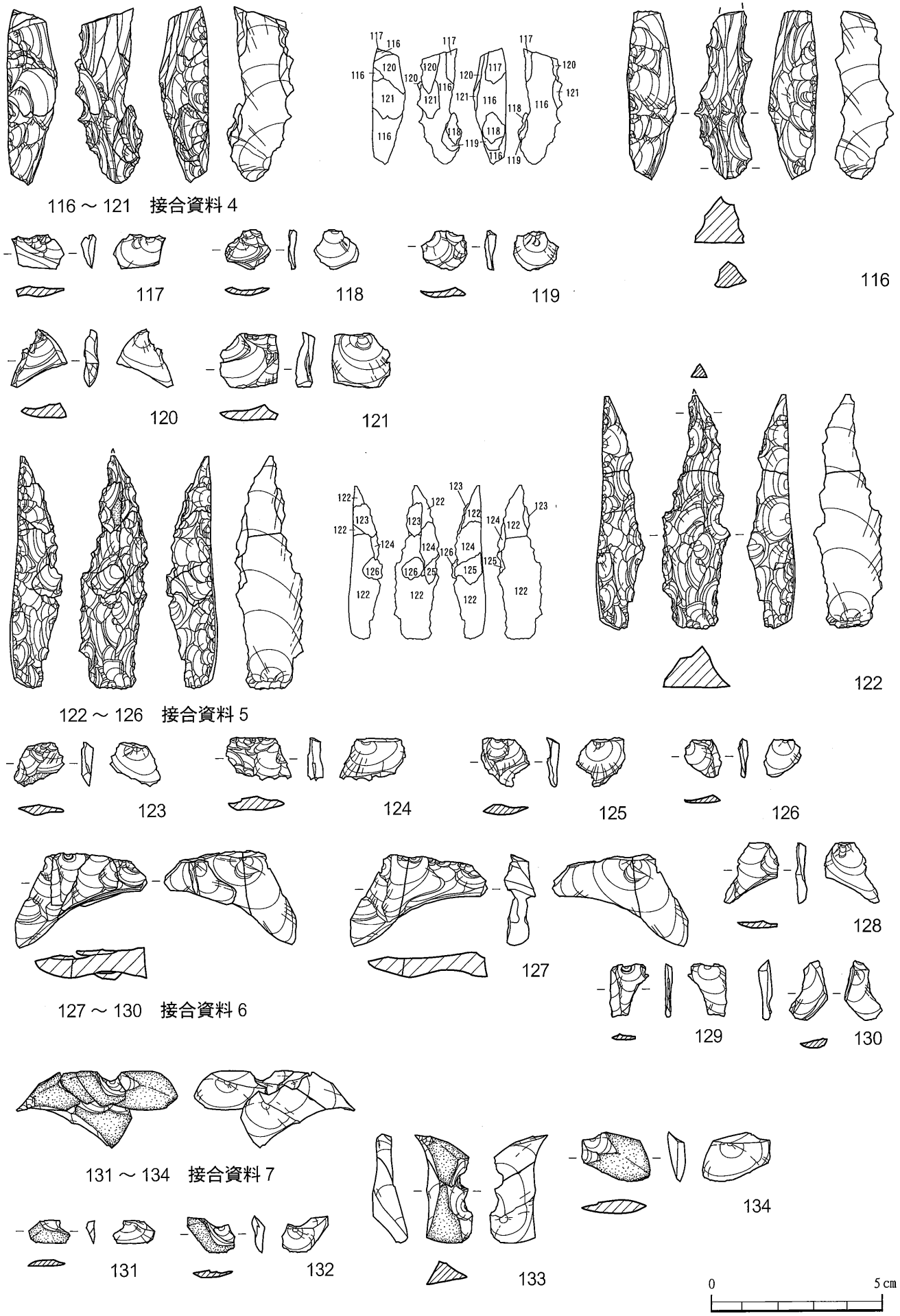
接合資料20・21は調整剥片2点の接合資料であり、もともとは接合資料19の一部であったと考えられる。



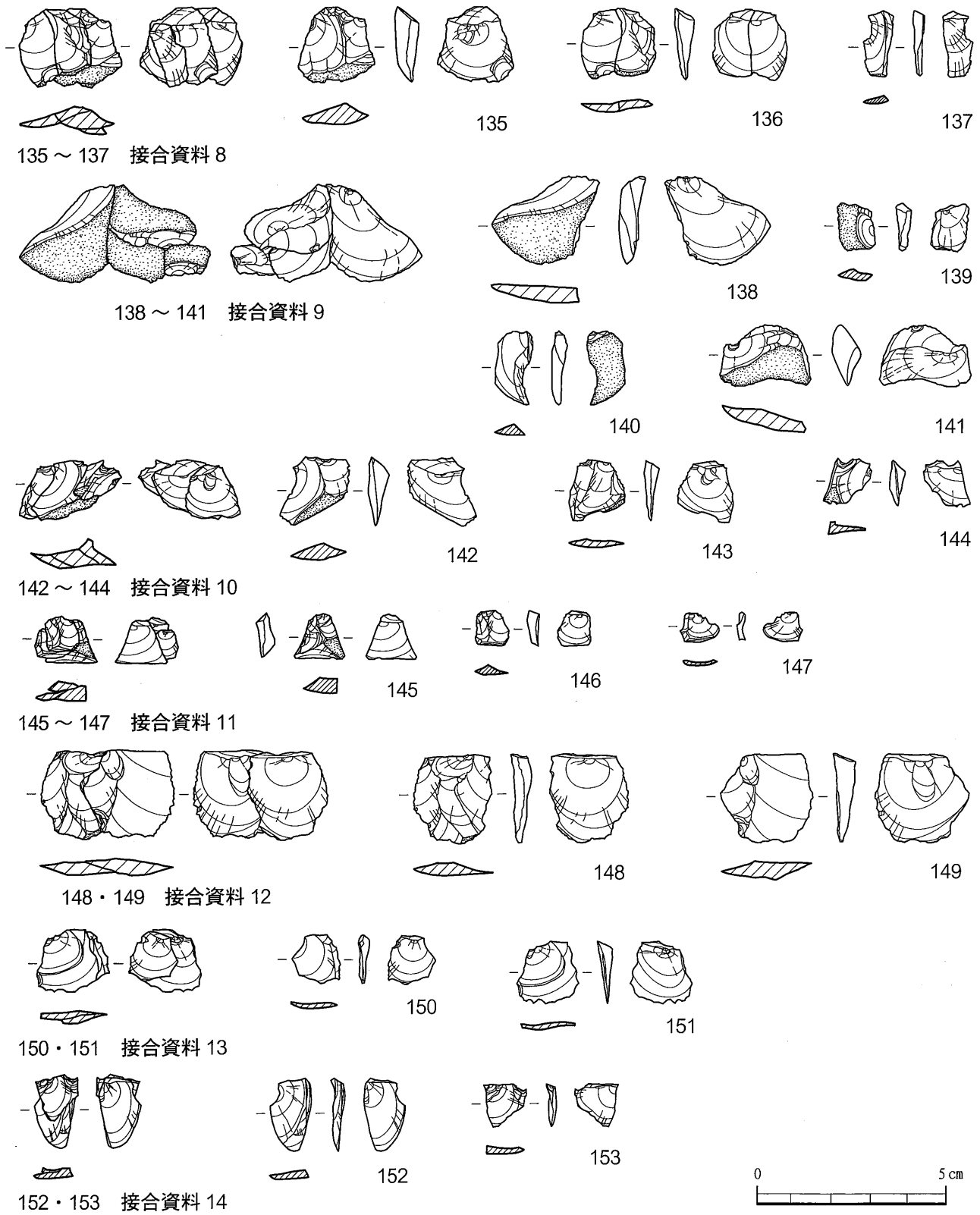
第 13 図　第１ブロック旧石器実測図④（S ＝ 2/3）



第14図　第１ブロック旧石器実測図⑤（S＝2/3）



第15図　第１ブロック旧石器実測図⑥（S＝2/3）



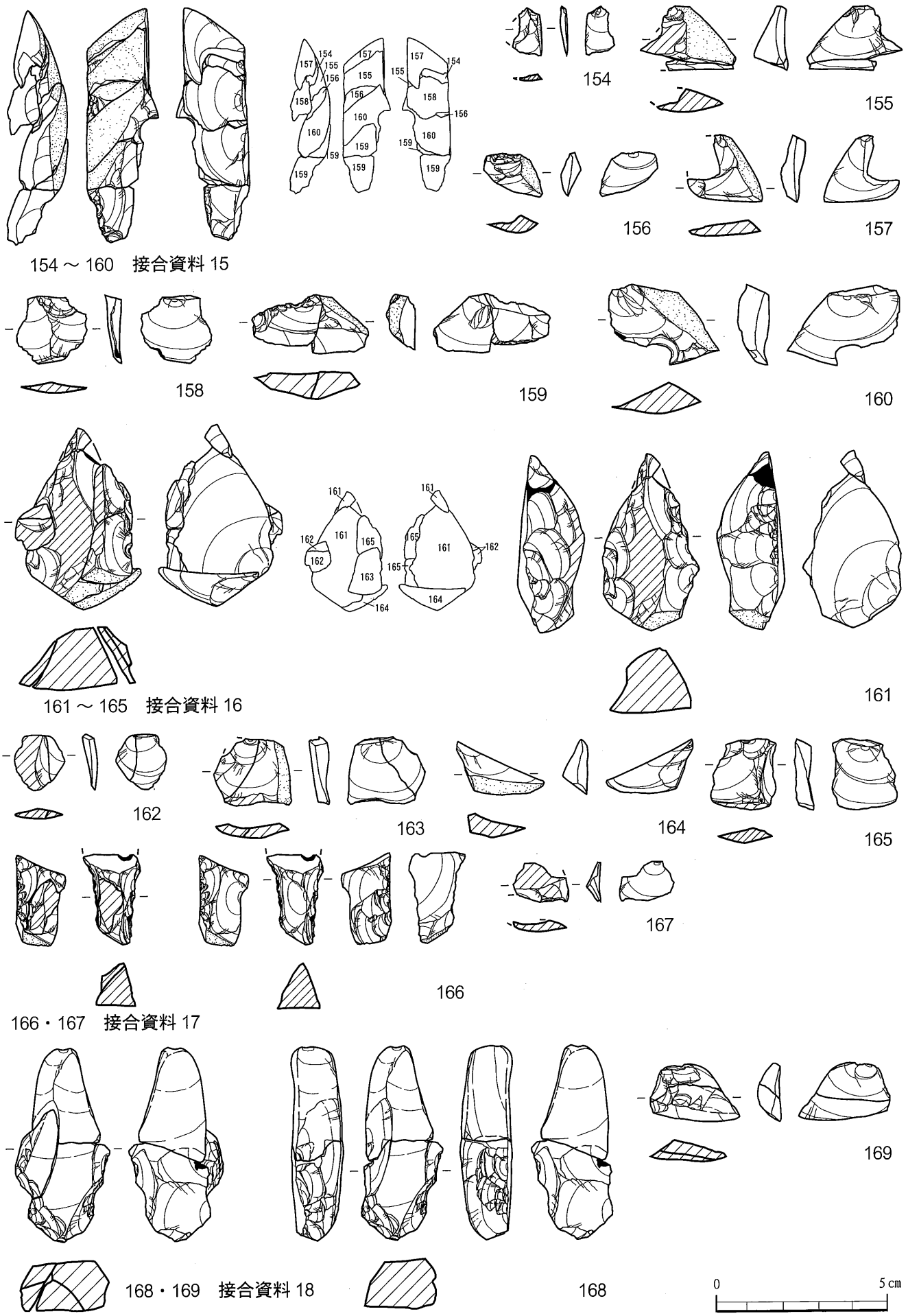
第 16 図　第 1 ブロック旧石器実測図⑦（S ＝ 2/3）

母岩D（接合資料22・23）

母岩 D は灰色の砂岩である。全部で 33 点出土している。

接合資料 22 は二次加工のある剥片 1 点の剥片 2 点の接合資料である。201 は角錐状石器の未製品の可能性もある。砂岩製の亜角礫の平坦な自然面を打面として 201 を作出している。201 の平面形状はおそらく三角形に近い形をしていたと考えられ、背面の右側縁にだけ主要剥離面側から打撃を加え調整剥片を作出している。

接合資料 23 は剥片 3 ～ 4 点の接合資料であり、もともとは接合資料 22 の一部であったと考えられる。



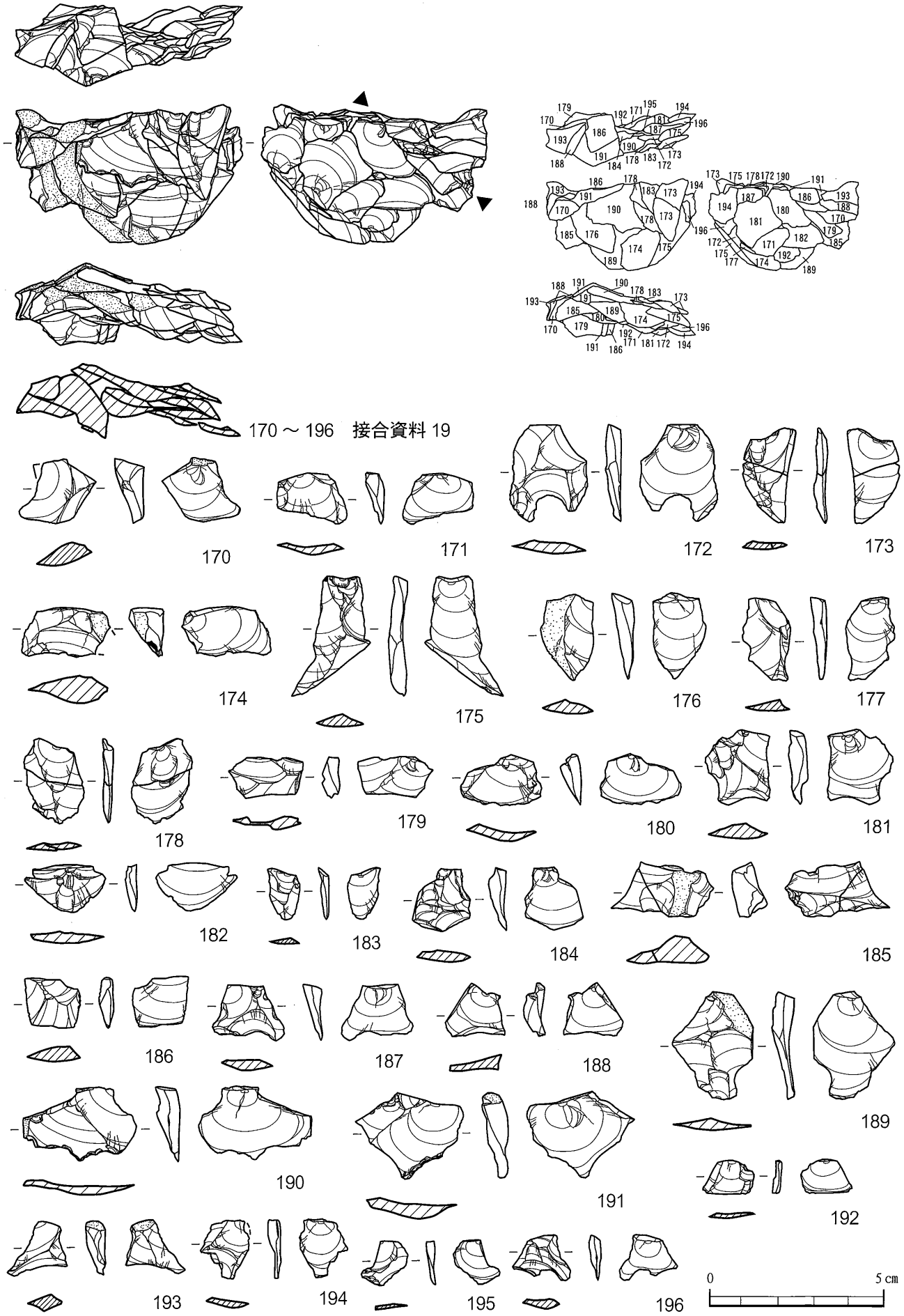
154～160　接合資料 15

161～165　接合資料 16

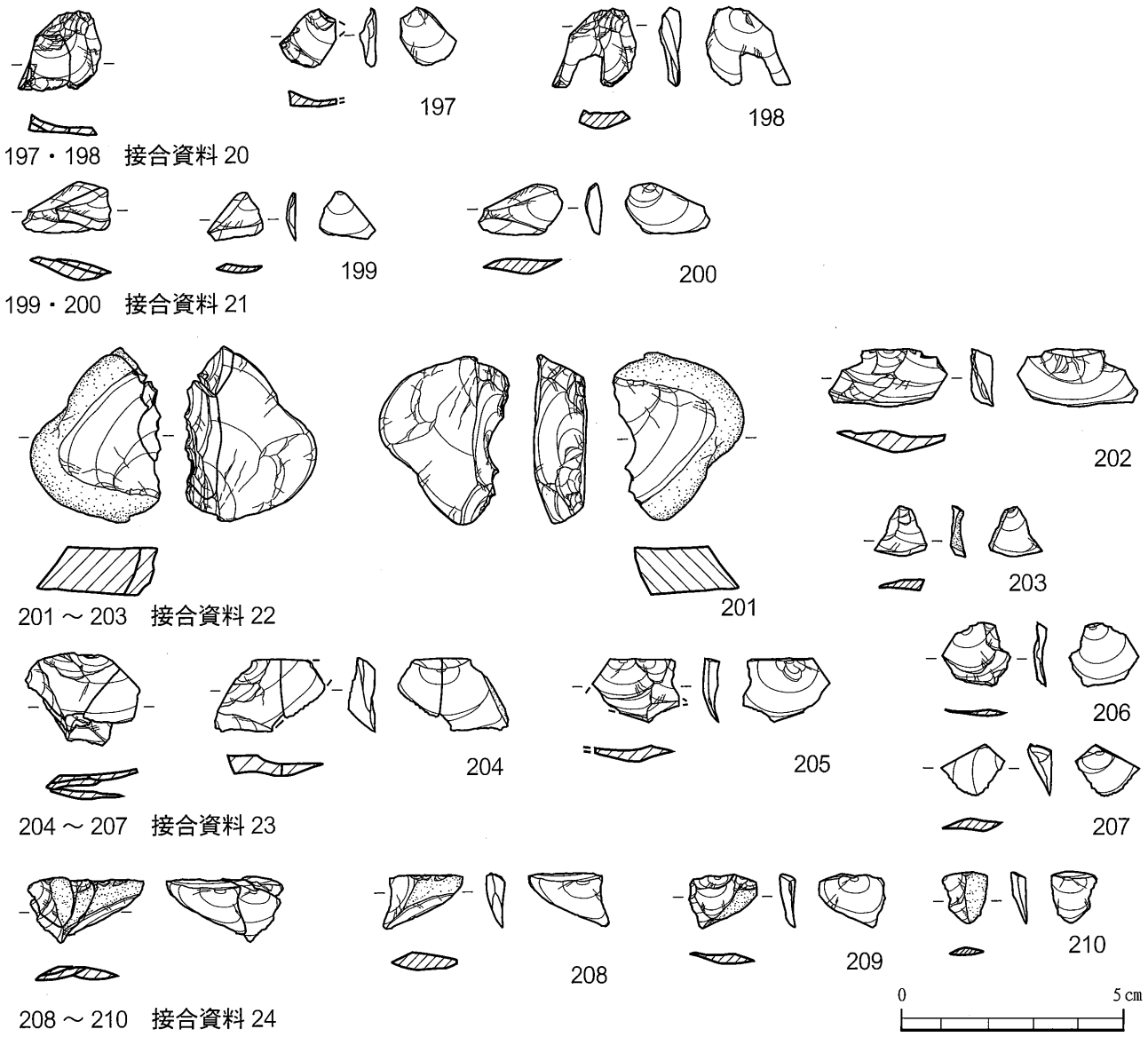
166・167　接合資料 17

168・169　接合資料 18

第 17 図　第 1 ブロック旧石器実測図⑧（S ＝ 2/3）



第 18 図　第 1 ブロック旧石器実測図⑨（S ＝ 2/3）



第 19 図　第 1 ブロック旧石器実測図⑩（S ＝ 2/3）

母岩L（接合資料24）

母岩 L は灰色の砂岩である。母岩 D と比較すると表面にざらざら感があり、白い粒が多く見られる。全部で 5 点出土している。本ブロックにおける砂岩は母岩 D と母岩 L の二つだけであり、もしかしたらこの両者は同一母岩の可能性も考えられる。

接合資料 24 は調整剥片 3 点の接合資料である。

母岩M（接合資料25～27　この他に1組ある）

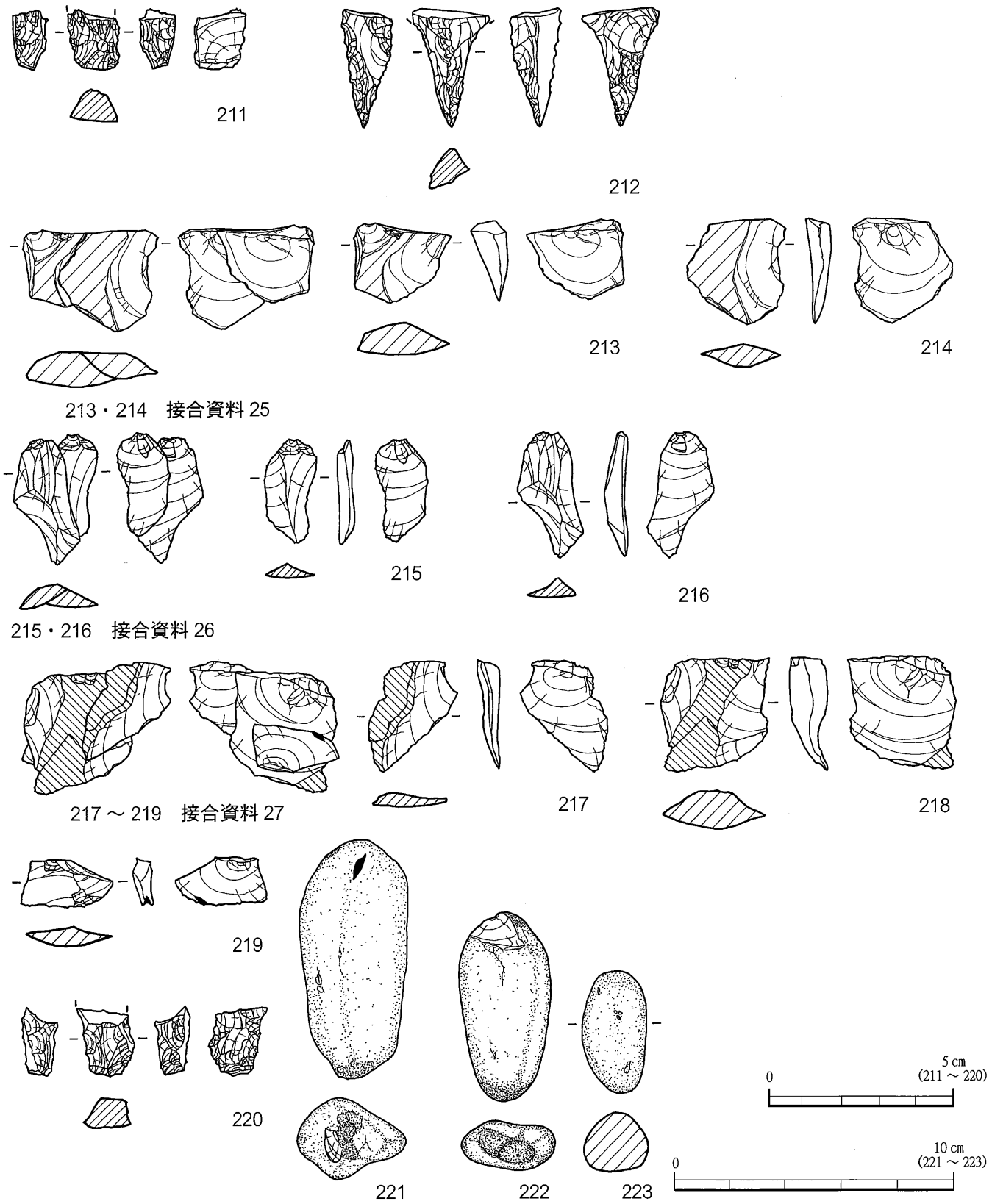
母岩 M は灰白色～灰色の頁岩である。黄褐色の節理面が特徴的である。全部で 30 点出土している。

接合資料 25 ～ 27 は調整剥片 2 ～ 3 点の接合資料である。

母岩N（220）

母岩 N は青黒色の頁岩である。部分的に白い粒状の模様が見られる。この母岩資料は欠損品の角錐状石器 1 点と砕片 5 点だけであり、接合資料は確認されなかった。

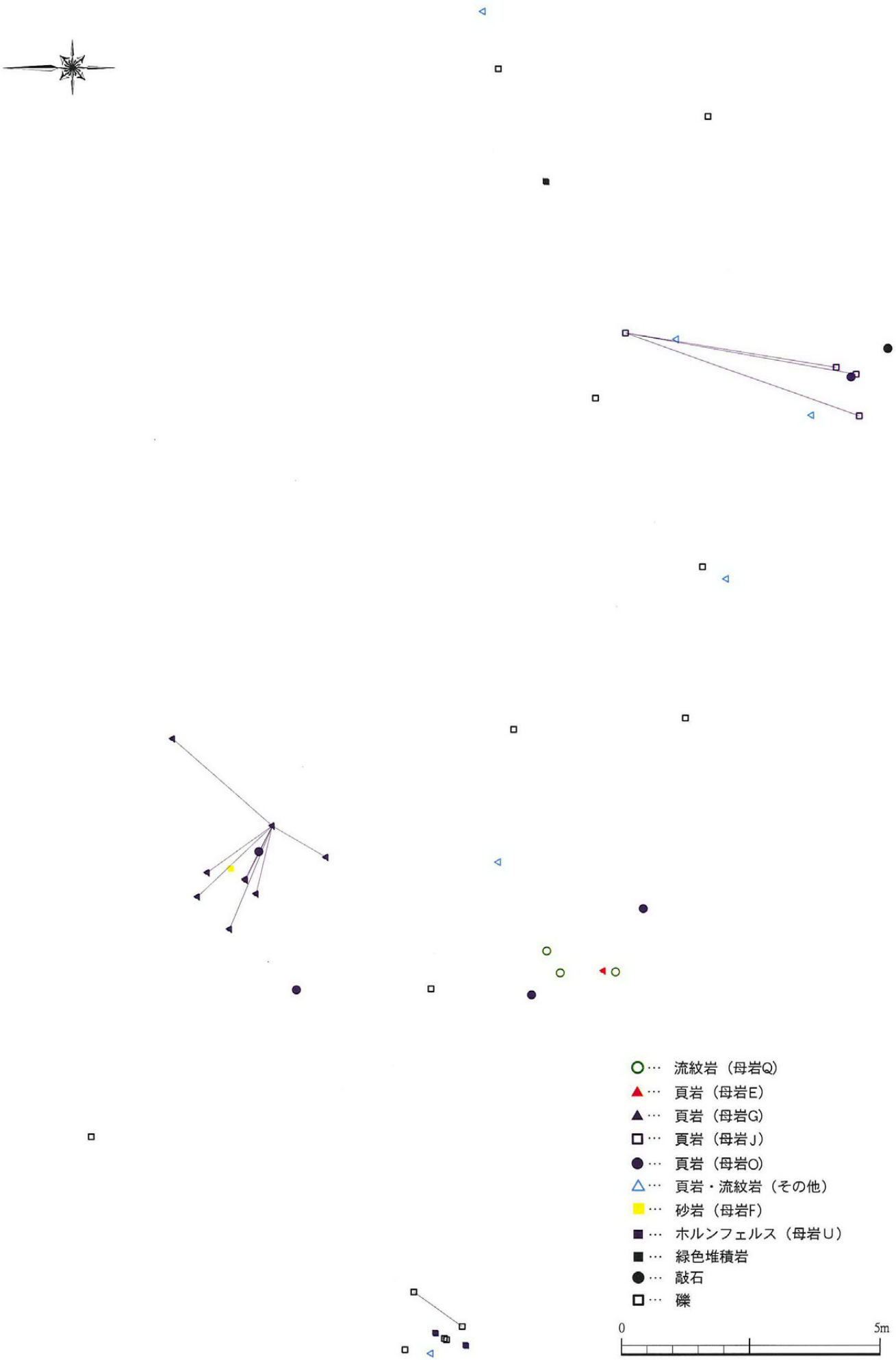
220 は角錐状石器の基部である。端部には打面部を残している。調整は主要剥離面側にも見られる。



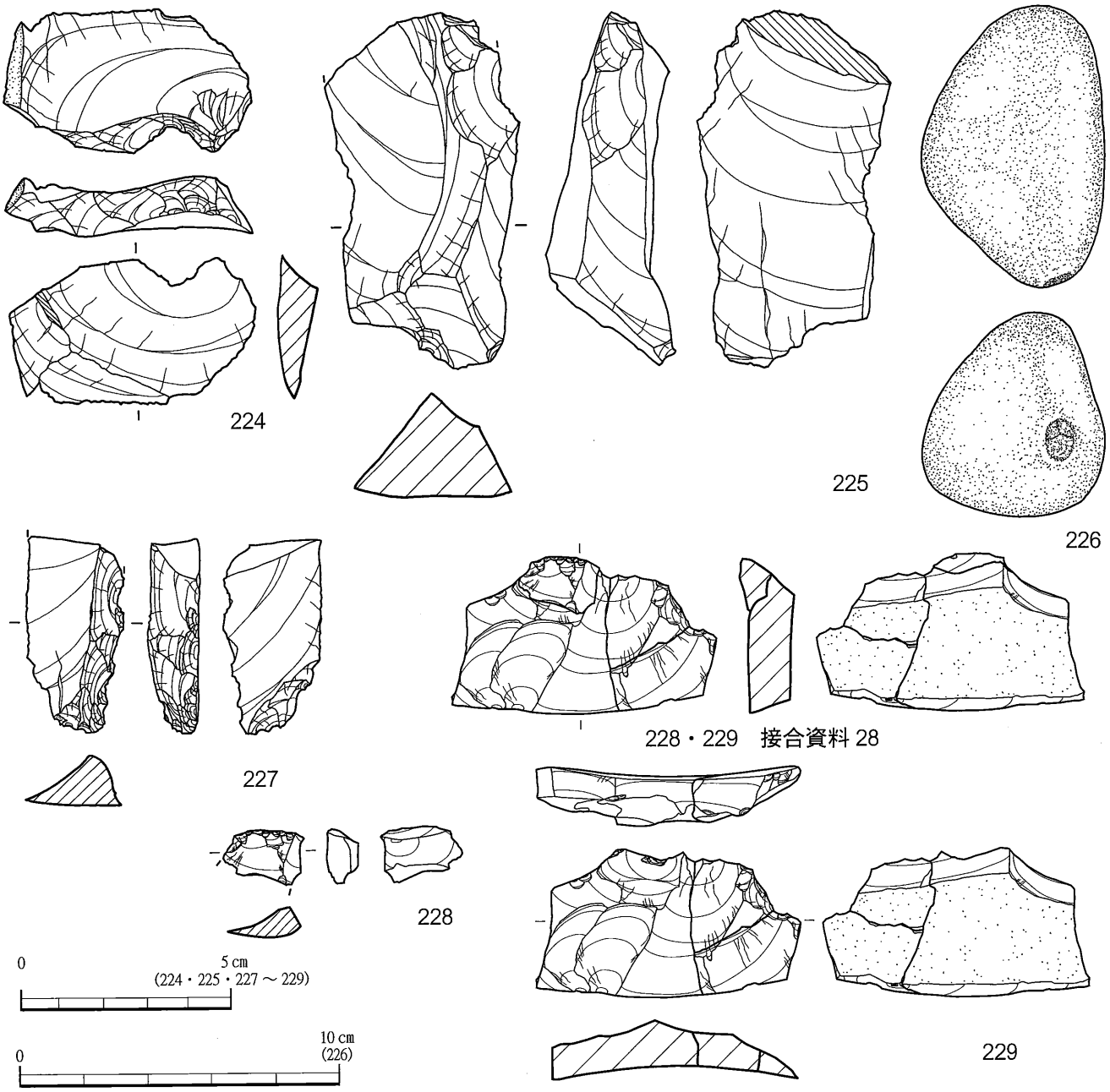
第 20 図　第 1 ブロック旧石器実測図⑪（S ＝ 1/2　2/3）

敲石（221～223）

本ブロックにおいて、端部に使用痕が見受けられる砂岩製の敲石が 3 点出土している。大きさや重量は 3 点とも異なっており、角錐状石器の製作工程ごとに使い分けが行われていたと思われる。特に 223 の使用痕はあまり顕著ではないが細かい調整に用いられたものと考えられる。



第21図　第2ブロック分布図（S＝1/100）



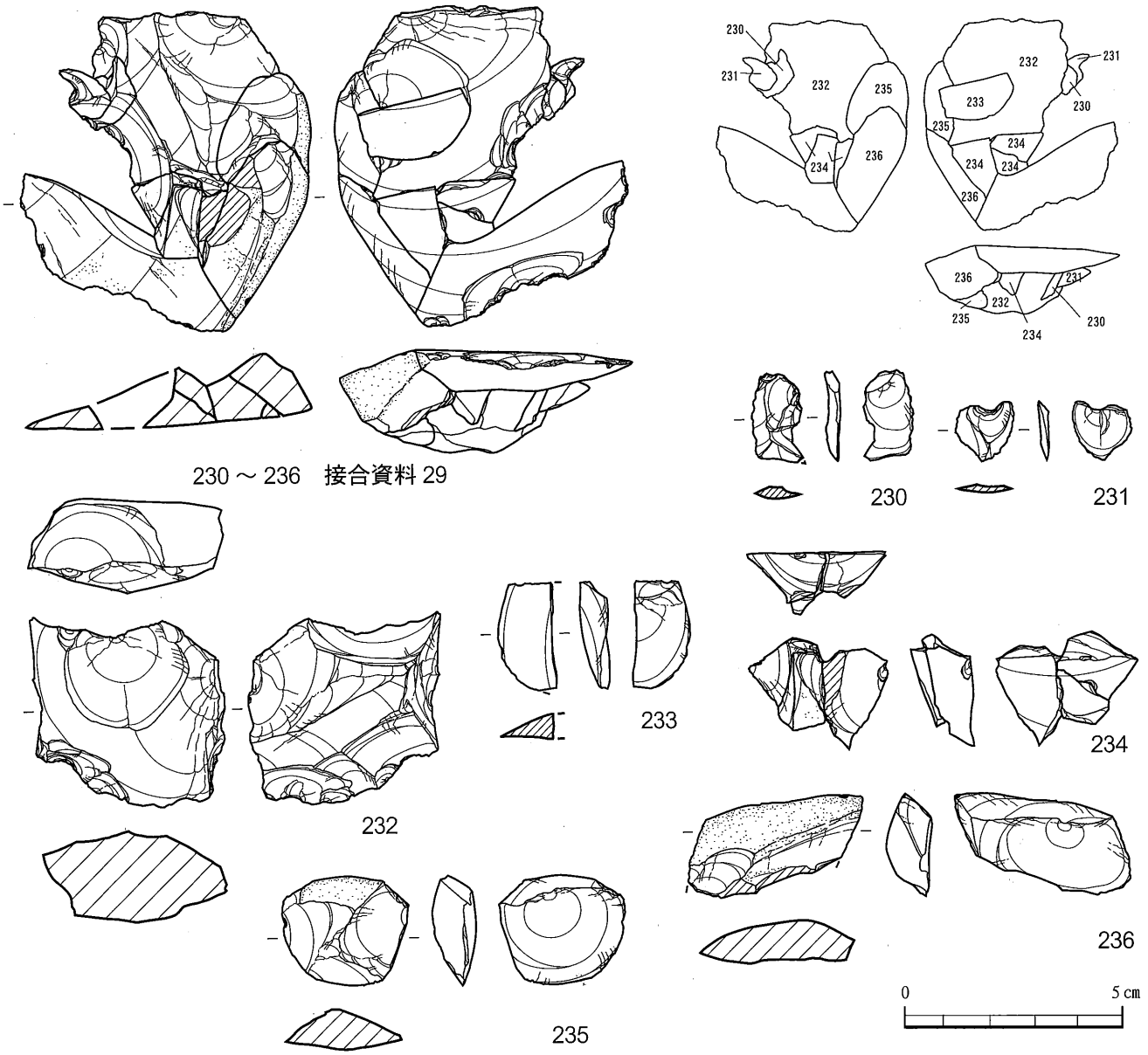
第 22 図　第 2 ブロック旧石器実測図①（S ＝ 1/2　2/3）

3．第2ブロック

調査区の北東部において第 1 ブロックと第 3 ブロックの間で検出されたブロックである。石器の分布状況は散漫であり、遺物の集中域の範囲は 25m × 15m 程度である。西側の遺物のほうがやや分布が密である。本ブロックからはナイフ形石器 1 点、敲石 1 点、剥片 24 点、石核 2 点、礫 13 点が出土した。また接合作業の結果から 2 組の接合資料があることがわかった。接合資料については全て本ブロック内での接合関係である。本ブロックでは 9 種類以上の母岩が確認されている。

母岩E・U・その他（製品類224～227）

224 は第 3 ブロックで多く見られる母岩 E の横長剥片である。翼状剥片に分類される資料である。本ブロックでの母岩 E の資料はこれだけである。225 はホルンフェルス製（母岩 U）の縦長剥片である。この石材は本調査区において他に剥片が 1 点出土しているだけである。226 は砂岩製の敲石である。端部に使用痕が確認される。227 は頁岩製のナイフ形石器である。同一母岩は認められず単独の出土である。斜め剥ぎの剥片を素材として基部の一部を折り取るような形で除去し、その後片縁に鋸歯状に刃潰し加工を施している。



第 23 図　第 2 ブロック旧石器実測図②（S ＝ 2/3）

母岩J（接合資料28）

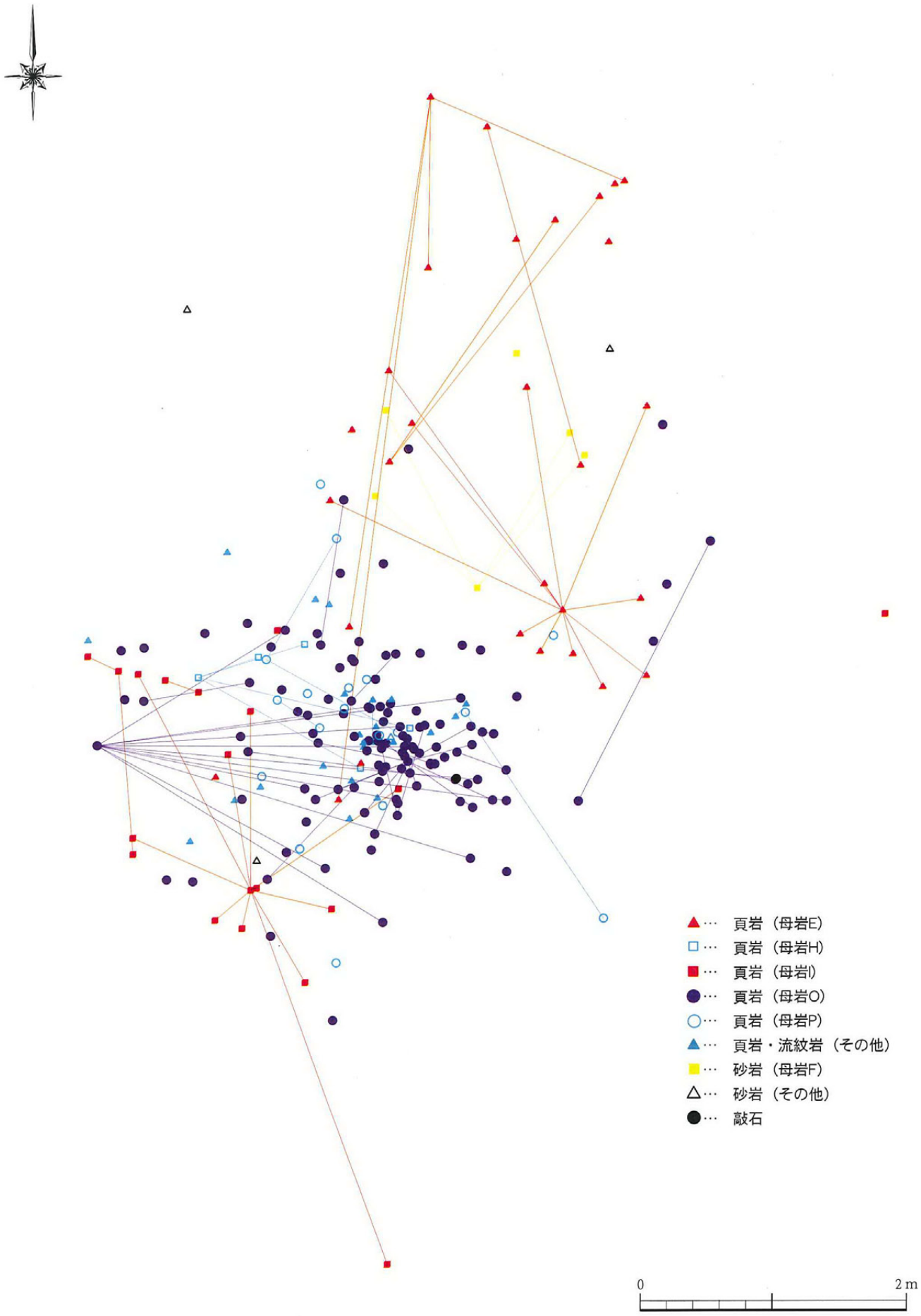
灰色の頁岩で自然面は平滑で、剥離面にはオリーブ色のアミフセがかかっている。全部で 4 点出土している。

接合資料 28 は石核 1 点と剥片 1 点の接合資料である。229 は裏面に自然面を有する石核で、剥片剥離を繰り返した結果、薄くなり残核は剥片のようになっている。下部は折れているが、その折れ面を打面として寸詰まりの剥片を作出している。

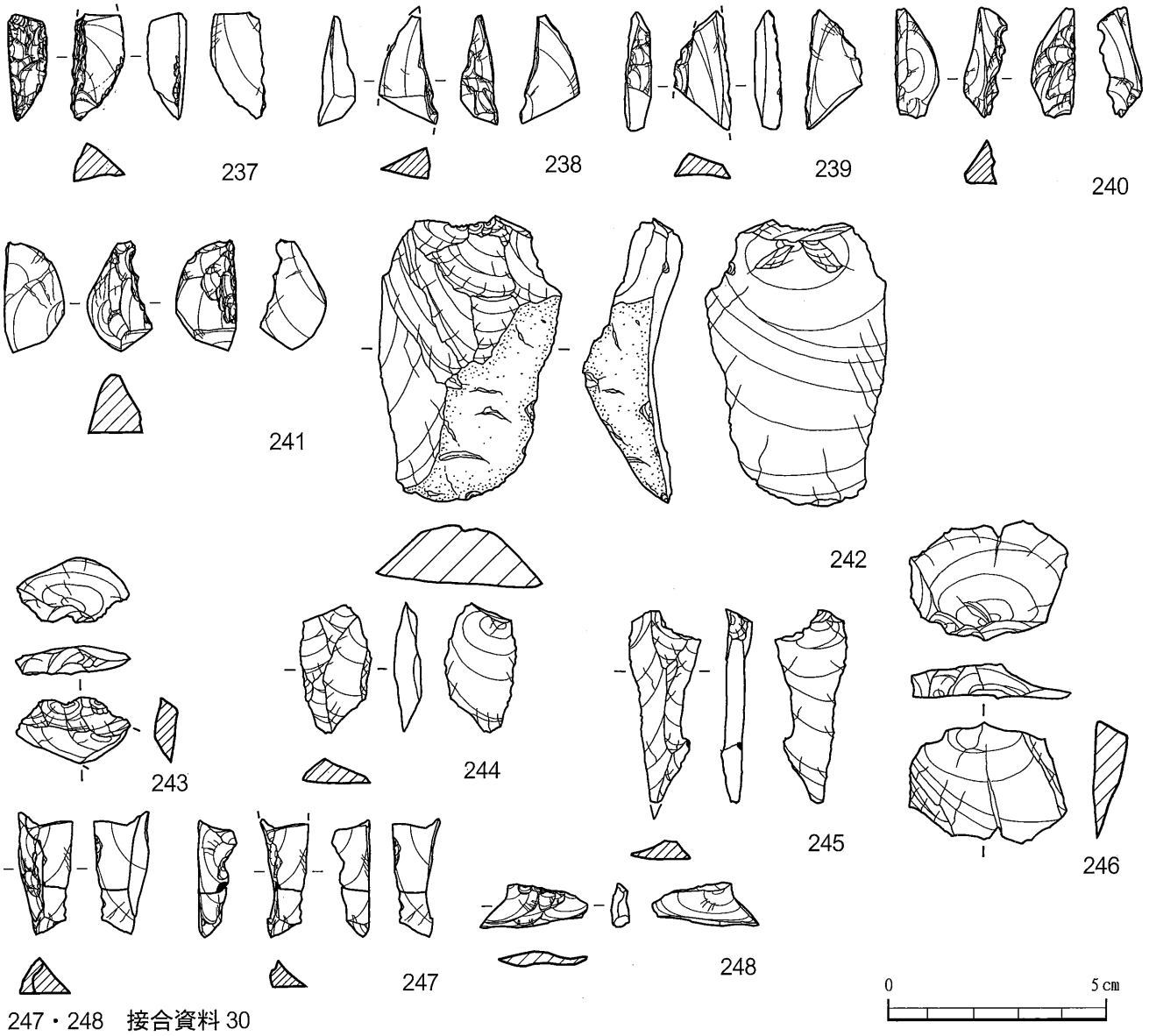
母岩G（接合資料29）

暗灰色の頁岩で自然面は灰色で剥離面に灰色の細い線状の模様が見られるのが特徴的である。全部で 9 点出土している。

接合資料 29 は石核 1 点と剥片 7 点、二次加工のある剥片 1 点の接合資料である。この接合資料はもともと縦長剥片の下端部に二次加工を加えたスクレイパーもしくは二次加工のある剥片であった。それを石核に転用しているものである。素材の主要剥離面を打面として不定形な寸詰まりの剥片を一定量作出し、その後は今までの作業面を打面としてさらに剥片を作出している。残核 232 の下端部は一応鋸歯状になっており、寸詰まりの剥片を調整剥片と考えるならば、232 は再加工品のスクレイパーとも分類される。



第 24 図　第 3 ブロック分布図（S ＝ 1/40）



247・248　接合資料 30

第 25 図　第 3 ブロック旧石器実測図①（S ＝ 2/3）

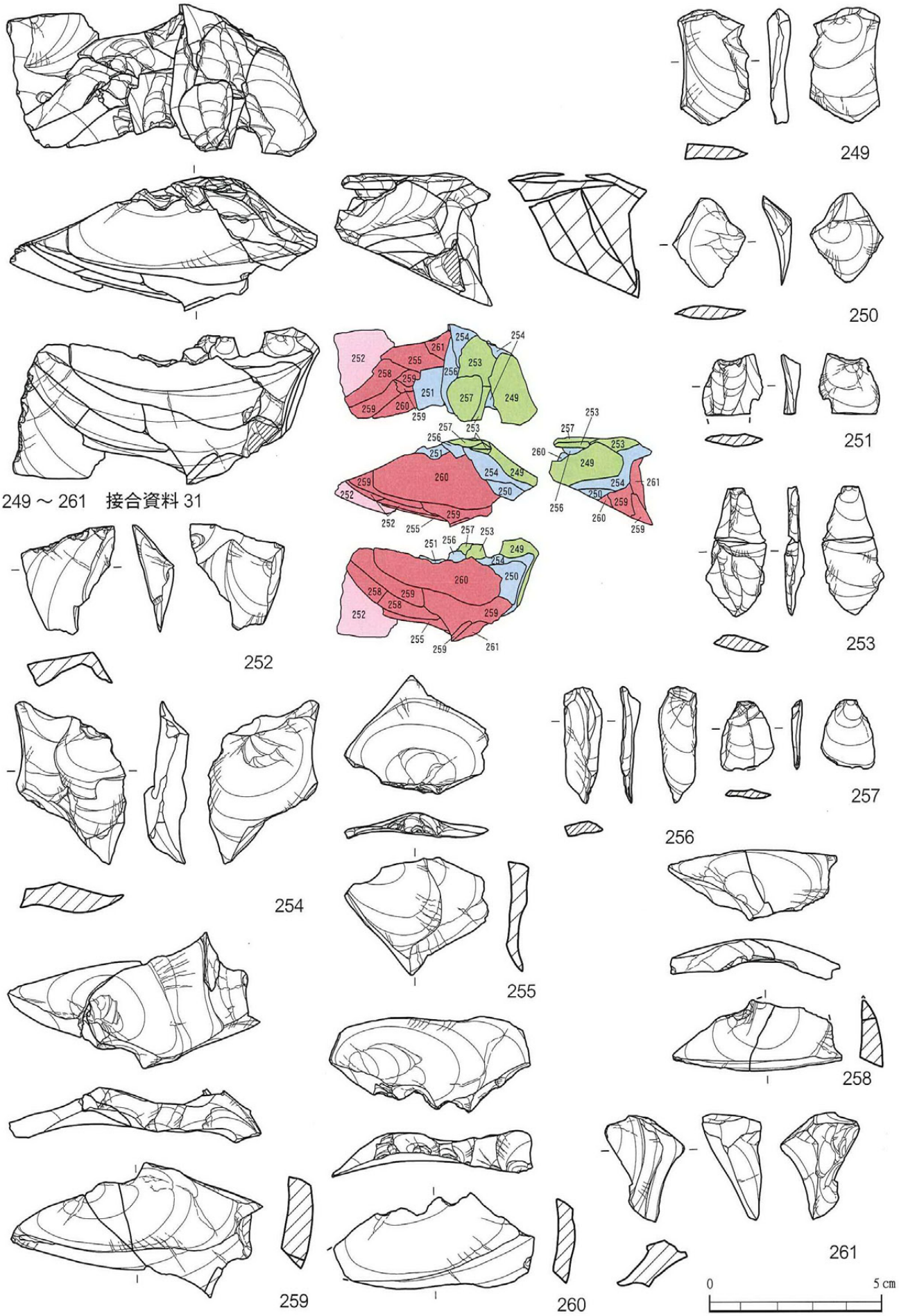
4．第3ブロック

調査区の北東部において第 2 ブロックと第 4 ブロックの間で検出されたブロックである。遺物の集中域の範囲は 9m × 6m 程度である。南側のほうが分布状況は密で、本ブロックからはナイフ形石器 8 点、敲石 1 点、剥片 208 点、石核 6 点が出土した。また接合作業の結果から 19 組の接合資料があることがわかった。ナイフ形石器は全て国府型ナイフに分類される資料であり、接合資料についても瀬戸内技法関連のものばかりである。なお接合資料については全て本ブロック内での接合関係である。本ブロックでは 8 種類以上の母岩が確認されている。

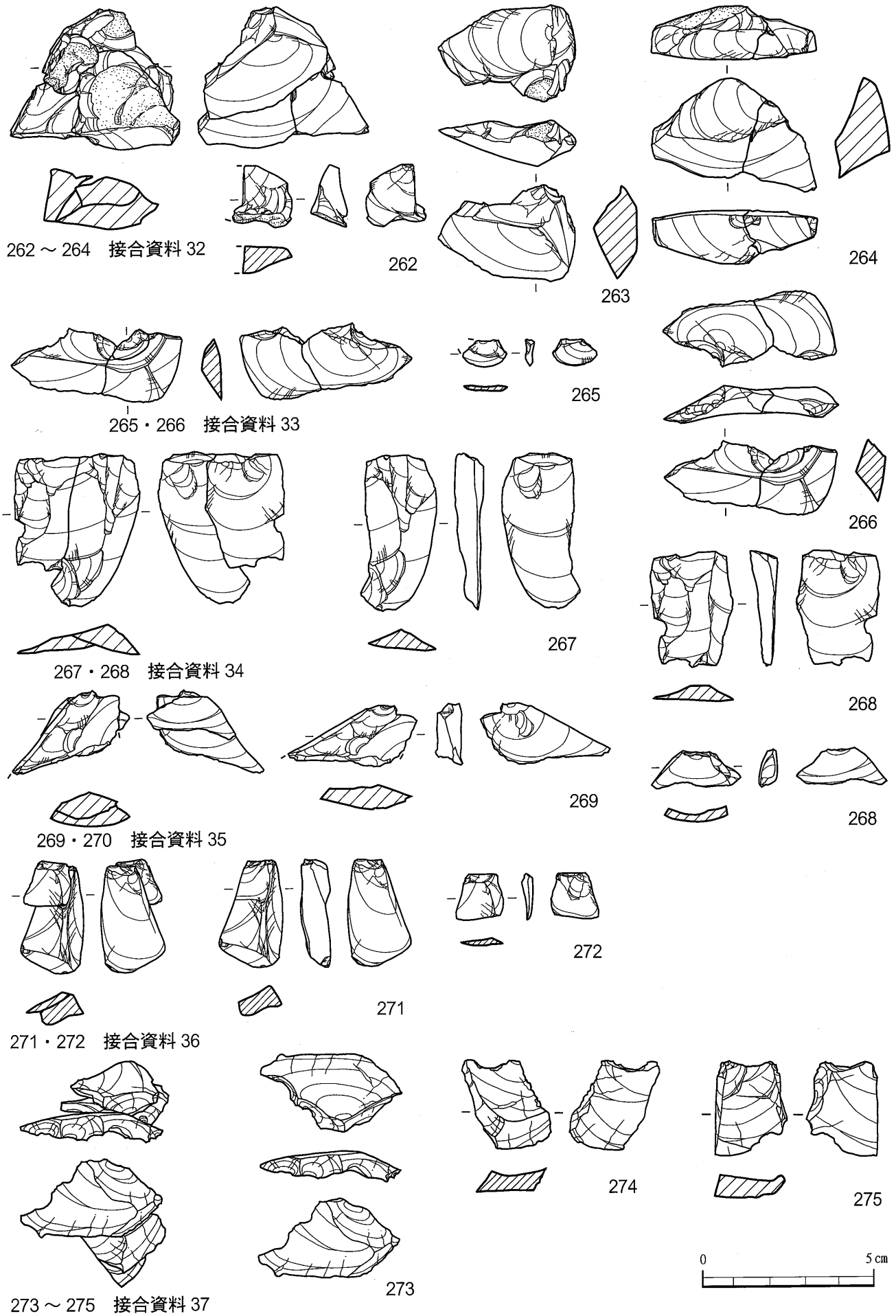
母岩O(製品類237～246・接合資料30～38)

母岩 0 は暗灰色の頁岩で剥離面に黄褐色の粒状や筋状の模様がわずかに見られる。全部で 124 点出土している。237 から 239 はナイフ形石器である。全て横長剥片を素材とする一側縁加工のナイフ形石器で国府型ナイフに分類される。240・241 は接合資料 30 の 248 に同じような形態の剥片があり、そこからナイフ形石器の刃潰し加工を施した際に生じた調整剥片であると考えられる。242 は自然面を有する剥片である。243・246 は瀬戸内技法により生産された横長剥片である。243 は背面に素材剥片石核の打面部を有している。244・245 は同じような形態の縦長剥片である接合資料 31 の構成資料 253 や 256 などから類推すると、瀬戸内技法第 2 工程の打面調整を行う際に生じた縦長剥片であると考えられる。

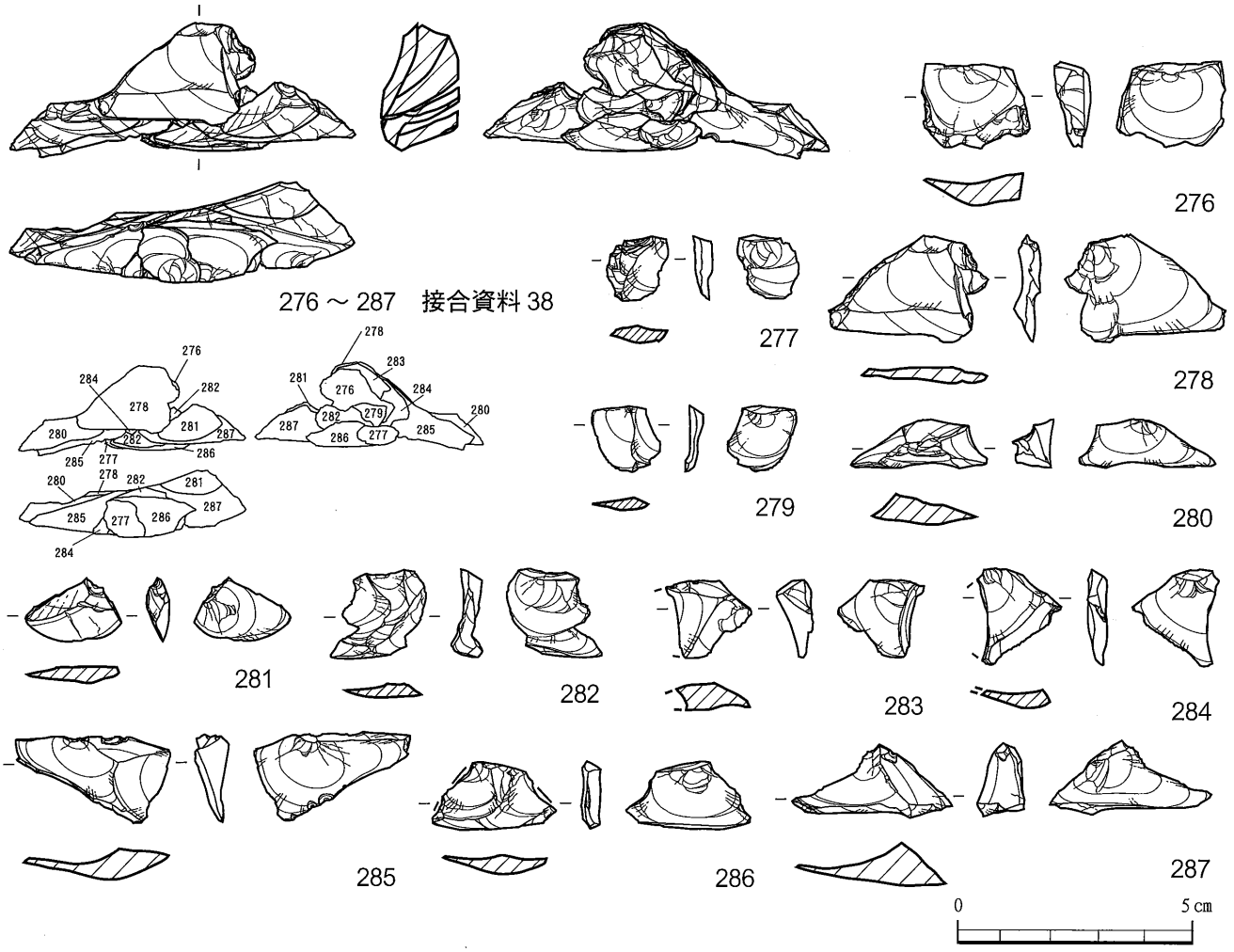
接合資料 30 は国府型ナイフ形石器 1 点とその刃潰し加工時に作出された調整剥片 1 点の接合資料であり、瀬



第 26 図　第 3 ブロック旧石器実測図②（S ＝ 2/3）



第 27 図　第 3 ブロック旧石器実測図③（S ＝ 2/3）



第28図　第3ブロック旧石器実測図④（S＝2/3）

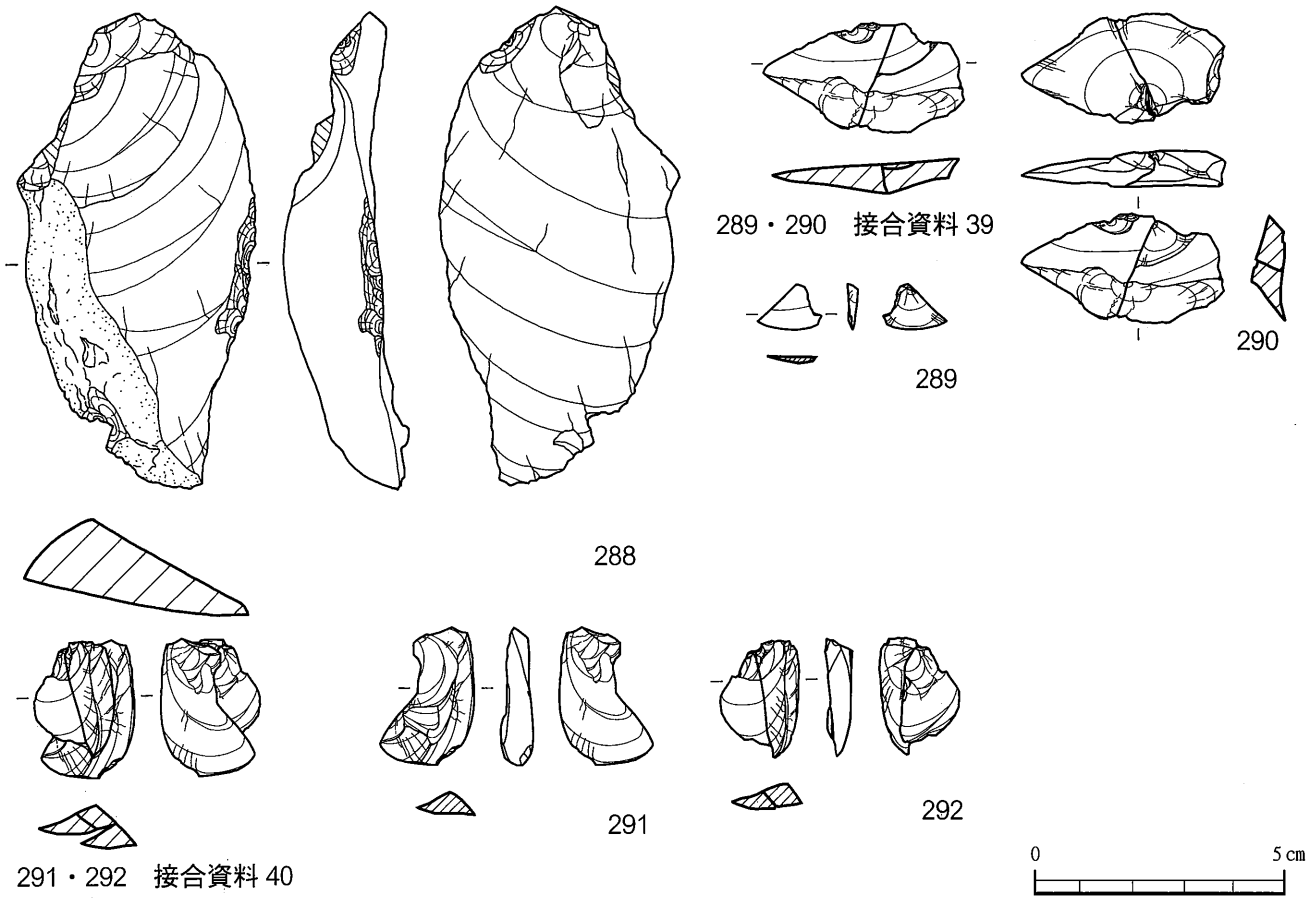
戸内技法の第3工程を示すような資料である。

接合資料31は剥片13点の接合資料で瀬戸内技法の第2工程を示すような資料である。縦長剥片である249・253・257は260を作出する前の翼状剥片の生産のための打面調整剥片で、これらにより山形に打面を調整した後に翼状剥片が生産されている。その後250・251・254・256によって再度打面調整が行われて260が生産されている。260はあえて小規模な剥片になるように250や254の剥片を作出しているようである。その後は259→258の順で剥片を生産した後、一度作業面を転回させて252を生産している。そしてまた作業面を元に戻し255を生産して、もう一枚剥片を生産した後に261を作出している。この接合資料から本ブロックより出土した縦長剥片については山形の打面を作るための調整剥片の可能性が高いと推測することができる。

接合資料32は剥片3点の接合資料である。自然面を残す剥片を素材として、その木口部分を作業面に設定し、背面側を打面として加撃し、素材剥片を輪切りにするように剥片を生産している。最初の剥片が生産された後、262を作出し、一応自然面と剥離面で山形の打面部を作り出しているが、実際は262を作出した後に残る剥離面に加撃して263を生産し、264は自然面に加撃し生産されたようである。この二つの剥片は底面を取り込む横長剥片であるが、翼状剥片とはいいがたい形態である。

接合資料33は剥片2点の接合資料である。266は剥片素材の石核より生産された横剥ぎの剥片で石核の底面を背面に取り込んでいる。266は小型の翼状剥片にも見える。265は266の二次加工の際に作出された剥片であり、瀬戸内技法の第3工程を示すような資料であると考えられる。なお266は265作出するときに折れてしまったものと考えられる。

接合資料34・36は縦長剥片2点の接合資料である。接合資料31から推測し、瀬戸内技法第2工程の際に作出される打面調整剥片の接合資料と考えられる。



第 29 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑤（S ＝ 2/3）

接合資料 35 は剥片 2 点の接合資料である。本資料も剥片素材の石核から生産された剥片である。石核となる素材剥片の木口部分を作業面に設定し、その主要剥離面側を打面として横剥ぎの剥片を生産している。269 を生産後続けて 270 を生産しているが、両者とも不整形な形態となっている。

接合資料 37 は剥片 3 点の接合資料である。剥片素材の石核から生産されたものと考えられ、山形に打面を調整して 273 を生産している。その後再度打面調整を行い、274 → 275 と連続して剥片を生産しているが両者共に縦裂け現象によって左半部を欠損している。3 点とも一応剥片素材の石核の底面を背面に取り込んでおり、小型の翼状剥片であると考えられる。

接合資料 38 は剥片 12 点の接合資料である。本資料は大振りの剥片を石核とし、小型の剥片を生産している資料である。278 は石核となる剥片が作出される前に生産された剥片である。278 の生産後の大振りの翼状剥片のような剥片が生産される。そしてその背面の左端から割り裂くように主要剥離面側から加撃し、小型の剥片を生産している。接合している剥片の剥ぎ取りの順序は 280 → 285 → 284 → 283 → 276 → 279 → 286 → 281 → 287 → 一枚の剥片→ 282 → 286 → 277 である。生産された剥片は翼状剥片の底面を取り込むような小型の横長剥片となっている。

母岩P（製品類288・接合資料39・40）

母岩 P は灰色の頁岩で自然免や剥離面に灰白色の模様がみられる。全部で 18 点出土している。

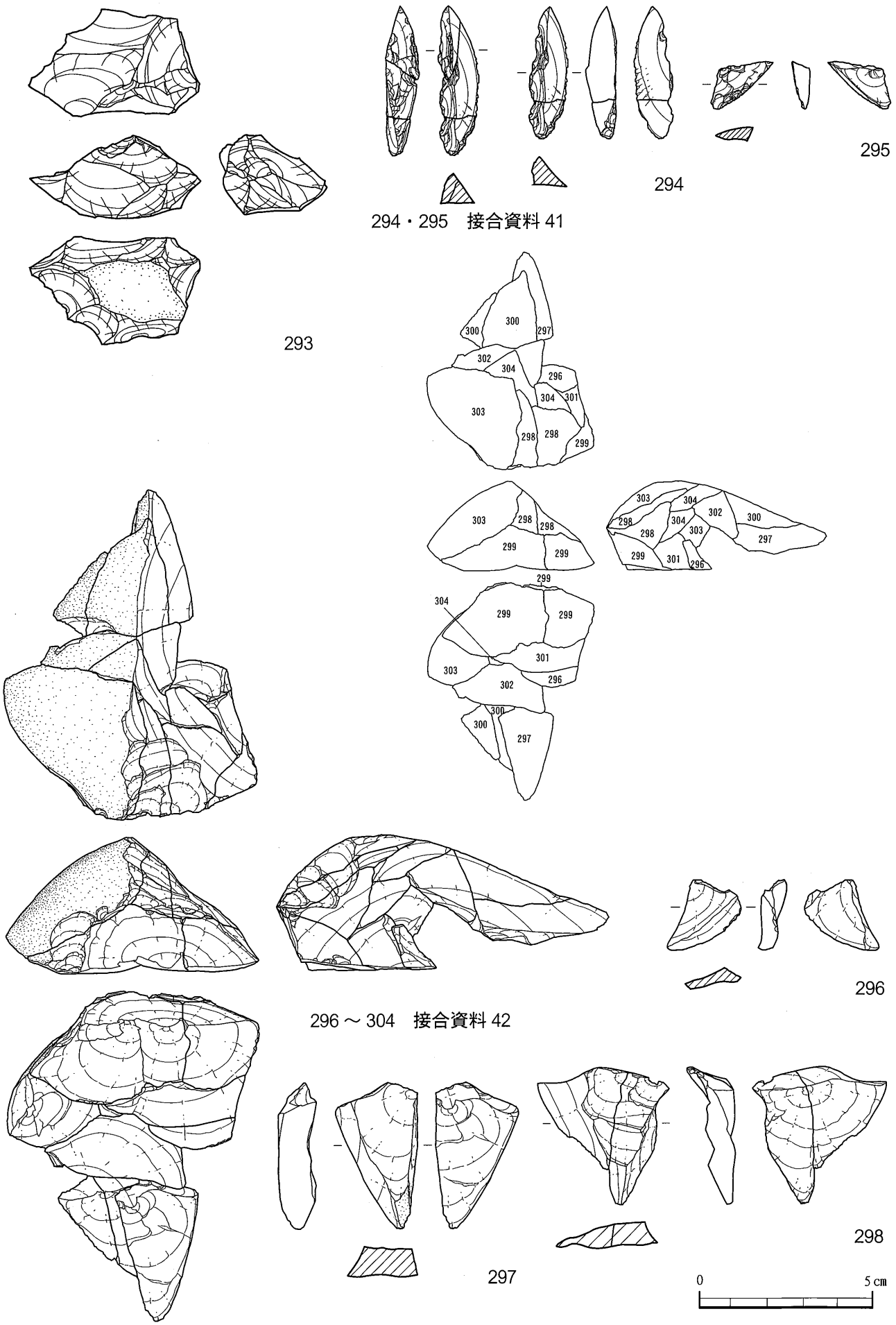
288 は縦長剥片を素材としたスクレイパーで方縁の一部に刃部加工が見られる。

接合資料 39 は剥片 2 点の接合資料である。接合資料 33 と同じような接合資料である。剥片素材の石核から最初に生産された翼状剥片で背面に剥片素材の石核の打面部が取り込まれている。265 はその後の刃潰し加工を試みたときに作出されたものと考えられる。

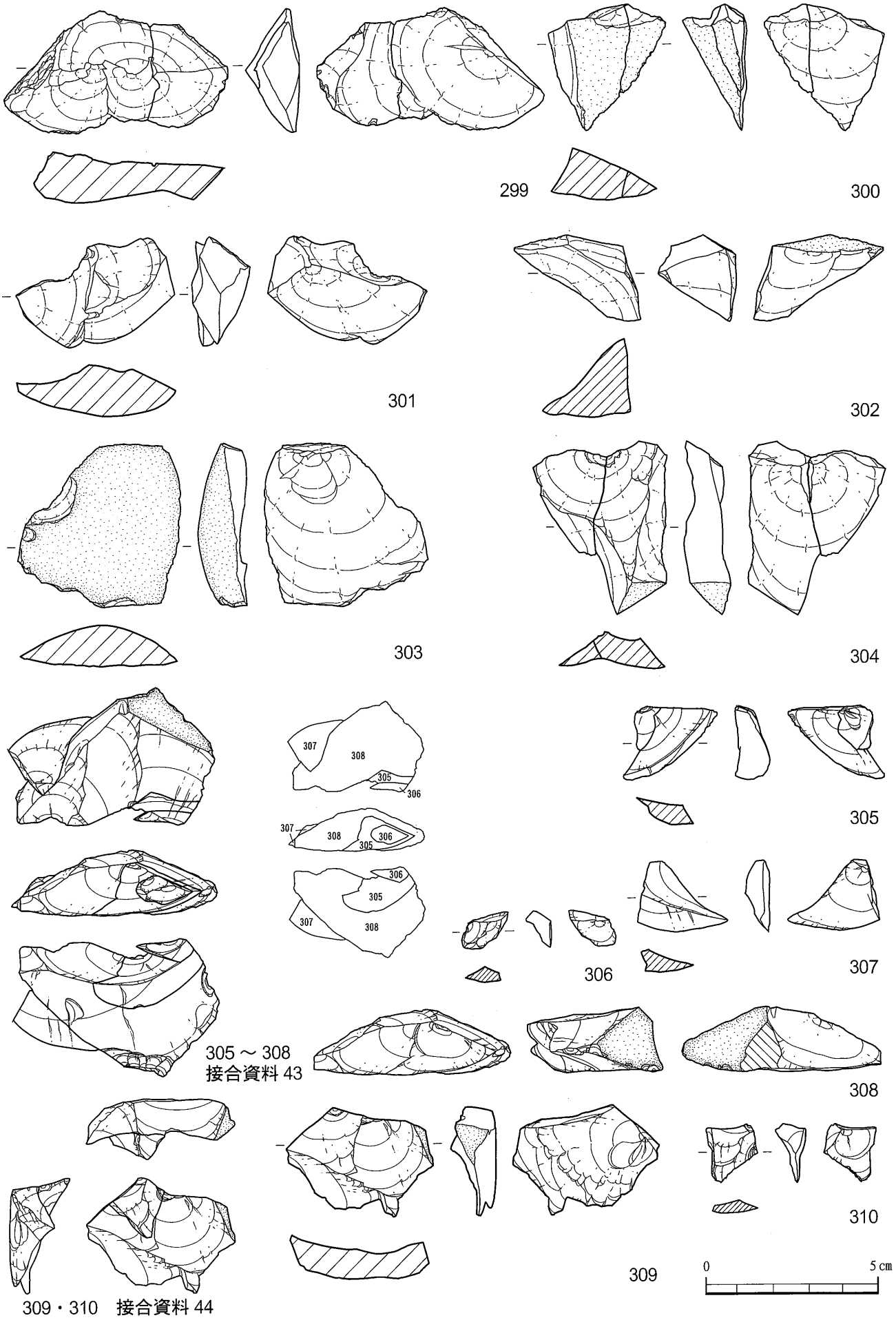
接合資料 40 は剥片 2 点の接合資料である。接合資料 34 のような打面調整剥片の接合資料と考えられる。

母岩E（製品類293・接合資料41～44）

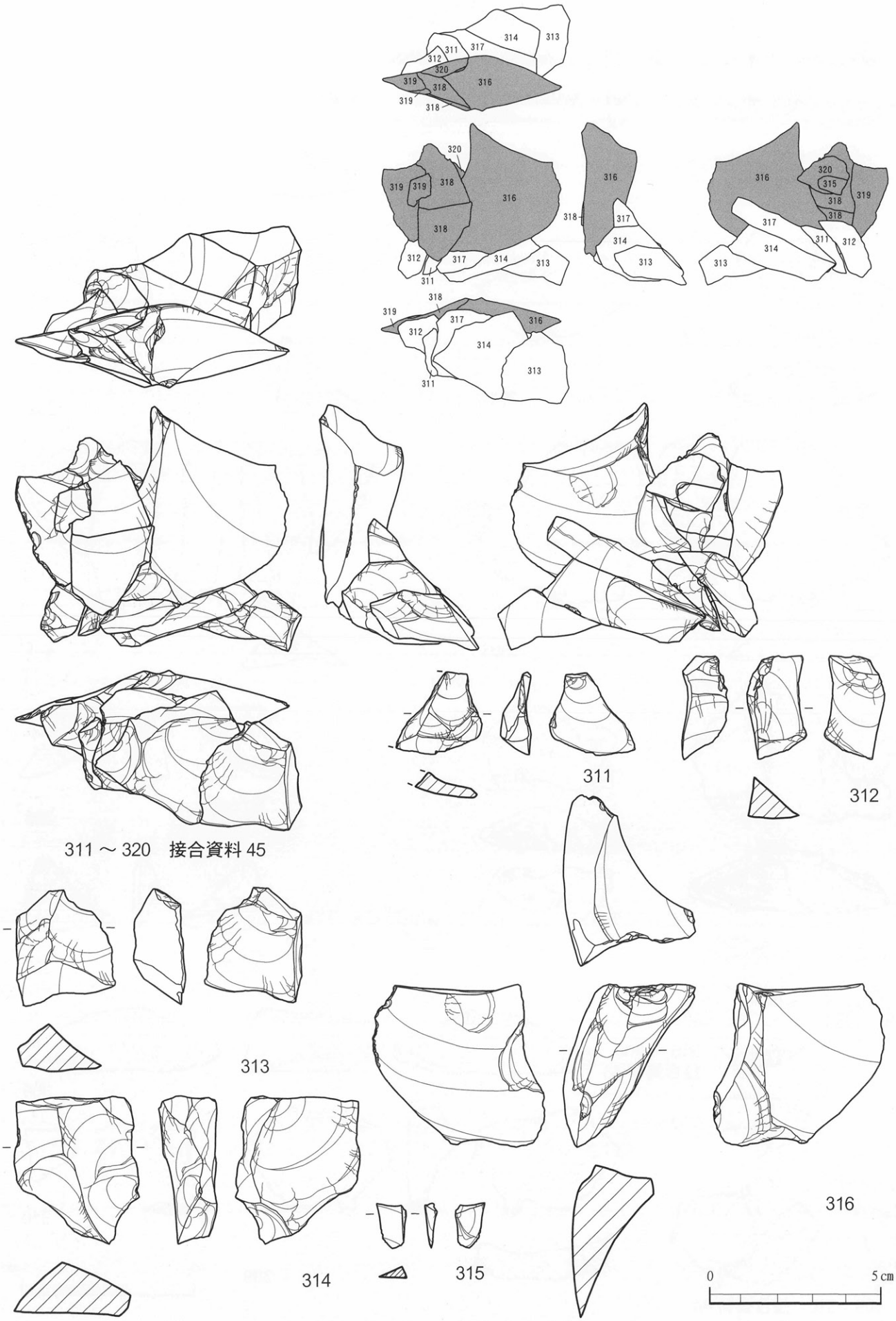
母岩 E は自然面が褐色、節理面はオリーブ色、剥離面が黒褐色～暗赤灰色を呈する頁岩である。第 2 ブロック



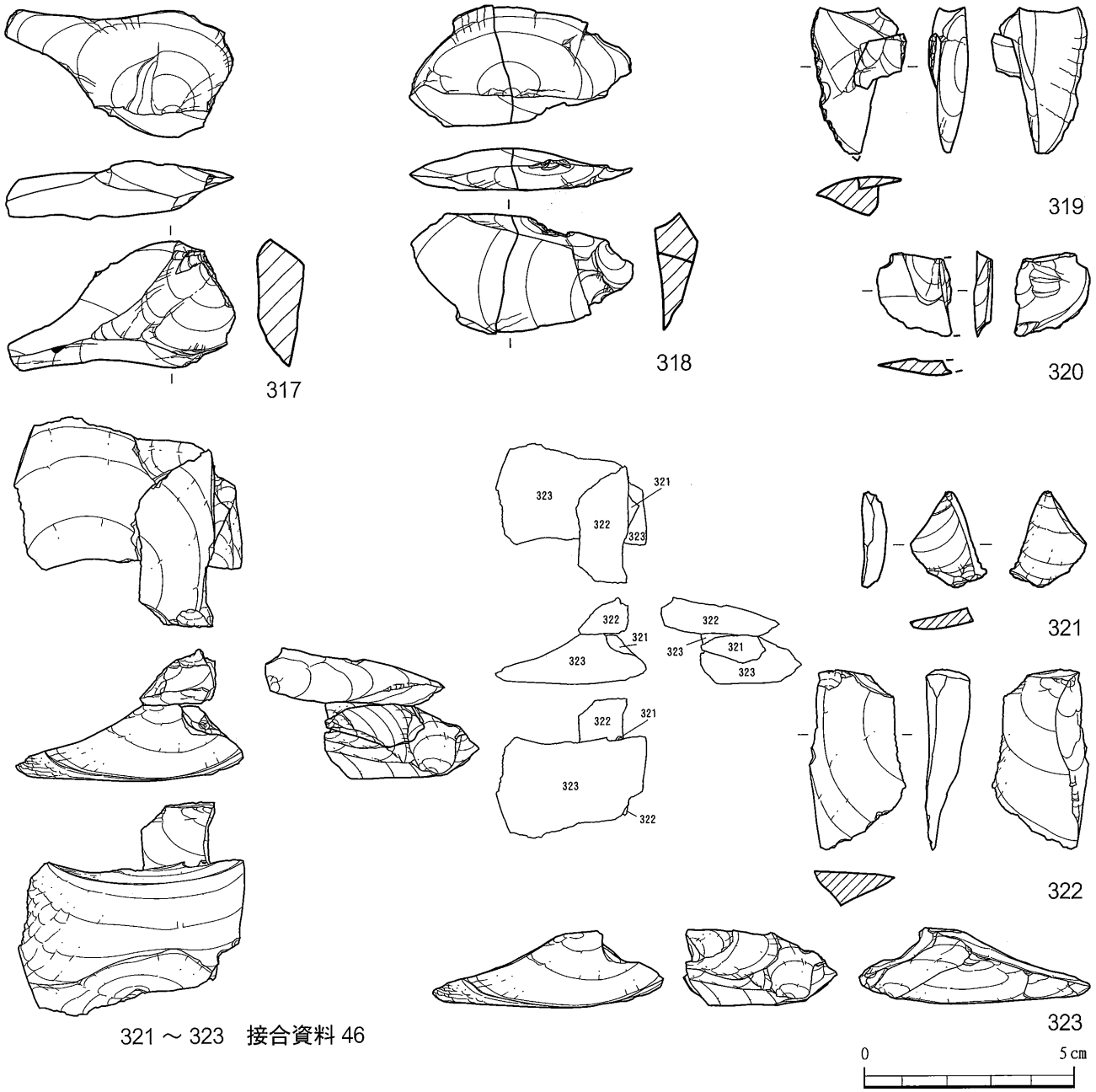
第 30 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑥（S ＝ 2/3）



第 31 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑦（S ＝ 2/3）



第 32 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑧（S ＝ 2/3）



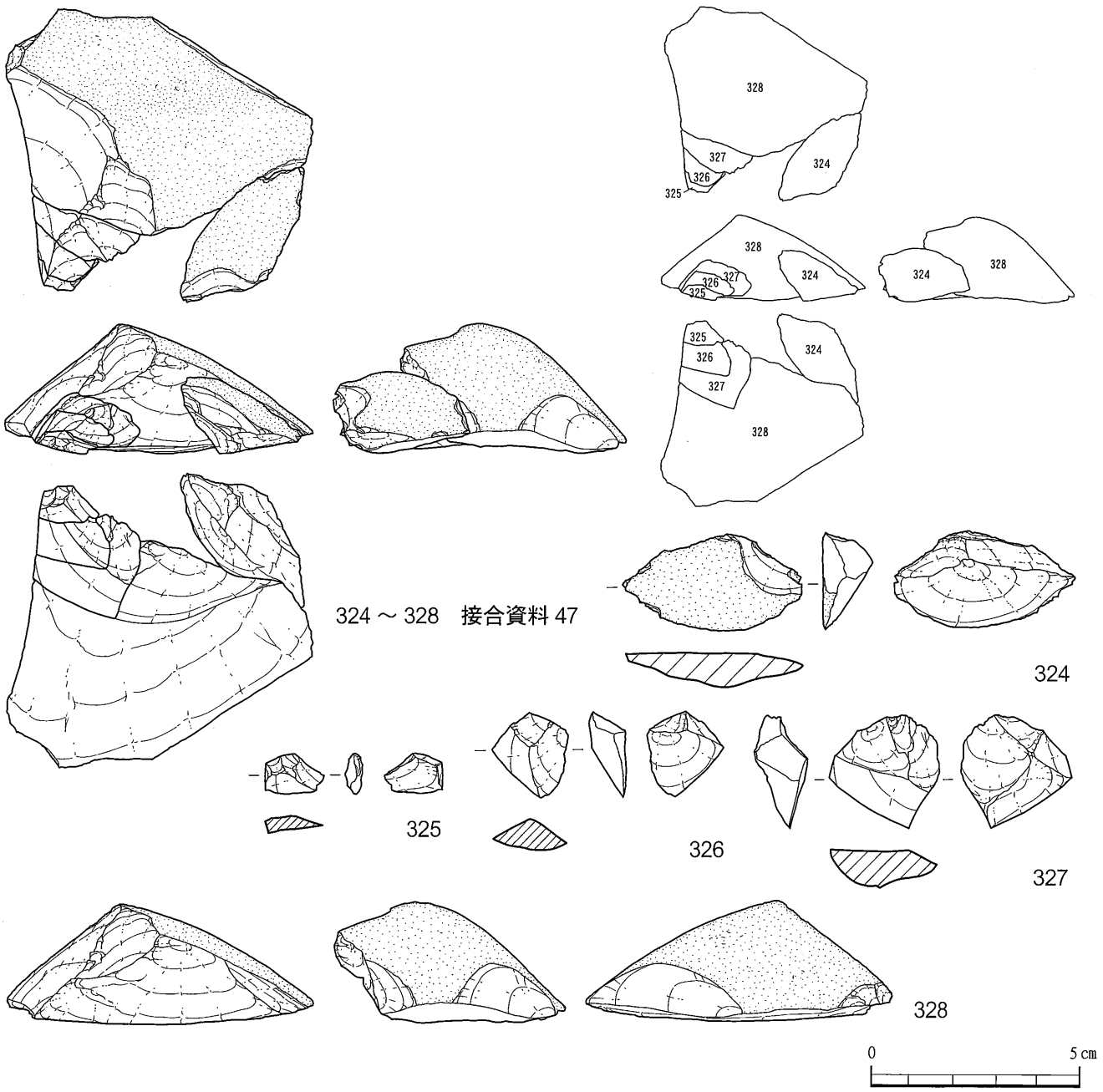
第 33 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑨（S ＝ 2/3）

で 1 点、本ブロックでは 29 点出土している。

293 は石核である。底面に自然面を残すほかは全て剥離面となっている。最終剥離面を見ると山形の打面を築いてから横剥ぎの剥片を作出していた石核であると考えられる。

接合資料 41 は国府型ナイフ形石器と剥片 1 点の接合資料で、接合資料 30 と同じ工程を示す資料である。

接合資料 42 は剥片 9 点の接合資料である。背面に自然面を多く残す剥片を素材とした石核で素材剥片の木口部分に作業面を設定し、山形に打面を調整してから目的となる剥片を生産しているものであるが、接合資料 31 と共通点がある。まず 303 → 298 を剥ぎ取り、打面を調整した後、目的剥片である 299 を生産するが、山形に作った打面の頂点に加撃することなくその左側の平坦な面を打面としている。その後 304 を作出することにより打面調整を行うが、次の目的剥片である 301 の生産の時にはもともとこの剥片素材の石核が持っていた平坦な面に加撃している。その次の目的剥片 296 の生産のときには打面調整をせずに 304 の生産のときに使った平坦面に再び加撃している。この後目的剥片をどのように生産したのかは不明だが、打面調整は何度も繰り返しているようである。このように接合資料 31 と同じように何度も打面調整を行い、山形の打面を作る点は共通しているが、その時に作出される調整剥片に幅広のものが多い点、さらに目的剥片の打点の位置が山形の打面の頂点から大きく



第 34 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑩（S ＝ 2/3）

外れている点、こちらの目的剥片のほうが分厚いといった異なる特徴も見られる。

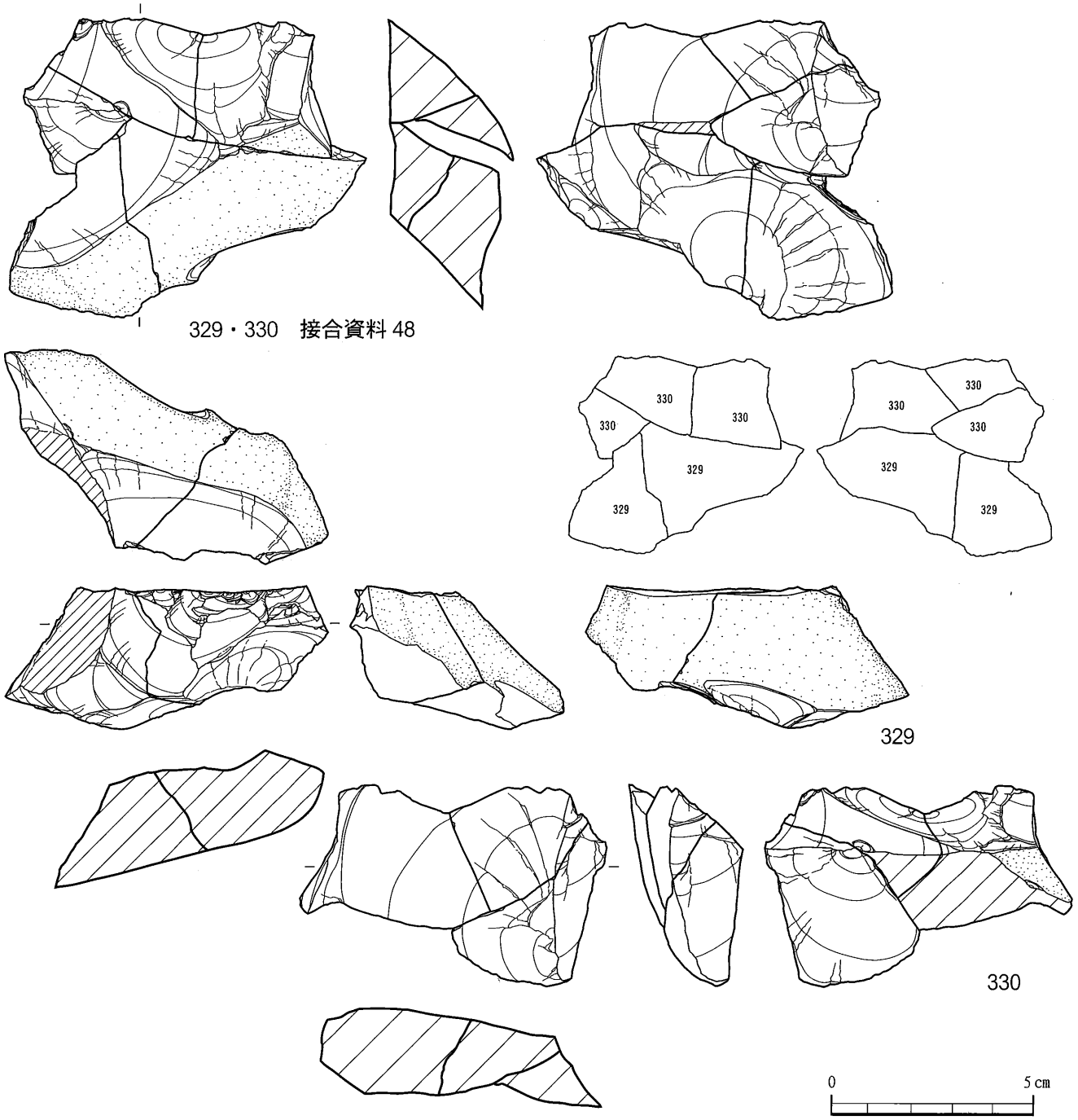
接合資料 43 は剥片 3 点と石核の接合資料である。接合資料 42 のように剥片素材の石核から横剥ぎの剥片を生産する工程がうかがえる。306 は二次加工が見られることから、目的剥片をナイフ形石器に加工しているときに欠損してしまったものと考えられる。308 は残核である。残核の打面部を見るとやはり山形に打面調整は行われていたようである。307 は 308 に接合はしているものの 308 から生産されたものではなく、別の石核より作出されたものであろう。

接合資料 44 は剥片 2 点の接合資料である。接合資料 42 同様、山形の打面を作るもののその横の平坦面を打面として 309 を生産しているようである。

母岩Ⅰ（接合資料45・46）

母岩 I は黒褐色～暗灰色の頁岩で剥離面に赤灰色の粒の混入物や褐色の筋状の模様が見られる。色の暗い部分は母岩 E にも似ている印象を受ける。全部で 21 点出土している。

接合資料 45 は剥片 10 点の接合資料であるが、311 ～ 314・317 の一群と 315・316・318 ～ 320 の一群との大



第 35 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑪（S ＝ 2/3）

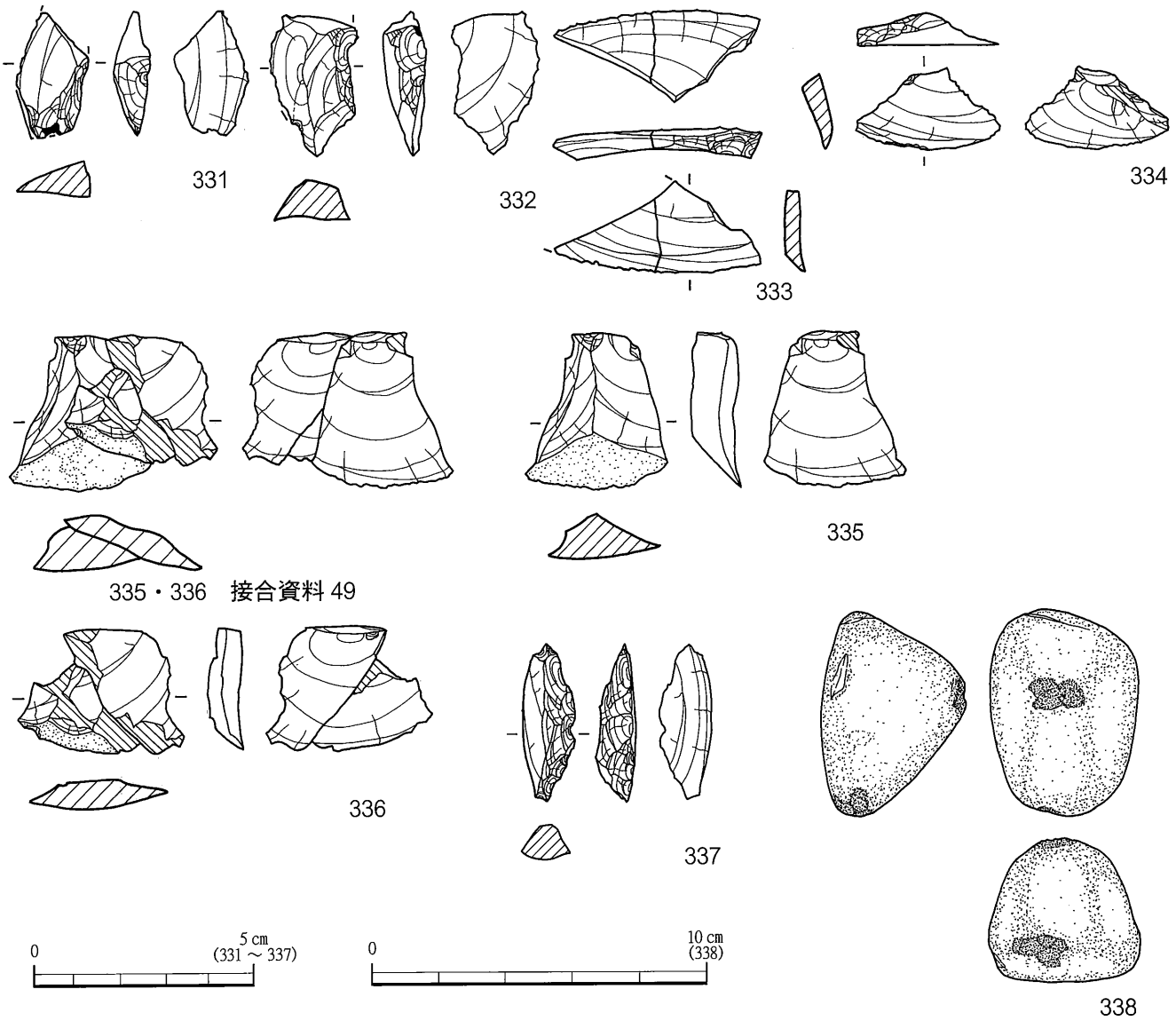
きく二つの接合資料に分かれる。両者共に剥片素材の石核からの剥片を剥離した接合資料であることから、剥片素材の石核同士の接合資料と理解される。灰色の方が先に作出され、その後打面を 90° 入れ替えるようにして、もう一方の剥片を作出している。その後各々に目的剥片を生産している。

接合資料 46 は剥片 3 点と石核 1 点の接合資料である。321・322 は打面調整剥片で 323 は残核である。323 は亜剥片素材の石核で両端の木口部分に作業面が設定されている。

母岩H（接合資料47）

母岩 H は青黒色の頁岩で剥離面に灰白色の筋状の模様が見られ、自然面は灰オリーブ色を呈する。全部で 6 点出土している。

接合資料 47 は剥片 4 点と石核 1 点の接合資料である。剥片素材の石核の打面部に作業面を設け、素材剥片の背面にある自然面の一部を除去する形で一応山形に打面を整え、目的剥片を生産している。324 は打面調整剥片で、328 は残核である。



第 36 図　第 3 ブロック旧石器実測図⑫（S ＝ 1/2　2/3）

母岩F（接合資料48）

母岩 F は灰色の頁岩で、剥離面には赤褐色の粒状の混入物が見られる。自然面は灰オリーブ色を呈する。全部で 7 点出土している。

接合資料 48 は石核 2 点の接合資料である。両者はもともとの一つの剥片でありその主要剥離面は 330 に見られる。素材剥片の背面側を打面とし、主要剥離面側を作業面として設定している。330 を作出しようとしたときに節理面で分割してしまったようでその後は 329 側だけで剥片を作出している。

母岩R（製品類331～334・接合資料49）

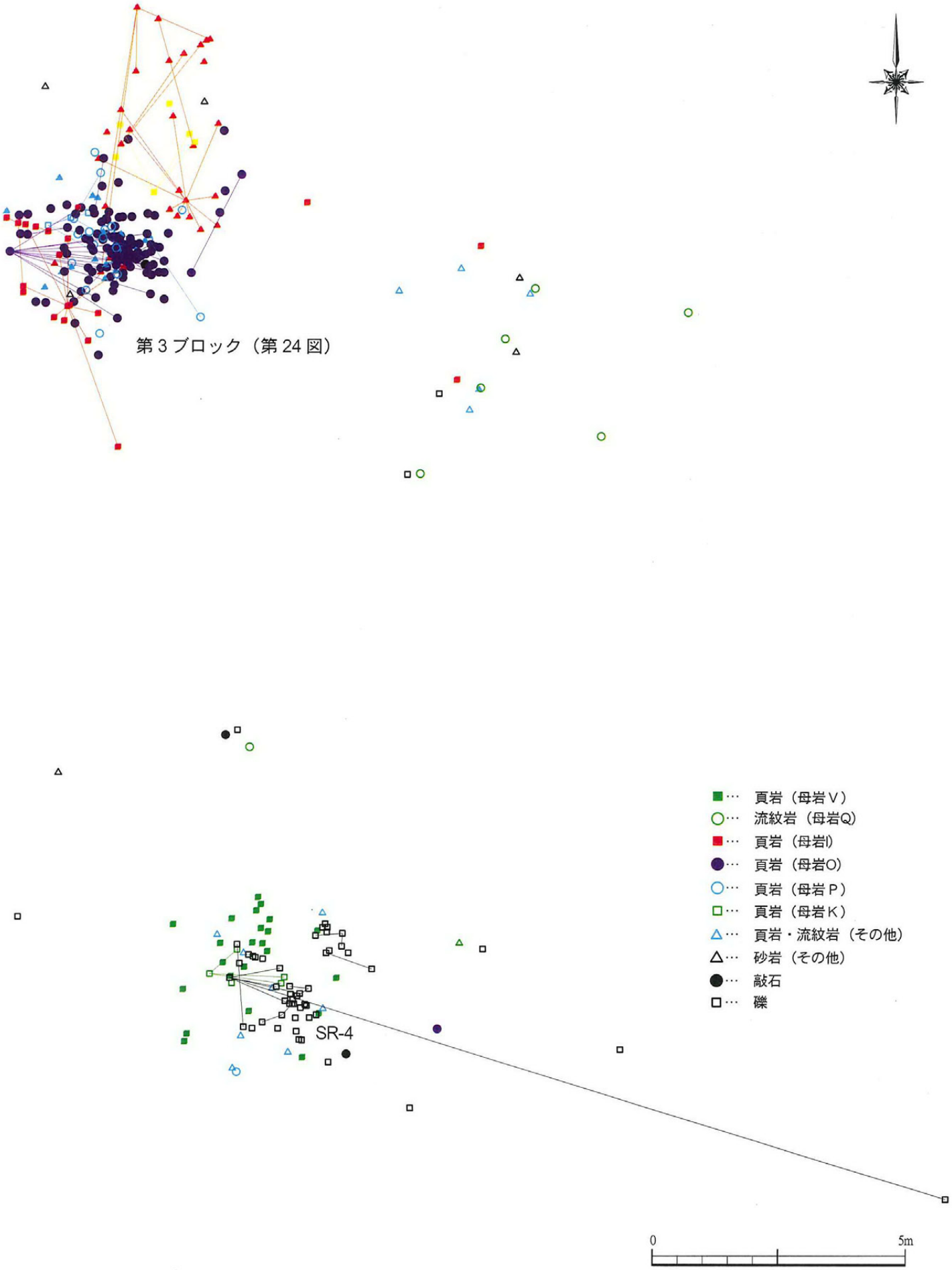
母岩 R は白色から黄褐色を呈するホルンフェルスである。風化が著しく軽い、全部で 25 点出土している。

331・332 はナイフ形石器である。332 はファーストフレイクを素材としている。333・334 は翼状剥片である。

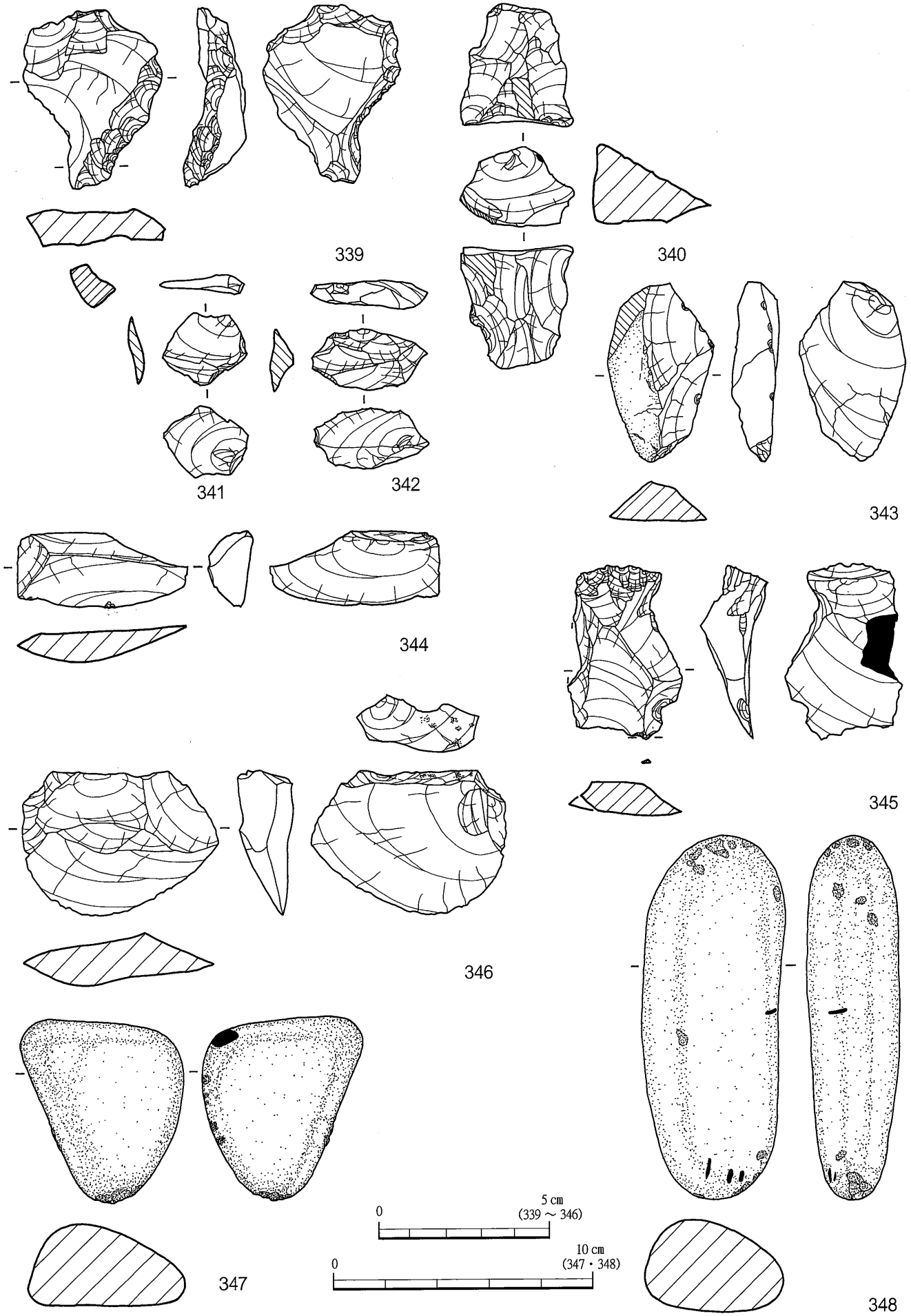
接合資料 49 は縦長剥片 2 点の接合資料であり、接合資料 34・40 と同じような接合資料である。

その他の資料（製品類337・338）

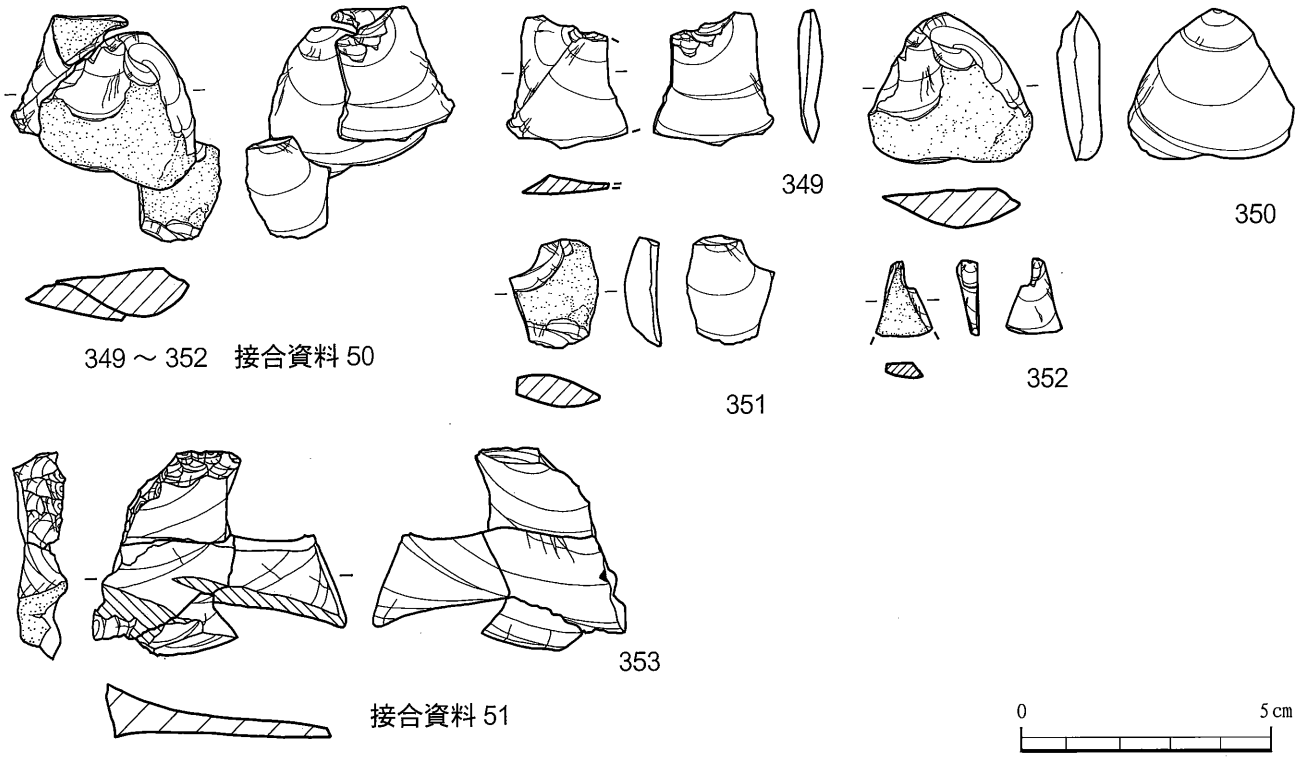
337 は流紋岩製の国府型ナイフ形石器で、本遺跡における唯一の完存品である。338 は砂岩製の敲石で、本ブロックで唯一の敲石であり、この敲石を使用して本ブロックの石器製作はおこなわれたものと考えられる。



第37図　第４ブロック分布図（S＝1/100）



第38図　第4ブロック旧石器実測図①（S＝1/2　2/3）



第 39 図　第 4 ブロック旧石器実測図②（S ＝ 2/3）

5．第4ブロック

本調査区の最も東側で検出されたブロックで、SR-4 がブロック内にある。石器の集中は二箇所あり、一つは SR-4 周辺、もう一つはその約 10m 北側にある。分布状況は南側の方がやや密である。第 4 ブロックの範囲は 19m × 17m 程度で、本ブロックからはスクレイパー 1 点、石錐 1 点、石核 1 点、剥片 61 点、敲石 2 点、礫 53 点（SR-4 の礫も含む）が出土した。また接合作業の結果 2 組の接合資料があることがわかった。接合資料は本ブロック内での接合関係である。本ブロックでは 7 種類以上の母岩が確認されている。

母岩Q（製品類339～342）

母岩 Q は白色で節理面には黄褐色の模様が入ることのある流紋岩である。母岩 Q は本ブロックに 7 点出土しており、第 2 ブロックにも 3 点分布している。

339 はスクレイパーである。不整形な剥片を素材としており、片縁に刃部加工を施す。340 は石核である。瀬戸内技法の影響を受けている資料と考えられ、一応山形の打面を作って輪切り状に剥片を生産している。341・342 は出土状況が 340 と近い位置であったことやその規模から 340 から作出されたものと考えられる。

母岩K（接合資料50）

母岩 K は節理面が黄褐色で、剥離面に灰白色の筋状の模様が入る頁岩である。全部で 5 点出土している。

接合資料 50 は寸詰まりの剥片 4 点の接合資料である。350 は背面に打点が確認できるため、本資料は剥片素材の石核から作出されたものと考えられる。

母岩V（接合資料51）

母岩 V は節理面が黄褐色で、剥離面にも筋状の黄褐色の模様が入る頁岩である。全部で 23 点出土している。

接合資料 51 は打面調整剥片が 4 つに分かれた資料である。

その他の母岩（343～348）

345 は流紋岩製の縦長剥片を素材とした石錐である。346 は砂岩製の横長剥片で、打面部に打撃痕が観察される。背面には主要剥離面と同じ方向に横長剥片を剥ぎ取った痕跡が見られる。347・348 は砂岩製の敲石である。

第２表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表①

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合資料No.	母岩	備考
1	515	敲石		SR-1	砂岩	7.2	5.15	4.0	179.6			
2	543	石核	A	SR-2	頁岩	2.3	4.8	4.6	29.0		S	
3	5	スクレイパー	A9	SR-3	頁岩	6.15	2.5	1.4	19.2			
4	7	角錐状石器	A9	SR-3	頁岩	6.3	2.2	1.8	18.6			
5	6	スクレイパー	A9	SR-3	流紋岩	5.4	4.0	2.0	40.7			
6	3	剥片	A9	SR-3	砂岩	5.7	4.5	1.3	27.0			
7	4	剥片	A9	SR-3	頁岩	3.7	2.1	0.7	3.6			
8	513	敲石	A9	SR-3	砂岩	6.75	2.75	2.4	51.5			
9	27	槍先形尖頭器	A2	8	粘板岩	(6.7)	(3.0)	0.8	(15.0)			基部欠損
10	518	剥片尖頭器	A1	7	砂岩	(4.6)	(3.8)	(1.8)	(31.7)			先端部欠損
11	546	ナイフ形石器	A22	6	流紋岩	(4.85)	1.9	1.1	(6.3)			先端部欠損
12	511	敲石	A2	7	砂岩	4.7	2.85	1.4	25.4			
13	199	角錐状石器	A13	8	頁岩	6.4	2.4	2.5	35.6	1	A	未製品
14	198	剥片	A13	8	頁岩	1.4	1.4	0.4	0.55	1	A	
15	205	剥片	A13	8	頁岩	1.5	2.5	0.6	2.05	1	A	
16	206	剥片	A13	8	頁岩	1.45	1.6	0.3	0.5	1	A	
17	203	剥片	A13	7	頁岩	1.6	2.4	0.4	0.95	1	A	
18	200	剥片	A13	8	頁岩	1.7	1.3	0.3	0.45	1	A	
19	204	剥片	A13	8	頁岩	2.1	3.2	0.8	2.35	1	A	
20	216	剥片	A13	7	頁岩	2.5	1.5	0.3	0.9	1	A	
21	202	剥片	A13	8	頁岩	1.1	1.35	0.3	0.35	1	A	
22	222	剥片	A13	7	頁岩	0.9	1.2	0.5	0.33	1	A	
23	217	剥片	A13	8	頁岩	1.0	1.0	0.3	0.17	1	A	
24	207	剥片	A13	8	頁岩	2.8	2.7	0.8	3.25	1	A	
25	227	剥片	A13	7	頁岩	3.0	1.8	0.7	2.89	1	A	
26	208	剥片	A13	8	頁岩	2.3	4.85	1.1	11.3	1	A	
27	209	剥片	A13	7	頁岩	1.6	3.25	0.5	1.35	1	A	
28	219	剥片	A13	8	頁岩	1.3	2.3	0.4	0.58	1	A	
29	214	剥片	A13	7	頁岩	2.6	2.8	0.6	2.76	1	A	
30	212	剥片	A13	7	頁岩	2.1	1.55	0.5	0.97	1	A	
31	228	剥片	A13	7	頁岩	2.7	1.5	0.7	1.76	1	A	
32	210	剥片	A13	8	頁岩	2.5	2.2	0.6	1.99	1	A	
33	221	剥片	A13	7	頁岩	1.0	3.0	0.5	1.0	1	A	
34	229	剥片	A13	8	頁岩	1.9	2.8	0.6	1.83	1	A	
35	211	剥片	A13	7	頁岩	1.85	1.8	0.6	1.35	1	A	
36	213	剥片	A13	8	頁岩	2.2	1.5	0.6	1.12	1	A	
37	218	剥片	A13	7	頁岩	2.2	1.7	0.7	1.48	1	A	
38	220	剥片	A13	7	頁岩	1.1	1.9	0.6	0.86	1	A	
39	224	剥片	A13	8	頁岩	0.9	1.2	0.3	0.3	1	A	
40	201	剥片	A13	7	頁岩	1.6	1.8	0.5	0.75	1	A	
41	215	剥片	A13	8	頁岩	1.4	1.5	0.4	0.43	1	A	
42	233	剥片	A13	7	頁岩	1.3	0.8	0.2	0.18	1	A	
43	230	剥片	A13	8	頁岩	1.8	2.65	0.5	1.81	1	A	
44	231	剥片	A13	7	頁岩	1.5	2.4	0.5	0.91	1	A	
45	234	剥片	A13	6	頁岩	1.7	2.2	0.5	1.1	1	A	

（　　）の値は残存値を示す

第３表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表②

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合資料No.	母岩	備考
46	223	剥片	A13	8	頁岩	1.4	1.2	0.5	0.49	1	A	
47	254	剥片	A13	7	頁岩	2.7	3.0	1.0	5.0	1	A	
48	225	剥片	A13	7	頁岩	3.3	2.7	1.2	8.2	1	A	
49	226	剥片	A13	7	頁岩	2.7	3.0	0.9	6.78	1	A	
50	241	剥片	A13	8	頁岩	2.3	1.9	0.5	1.15	1	A	
51	243	剥片	A13	7	頁岩	2.05	2.9	0.8	2.54	1	A	
52	236	剥片	A13	7	頁岩	1.4	4.6	0.8	2.95	1	A	
53	232	剥片	A13	8	頁岩	1.2	1.8	0.4	0.49	1	A	
54	235	剥片	A13	8	頁岩	1.7	1.9	0.4	0.76	1	A	
55	242	剥片	A13	8	頁岩	2.0	1.6	0.4	0.82	1	A	
56	244	剥片	A13	8	頁岩	2.1	2.7	0.6	2.53	1	A	
57	250	剥片	A13	8	頁岩	2.7	2.4	0.5	1.89	1	A	
58	237	剥片	A13	8	頁岩	2.2	2.4	0.6	1.94	1	A	
59	251	剥片	A13	7	頁岩	2.2	1.5	0.6	1.35	1	A	
60	245	剥片	A13	8	頁岩	2.0	1.5	0.3	0.53	1	A	
61	253	剥片	A13	8	頁岩	2.9	1.8	0.7	2.46	1	A	
62	249	剥片	A13	7	頁岩	3.0	4.6	1.2	8.29	1	A	
63	246	剥片	A13	7	頁岩	2.1	2.7	0.6	2.68	1	A	
64	248	剥片	A13	7	頁岩	2.3	2.2	0.8	3.47	1	A	
65	247	剥片	A13	7	頁岩	2.55	2.7	0.7	2.76	1	A	
66	252	剥片	A13	7	頁岩	2.8	3.9	1.0	9.33	1	A	
67	255	剥片	A13	8	頁岩	1.1	1.0	0.2	0.13	1	A	
68	240	剥片	A13	8	頁岩	1.3	1.6	0.3	0.4	1	A	
69	239	剥片	A13	7	頁岩	1.7	1.2	0.6	0.63	1	A	
70	238	剥片	A13	7	頁岩	1.4	1.5	0.4	0.57	1	A	
71	168	剥片	A13	8	頁岩	4.5	2.3	0.6	5.27	2	A	
72	152	剥片	A13	8	頁岩	4.1	2.0	1.3	8.26	2	A	
73	146	２次加工ある剥片	A13	7	頁岩	5.7	3.1	1.3	15.15	2	A	角錐状石器未製品か
74	156	剥片	A13	7	頁岩	2.2	2.35	0.6	2.15	2	A	
75	164	剥片	A13	8	頁岩	1.65	2.3	1.1	3.03	2	A	
76	160	剥片	A13	7	頁岩	1.4	2.55	0.5	1.39	2	A	
77	148	剥片	A13	8	頁岩	1.9	0.6	0.4	0.36	2	A	
78	150	剥片	A13	7	頁岩	2.6	2.4	1.1	3.49	2	A	
79	153	剥片	A13	7	頁岩	2.2	2.1	0.9	2.62	2	A	
80	157	剥片	A13	7	頁岩	3.1	4.2	1.1	9.2	2	A	
81	147	剥片	A13	8	頁岩	1.5	2.3	0.5	1.32	2	A	
82	158	剥片	A13	7	頁岩	1.35	1.8	0.5	0.64	2	A	
83	172	剥片	A13	8	頁岩	1.2	1.8	0.3	0.42	2	A	
84	149	剥片	A13	8	頁岩	1.1	1.9	0.4	0.52	2	A	
85	151	剥片	A13	7	頁岩	0.85	1.4	0.45	0.38	2	A	
86	161	剥片	A13	7	頁岩	1.15	1.55	0.3	0.25	2	A	
87	163	剥片	A13	8	頁岩	1.6	1.95	0.5	0.97	2	A	
88	159	２次加工ある剥片	A13	7	頁岩	4.3	2.1	1.4	11.09	2	A	角錐状石器未製品か
89	154	剥片	A13	7	頁岩	1.85	1.3	0.3	0.57	2	A	
90	162	剥片	A13	8	頁岩	1.5	2.0	0.5	0.86	2	A	

（　　）の値は残存値を示す

第４表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表③

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合資料No.	母岩	備考
91	165	剥片	A13	7	頁岩	1.4	2.3	0.6	1.05	2	A	
92	170	剥片	A13	8	頁岩	2.15	1.1	0.8	1.21	2	A	
93	171	剥片	A13	8	頁岩	2.3	1.8	0.8	2.95	2	A	
94	155	剥片	A13	7	頁岩	2.1	2.3	0.4	1.51	2	A	
95	166	剥片	A13	7	頁岩	3.0	2.0	1.4	7.25	2	A	
96	167	剥片	A13	8	頁岩	0.95	1.2	0.3	0.18	2	A	
97	169	剥片	A13	8	頁岩	1.15	1.2	0.45	0.59	2	A	
98	173	剥片	A13	7	頁岩	2.0	0.9	1.0	1.41	2	A	
99	180	剥片	A13	7	頁岩	2.6	2.1	0.8	3.5	3	A	
100	181	剥片	A13	7	頁岩	1.8	2.3	0.6	1.6	3	A	
101	186	剥片	A13	7	頁岩	1.8	2.2	0.4	0.8	3	A	
102	184	剥片	A13	8	頁岩	1.5	1.5	0.3	0.5	3	A	
103	183	剥片	A13	8	頁岩	1.8	1.4	0.4	0.7	3	A	
104	176	剥片	A13	7	頁岩	1.8	1.8	0.4	1.2	3	A	
105	188	剥片	A13	7	頁岩	1.8	1.6	0.5	1.1	3	A	
106	185	剥片	A13	8	頁岩	1.6	1.6	0.3	0.3	3	A	
107	189	剥片	A13	7	頁岩	1.9	1.9	0.5	1.5	3	A	
108	187	剥片	A13	8	頁岩	1.5	1.9	0.3	0.5	3	A	
109	191	剥片	A13	7	頁岩	1.9	1.5	0.6	1.2	3	A	
110	182	剥片	A13	7	頁岩	1.8	1.4	0.3	0.6	3	A	
111	190	剥片	A13	8	頁岩	1.5	1.3	0.5	0.5	3	A	
112	179	剥片	A13	7	頁岩	2.3	2.1	0.6	2.1	3	A	
113	178	剥片	A13	7	頁岩	1.2	1.6	0.4	0.5	3	A	
114	175	剥片	A13	7	頁岩	1.7	1.1	0.3	0.3	3	A	
115	177	剥片	A13	8	頁岩	1.0	1.2	0.3	0.3	3	A	
116	133	角錐状石器	A13	7	頁岩	(4.8)	1.7	1.4	(8.9)	4	A	先端部欠損
117	134	剥片	A13	7	頁岩	1.0	1.5	0.4	0.3	4	A	
118	136	剥片	A13	8	頁岩	1.1	1.3	0.2	0.2	4	A	
119	135	剥片	A13	8	頁岩	1.1	1.3	0.3	0.3	4	A	
120	137	剥片	A13	7	頁岩	1.7	1.7	0.4	0.7	4	A	
121	138	剥片	A13	8	頁岩	1.6	1.7	0.5	1.2	4	A	
122	140	角錐状石器	A13	8	頁岩	6.7	2.0	1.4	11.7	5	A	
123	141	剥片	A13	7	頁岩	1.3	1.5	0.3	0.4	5	A	
124	143	剥片	A13	6	頁岩	1.2	1.9	0.4	0.8	5	A	
125	144	剥片	A13	8	頁岩	1.4	1.4	0.4	0.4	5	A	
126	142	剥片	A13	8	頁岩	1.1	1.1	0.5	0.2	5	A	
127	125	剥片	A13	7	頁岩	2.6	4.0	0.9	3.3	6	A	
128	127	剥片	A13	7	頁岩	1.7	1.6	0.3	0.4	6	A	
129	128	剥片	A13	8	頁岩	1.5	1.1	0.2	0.3	6	A	
130	126	剥片	A13	8	頁岩	1.7	1.1	0.4	0.4	6	A	
131	193	剥片	A13	7	頁岩	0.65	1.2	0.3	0.1	7	A	
132	194	剥片	A13	8	頁岩	1.0	1.4	0.4	0.3	7	A	
133	196	剥片	A13	7	頁岩	3.15	1.7	1.0	2.7	7	A	
134	195	剥片	A13	8	頁岩	1.4	2.0	0.5	1.1	7	A	
135	110	剥片	A13	7	頁岩	2.0	2.0	0.6	1.9	8	A	

（　　）の値は残存値を示す

第５表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表④

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合資料No.	母岩	備考
136	109	剥片	A13	8	頁岩	1.9	2.0	0.5	1.1	8	A	
137	111	剥片	A13	7	頁岩	1.7	0.8	0.3	0.2	8	A	
138	116	剥片	A13	7	頁岩	2.3	2.9	0.7	2.4	9	A	
139	118	剥片	A13	8	頁岩	1.3	1.0	0.4	0.3	9	A	
140	117	剥片	A13	7	頁岩	1.9	1.0	0.4	0.5	9	A	
141	119	剥片	A13	8	頁岩	1.6	2.4	0.8	1.8	9	A	
142	105	剥片	A13	7	頁岩	1.8	1.8	0.5	0.9	10	A	
143	106	剥片	A13	8	頁岩	1.6	1.5	0.4	0.4	10	A	
144	107	剥片	A13	8	頁岩	1.2	1.2	0.4	0.3	10	A	
145	121	剥片	A13	8	頁岩	1.2	1.4	0.4	0.5	11	A	
146	122	剥片	A13	8	頁岩	0.9	0.9	0.3	0.2	11	A	
147	123	剥片	A13	8	頁岩	0.8	1.0	0.2	0.1	11	A	
148	102	剥片	A13	8	頁岩	2.3	2.1	0.6	1.8	12	A	
149	103	剥片	A13	8	頁岩	2.3	2.4	0.6	2.2	12	A	
150	113	剥片	A13	7	頁岩	1.3	1.2	0.3	0.3	13	A	
151	114	剥片	A13	8	頁岩	1.6	1.6	0.2	0.5	13	A	
152	131	剥片	A13	7	頁岩	1.9	1.1	0.4	0.5	14	A	
153	130	剥片	A13	8	頁岩	1.1	1.1	0.3	0.2	14	A	
154	341	砕片	A13	8	ホルンフェルス	1.4	0.85	0.2	0.1	15	B	
155	345	剥片	A13	7	ホルンフェルス	(1.85)	(2.75)	0.95	(2.3)	15	B	基部欠損
156	340	砕片	A13	7	ホルンフェルス	1.25	1.7	0.6	0.6	15	B	
157	342	剥片	A13	8	ホルンフェルス	(1.95)	(2.15)	0.7	(1.4)	15	B	基部欠損
158	346	剥片	A13	7	ホルンフェルス	1.95	2.05	0.45	1.0	15	B	
159	344	剥片	A13	7	ホルンフェルス	1.7	3.35	0.85	2.9	15	B	
160	343	剥片	A13	8	ホルンフェルス	2.35	3.2	0.9	3.8	15	B	
161	351	角錐状石器未製品	A13	8	ホルンフェルス	5.6	2.85	1.95	14.5	16	B	
162	352	砕片	A13	8	ホルンフェルス	1.6	1.45	0.45	0.4	16	B	
163	353	剥片	A13	7	ホルンフェルス	1.45	2.25	0.6	1.7	16	B	
164	355	剥片	A13	8	ホルンフェルス	1.55	2.55	0.75	1.3	16	B	
165	354	剥片	A13	8	ホルンフェルス	2.05	1.4	0.55	1.4	16	B	
166	348	角錐状石器未製品	A13	7	ホルンフェルス	(2.65)	1.65	1.45	(3.6)	17	B	先端部欠損
167	349	剥片	A13	7	ホルンフェルス	(1.15)	(1.6)	0.4	(0.3)	17	B	基部欠損
168	337	角錐状石器未製品	A13		ホルンフェルス	5.6	2.35	1.55	12.0	18	B	
169	338	剥片	A13	8	ホルンフェルス	1.7	2.6	0.7	1.4	18	B	
170	360	剥片	A13	8	流紋岩	1.85	2.2	0.8	2.0	19	C	
171	363	剥片	A13	8	流紋岩	1.45	2.0	0.5	0.9	19	C	
172	381	剥片	A13	8	流紋岩	2.75	2.2	0.45	2.2	19	C	
173	369	剥片	A13	6	流紋岩	2.7	1.5	0.4	1.1	19	C	
174	368	剥片	A13	8	流紋岩	1.4	2.5	1.0	2.9	19	C	
175	365	剥片	A13	8	流紋岩	3.4	2.3	0.55	2.1	19	C	
176	359	剥片	A13	8	流紋岩	2.45	1.5	0.6	1.6	19	C	
177	380	剥片	A13	8	流紋岩	2.35	1.4	0.45	1.0	19	C	
178	376	砕片	A13	8	流紋岩	2.45	1.75	0.3	0.9	19	C	
179	366	剥片	A13	7	流紋岩	1.15	2.15	0.5	0.9	19	C	
180	362	剥片	A13	8	流紋岩	1.45	2.3	0.6	1.1	19	C	

（　　）の値は残存値を示す

第６表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑤

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリット	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合資料 No.	母岩	備考
181	364	剥片	A13	8	流紋岩	2.1	1.85	0.5	1.6	19	C	
182	361	剥片	A13	8	流紋岩	1.35	2.3	0.4	1.0	19	C	
183	378	砕片	A13	7	流紋岩	1.45	0.9	0.3	0.3	19	C	
184	370	剥片	A13	8	流紋岩	1.8	1.65	0.5	1.0	19	C	
185	358	剥片	A13	7	流紋岩	1.55	2.9	1.0	2.5	19	C	
186	372	砕片	A13	8	流紋岩	1.4	1.6	0.4	1.0	19	C	
187	373	砕片	A13	8	流紋岩	1.6	2.05	0.55	0.9	19	C	
188	374	砕片	A13	8	流紋岩	1.5	1.7	0.6	0.9	19	C	
189	382	剥片	A13	8	流紋岩	3.05	2.3	0.65	2.5	19	C	
190	357	剥片	A13	8	流紋岩	2.1	3.25	0.7	2.6	19	C	
191	367	剥片	A13	7	流紋岩	2.45	3.1	0.75	3.2	19	C	
192	383	剥片	A13	8	流紋岩	0.95	1.45	0.25	0.3	19	C	
193	377	砕片	A13	8	流紋岩	1.55	1.7	0.6	0.8	19	C	
194	379	砕片	A13	7	流紋岩	1.65	1.35	0.35	0.5	19	C	
195	371	砕片	A13	8	流紋岩	1.25	1.3	0.25	0.2	19	C	
196	375	砕片	A13	8	流紋岩	1.3	1.65	0.35	0.4	19	C	
197	385	砕片	A13	8	流紋岩	1.3	1.25	0.35	0.4	20	C	
198	386	砕片	A13	8	流紋岩	1.75	1.85	0.4	0.8	20	C	
199	388	砕片	A13	8	流紋岩	1.1	1.25	0.2	0.2	21	C	
200	389	砕片	A13	8	流紋岩	1.15	1.85	0.35	0.6	21	C	
201	465	二次加工ある剥片	A13	6	砂岩	3.75	2.9	1.15	13	22	D	角錐状石器未製品か
202	466	剥片	A13	8	砂岩	1.3	2.6	0.5	1.6	22	D	
203	467	砕片	A13	8	砂岩	1.1	1.2	0.3	0.2	22	D	
204	472	剥片	A13	6	砂岩	(1.6)	(2.45)	0.6	(1.7)	23	D	基部欠損
205	469	砕片	A13	8	砂岩	(1.45)	(1.95)	0.4	(0.7)	23	D	基部欠損
206	470	砕片	A13	7	砂岩	1.4	1.5	0.25	0.3	23	D	
207	471	砕片	A13	8	砂岩	1.15	1.4	0.5	0.4	23	D	
208	475	砕片	A13	8	砂岩	1.2	1.8	0.4	0.6	24	L	
209	476	砕片	A13	8	砂岩	1.2	1.5	0.35	0.4	24	L	
210	474	砕片	A13	7	砂岩	1.15	1.0	0.3	0.3	24	L	
211	522	角錐状石器	A13	7	頁岩	(2.1)	(1.4)	(0.9)	(2.2)		M	基部のみ破片
212	524	角錐状石器	A13	7	頁岩	(3.15)	(2.0)	(1.4)	(4.0)		M	基部のみ破片
213	478	剥片	A9	8	頁岩	2.2	2.6	1.0	4.1	25	M	
214	479	剥片	A13	7	頁岩	2.85	2.65	0.7	3.9	25	M	
215	527	剥片	A13	7	頁岩	2.75	1.4	0.45	1.4	26	M	
216	526	剥片	A13	8	頁岩	3.4	1.8	0.65	2.3	26	M	
217	529	剥片	A13	7	頁岩	3.0	2.4	0.6	2.8	27	M	
218	530	剥片	A13	7	頁岩	3.1	2.95	1.05	8.3	27	M	
219	531	剥片	A13	7	頁岩	1.25	2.5	0.55	1.5	27	M	
220	523	角錐状石器	A13	8	頁岩	(1.8)	(1.55)	(0.95)	(2.2)		N	基部のみ破片
221	509	敲石	A13	8	砂岩	8.6	3.95	2.9	100.6			
222	512	敲石	A13	8	砂岩	6.8	3.3	1.8	52.3			
223	508	敲石	A13	8	砂岩	4.4	2.3	2.1	29.5			
224	532	剥片	A16	8	頁岩	3.4	5.8	1.45	19.2		E	
225	520	剥片	A16	8	ホルンフェルス	(8.4)	4.5	3.0	(76.9)		U	基部欠損

（　　）の値は残存値を示す

第７表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑥

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合資料No.	母岩	備考
226	514	敲石	A16	8	砂岩	8.8	5.7	6.4	391.3			
227	545	ナイフ形石器	A16	8	頁岩	(4.6)	2.25	1.2	(12.1)			基部欠損
228	406	剥片	A16	8	頁岩	1.3	1.9	0.75	1.3	28	J	
229	405	石核	A16	7	頁岩	3.5	6.7	1.4	30.0	28	J	
230	398	砕片	A16	9	頁岩	2.05	1.15	0.35	0.7	29	G	
231	399	砕片	A16	8	頁岩	1.35	1.35	0.25	0.3	29	G	
232	397	石核	A16	8	頁岩	4.35	4.35	2.15	39.6	29	G	
233	403	剥片	A16	9	頁岩	2.45	1.3	0.7	1.8	29	G	
234	400	剥片	A16	8	頁岩	2.55	3.15	1.45	6.4	29	G	
235	401	剥片	A16	8	頁岩	2.5	2.85	1.0	6.8	29	G	
236	402	剥片	A16	7	頁岩	2.3	3.95	1.05	8.3	29	G	
237	491	ナイフ形石器	A20	8	頁岩	(2.4)	1.2	0.9	(2.3)		O	基部欠損
238	490	ナイフ形石器	A20	7	頁岩	(2.5)	1.35	0.85	(1.4)		O	基部欠損
239	492	ナイフ形石器	A20	8	頁岩	2.7	1.3	0.6	1.7		O	
240	489	剥片	A20	8	頁岩	2.5	0.9	1.0	1.6		O	
241	488	剥片	A20	8	頁岩	2.5	1.4	1.3	4.4		O	
242	505	剥片	A20	8	頁岩	6.5	4.1	2.1	38.4		O	
243	521	翼状剥片	A20	8	頁岩	(1.5)	(2.6)	0.65	(1.6)		O	基部欠損
244	500	剥片	A20	8	頁岩	2.9	1.6	0.6	1.5		O	
245	503	剥片	A20	8	頁岩	(4.35)	1.65	0.7	(2.4)		O	下部欠損
246	507	剥片	A20	8	頁岩	2.7	3.6	0.8	5.0		O	
247	412	ナイフ形石器	A20	8	頁岩	(2.7)	(1.1)	0.85	(1.5)	30	O	基部欠損
248	413	剥片	A20	8	頁岩	1.0	2.45	0.45	0.8	30	O	
249	424	剥片	A20	8	頁岩	3.5	2.0	0.65	4.2	31	O	
250	421	剥片	A20	8	頁岩	2.55	2.1	0.8	2.2	31	O	
251	415	剥片	A20	8	頁岩	(1.75)	1.7	0.35	(1.3)	31	O	基部欠損
252	416	剥片	A20	8	頁岩	3.1	2.7	1.15	4.1	31	O	
253	426	剥片	A20	8	頁岩	3.65	1.75	0.55	2.4	31	O	
254	423	剥片	A20	8	頁岩	4.65	3.2	1.2	11.1	31	O	
255	417	剥片	A20	8	頁岩	3.4	4.1	0.75	5.3	31	O	
256	425	剥片	A20	9	頁岩	3.3	1.1	0.6	1.4	31	O	
257	427	剥片	A20	8	頁岩	2.0	1.55	0.3	0.7	31	O	
258	418	剥片	A20	8	頁岩	2.0	4.85	0.95	6.7	31	O	
259	419	剥片	A20	8	頁岩	3.9	7.2	1.65	22.5	31	O	
260	420	剥片	A20	9	頁岩	2.75	5.75	1.2	13.8	31	O	
261	422	剥片	A20	5	頁岩	3.05	2.3	1.7	5.7	31	O	
262	410	剥片	A20	8	頁岩	(1.8)	(1.75)	1.05	(2.5)	32	O	基部欠損
263	409	剥片	A20	8	頁岩	2.8	3.9	1.3	10.2	32	O	
264	408	剥片	A20	8	頁岩	3.3	4.7	1.55	18.3	32	O	
265	395	砕片	A20	8	頁岩	(0.8)	(1.25)	0.2	(0.2)	33	O	基部欠損
266	394	剥片	A20	8	頁岩	2.1	5.05	1.1	6.4	33	O	
267	432	剥片	A20	8	頁岩	4.5	2.2	0.85	7.3	34	O	
268	433	剥片	A20	8	頁岩	3.35	2.4	0.8	4.6	34	O	
269	452	剥片	A20	8	頁岩	(1.75)	(3.7)	0.75	(3.9)	35	O	基部欠損
270	451	剥片	A20	8	頁岩	1.1	2.6	0.55	1.0	35	O	

（　　）の値は残存値を示す

第８表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑦

遺物 No.	整理 No.	器種	出土 グリット	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	接合資料 No.	母岩	備考
271	448	剥片	A20	9	頁岩	3.1	1.8	0.85	4.0	36	O	
272	449	剥片	A20	9	頁岩	1.3	1.4	0.35	0.6	36	O	
273	36	翼状剥片	A20	7	頁岩	2.25	4.1	0.9	5.0	37	O	
274	542	剥片	A20	8	頁岩	2.6	2.6	0.7	3.8	37	O	
275	541	剥片	A20	8	頁岩	2.7	2.1	0.7	4.0	37	O	
276	443	剥片	A20	8	頁岩	1.8	2.25	0.75	2.6	38	O	
277	436	砕片	A20	9	頁岩	1.35	1.3	0.4	0.6	38	O	
278	438	剥片	A20	9	頁岩	2.25	3.35	0.55	2.7	38	O	
279	437	砕片	A20	8	頁岩	1.4	1.45	0.3	0.4	38	O	
280	446	剥片	A20	8	頁岩	1.0	2.9	0.85	1.5	38	O	
281	439	剥片	A20	8	頁岩	1.35	2.0	0.45	1.0	38	O	
282	440	剥片	A20	8	頁岩	1.9	2.0	0.65	1.4	38	O	
283	435	砕片	A20	8	頁岩	(1.65)	(1.8)	0.8	(1.5)	38	O	基部欠損
284	441	剥片	A20	8	頁岩	(2.0)	(1.8)	0.4	(1.1)	38	O	基部欠損
285	445	剥片	A20	8	頁岩	1.85	3.25	0.75	2.5	38	O	
286	442	剥片	A20	8	頁岩	1.45	2.6	0.4	1.4	38	O	
287	444	剥片	A20	8	頁岩	1.55	3.5	1.0	2.7	38	O	
288	506	スクレイパー	A20	8	頁岩	9.45	4.7	2.4	61.7		P	
289	392	剥片	A20	8	頁岩	0.9	1.25	0.2	0.1	39	P	
290	391	剥片	A20	8	頁岩	2.15	3.95	0.7	4.0	39	P	
291	429	剥片	A20	8	頁岩	2.7	1.9	6.5	2.2	40	P	
292	430	剥片	A20	8	頁岩	2.35	1.6	0.5	1.6	40	P	
293	533	石核	A20	8	頁岩	3.0	5.0	2.35	27.1		E	
294	270	ナイフ形石器	A20	8	頁岩	3.8	1.1	0.9	2.46	41	E	
295	271	剥片	A20	8	頁岩	1.35	1.75	0.5	0.66	41	E	
296	262	剥片	A20	8	頁岩	2.0	2.1	0.8	4.15	42	E	
297	265	剥片	A20	8	頁岩	4.15	2.4	1.1	9.52	42	E	
298	259	剥片	A20	6	頁岩	3.93	3.8	0.75	7.49	42	E	
299	258	剥片	A20	6	頁岩	3.6	6.5	1.55	25.52	42	E	
300	264	剥片	A20	8	頁岩	3.65	3.35	1.85	11.1	42	E	
301	261	剥片	A20	8	頁岩	3.15	4.6	1.7	15.84	42	E	
302	263	剥片	A20	6	頁岩	2.45	3.7	2.25	7.49	42	E	
303	257	剥片	A20	8	頁岩	4.7	4.7	1.5	29.59	42	E	
304	260	剥片	A20	8	頁岩	5.0	3.9	1.35	13.91	42	E	
305	274	剥片	A20	8	頁岩	2.15	2.7	1.0	2.98	43	E	
306	276	砕片	A20	6	頁岩	2.05	2.6	0.7	0.53	43	E	
307	275	剥片	A20	8	頁岩	2.05	2.6	0.7	2.11	43	E	
308	273	石核	A20	8	頁岩	1.85	5.7	3.95	31.63	43	E	
309	267	剥片	A20	8	頁岩	3.65	3.45	1.25	12.31	44	E	
310	268	剥片	A20	6	頁岩	1.7	1.5	0.85	1.2	44	E	
311	455	剥片	A20	8	頁岩	(2.35)	(2.5)	0.9	(2.9)	45	I	基部欠損
312	463	剥片	A20	8	頁岩	2.95	1.7	1.3	5.0	45	I	
313	461	剥片	A20	9	頁岩	3.3	2.8	1.5	10.6	45	I	
314	462	剥片	A20	8	頁岩	4.25	3.55	1.7	22.5	45	I	
315	457	剥片	A20	8	頁岩	1.3	0.85	3.5	0.2	45	I	

（　　）の値は残存値を示す

第９表　旧石器時代遺物包含層出土石器計測分類表⑧

遺物No.	整理No.	器種	出土グリット	層位	石材	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合資料No.	母岩	備考
316	454	石核	A20	8	頁岩	4.7	3.8	4.95	44.7	45	I	
317	456	剥片	A20	8	頁岩	3.0	5.35	1.4	15.3	45	I	
318	460	剥片	A20	8	頁岩	2.85	5.2	1.0	10.8	45	I	
319	459	剥片	A20	8	頁岩	(3.45)	2.25	0.9	(4.5)	45	I	基部欠損
320	458	剥片	A20	8	頁岩	(2.0)	(1.7)	0.35	(1.3)	45	I	基部欠損
321	286	剥片	A20	6	頁岩	2.25	1.8	0.6	1.42	46	I	
322	285	剥片	A20	8	頁岩	4.3	2.2	1.0	6.58	46	I	
323	284	剥片	A20	8	頁岩	1.8	5.4	3.65	29.96	46	I	
324	279	剥片	A20	8	頁岩	2.3	4.25	1.2	7.87	47	H	
325	280	剥片	A20	8	頁岩	0.95	1.4	0.4	0.39	47	H	
326	281	剥片	A20	7	頁岩	2.05	1.8	0.85	2.08	47	H	
327	282	剥片	A20	8	頁岩	2.65	2.65	1.3	5.0	47	H	
328	278	石核	A20	8	頁岩	2.85	7.25	5.5	91.02	47	H	
329	487	石核	A20	8	砂岩	3.5	7.8	5.2	92.5	48	F	
330	486	剥片	A20	8	砂岩	4.9	7.5	2.8	66.6	48	F	
331	502	ナイフ形石器	A20	8	ホルンフェルス	(2.8)	(1.6)	0.8	(1.7)		R	先端･基部欠損
332	495	ナイフ形石器	A20	8	ホルンフェルス	(3.1)	(1.9)	1.0	(2.7)		R	刃縁・先端部欠損
333	501	類翼状剥片	A20	7	ホルンフェルス	(3.0)	(4.1)	(0.6)	(2.7)		R	
334	496	剥片	A20	8	ホルンフェルス	1.8	3.2	0.6	1.5		R	
335	538	剥片	A20	8	ホルンフェルス	3.5	3.2	1.1	6.8	49	R	
336	537	剥片	A20	8	ホルンフェルス	2.8	3.7	0.8	4.9	49	R	
337	25	ナイフ形石器	A20	8	流紋岩	3.5	1.2	0.8	2.6			
338	517	敲石	A20	8	砂岩	6.1	4.5	4.3	135.6			
339	539	スクレイパー	A20	7	流紋岩	5.15	4.0	1.8	22.3		Q	
340	544	石核	A20	8	流紋岩	2.3	3.25	3.5	19.3		Q	
341	498	剥片	A20	8	流紋岩	2.1	2.4	0.55	1.5		Q	
342	497	剥片	A20	8	流紋岩	1.8	3.3	0.85	3.4		Q	
343	504	剥片	A21	7	頁岩	5.15	3.0	1.35	16.2		P	
344	534	剥片	SR4	8	頁岩	2.15	4.9	1.2	9.5			
345	499	石錐	A20	7	流紋岩	(5.0)	(3.3)	1.8	(17.5)			基部欠損
346	519	剥片	A21	8	砂岩	4.15	5.6	1.6	36.7			
347	510	敲石	A23	8	砂岩	7.0	6.3	3.1	151.0			
348	516	敲石	A20	8	砂岩	14.0	5.6	3.6	375.7			
349	484	剥片	A21	7	頁岩	2.65	2.35	0.45	2.1	50	V	
350	483	剥片	A21	7	頁岩	2.95	3.25	0.85	7.9	50	V	
351	482	剥片	A21	7	頁岩	2.15	1.75	0.7	2.5	50	V	
352	481	砕片	A21	8	頁岩	(1.5)	1.1	0.4	(0.5)	50	V	基部欠損
353	535	剥片	A21	7	頁岩	4.1	5.0	1.1	11.6	51	K	

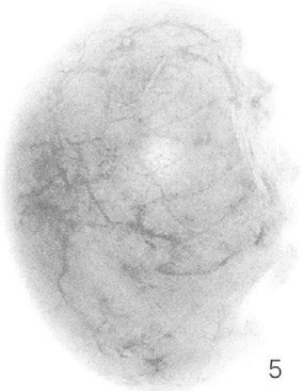
（　　）の値は残存値を示す

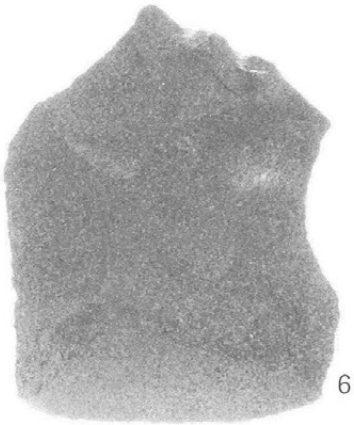
SR-1

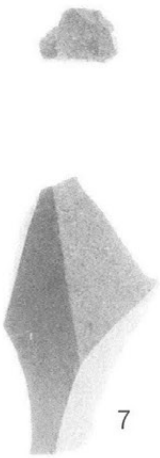
SR-3

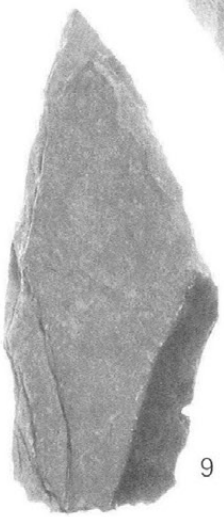
SR-4

写真図版２　旧石器時代礫群









写真図版３　旧石器時代遺物包含層出土石器①

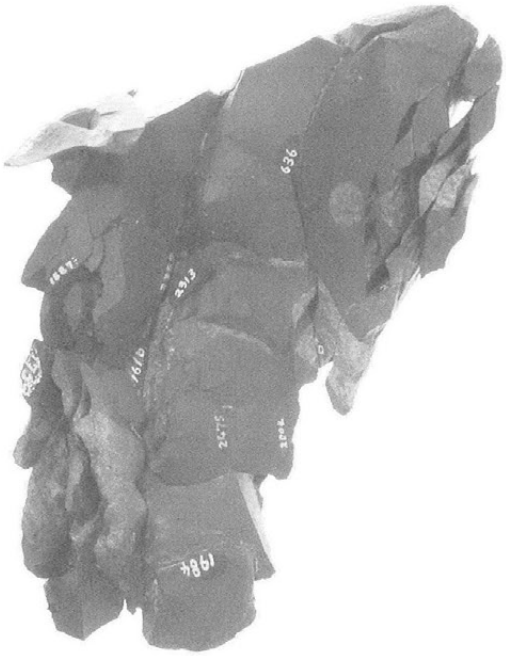
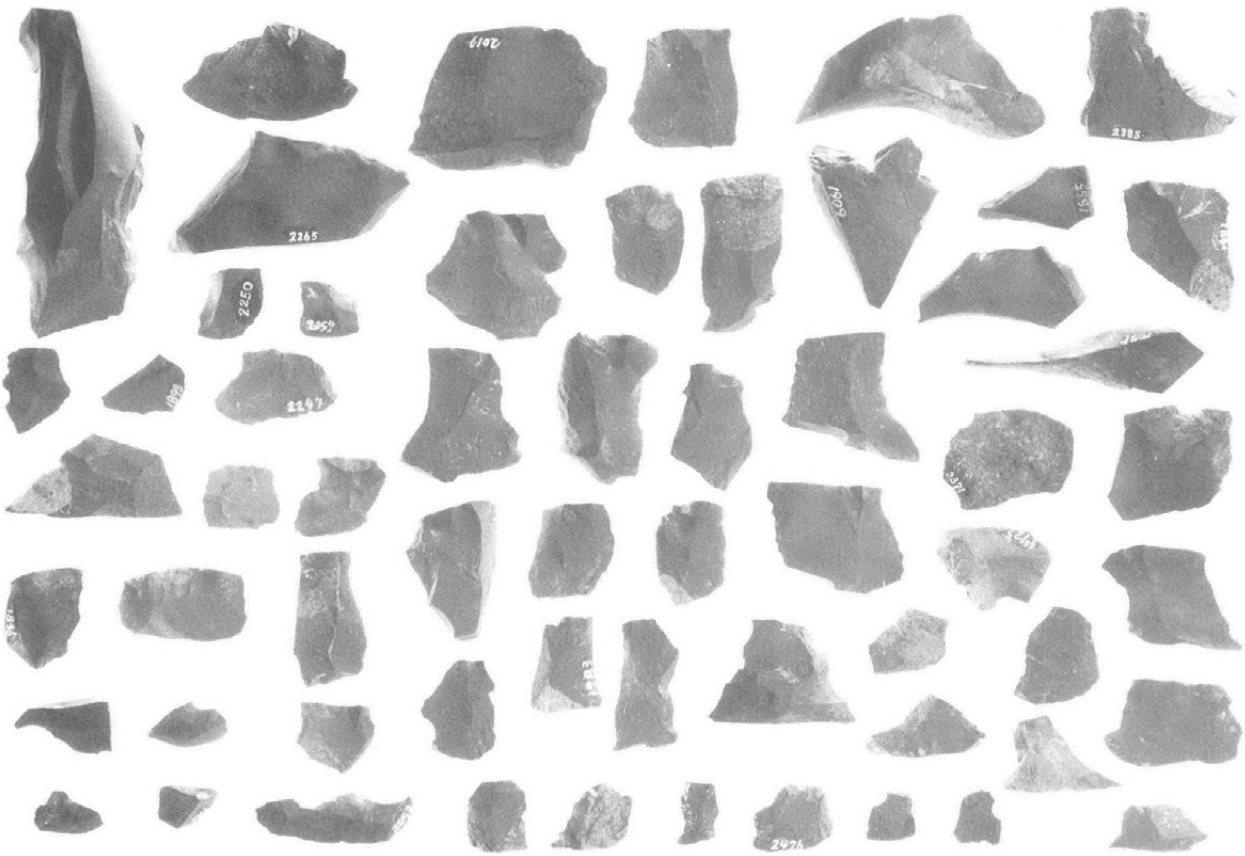


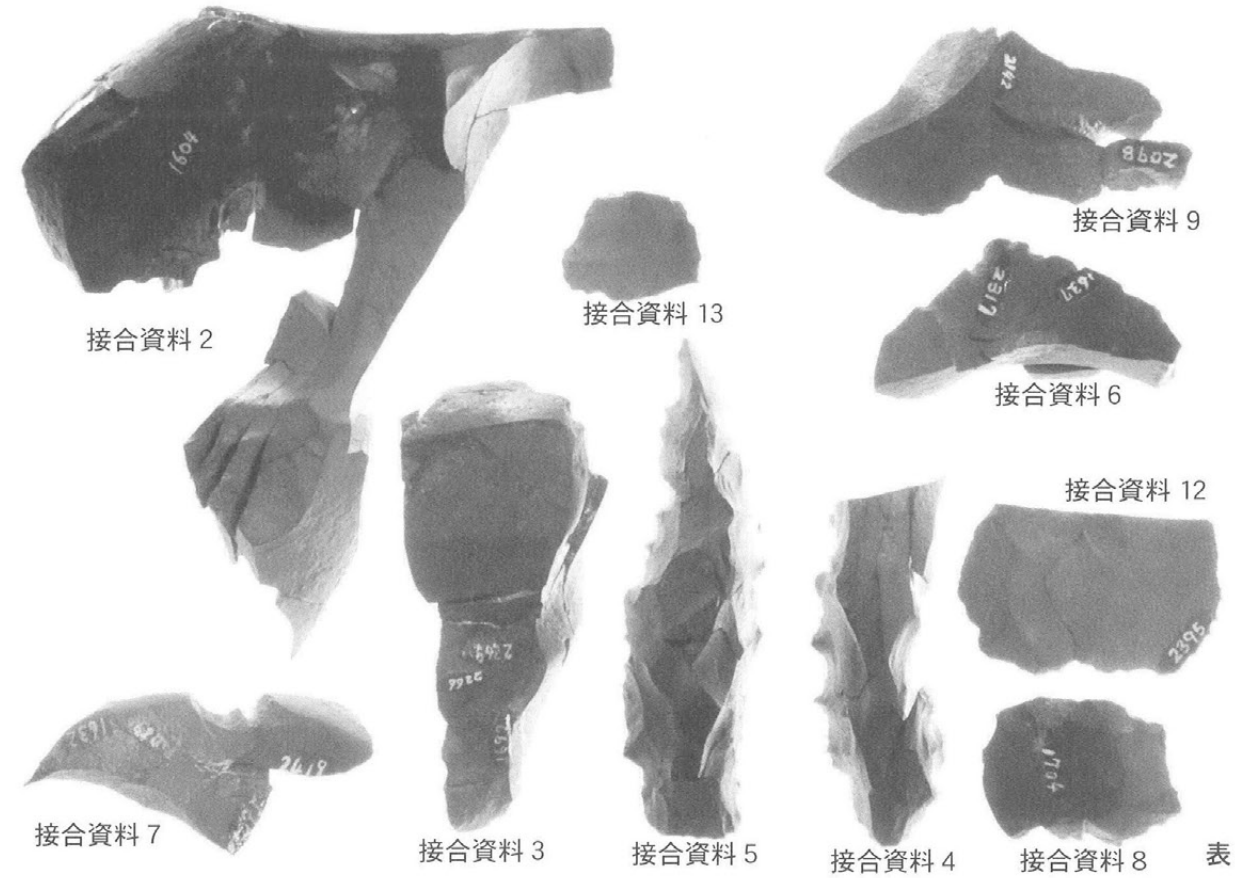
表　　裏

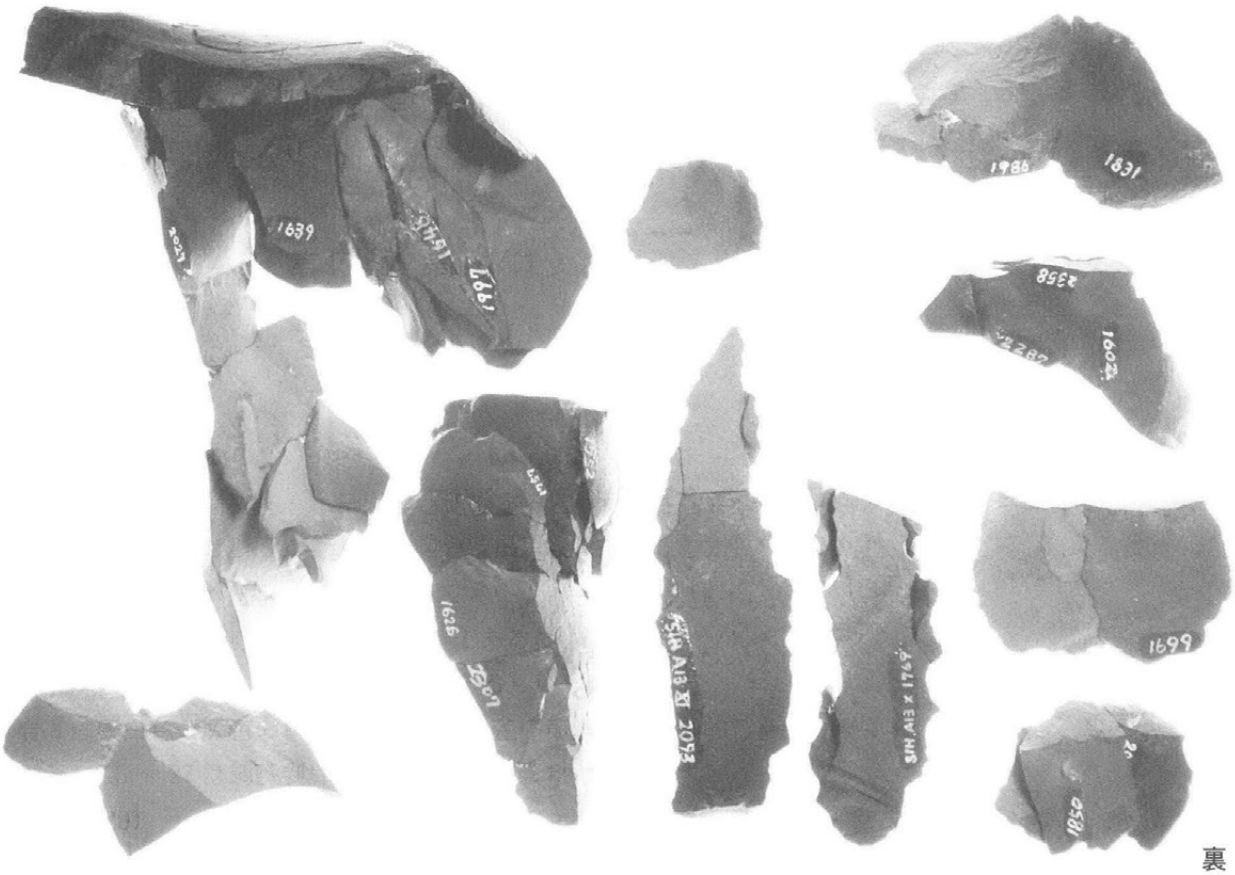
接合資料 1



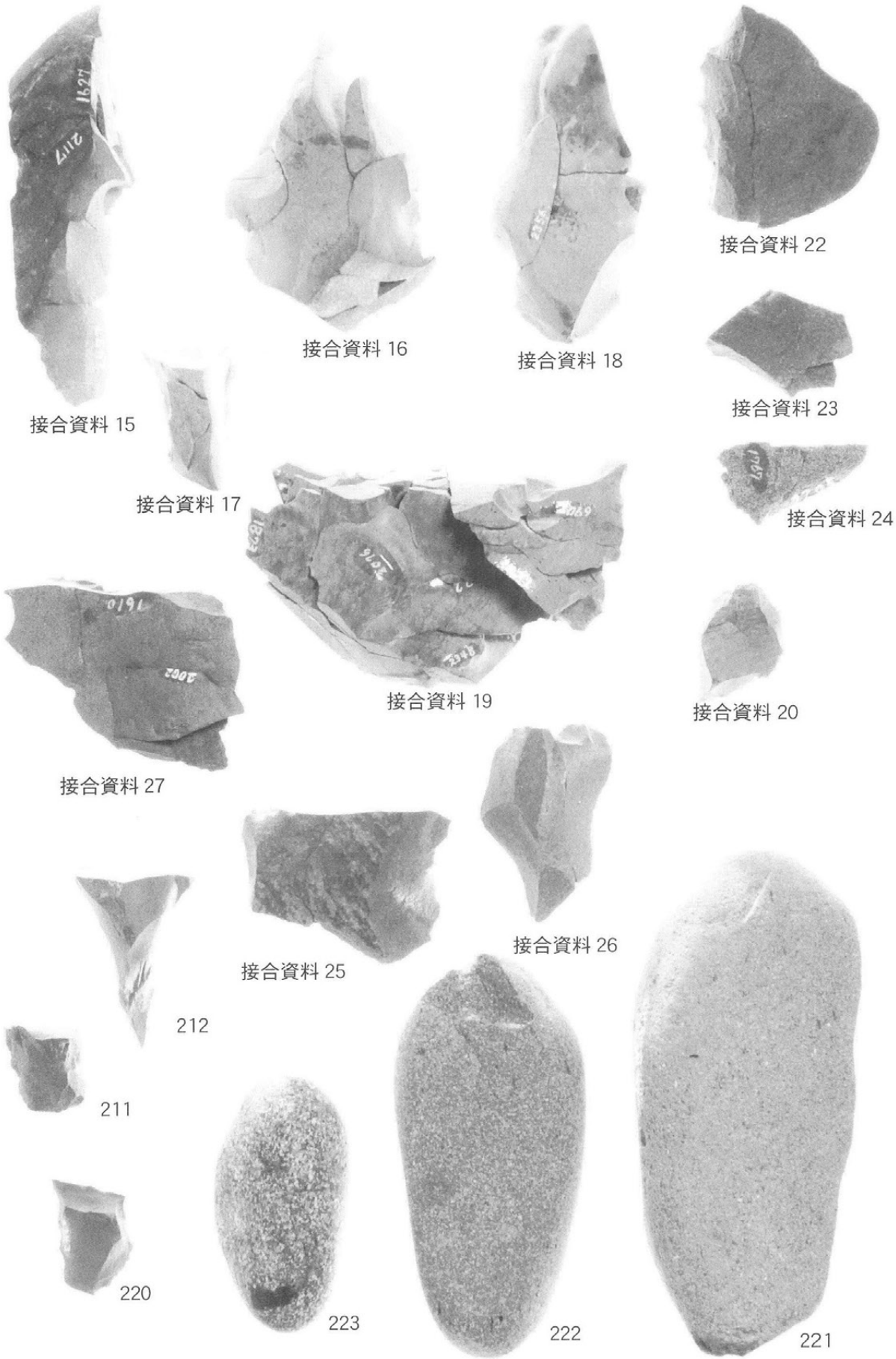
接合資料 1　構成資料

写真図版 4　旧石器時代遺物包含層出土石器②

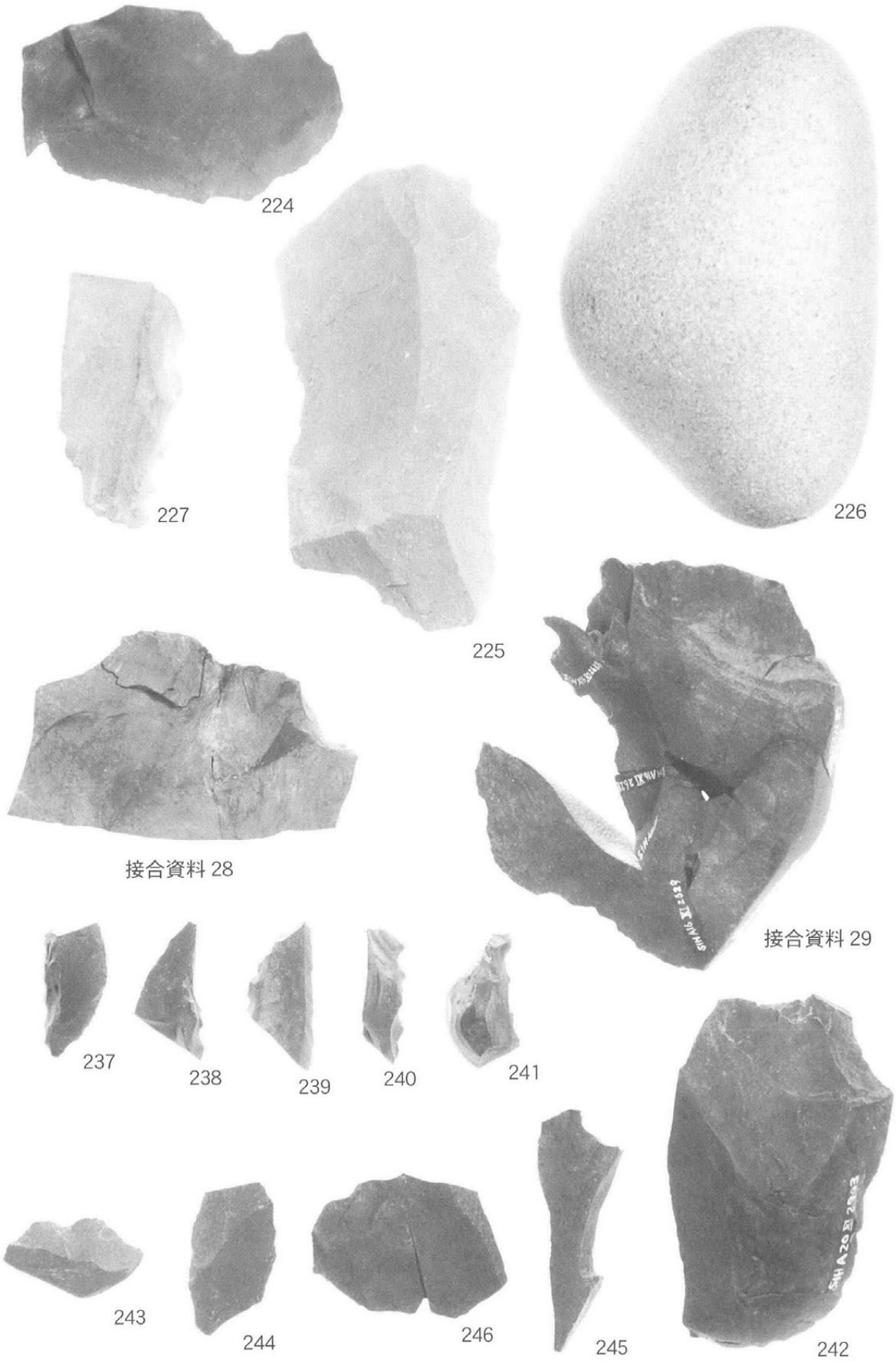




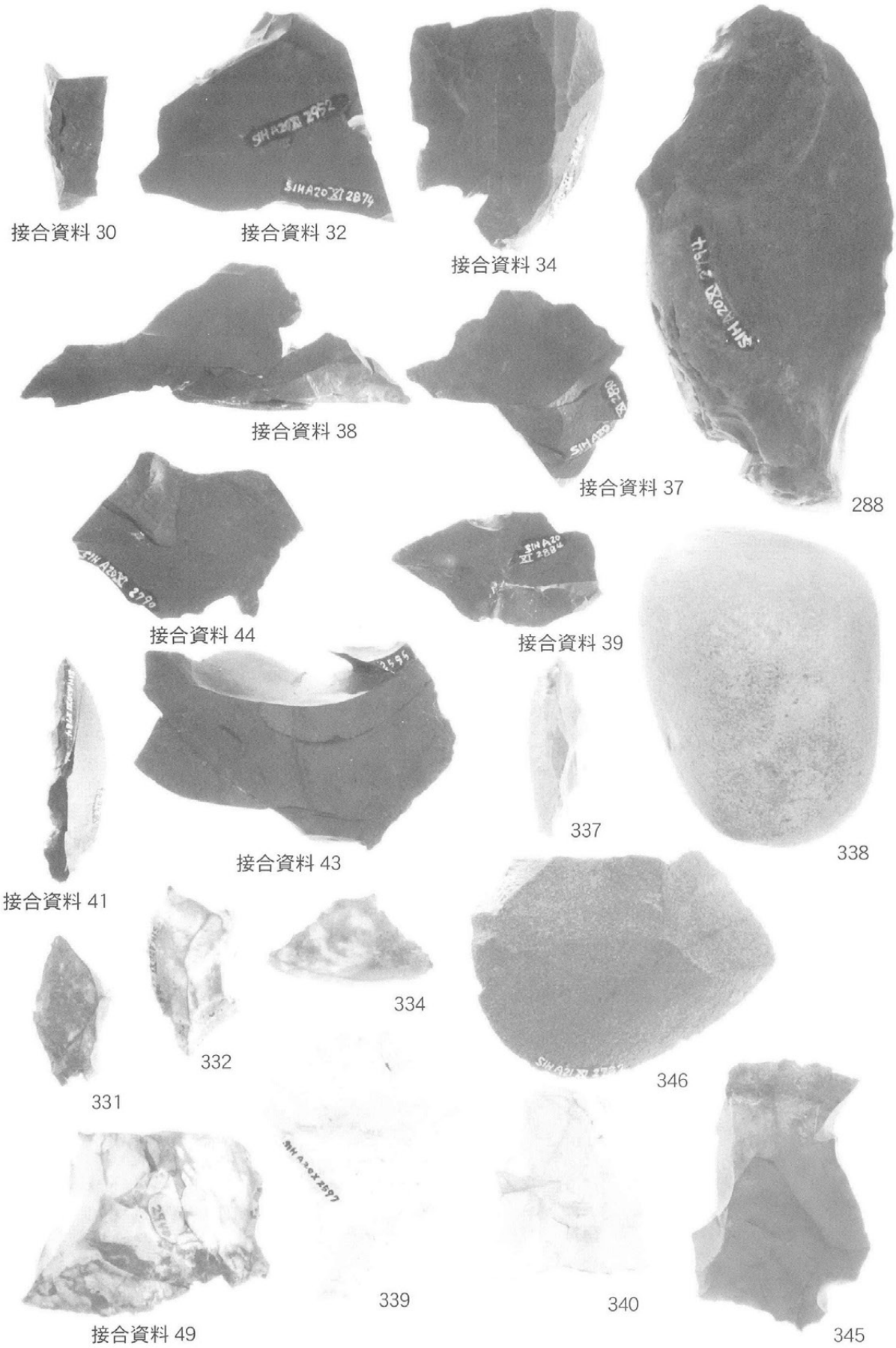
写真図版 5　旧石器時代遺物包含層出土石器③



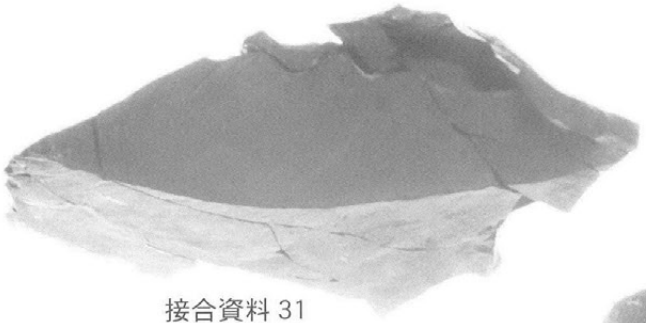
写真図版 6　旧石器時代遺物包含層出土石器④



写真図版 7　旧石器時代遺物包含層出土石器⑤



写真図版 8　旧石器時代遺物包含層出土石器⑥



接合資料 31

接合資料 42

接合資料 45

接合資料 47

接合資料 48

接合資料 46

写真図版 9　旧石器時代遺物包含層出土石器⑦

第３章　縄文時代早期の調査

アカホヤ火山灰層下位の３～５層上部にかけて検出された遺構は焼礫約6600点と共に集石遺構21基、陥し穴状遺構１基、焼土を伴う土坑７基、土坑６基である。また同じ層から遺物としては（土器・石器・石製品など）約2000点出土している。

第１節　遺構について

１．集石遺構と土坑

集石遺構は調査区の西側にて主に検出された。大きく掘り込みを持つ集石遺構と掘り込みを持たない集石遺構とに分類される。以下にその調査方法を提示するが、集石遺構によっては、調査方法の全工程を経ていないものもある。

掘り込みを持つ集石遺構の調査方法

掘り込みを持つ集石遺構は３層～５層を掘り下げる段階で、焼礫が特に集中する箇所を精査することにより掘り込みのプランを検出されるか、または円形の黒色土のプランが検出されることにより発見される。総数で16基検出された。

集石遺構の掘り込みが明確に検出された段階で土層観察用のあぜを設定し、掘り込み内の埋土を除去し、礫の検出を行う。礫の検出が終了した後、写真撮影を行い礫の実測に取り掛かる。断面見通し図を作成しない部分の礫を実測しながら除去していき、土層観察用のあぜの写真撮影を行う。その後集石遺構の掘り込みの土層の実測を行う。土層の記録終了後、土層観察用のあぜを除去し、断面見通し図にかかる礫を検出し、掘り込み内での礫の詰まり方が把握できるような写真撮影を行う。撮影後、礫の断面見通し図を作成しながら礫を除去していく。礫の実測が全て終了したら掘り込み内の埋土を除去し、掘り込みを完掘する。掘り込みの写真撮影及び平断面見通し図を作成し、トータルステーションで掘り込みの遺跡内の位置を記録して調査終了となる。

なお、掘り込み内の礫や埋土を除去する途中で炭化物が出土した集石遺構については放射性炭素年代測定法をおこなっており、その結果については附編で報告を行う。

掘り込みを持たない集石遺構の調査方法

掘り込みを持たない集石遺構は３層～５層を掘り下げる段階で、焼礫が集中するがその周囲を精査しても掘り込みのプランを確認できなかったものである。総数で５基検出された。

焼礫が分布する範囲の礫を検出し、写真撮影をおこなった後、礫の平断面見通し図を作成し、礫の実測終了後礫の実測基準点をトータルステーションで記録を取る。最後に礫の実測基準点に沿って掘り込み確認のためのトレンチを設定して、それを掘り下げて土層断面を観察して掘り込みがないことを確認して調査終了となる。

各個別の集石遺構の規模（礫の数や重量、掘り込みの規模）等については第10表を参照していただきたい。以下に特徴的な集石遺構について報告をおこなう。

SI-7は掘り込みを10cm程掘り下げたところで礫の集中が見られ、その下に底石と考えられる破砕している扁平な砂岩礫がまばらに置かれていた。本遺跡で唯一底石の検出された集石遺構である。

SI-8は礫を実測しながら除去していく途中で大量の炭化材が検出された。炭化材の中には木の実がついている枝も見つかったため、樹種同定をおこなったが、特定はできなかった。

SI-14とSI-19は切り合い関係にあった。SI-14の掘り込みの埋土を除去している途中で一部地山が確認できない場所があり、その部分にトレンチを入れた結果立ち上がりが確認され、SI-19が検出されるにいたった。SI-19からは礫が37点と少量であったため、集石遺構ではない可能性も考えられる。

SI-13とSI-25は切り合い関係にあり、さらに５基の土坑とも切りあっていた。SI-13とSI-25は当初１基の集石遺構と考えて調査をおこなっていたが、礫の検出の途中で２基の集石遺構であることが判明した。本遺構の南側にはいくつかの黒褐色土のプランが検出されており、それらを集石遺構であると想定して調査をおこなったが、ほとんど礫は検出されなかったので今回は土坑として報告しておく。これらの土坑は全て不整円形のプラン

第 10 表　集石遺構計測表

番号	検出層	^{14}C 年代（年 BP）	使用礫				掘込み				底石の有無	備考
			礫分布範囲〈長軸×短軸〉(m)	総礫数（個）	総重量（kg）	礫一個あたりの重量(kg)	有無	断面形状	直径(m)	深さ(m)		
SI-1	4層中位		1.20×1.05	83	6.0	0.07	無				無	
SI-2	4層上位	7790±50	3.80×2.10	260	22.0	0.08	有	皿状	1.45	0.15	無	
SI-3	4層下位	7740±40	1.15×0.45	21			有	皿状	1.55	0.15	無	
SI-4	4層中～下位		5.40×4.85	139	10.0	0.07	無				無	
SI-5	4層上位		5.55×5.00	706	41.0	0.06	無				無	
SI-6	4層中位		3.80×3.30	122	8.5	0.07	無				無	
SI-7	5 層上位		1.20×0.90	125	23.7	0.19	有	皿状	1.35	0.10	有	
SI-8	4層中位	8870±50	1.10×0.75	707	38.0	0.05	有	ボウル状	1.30	0.40	無	
SI-9	4層中位		0.80×0.75	121	17.0	0.14	有	ボウル状	0.95	0.35	無	
SI-10	4層中位	9800±50	0.90×0.60	50	9.5	0.19	有	ボウル状	0.85	0.25	無	
SI-11	4層中位	8800±50	0.60×0.35	25	8.0	0.32	有	ボウル状	1.00	0.35	無	
SI-13	4層上位	8900±50	1.60×1.40	719	47.5	0.07	有	皿状	1.60	0.30	無	SI-25 と切り合い
SI-14	4層上位	7780±40	1.85×1.10	956	21.2	0.02	有	皿状	1.85	0.20	無	SI-19 と切り合い
SI-19	4層上位		0.95×0.95	37	4.5	0.12	有	皿状	1.05	0.25	無	SI-14 と切り合い
SI-20	4層上位	9210±50	0.85×0.80	164	38.1	0.23	有	ボウル状	0.95	0.30	無	
SI-21	5層上位		0.65×0.63	64			有	皿状	0.75	0.15	無	
SI-22	5層上位		1.35×1.25	76			有	皿状	1.30	0.10	無	
SI-23	4層上位	8680±40	1.40×1.30	144	17.8	0.12	有	皿状	1.10	0.20	無	
SI-24	4層上位	8970±40	1.80×1.60	352	26.8	0.08	有	皿状	1.95	0.30	無	
SI-25	4層上位		1.25×0.70				有	皿状	1.30	0.20	無	SI-13 と切り合い
SI-27	5層上位		2.10×1.75	196	56.0	0.29	無				無	

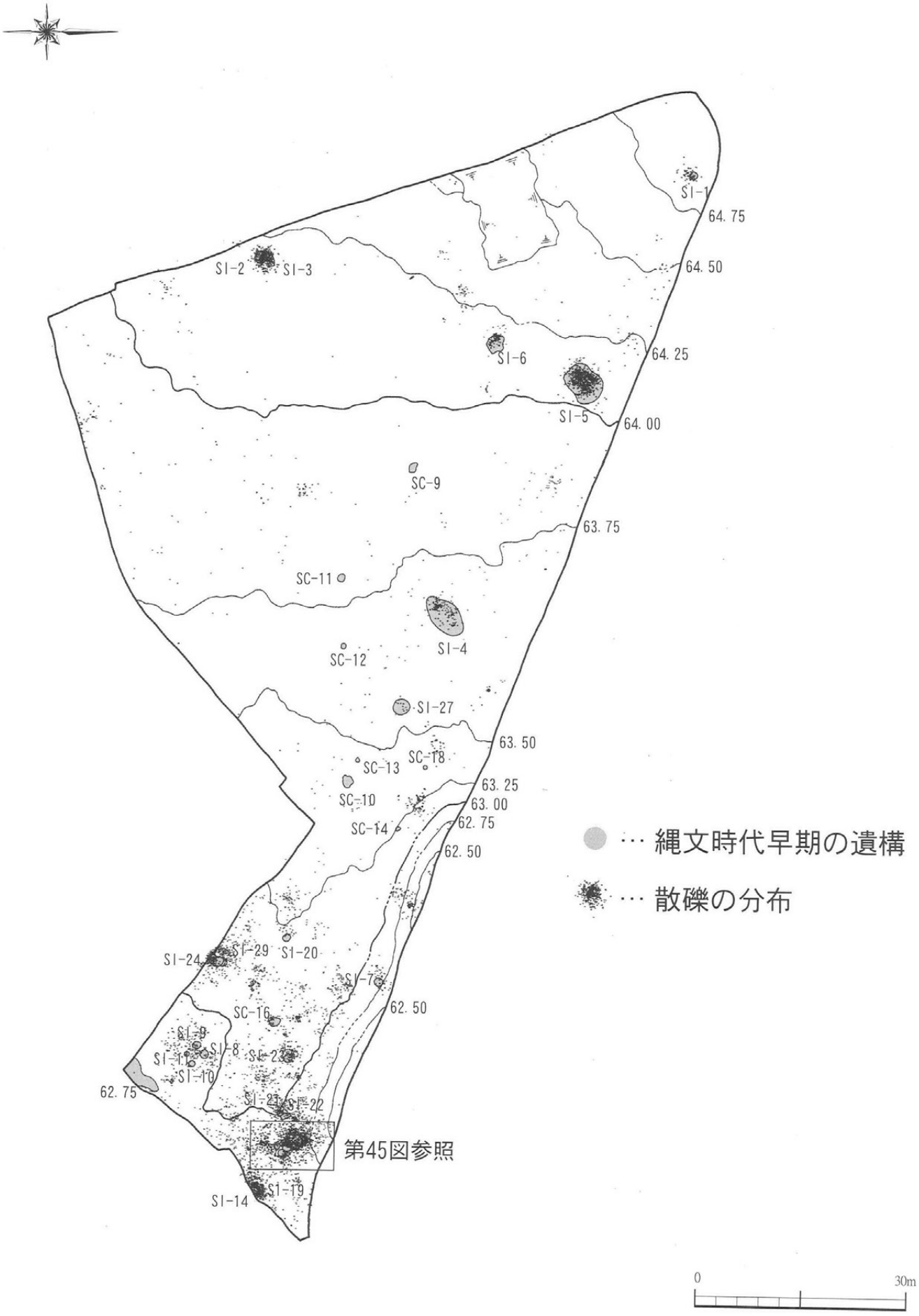
を呈しており、断面形状は皿状となっている。埋土状況は自然堆積であった。

SI-27 はまず 5 層上位で大きな礫が円形に検出され、さらに掘り下げを進めるとそれらの中心付近に拳大の礫が集中して検出された。検出された礫は平らな状況であり、土層確認からも掘り込みは確認されなかった。

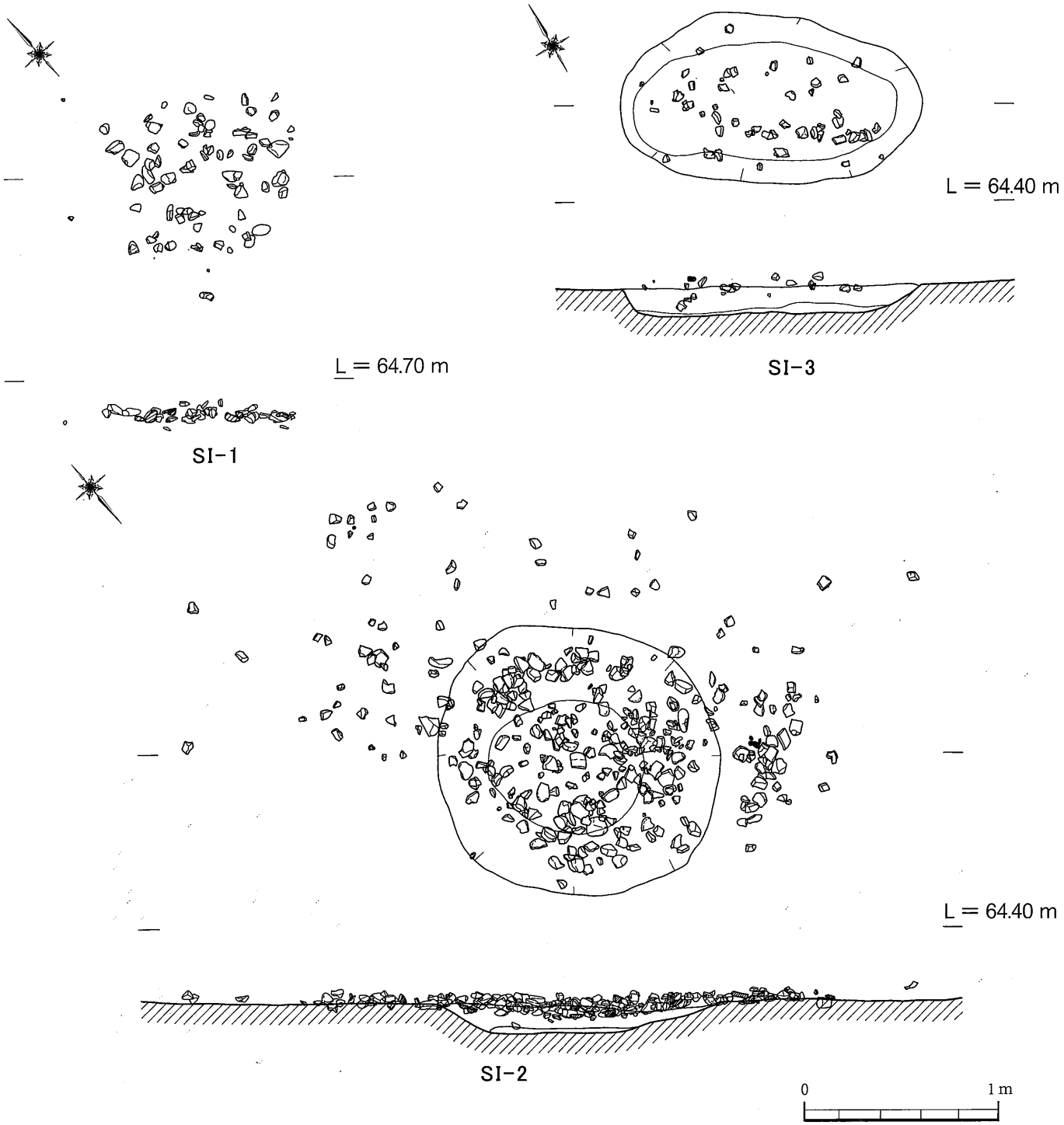
集石遺構内の出土遺物としては SI-5 から風化が著しくて不明瞭であるが胎土・色調から推測するとおそらく撚糸文の塞ノ神式土器片、SI-14 からは撚糸文の塞ノ神式土器片（第 46 図）と壺形土器片、SI-17 からは撚糸文の塞ノ神式土器片、SI-19 からは壺形土器片が出土している

2．陥し穴状遺構

陥し穴状遺構（SC-16）は 1 基だけ調査区の東側で検出されている。5 層を掘り下げている途中で平面プランが確認された。検出された場所が土層観察用のあぜの位置であり、そのあぜの土層を観察すると 4 層中から掘り込まれている遺構であると考えられる。検出面での規模は 1.6m × 0.98m の楕円形プランを呈し、深さは 0.94m



第 40 図　縄文時代早期遺構配置図（S ＝ 1/750）



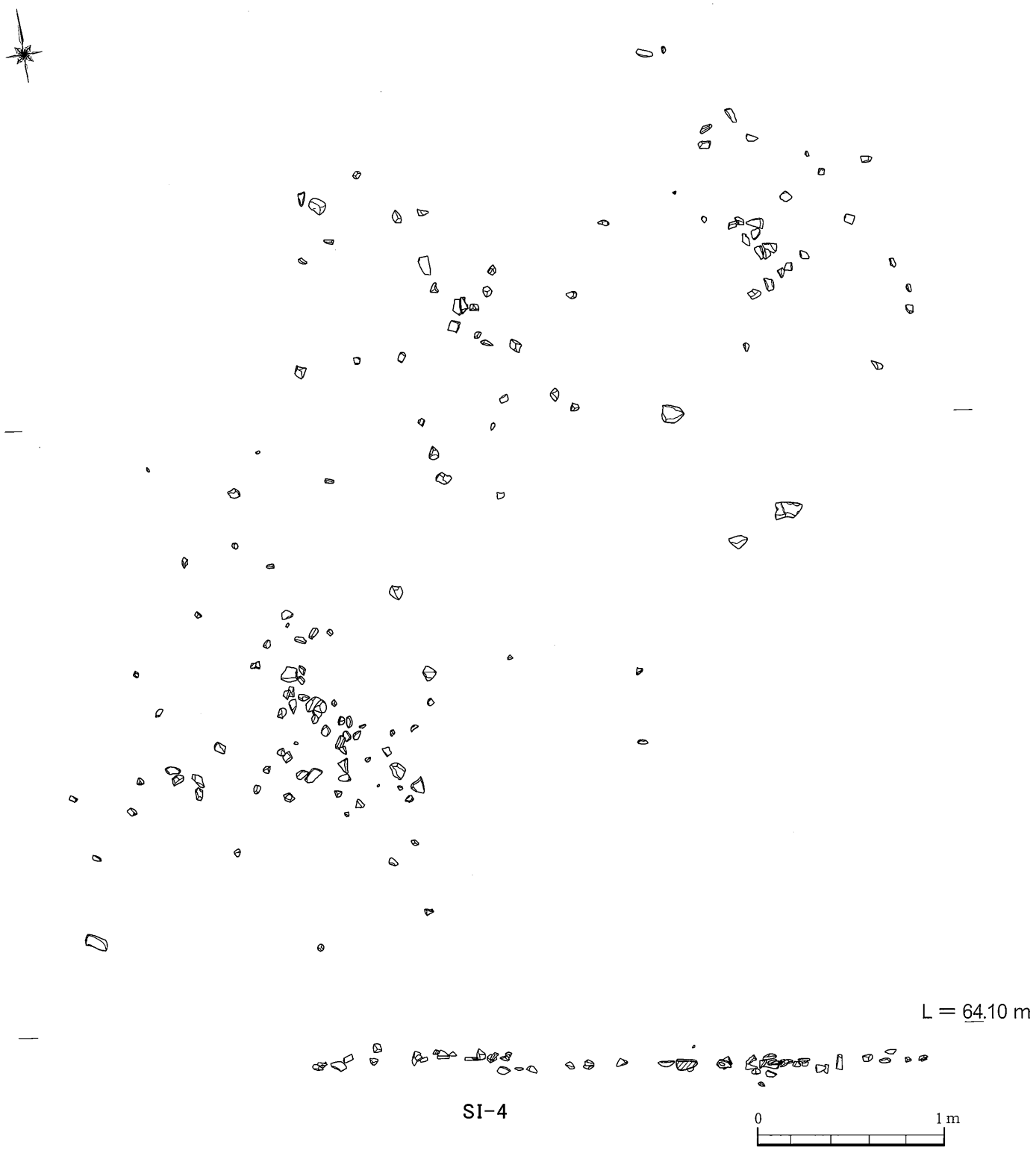
第 41 図　集石遺構実測図①（S = 1/30）

を測る。土層観察からの実際の深さを推定すると約 1.1m はありそうである。床面には逆茂木の痕跡と考えられる小穴が 4 基検出された。

3．焼土を伴う土坑

埋土や床面に焼土が検出された土坑である。これらの遺構の埋土中には炭化物も含まれていた。7 基検出されている本調査区において検出された焼土を伴う土坑は、いわゆる炉穴のように長楕円形のプランでブリッジの痕跡が見られるような遺構ではなく、平面形が不整形な惰円形や円形を呈する浅い掘り込みの遺構である。これらの土坑の埋土を観察すると下部よりも上部のほうに焼土も炭化物も多く混入していた点や地山と埋土の境目が不明瞭で床面に焼土が検出されるといった点が共通している。以下に個別に報告を行う。

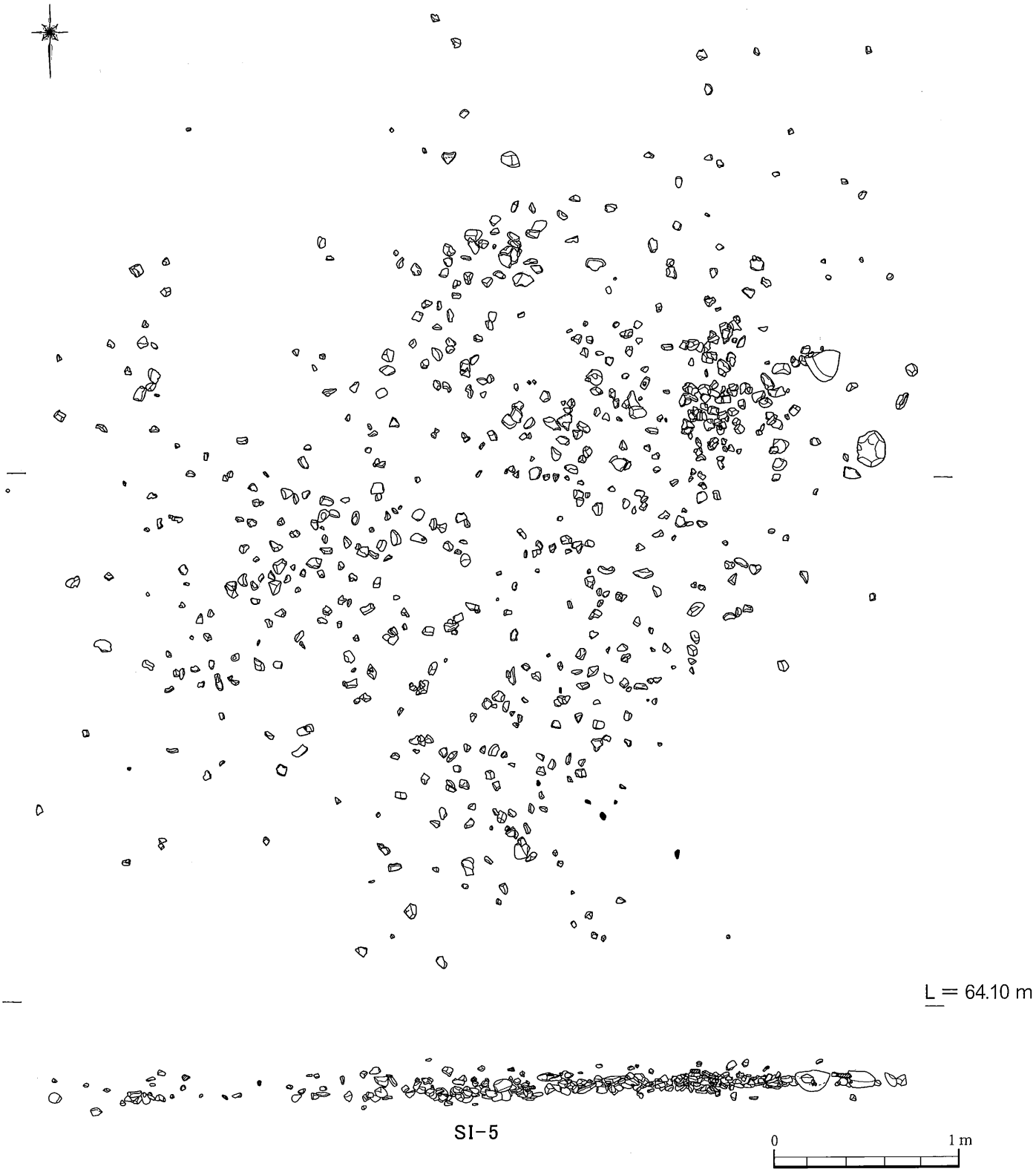
SC-9 は今回報告する焼土を伴う土坑の中で最初に検出された遺構である。4 層の上部にて焼土が分布する箇



第42図　集石遺構実測図②（S＝1/30）

所が検出され、その付近に黒褐色土が見られた。この段階で焼土と黒褐色土が本遺構の埋土だと考えたが平面プランが不明瞭であったため、検出写真撮影後このプランの長軸に対してトレンチを設定して部分的な掘り下げを行った。設定したトレンチによって埋土状況を観察したところ立ち上がりが確認されたため、遺構として認識することとなった。検出面での規模は、1.59m × 1.01m の不整長楕円形プランを呈し、深さは 0.14m を測る。床面の中央付近に焼土が検出された。

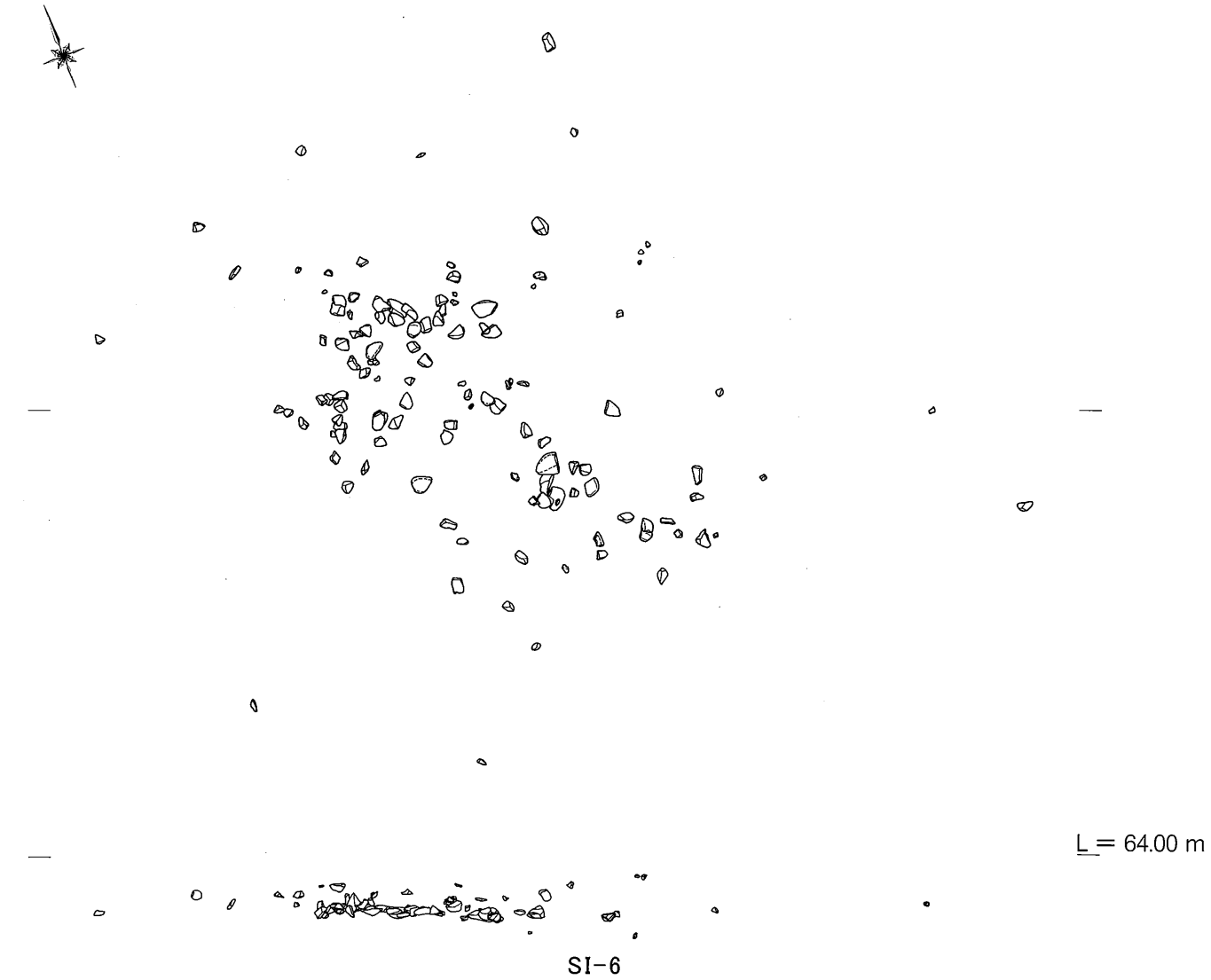
SC-10 は 4 層上部にて多くの炭化物が分布する箇所が検出され、その付近に黒褐色土が見られた。この段階ではプランが不明瞭であったので、掘り下げを進めたが 6 層の下部で焼土が検出されたので、再度精査を行った。



第43図　集石遺構実測図③（S＝1/30）

精査の結果、不整形な楕円形プランが検出されたので、その一部にトレンチを設定し部分的な掘り下げを行った。設定したトレンチで遺構の埋土状況を観察したところ、立ち上がりが確認されたので遺構として認識することとなった。検出面での規模は、1.85m×1.4mの不整楕円形を呈し、深さは0.31mを測る。床面の北側の一部に焼土が検出された。

SC-11は4層の中部にて焼土・炭化物粒の分布する箇所を検出した。この段階では平面プランが確認できなかったが、掘り下げを進めたところ5層の下部で焼土と炭化物が混じる不整円形プランが確認できたので遺構として認識し、掘り下げを行うこととなった。検出面での規模は直径1.05m×1.01mの不整円形プランで深さは0.2m



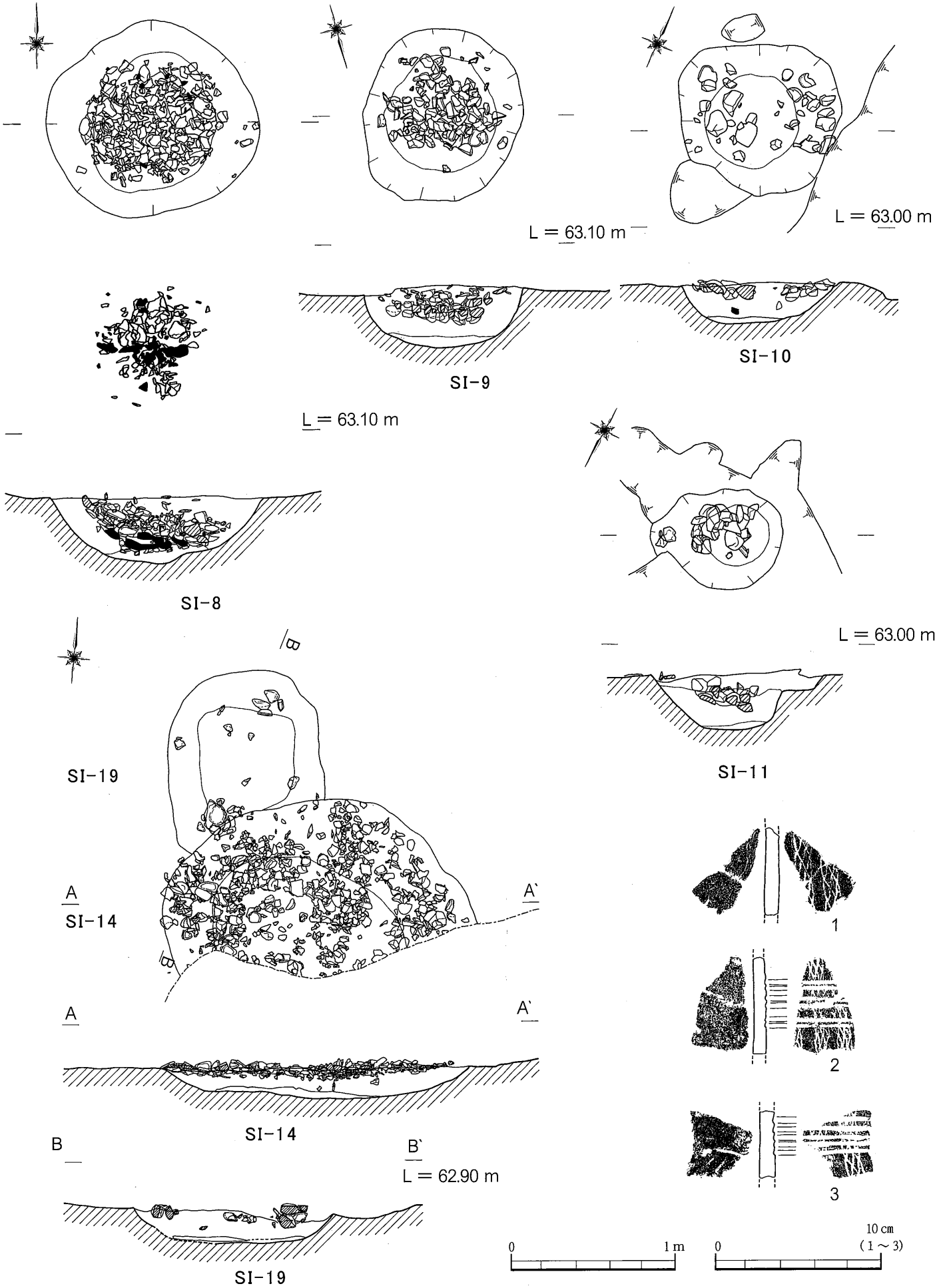
を測る。床面の半分以上に焼土が検出された。

SC-12は4層の中部にて炭化物粒の集中する箇所を検出した。この段階では平面プランが確認できなかったが、掘り下げを進めたところ5層の下部で焼土と炭化物が混じる不整円形プランが確認できたので遺構として認識し、掘り下げを行うこととなった。検出面での規模は0.75m×0.65mの不整円形のプランで、深さは0.13mを測る。床面の全面に焼土が検出された。

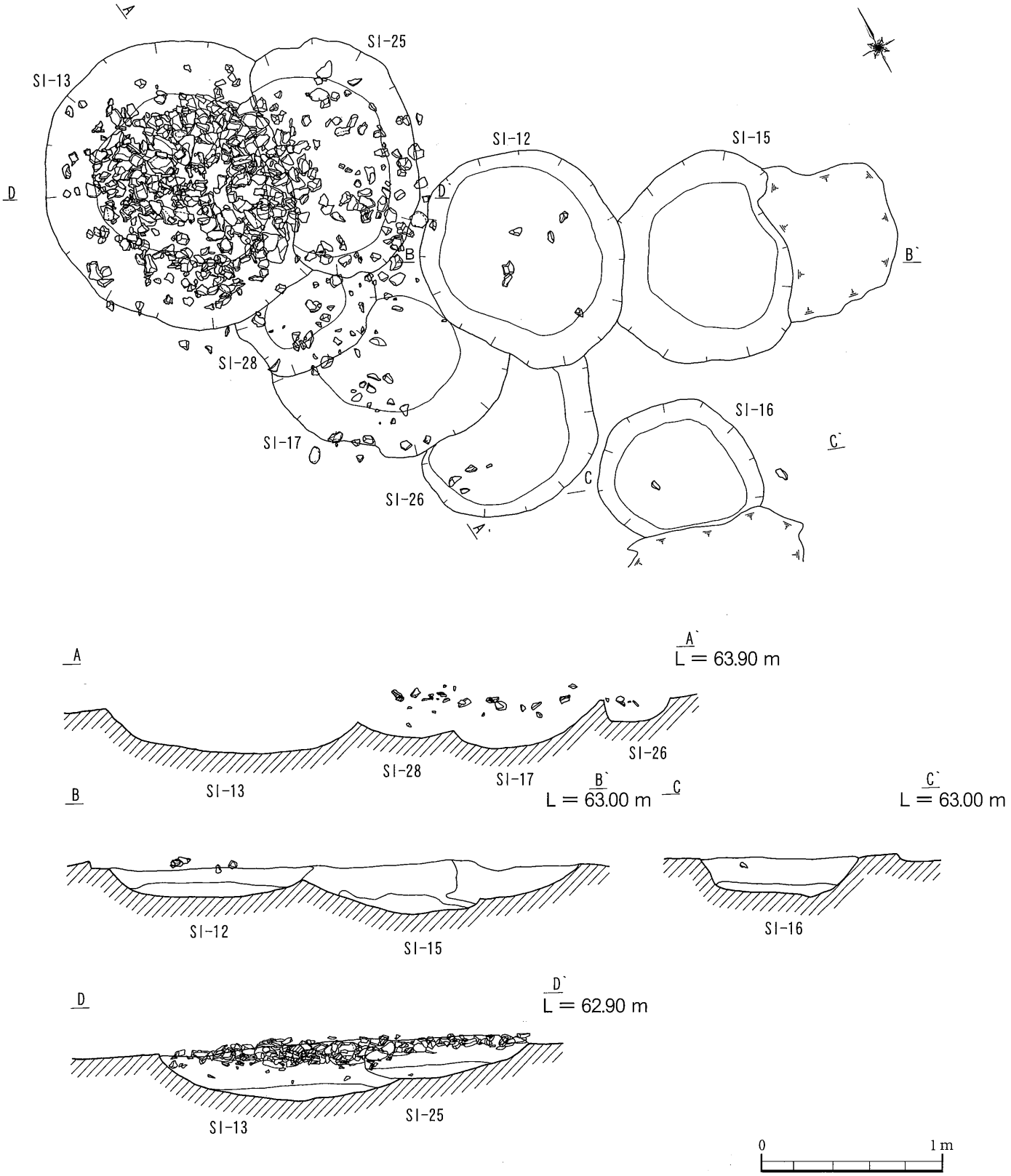
SC-13は8層上部にて焼土の集中する不整円形プランを検出した。検出面での規模は0.5m×0.42mの不整円形プランで、深さは0.1mを測る。床面の全面に焼土が付着していた。

SC-14は5層上部にて不整惰円形の焼土のプランを検出

第44図　集石遺構実測図④（S＝1/30）



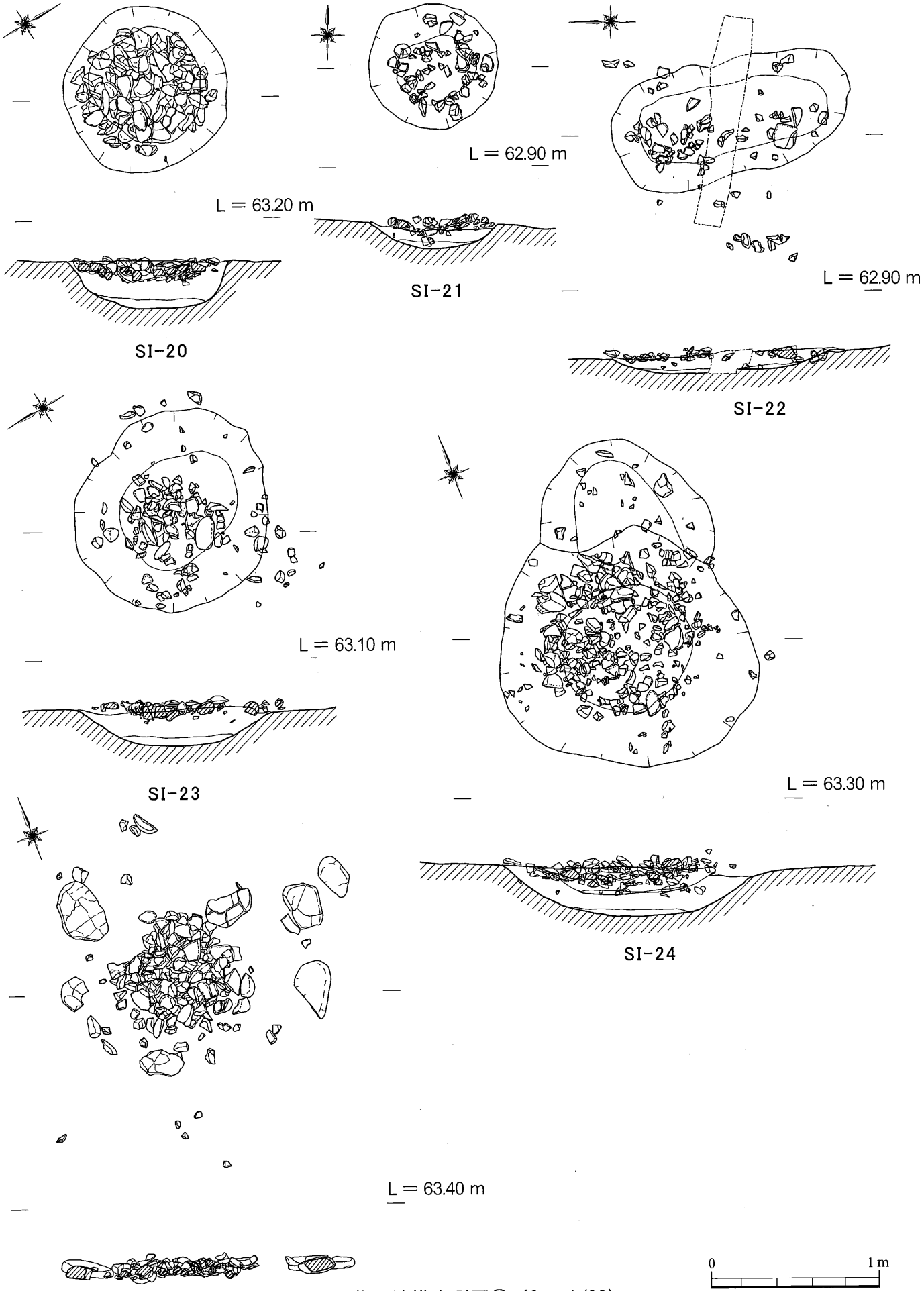
第 45 図　集石遺構実測図⑤（S = 1/30）及び出土遺物実測図（S = 1/3）



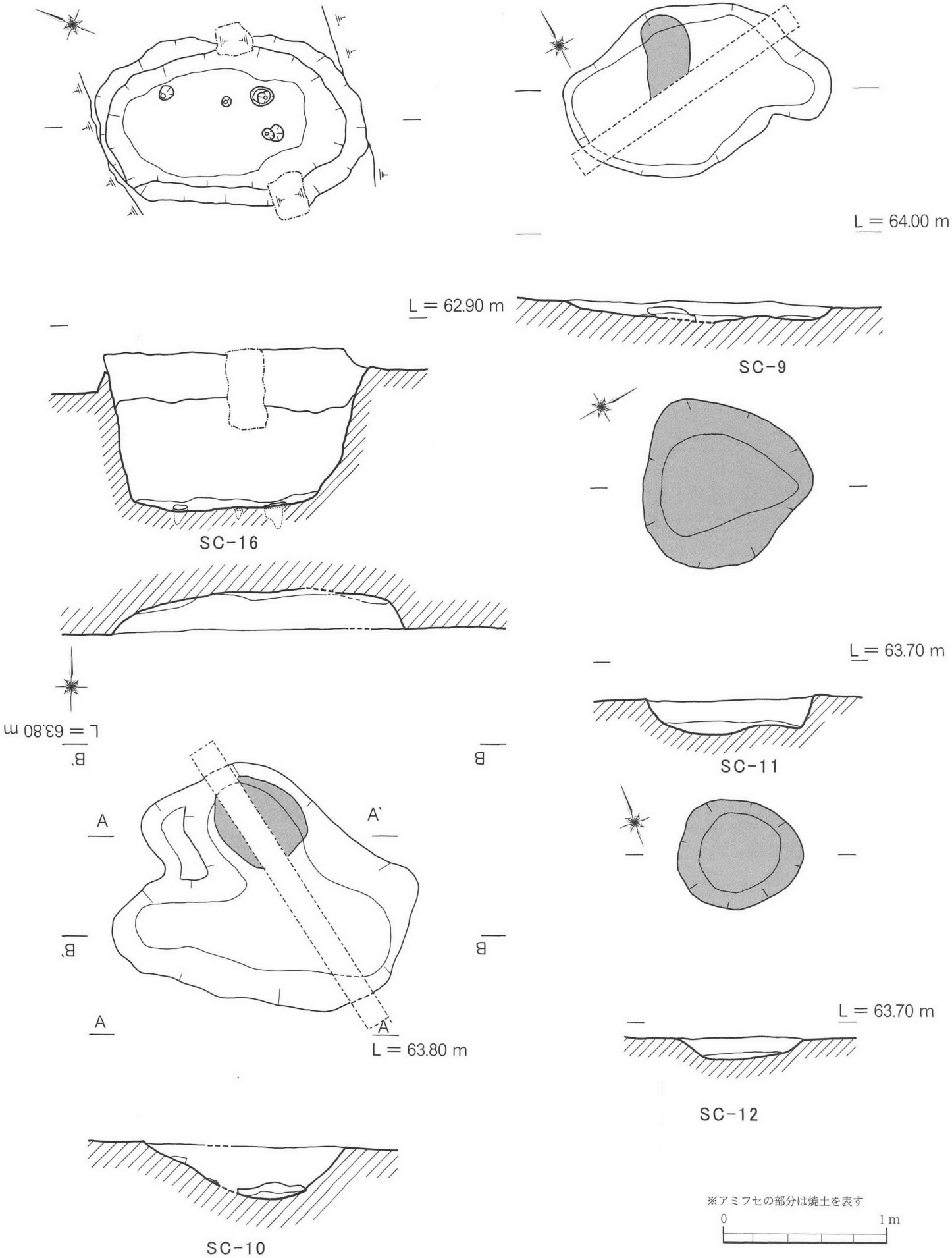
第46図　集石遺構実測図⑥（S＝1/30）

したが、4層中から炭化物や焼土粒が本遺構の周辺から出土していたので掘り込み面は4層中からの可能性が考えられる。検出面での規模は0.58m×0.44mの不整楕円形を呈し、深さは0.09mを測る。床面の全面に焼土が検出された。

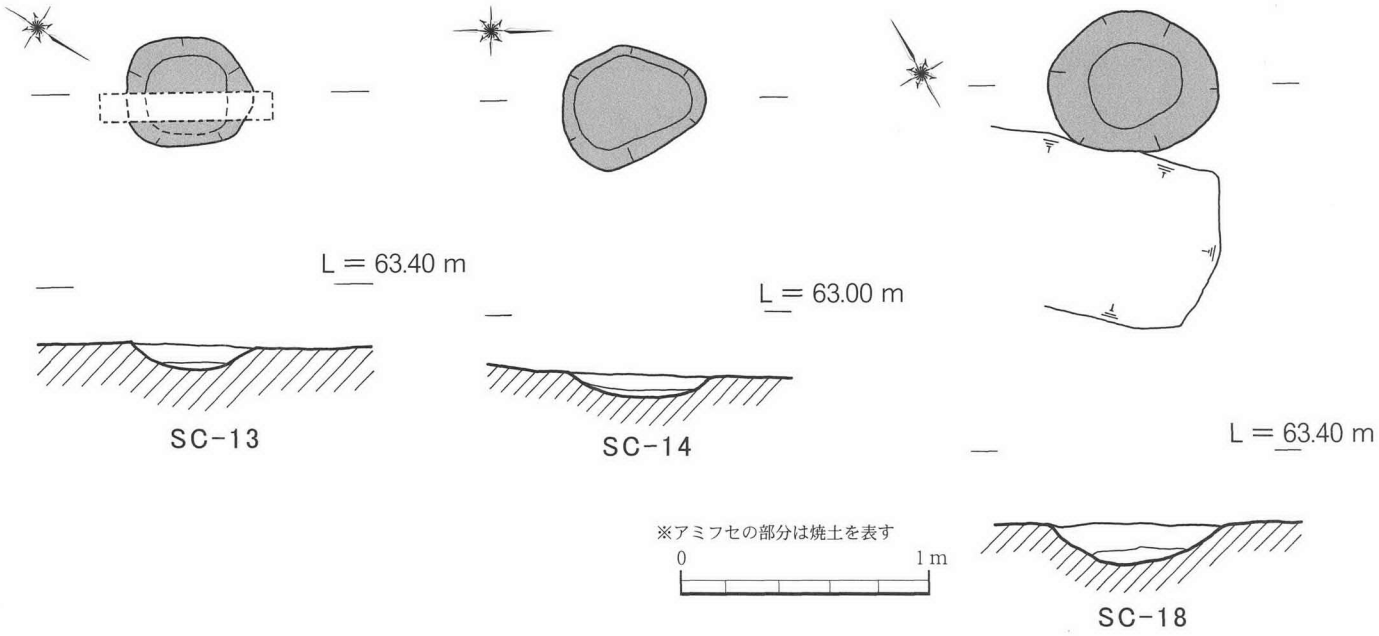
SC-18は4層中部にて不整円形に焼土が広がるプランを確認した。南側の一部が撹乱を受けているが、検出面での現況の規模は0.67m×0.55mの不整楕円形プランを呈し、深さは0.15mを測る。床面の全面に焼土が検出された。



第 47 図　集石遺構実測図⑦（S = 1/30）



第 48 図　土坑実測図①（S = 1/30）



第 49 図　土坑実測図②（S＝1/30）

第２節　包含層出土遺物について

１．縄文土器

縄文早期の遺物包含層からは撚糸文・貝殻文などを施文する塞ノ神式土器、別府原式土器、押型文土器、下剥峰式土器、縄文を施文する土器が出土した。包含層から出土した土器片 1632 点の土器片のうち一番多く出土したのは撚糸文を施文する塞ノ神式土器で全体の約 83.8 パーセントを占める。

本遺跡の遺物包含層から出土した土器は調査区全体に広がっているような傾向はなく、調査区の随所において同じ土器型式の土器片が密集するような形で出土するといういわば土器集中域といったような特異な出土状況を呈している。さらにその各土器の集中域内で接合する資料ばかりであり、1 個体または多くても数個体の土器の破片が集まっているものと考えられる。よって本調査区の土器の個体数を考えると決して多くの土器が出土した遺跡ではないと思われる。

分布図上で分類不可とされている土器（106 点）については風化が著しく分類できなかった資料のことであるが、胎土や色調を観察すると撚糸文を施文する塞ノ神式土器と共通点が多く、分布状況も大半が重なることから、不明となっている土器のほとんどが撚糸文を施文する塞ノ神式土器が風化したものと考えられるだろう。

以下に各土器の様相ごとに報告を行う。

塞ノ神式土器（撚糸文：4 ～ 37）

口縁部が「く」の字に屈曲しラッパ状に開く、平底の底部を持つ土器で、外面には沈線文や撚糸文を施す。内面はナデ調整である。6・8・9・14・15 は波状口縁をなす。出土点数は 1368 点だが、風化が著しいため個体数の把握はできなかった。21・29・33・35・37 撚糸文が雑につけられており、同一個体の可能性がある。

塞ノ神式土器（貝殻文・工具による刺突文を施すもの：38 ～ 42）

形態的特長は撚糸文を施す塞ノ神式と同様であるが、外面に貝殻文や工具による刺突文を施すもの。出土点数は 25 点だが、個体数としては 5 個体である。39 は口縁部片で貝殻文を施している。その他の資料は工具による刺突文が施されている。

塞ノ神式土器（上記以外のもの：43・44）

43 は沈線により文様帯を区画してその中に縄文を施文するもので、出土点数は報告する 1 点だけである。

44 は頸部の破片で突帯を巡らせ、その上に刻みを施すもので、出土点数は報告する 1 点だけである。

壺形土器（塞ノ神式：45・49）

出土点数は81点だが、個体数としてはおそらく2個体の出土である。45は口縁部片で49は胴部片である。いずれも無文である。

別府原式土器（46・47）

外面に斜位の浅い条痕文を施すもので、内面はナデ調整である。出土点数は4点で、個体数も同数である。

押型文土器（48・51）

外面に山形文を施すものである。出土点数は3点で、個体数は報告する2個体である。51は風化が著しく、文様も不明瞭になっている。

下剥峰式土器（50）

外面に貝殻腹縁刺突文を施すもので、内面はナデ調整である。報告する1点だけの出土である。

縄文を施文する土器（52・53）

外面に縄文を施文するもので、内面はナデ調整で、凹凸が見られる点が特徴的である。出土点数は43点だが、個体数はおそらく1個体と考えられ、報告する2点も同一個体である。

2．石器・石製品

縄文時代早期の遺物包含層中より総数213点の石器が出土した。その分布状況は全ての石器の出土状況を見ると調査区東側に集中する傾向があるが、主要な器種について注目すると調査区全体にまばらに広がっていることがわかる。

ここではその中で製品類を中心に報告を行う。なお石器の整理作業に当たっては従来使用されている器種についての分類基準を設定し、器種分類を行った。器種分類については本遺跡の報告のために行った作業であり、他の遺跡と共通するものではない。

石鏃（54～103）

剥片を素材として、両面調整や半両面調整によって鋭い尖端部を作り出し、平面形がおおむね三角形や五角形を想定させるもの。平面の形状や加工状況などにより以下の10類に細分することができた。総数では分類不可能な欠損品を含め、50点出土しており、今回はその全て図化をしている。全体的としては3類に分類している鍬形鏃が最も多い。

・1類（54～58）： 脚部の抉りが浅いかまたは抉らないもので、平面形が正三角形か二等辺三角形を呈し、その規模が1.5cm四方に収まるもの。桑ノ木津留産黒曜石の使用が目立つ。57は断面がやや分厚い印象を受ける。総数で5点、全体の10%を占める。

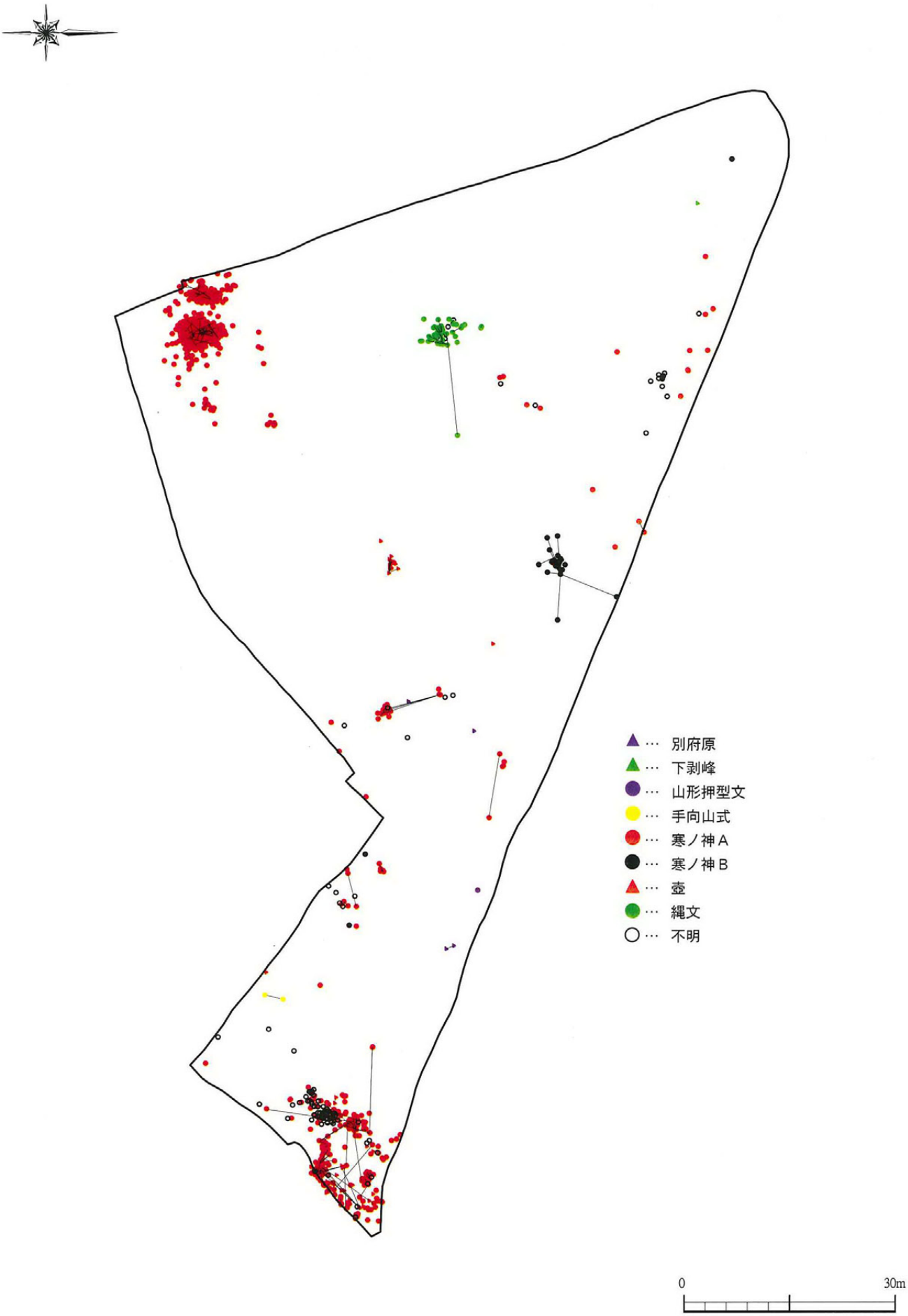
・2類（59～61）： 脚部の抉りは浅くその先端は尖っており、先端部に屈曲が見られ、平面形が不整形な五角形を呈するもの。刃縁が鋸歯状を呈するのも特徴である。総数で3点、全体の6%を占める。

・3類（62～70）： 脚部に深い抉りがあり、その先端部が四角形か丸くなっているもの。いわゆる鍬形鏃に該当する。チャートの使用が著しい。総数で9点、全体の18%を占める。

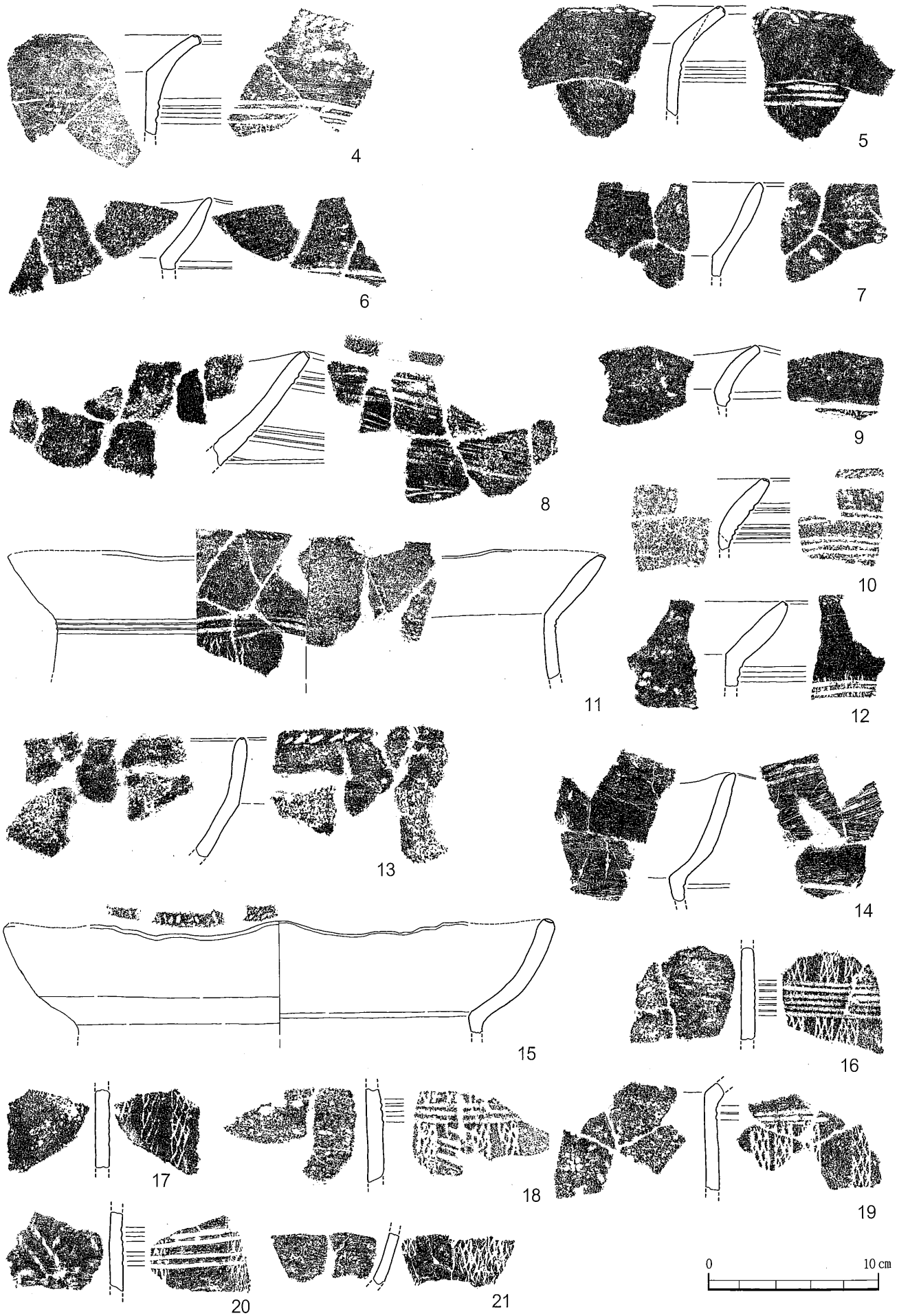
・4類（71～75）： 平面形を整える片面又は両面の加工が周縁部にとどまっているために、素材剥片の形状を大きく残すもの。安山岩の使用が目立つ。71は欠損しているため判別が難しいが石錐の可能性も考えられる。総数で5点、全体の10%を占める。

・5類（76～78）： 刃縁が鋸歯状を呈し、脚部の抉りは深く、脚部付近で張り出しているもの。脚部の先端部は尖っている。姫島産黒曜石・西北九州産黒曜石が使用されている。76は先端部から脚部にいたる刃縁の一部にも角状の突出部が見られる。総数で3点、全体の6%を占める。

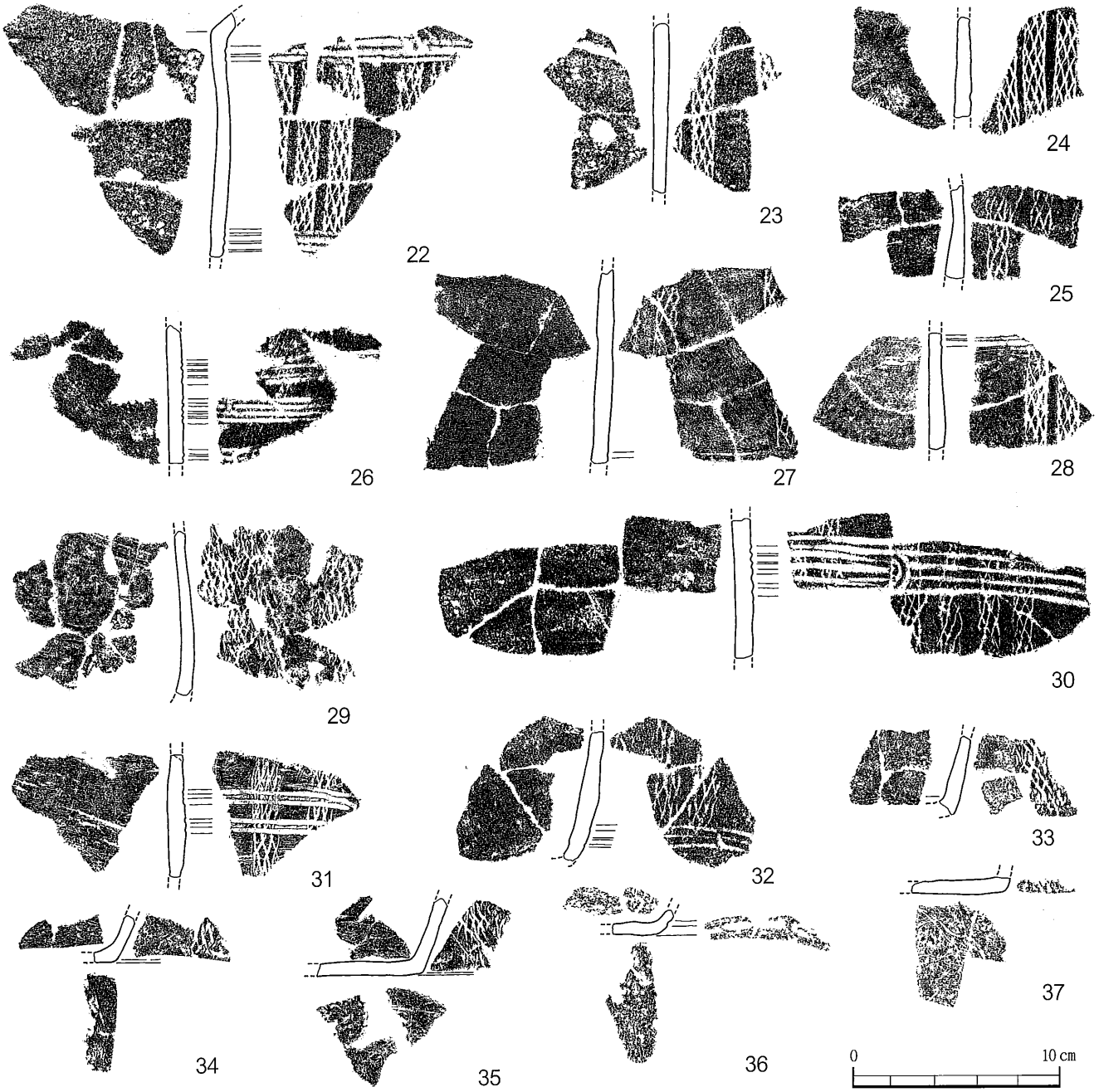
・6類（79）： 体部は直線的に作られており、脚部にて最大幅を持ち、最大幅と最大長の比率が概ね1：2になるもの。断面系が分厚い印象を受けるのも特徴であり、尖端部付近の破片ならば石錐と判断される可能性がある。安山岩が使用されており、総数1点、全体の2%を占める。



第 50 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器分布図（S ＝ 1/750）



第 51 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図①（S ＝ 1/3）



第 52 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図②（S ＝ 1/3）

・7 類（80 ～ 82）：表面に擦痕が観察され、研磨により仕上げられているもの。局部磨製のものも含め、磨製石鏃に分類される。使用石材は頁岩が使用される。全体を押圧剥離により調整した後に、体部中央付近を中心に研磨を施している。80・81 は尖端部付近に屈曲が見られる。82 は石斧に用いられることがある珪質頁岩を使用している。総数で 3 点、全体の 6%を占める。

・8 類（83 ～ 87）：1 ～ 7 類までの分類に当てはまらない脚部の抉りがないものや浅いものをまとめた。総数で 5 点、全体の 10%を占める。

・9 類（88 ～ 99）：1 ～ 7 類までの分類に当てはまらない脚部の抉りが深いものをまとめた。総数で 12 点、全体の 24%を占める。

・10 類（100 ～ 103）：分類することが不可能なほど欠損部位の範囲が大きいものをまとめた。総数で 4 点、全体の 8%を占める。

第 53 図　縄文時代早期遺物包含層出土土器実測図③（S ＝ 1/3）

槍先形尖頭器（104・105）

剥片を素材として両面調整により尖端部を作り出すもので、平面形が柳葉形を想定させるものを分類した。104はホルンフェルス製で、全体的に風化が進んでおり、一部稜線が不明瞭になっている。なお本資料の風化面は粉を吹いたような特徴が見られ、ガジリ面は黒色を呈していることから小丸川流域で得られるホルンフェルスの可能性が考えられる。ほぼ左右対称の平面形であり、基部は丸く整えられている側面形態は体部中央付近で最大厚を呈する。105は磨製の尖頭器の未製品と判断される資料である。尖頭部などを作り出しておらず、表面に研磨の痕跡が著しく確認されたため、一見磨製石斧の調整剥片と考えられた。しかし、裏面にも研磨の痕跡があり、残存している規模や平面形態を検討して未製品と判断にいたった。

石匙（106）

剥片を素材として、一部に両側からの調整によりつまみ部分を作り出して、その他の部分に刃部加工を作り出すものを分類した。106の1点だけである。チャート製で表面の左側は尖っている。つまみ部分及び体部についても素材剥片の形状を大きく残す。

異形石器（107・108）

剥片を素材とする石器の中で、定型的な石器と異なる形状をしたもの。107は黒色のチャート製で表面を観察すると部分的に光沢が確認される。いわゆる先端部がやや尖っているが、トロトロ石器に分類されるだろう。108は姫島産黒曜石製で体部中央に抉りがあり、下部に二次加工が見られる。平面形は石匙に似ているが、小規模で調整も粗いことからここに分類した。

剥片・砕片・石核（109～116）

剥片は剥片を素材として、意図不明瞭な加工を施しているものや全く加工が施されていないものをまとめた。整理作業での砕片との分類作業はその規模が1cm四方に収まるものを砕片として分類した。石核は礫または剥片を素材とするが形態を整えるためと見なしがたいネガティブな剥離面を持つものを分類した。これらには様々な石材が使用されており、その内訳については以下のとおりである。（チャート59点：33.1g、流紋岩・頁岩31点：162.2g、砂岩11点:625.3g、桑ノ木津留産黒曜石16点:12.9g、姫島産黒曜石11点:8.7g、西北九州産黒曜石2点:1.3g、鹿児島県産黒曜石1点:4.7g、安山岩・サヌカイト5点:2.4g、ホルンフェルス8点:142g、その他にチャートの原礫1点：478.2g、砂岩の円礫を素材として1枚～2・3枚だけ蛤状の剥片を作出しているような石核3点：1038gが出土している。）

109は石斧に用いられることがある珪質頁岩でさらに表面に擦痕が確認されるため、磨製石斧の再加工の際に作出された剥片であろう。110は礫器状の石核である。115は背面右側縁に不定形な二次加工が認められる。116は尾鈴山酸性岩製の剥片である。

敲石（117～119　図版17下段）

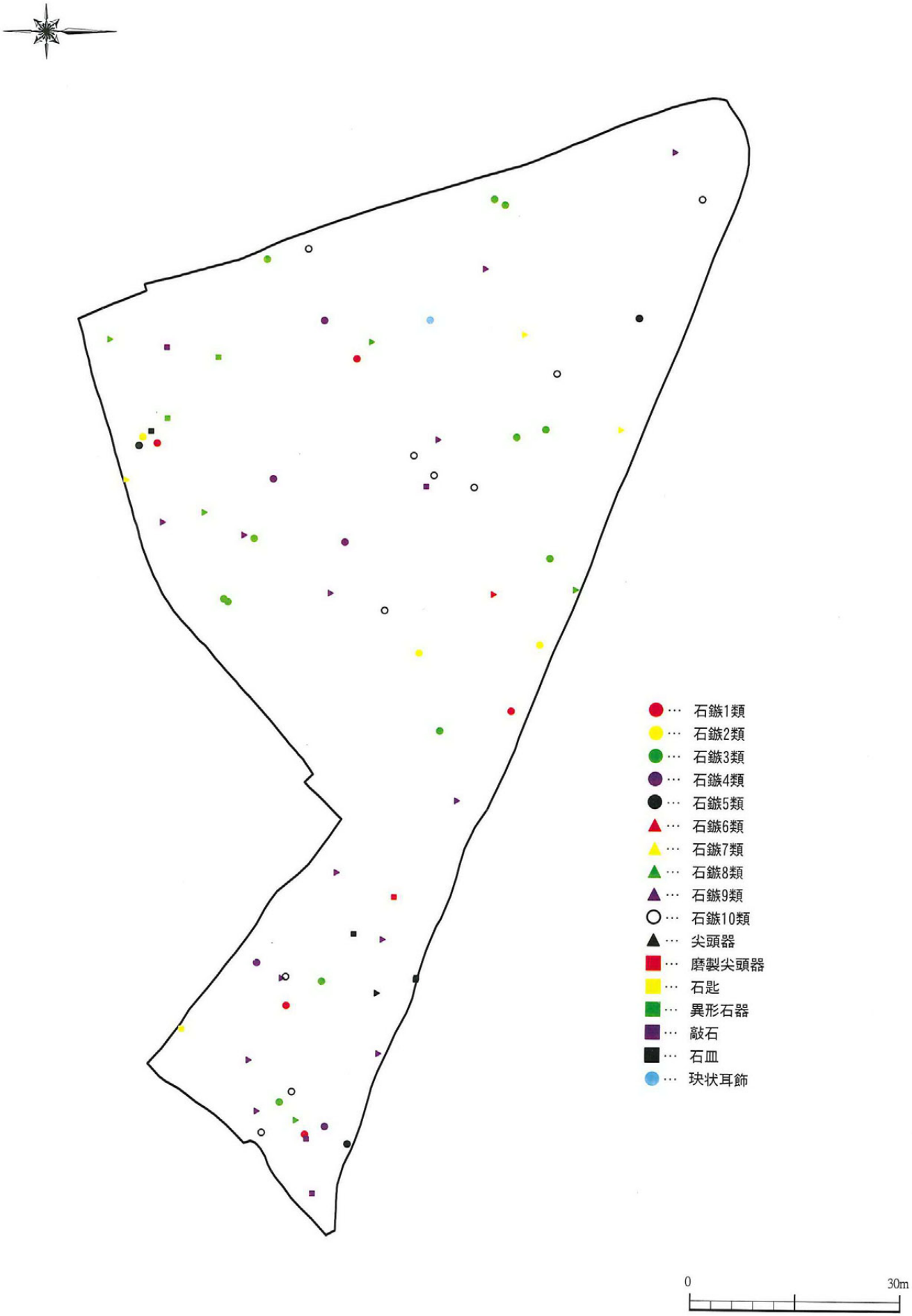
敲石は円礫・角礫の一端・両端・平らな面に敲打の結果と考えられる割れや、敲打痕、敲打によるものと推定されるくぼみを持つものを分類した。使用石材は砂岩のみである。総数で4点出土している。なお本遺跡からは磨石は出土していない。

石皿

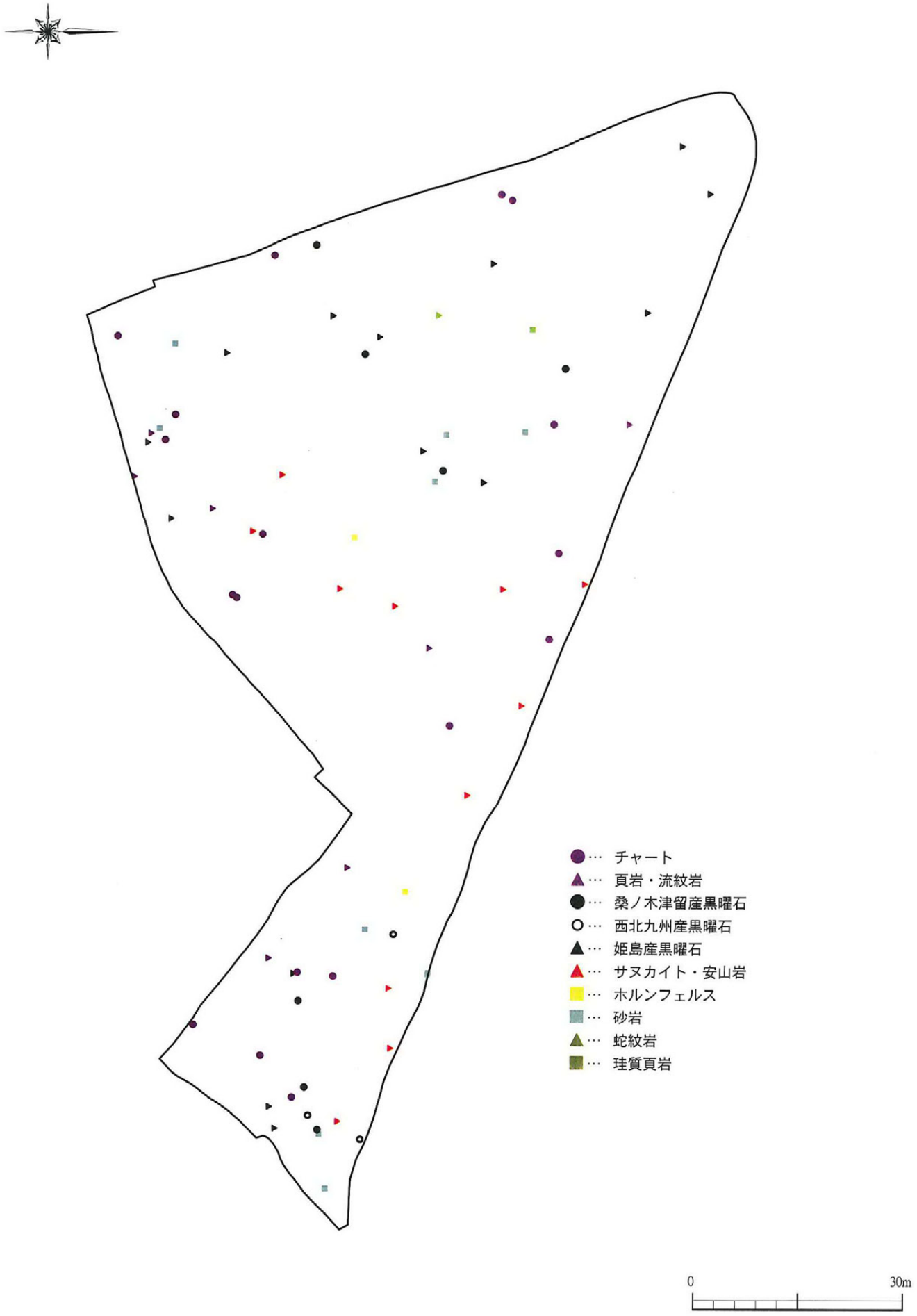
大振りな河原礫の平らな面に凹みや平滑な面を持つもの。図面や写真等を提示しなかったが砂岩を使用するものが4点出土している。

玦状耳飾（120）

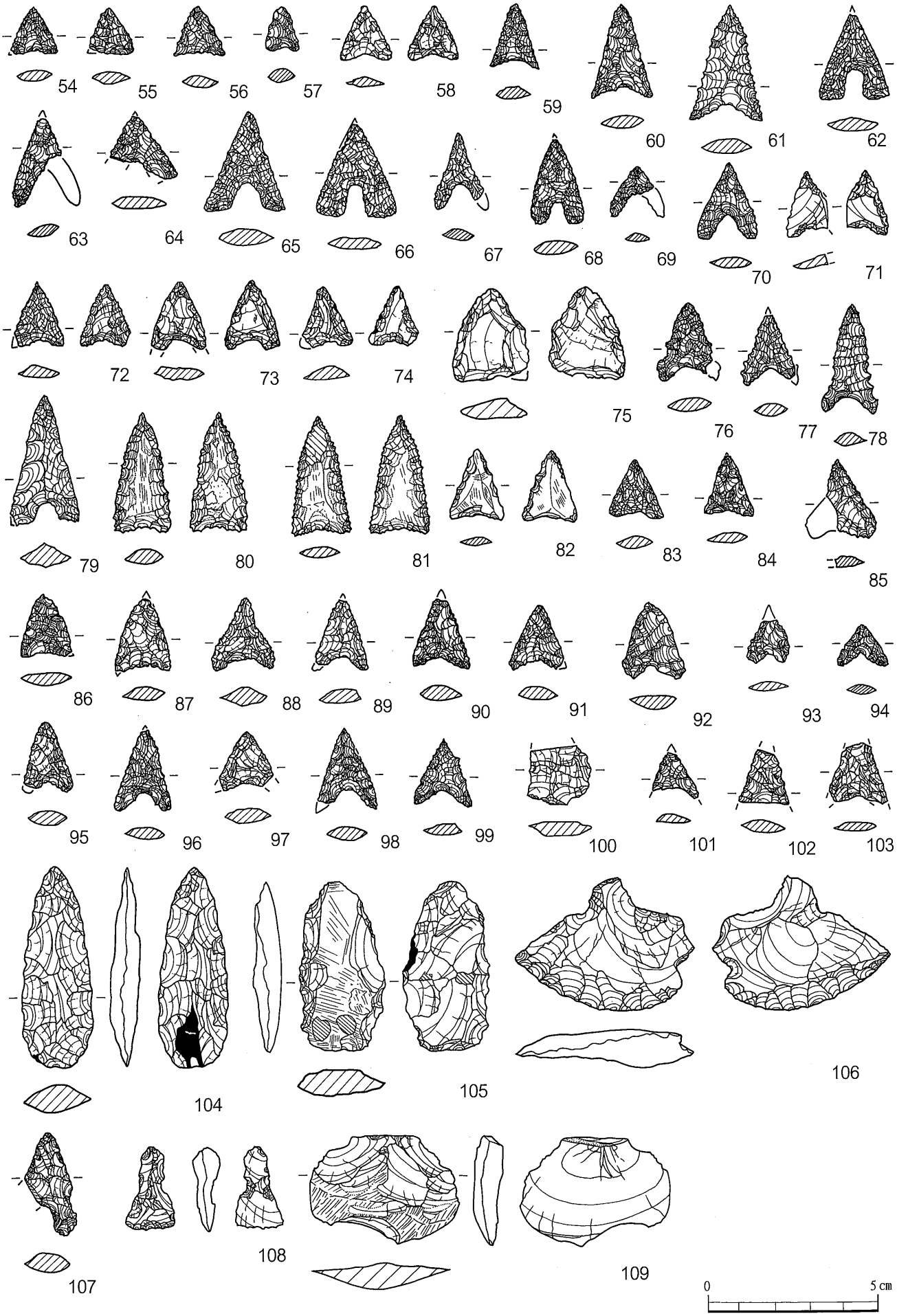
120の1点だけの出土である。蛇紋岩製で全体の色調は淡緑色であるが、一部白色が強い部分が見られる。平面形はやや横長の円形で、中心孔の直径は1.2cm、切れ目の長さは0.9cmを計測する。中心孔は両面からの回転運動により穿孔している。切れ目は両面から中心孔の下側に擦切技法により溝を作り出すことで完成させているため端部に段が見られ、その段の位置が表面と裏面では食い違っている。肉眼観察ではあまり確認できないが、顕微鏡で観察すると研磨の痕跡が全体的にかなり多く見られる。孔側辺部の断面形状は楕円形である。



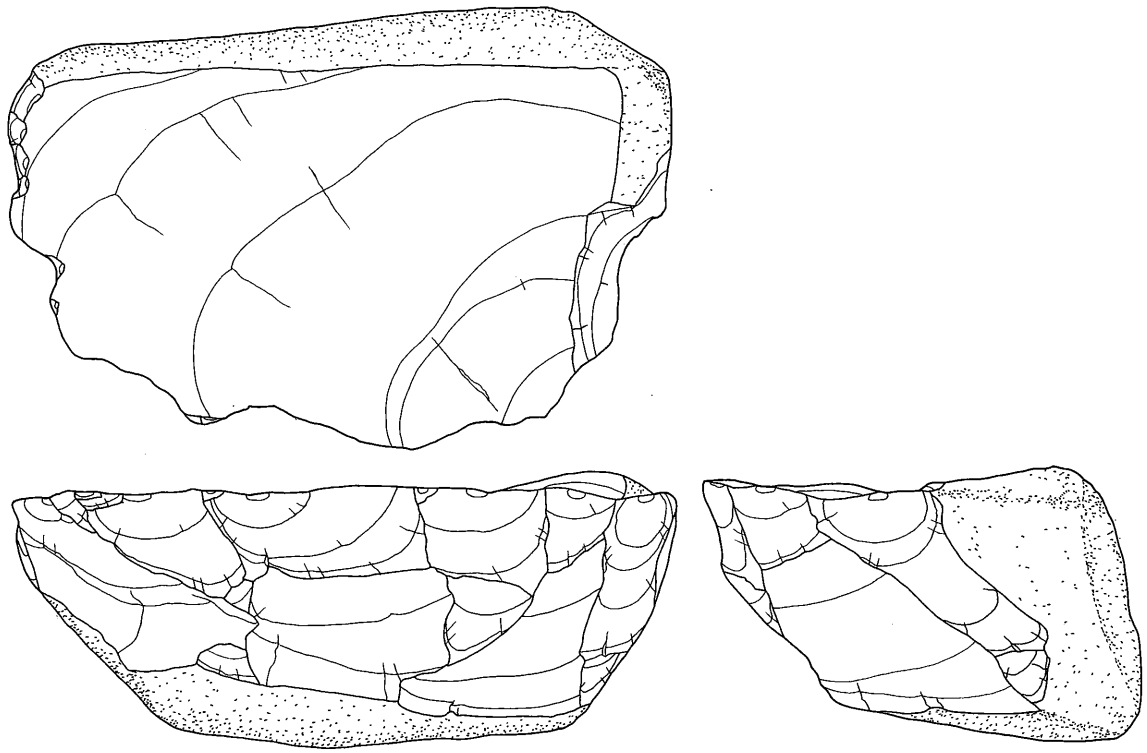
第 54 図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図（器種別）（S ＝ 1/750）



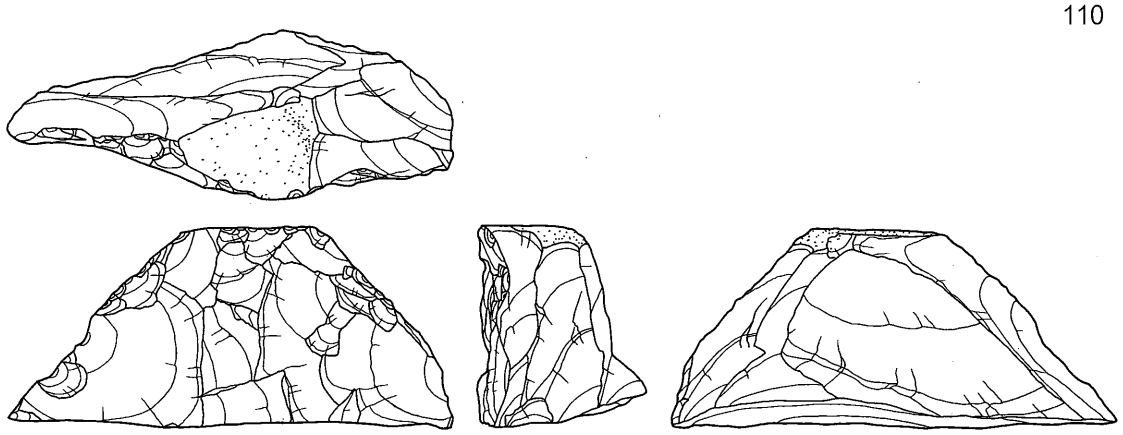
第 55 図　縄文時代早期遺物包含層出土主要石器分布図（石材別）（S ＝ 1/750）



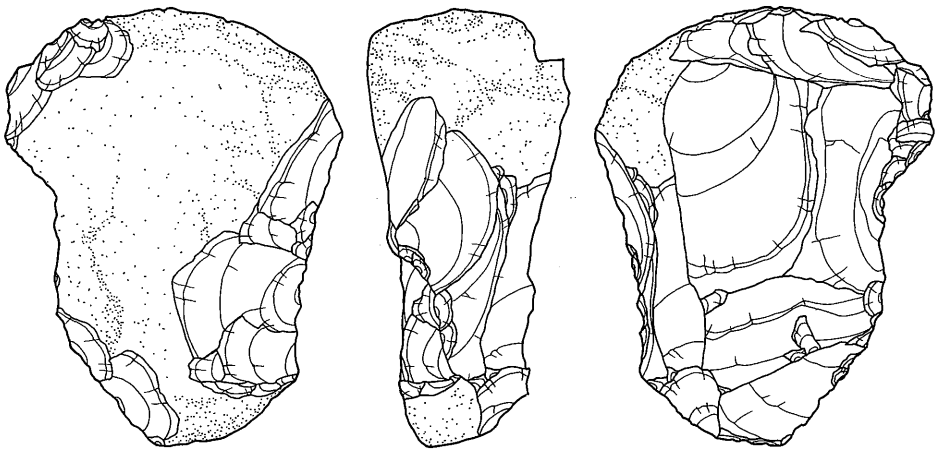
第 56 図　縄文時代早期遺物包含層石器実測図①（S ＝ 2/3）



110

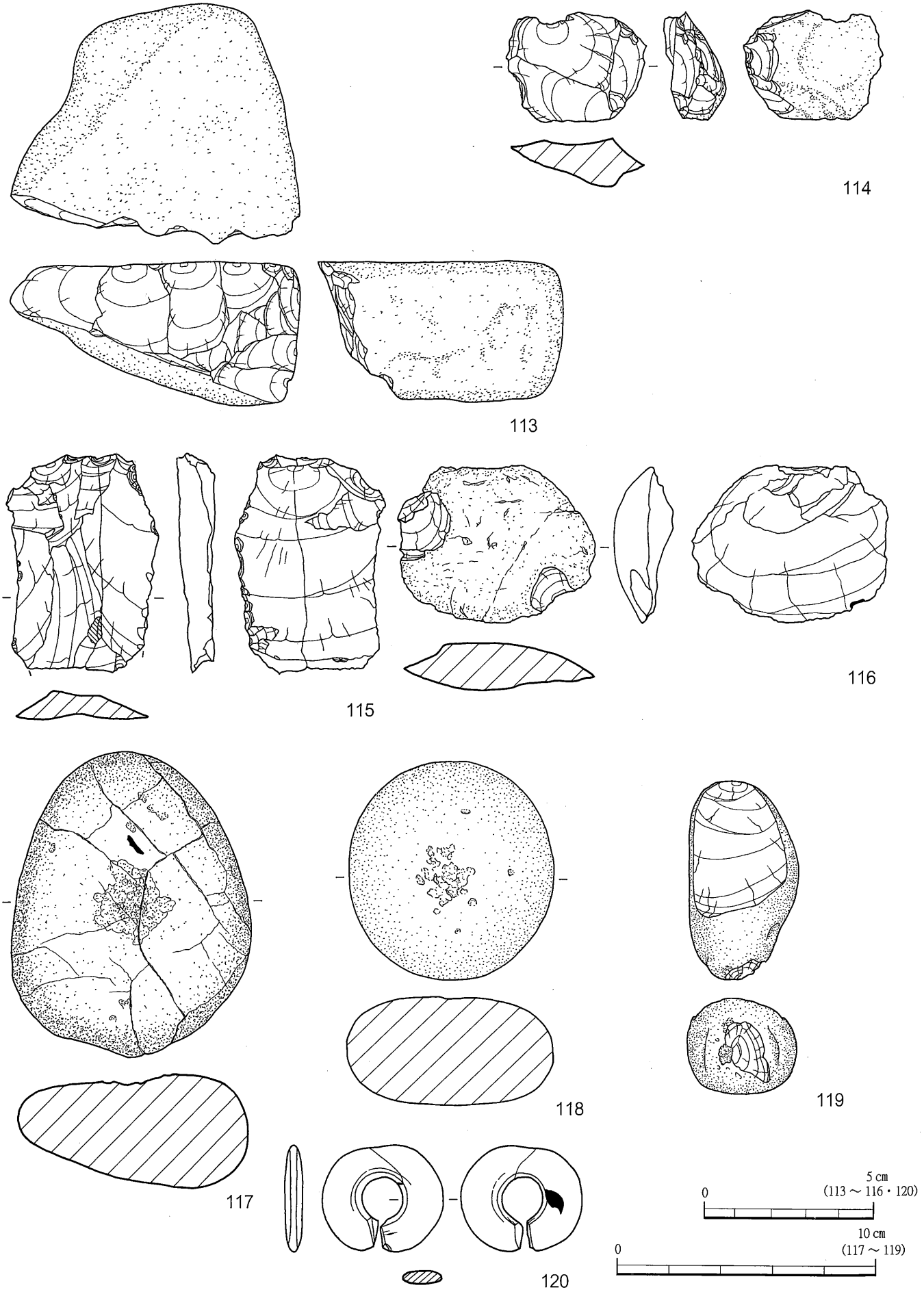


111



112

第 57 図　縄文時代早期遺物包含層石器実測図②（S ＝ 2/3）



第 58 図　縄文時代早期遺物包含層石器実測図③（S ＝ 1/2　2/3）

第 11 表　縄文時代早期遺物包含層出土土器観察表

報告書番号	出土層位	器形	部位	文様及び調整		色調		備考
				外面	内面	外面	内面	
4	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	連続刻目・沈線文・横ナデ	横ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
5	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	刻目・刺突文・沈線文・撚糸文･ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
6	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	波状口縁・沈線文・ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
7	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	10YR4/2(灰黄褐)	
8	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	
9	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	波状口縁・ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
10	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	刻目・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
11	Ⅳ	深鉢	口縁～胴部	ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ (不明瞭)	7.5YR6/4(にぶい橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
12	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	刻目・ナデ・沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
13	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	刻目・ナデ	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
14	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	沈線文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	10YR5/2(灰黄褐)	
15	Ⅳ	深鉢	口縁～頸部	波状口縁・貝殻条痕文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
16		深鉢	胴部	撚糸文・沈線文	横ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR6/4(にぶい黄橙)	
17	Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
18	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
19	Ⅳ	深鉢	頸～胴部	沈線文・撚糸文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
20	Ⅳ	深鉢	胴部	沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
21	Ⅲ	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
22	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	頸～胴部	沈線文・撚糸文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
23	Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	10YR6/3(にぶい黄橙)	7.5YR4/2(灰褐)	
24	Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文	横ナデ	10YR6/4(にぶい黄橙)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
25		深鉢	胴部	ナデ・撚糸文	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
26	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	5YR5/3(にぶい赤褐)	7.5YR5/2(灰褐)	
27	Ⅳ	深鉢	胴部	沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
28	Ⅳ	深鉢	胴部	沈線文・撚糸文	ナデ	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR6/4(にぶい橙)	
29	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
30	Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
31	Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
32	Ⅳ	深鉢	胴部	撚糸文・沈線文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR4/1(褐灰)	
33	Ⅲ	深鉢	胴部	撚糸文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
34	Ⅲ	深鉢	胴～底部	撚糸文・ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
35	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	胴～底部	撚糸文・ナデ	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
36	Ⅳ	深鉢	胴～底部	沈線文・ナデ	ナデ	7.5YR4/2(灰褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
37	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	底部	撚糸文	ナデ	5YR5/4(にぶい赤褐)	7.5YR5/3(にぶい褐)	
38	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	胴部	貝殻刺突文・ナデ	貝殻条痕文	7.5YR4/3(褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
39	Ⅳ	深鉢	口縁部	貝殻腹縁による押引文･ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
40	Ⅲ	深鉢	頸部	連続刺突文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
41	Ⅳ	深鉢	胴部	連続刺突文・沈線文・ナデ	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
42	Ⅲ	深鉢	胴部	刺突文・沈線文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
43	Ⅳ	深鉢	胴部	沈線文のなかに縄文・穿孔	ナデ	10YR5/2(灰黄褐)	7.5YR3/1(黒褐)	
44	Ⅲ	深鉢	頸部	貼付突帯に刻目	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
45	Ⅲ・Ⅳ	壺形土器	口縁部	ナデ	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/3(にぶい赤褐)	
46	Ⅲ	深鉢	胴部	貝殻条痕文	不明瞭	2.5YR5/3(にぶい赤褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
47	Ⅲ	深鉢	胴部	貝殻条痕文	ナデ	10YR5/3(にぶい黄褐)	10YR5/3(にぶい黄褐)	
48	Ⅳ	深鉢	胴部	山形押型文	ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	7.5YR4/2(灰褐)	
49	Ⅳ	壺	胴部	ナデ (不明瞭)	貝殻条痕文	7.5YR6/4(にぶい橙)	7.5YR5/4(にぶい褐)	
50	Ⅳ	深鉢	胴部	貝殻刺突文	ナデ	7.5YR4/3(褐)	7.5YR4/3(褐)	
51	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	口縁部	山形押型文	山形押型文	5YR4/3(にぶい赤褐)	7.5YR3/1(黒褐)	
52	Ⅲ・Ⅳ	深鉢	胴部	縄文	横ナデ	7.5YR5/3(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	
53	Ⅳ	深鉢	胴部	縄文	ナデ	7.5YR5/4(にぶい褐)	5YR5/4(にぶい赤褐)	

第 12 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表①

遺物 No.	整理 No.	器種	出土グリット	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
54	73	打製石鏃	A19	4	チャート	(1.3)	(1.3)	0.3	(0.4)	1 類　脚部欠損
55	53	打製石鏃	A10	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	(1.3)	(1.3)	0.4	(0.4)	1 類　脚部欠損
56	16	打製石鏃	A22	3	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.45	1.5	0.4	0.5	1 類
57	79	打製石鏃	A22	4	黒曜石 (桑ノ木津留)	1.25	1.0	0.3	0.3	1 類
58	82	打製石鏃	A11	3	安山岩	1.55	1.45	0.25	0.4	1 類
59	13	打製石鏃	A7	3	チャート	1.8	1.4	0.35	0.4	2 類
60	58	打製石鏃	A12	4	流紋岩	2.7	1.8	0.35	1.2	2 類
61	43	打製石鏃	A19	4	頁岩	3.35	2.1	0.4	1.9	2 類
62	55	打製石鏃	A11	3	チャート	(2.4)	2.0	0.4	(1.1)	3 類　先端部欠損
63	59	打製石鏃	A13	4	チャート	(2.5)	(1.4)	(0.4)	(0.7)	3 類　先端・脚部欠損
64	46	打製石鏃	A6	3	チャート	(1.8)	(1.9)	(0.4)	(0.8)	3 類　先端・脚部欠損
65	47	打製石鏃	A6	3	チャート	2.8	2.3	0.5	1.7	3 類
66	50	打製石鏃	A8	4	チャート	(2.7)	2.3	0.3	(1.4)	3 類　先端部欠損
67	80	打製石鏃	A22	4	チャート	(2.1)	(1.4)	0.35	(0.5)	3 類　脚部欠損
68	74	打製石鏃	A19	4	チャート	(2.45)	1.45	0.35	(1.1)	3 類　先端部欠損
69	70	打製石鏃	A18	4	チャート	(1.45)	(1.2)	0.25	(0.3)	3 類　脚部欠損
70	14	打製石鏃	A8	4	安山岩	2.2	1.7	0.3	0.6	3 類
71	85	打製石鏃	A21	3	頁岩	(1.8)	(1.2)	(0.4)	(0.5)	4 類　基部欠損
72	54	打製石鏃	A10	4	黒曜石 (姫島)	(1.7)	(1.4)	0.35	(0.6)	4 類　脚部欠損
73	65	打製石鏃	A22	4	安山岩	(1.9)	(1.55)	0.4	(1.0)	4 類　脚部欠損
74	84	打製石鏃	A13	4	安山岩	(1.75)	(1.4)	0.4	(0.6)	4 類　脚部欠損
75	83	打製石鏃	A13	3	ホルンフェルス	(2.7)	(2.2)	0.5	(3.1)	4 類　脚部欠損
76	78	打製石鏃	A22	3	黒曜石 (針尾)	(2.2)	(1.6)	0.35	(1.0)	5 類　脚部欠損
77	71	打製石鏃	A19	3	黒曜石 (姫島)	(2.0)	(1.6)	0.35	(0.6)	5 類　先端・脚部欠損
78	44	打製石鏃	A1	3	黒曜石 (姫島)	3.15	1.7	0.35	0.9	5 類
79	40	打製石鏃	A8	4	安山岩	(3.7)	(2.0)	0.7	(2.8)	6 類　脚部欠損
80	18	磨製石鏃	A4	4	頁岩	3.45	1.6	0.4	1.8	7 類
81	20	磨製石鏃	A19	4	頁岩	3.4	1.7	0.35	1.5	7 類
82	26	磨製石鏃	A5	4	珪質頁岩	2.0	1.6	0.25	0.7	7 類
83	66	打製石鏃	A15	4	チャート	1.7	1.55	0.35	0.7	8 類
84	69	打製石鏃	A18	4	流紋岩	(1.7)	1.4	0.3	(0.6)	8 類　先端部欠損
85	52	打製石鏃	A10	3	黒曜石 (姫島)	(2.3)	(1.45)	0.35	(0.7)	8 類　脚部欠損
86	81	打製石鏃	A22	4	黒曜石	1.8	1.45	0.35	0.8	8 類
87	48	打製石鏃	A7	4	安山岩	(2.05)	(1.6)	0.4	(1.1)	8 類　先端・脚部欠損
88	93	打製石鏃	A22	4	チャート	2.1	1.8	0.5	1.2	9 類
89	86	打製石鏃	A21	4	頁岩	(2.0)	(1.5)	0.4	(0.7)	9 類　先端・脚部欠損
90	87	打製石鏃	A	3	黒曜石 (姫島)	(2.0)	1.65	0.45	(0.9)	9 類　先端部欠損
91	76	打製石鏃	A21	4	黒曜石 (姫島)	1.85	1.6	0.35	0.6	9 類
92	72	打製石鏃	A19	3	黒曜石 (姫島)	2.2	1.8	0.4	1.2	9 類
93	45	打製石鏃	A5	4	黒曜石 (姫島)	(1.2)	1.2	0.3	(0.4)	9 類　先端部欠損

(　　) の値は残存値を示す

第 13 表　縄文時代早期遺物包含層出土石器計測分類表②

遺物 No.	整理 No.	器種	出土グリット	層位	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	備考
94	41	打製石鏃	A22	4	黒曜石（姫島）	1.15	1.45	0.25	0.1	9 類
95	75	打製石鏃	A20	4	黒曜石	(2.0)	(1.4)	0.4	(0.6)	9 類　脚部欠損
96	68	打製石鏃	A17	3	安山岩	(2.3)	1.65	0.3	(0.8)	9 類　先端部欠損
97	67	打製石鏃	A16	4	安山岩	(1.7)	(1.6)	0.4	(0.8)	9 類　脚部欠損
98	56	打製石鏃	A12	3	サヌカイト	(2.3)	(1.7)	0.4	(0.8)	9 類　脚・刃部欠損
99	15	打製石鏃	A9	3	砂岩	1.9	1.6	0.3	0.4	9 類
100	77	打製石鏃	A21	4	チャート	(1.7)	(1.85)	0.4	(1.5)	10 類　基部欠損
101	51	打製石鏃	A9	4	黒曜石（姫島）	(1.25)	(1.3)	0.3	(0.4)	10 類　先端・脚部欠損
102	49	打製石鏃	A8	4	黒曜石（姫島）	(1.55)	(1.45)	0.35	(0.7)	10 類　先端・脚部欠損
103	57	打製石鏃	A12	4	安山岩	(1.75)	(1.6)	0.25	(0.8)	10 類　先端・脚部欠損
104	37	槍先形尖頭器	A20	4	ホルンフェルス	5.8	2.0	0.85	9.1	
105	493	磨製尖頭器	A16	3	ホルンフェルス	4.9	2.5	0.8	9.8	
106	42	石匙	A23	4	チャート	3.9	5.1	1.1	15.7	
107	60	異形石器	A14	3	チャート	(2.95)	(1.45)	0.55	(1.7)	脚部欠損
108	64	異形石器	A14	3	黒曜石（姫島）	2.4	1.4	0.8	1.0	
109	92	剥片	A22	4	堆積岩	3.2	4.45	0.85	9.7	
110	95	石核	-	4	砂岩	5.4	13.2	8.2	683.0	
111	89	石核	A16	4	砂岩	3.9	8.8	3.3	103.1	
112	94	石核	A13	4	砂岩	8.7	6.7	4.1	201.5	
113	88	石核	-	4	砂岩	4.1	8.4	7.05	290.2	
114	90	石核	A22	3	頁岩	3.2	4.05	1.4	17.6	
115	91	剥片	A22	3	頁岩	(6.0)	4.4	10.5	(31.1)	下部欠損
116	494	剥片	A22	4	尾鈴山酸性岩	4.5	5.7	1.7	39.0	
117	61	敲石	A15	4	砂岩	11.75	9.85	4.65	607.0	
118	62	敲石	A22	4	砂岩	8.45	7.95	4.2	402.0	
119	63	敲石	A22	4	砂岩	7.65	4.25	3.7	146.1	
120	2	玦状耳飾	A9	3	蛇紋岩	3.05	3.5	0.4	6.8	

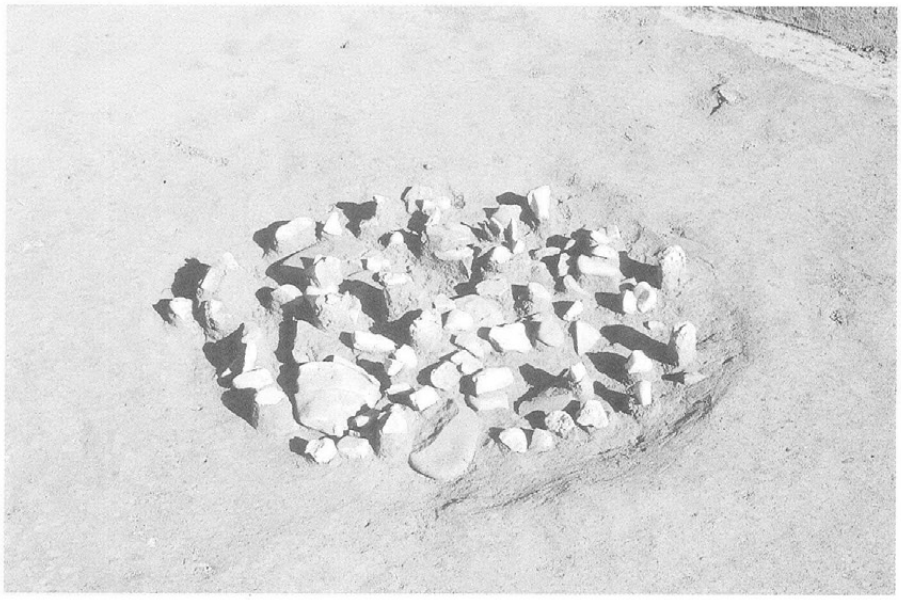
（　　）の値は残存値を示す

SI-2

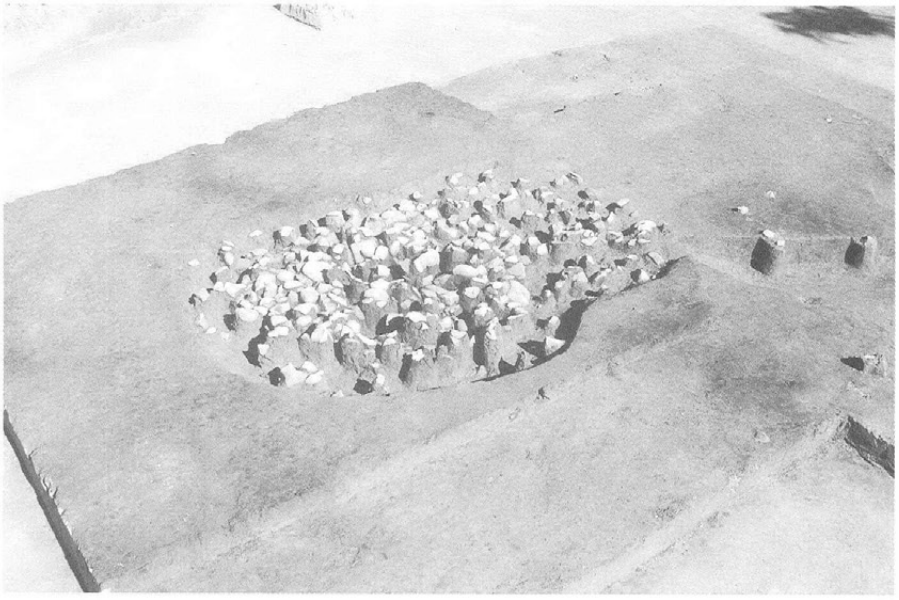
SI-8

SI-8 炭化物検出

写真図版 10　縄文時代早期集石遺構①



SI-7



SI-13・25

SI-13 礫下土層

写真図版 11　縄文時代早期集石遺構②

SI-27

SC-11 土層断面

SC-11

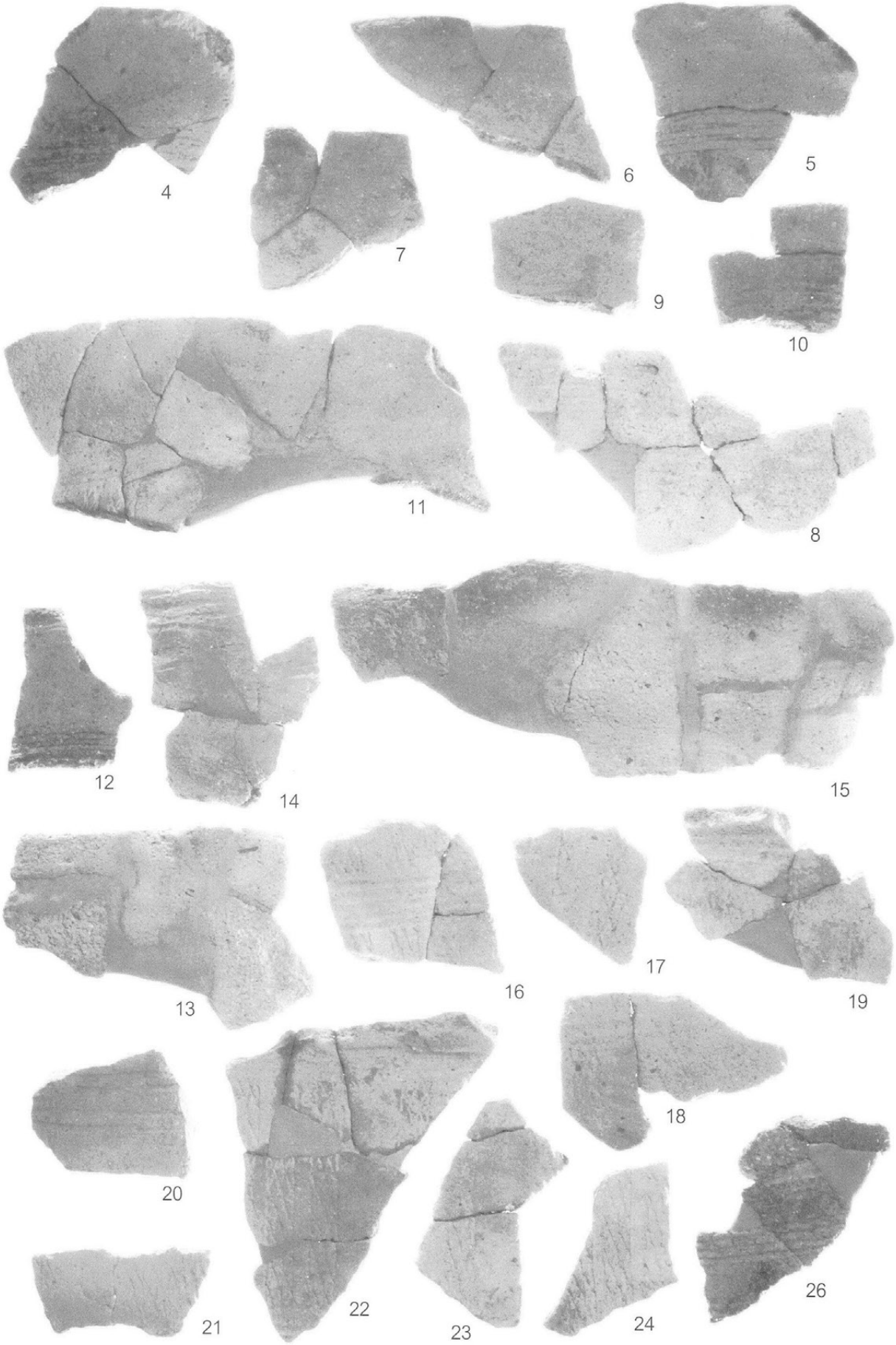
写真図版 12　縄文時代早期集石遺構③・土坑①

SI-14

SI-16

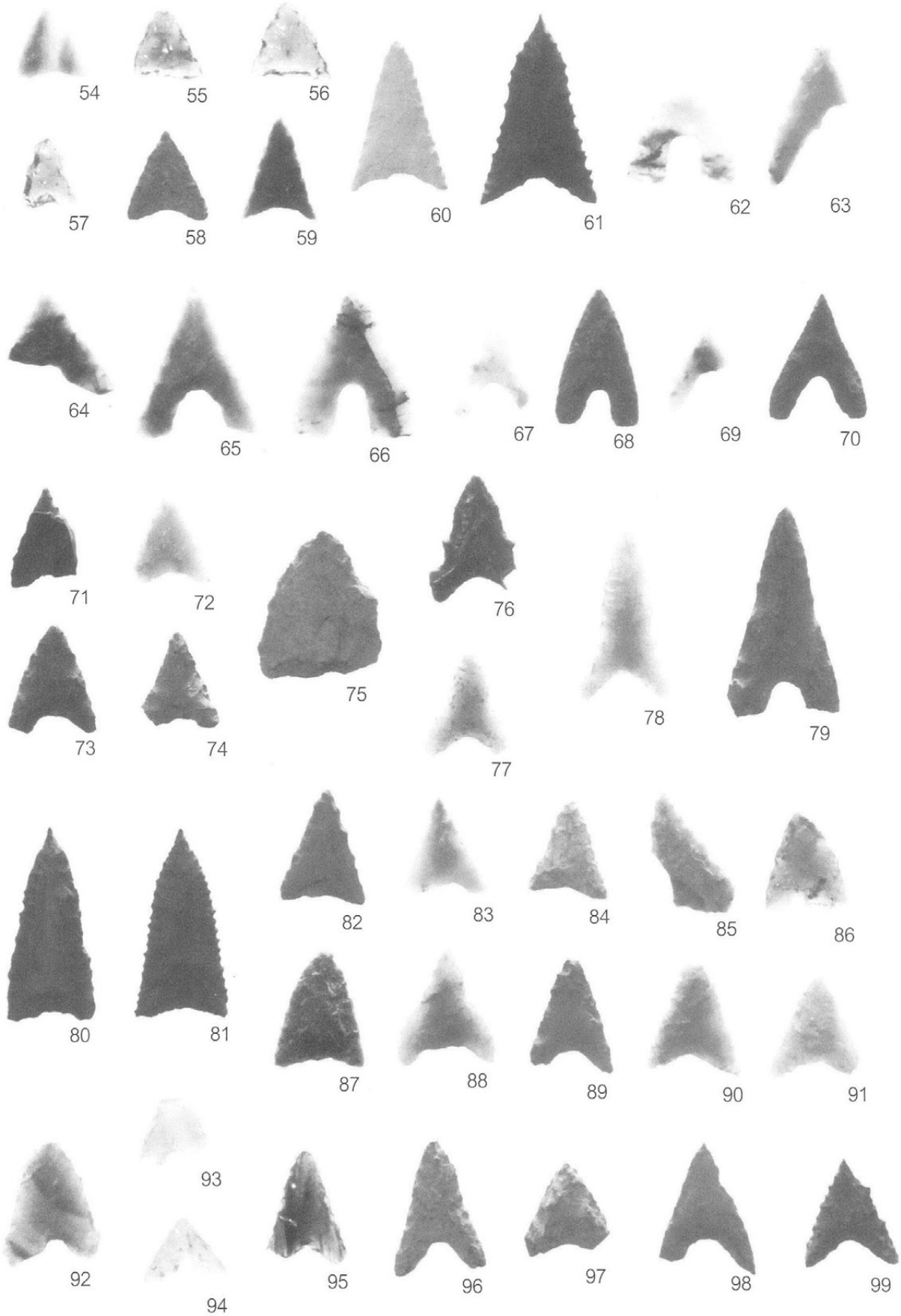
No. 104 槍先形尖頭器出土状況

写真図版 13　縄文時代早期土坑②

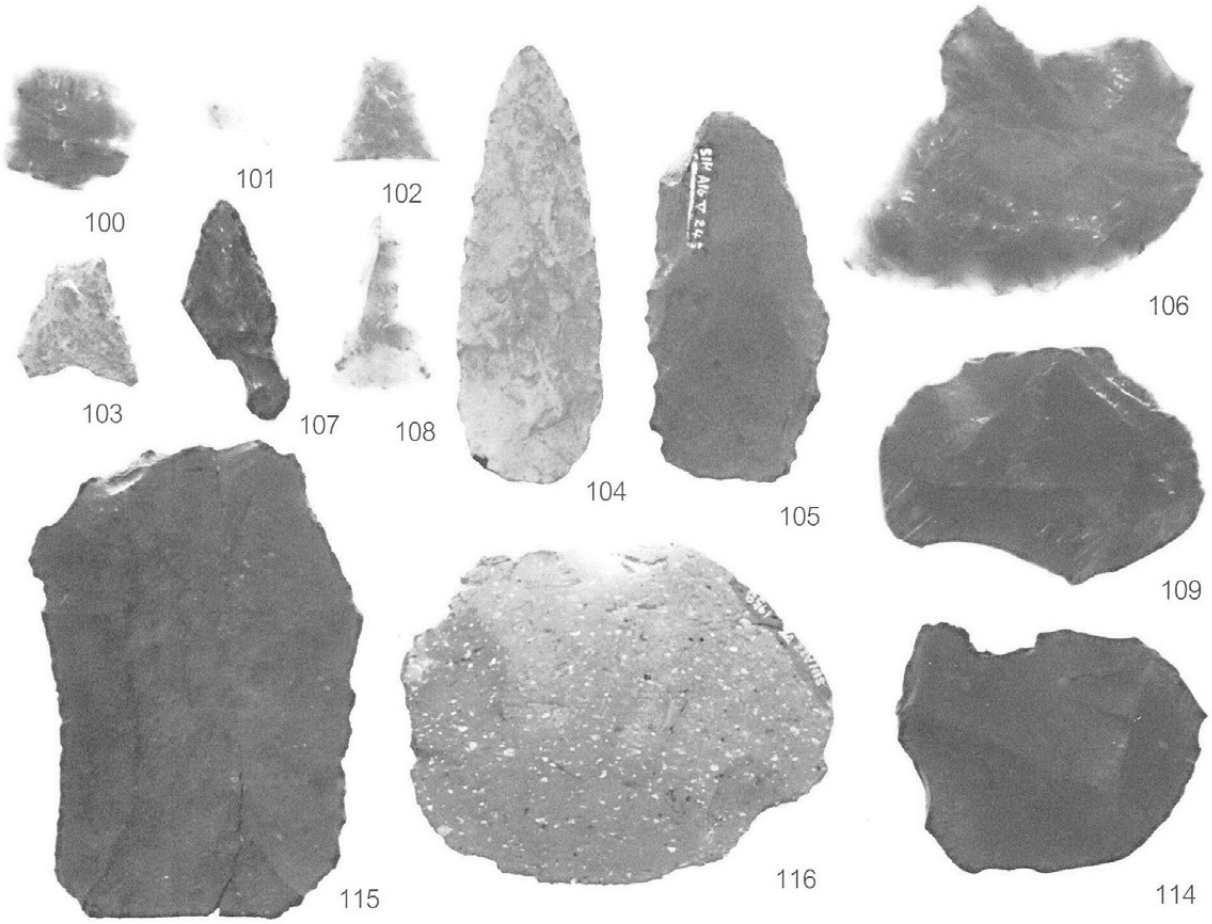


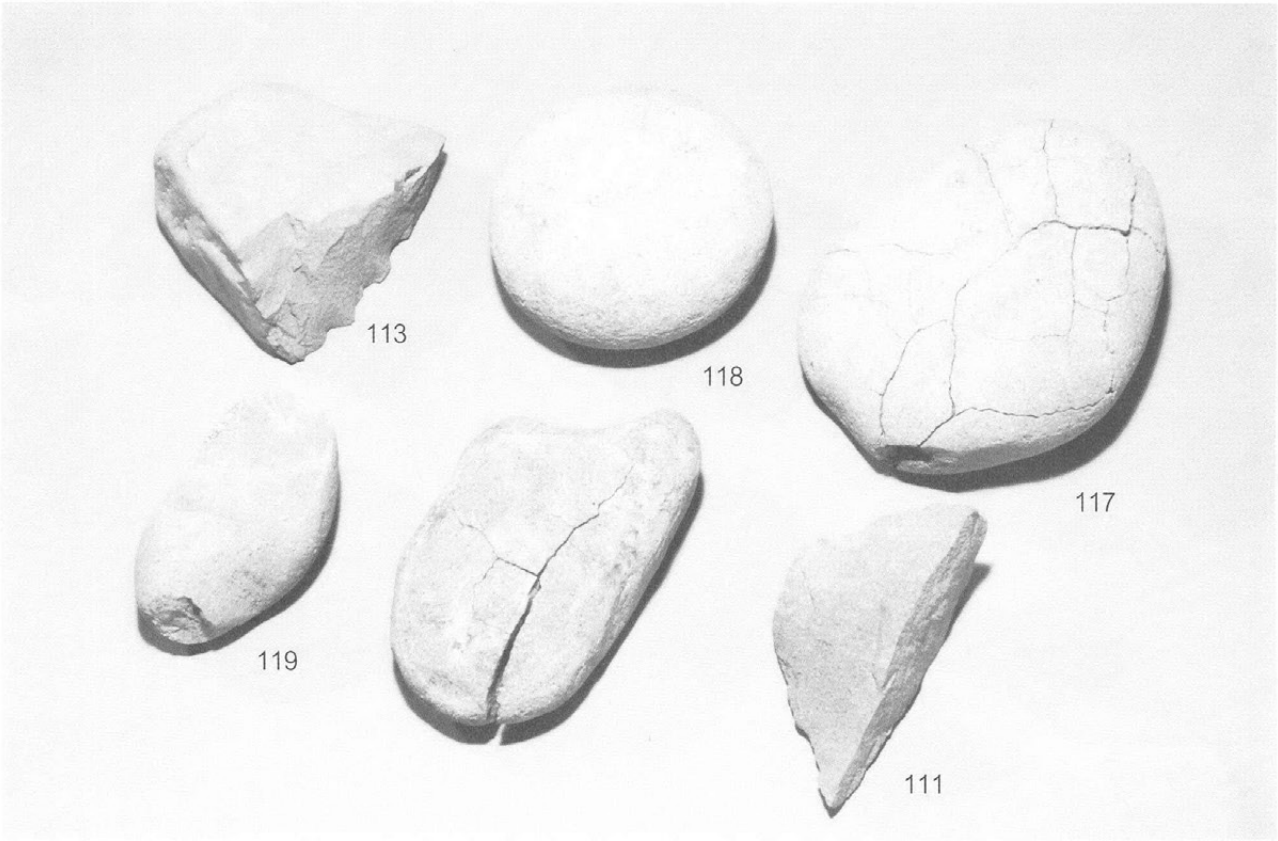
写真図版 14　縄文時代早期遺物包含層出土土器①

写真図版 15　縄文時代早期遺物包含層出土土器②



写真図版 16　縄文時代早期遺物包含層出土石器①





写真図版 17　縄文時代早期遺物包含層出土石器②

第４章　アカホヤ火山灰層上面の調査

アカホヤ火山灰層上面では道路状遺構１条、溝状遺構７条，土壙墓４基、土坑３基、20基程度の柱穴が検出されたが、畑地時の耕作等の影響によりそのほとんどが撹乱をうけている状況であった。なお柱穴については規則的に並ぶものは確認されなかった。以下に主な遺構についての報告を行う。

第１節　弥生時代の遺構と遺物について

土壙墓（ＳＣ－２・６・７・８）

調査区の東南部において平面プランが隅丸長方形の掘り込みが４基検出された。その位置関係はSC-8から北側に9mのところにSC-2が存在し、SC-2から東側に3mのところにSC-7が存在し、SC-7から東に約3mのところにSC-6が存在している。

これらの遺構は検出写真撮影後、掘り込みのプランの長軸又は短軸に対して、半截を行うかもしくは四分割にて対面同士の掘り下げを行い、埋土状況を記録した後、完掘して平断面の記録をとるという方法で調査を進めた。

調査の結果、４基とも何らかの撹乱を受けていたものの、全て二段掘りの土坑であることが確認された。ほぼ東西方向に長軸をそろえる点、４基とも列状に配置される点から土壙墓または木棺墓の可能性が考えられるが、いずれの土壙からも木棺墓の根拠となる木口の掘り込みや棺の押さえとなる粘土塊等は確認されなかった。しかし、土壙埋土の堆積状況を観察するとSC-8のように木棺の裏込めを示唆するような土層の堆積状況が確認されるものも存在しており、４基中の一部または全てが木棺墓であった可能性も考えられる。なお、いずれの土壙墓も土壙を掘った後に10cm程度褐色土を入れて、貼り床を行っていた。

４基の土壙墓は床面に小穴をもつもの（SC-7・8）と持たないもの（SC-2・6）に分類される。床面の小穴については黒褐色の埋土を除去し、地山の褐色ローム層が検出された段階で検出された。

土壙墓の出土遺物はSC-8から床面の西側より鉄鏃が１点出土した。鉄鏃は黒褐色シルト質ローム層（土層7）を除去後、褐色ローム層（土層12）の精査中に発見されており、土壙の床についていたものである。その他には埋土中より、弥生土器又は土師器の小片が混入していたが、図化に耐えるような状況ではなかった。その他の土壙墓からは遺物は一点も出土していない。

１は圭頭形の鉄鏃で長さ5.75cm、幅2.6cm、厚さ2.5mm、重量4.8ｇを測る。茎部には木質が残存する。

この４基土壙墓は掘り込みの特徴や規模、埋土状況などの共通性または分布状況などから４基とも同時期のものと考えられる。これらの時期を検討する遺物としてはSC-8から出土した鉄鏃しかないが、その平面形態から弥生時代の終末期に位置するものと考えておく。

なお、各土壙墓の規模などについての詳細は一覧表を参照していただきたい。

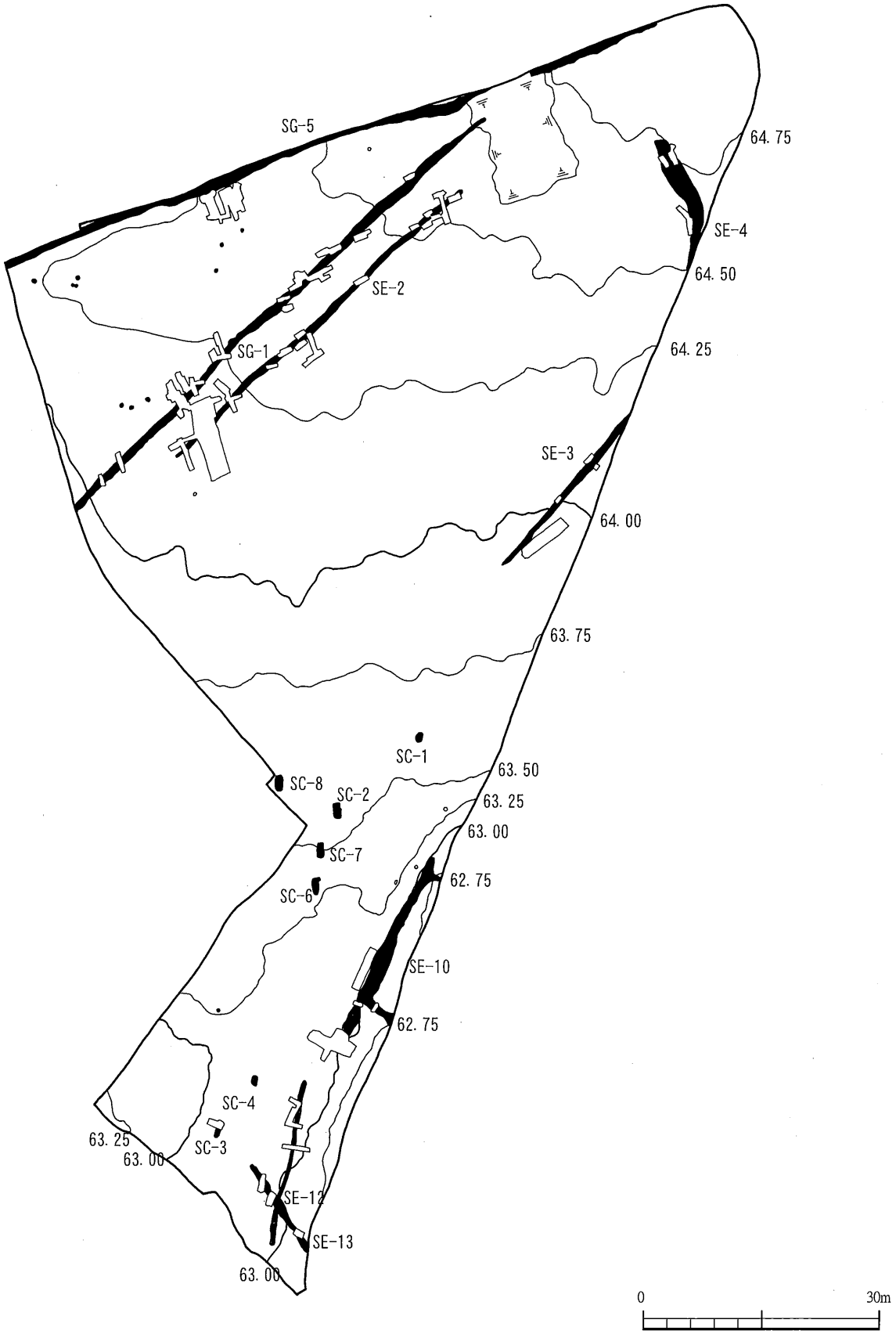
第２節　中世の遺構について

道路状遺構（ＳＧ－１・５）

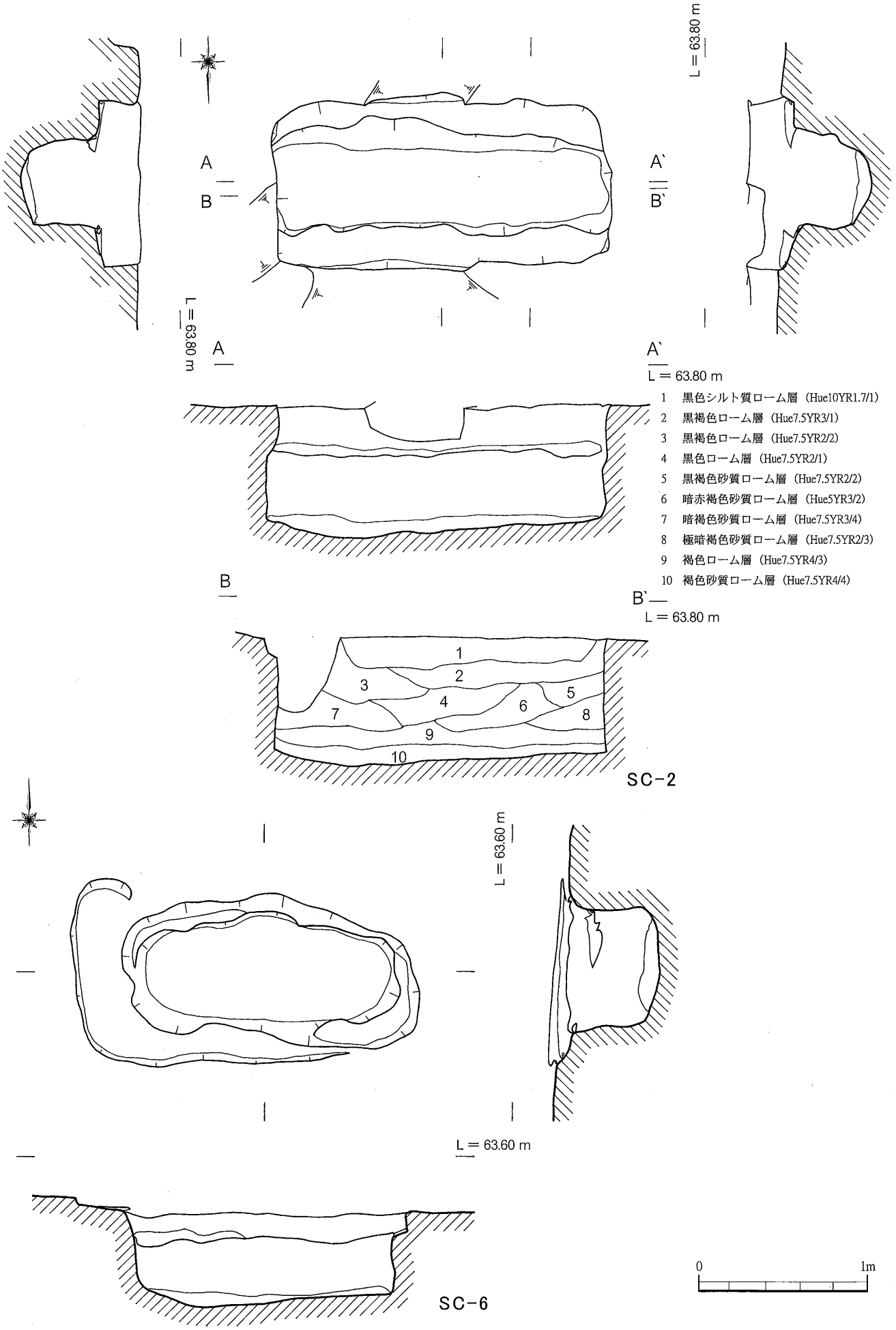
調査区南部にて北西～南東方向に約50mの長さの溝状の遺構（SG-1）が検出された。

SG-1の調査は検出写真撮影後、まず数ヶ所に土層観察のためのトレンチを設定し、その掘り下げを行い、土層観察及び記録作業を行った。その結果、全てのトレンチにおいて検出面から深さ20cmのあたりで非常に硬い土層が観察され、さらに同様の層が数枚重なることが確認されたため硬化面の存在を想定した。そこで土層観察のためのあぜを残し、最初の硬化面まで掘り下げを行ったところ、部分的に凹凸面や鉄分の付着している箇所が観察されたので、本遺構は道路状遺構であるという結論に至った。最初の硬化面において記録作業を行った後、掘り込みの床面を検出するために数枚あった硬化面を全て除去し、掘り込みの床面の検出を行い、床面の記録作業を行った。掘り込みの床面においても最初の硬化面と同様に部分的に凹凸面や鉄分の付着している箇所が確認された。

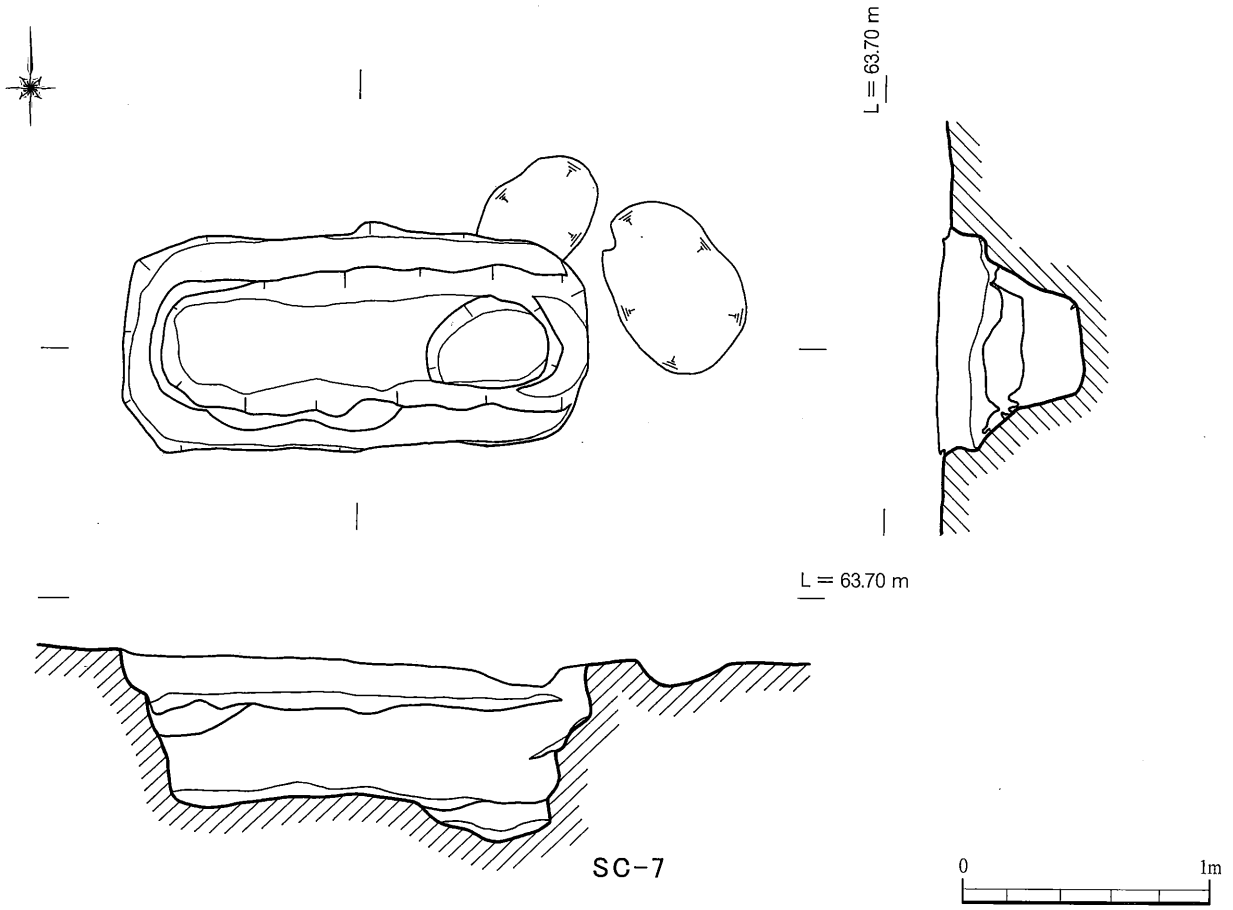
SG-1の検出面での幅は約0.7m～1.3mを測る。硬化面は数枚あったことが確認されており、最初の硬化面の幅は約45cmであった。また掘り込みの床面の幅は約22cmであった。　断面形は最初の硬化面までは緩やかなすり鉢状で、硬化面から床面までは急に角度を変えU字状を呈しているところがほとんどであった。また、埋土中からは桜島文明軽石が検出されたところから、本遺構は14世紀頃に埋没したものと考えられる。



第59図　アカホヤ火山灰層上面遺構配置図（S＝1/750）



第 60 図　弥生時代土壙墓実測図①（S = 1/30）



第61図　弥生時代土壙墓実測図②（S＝1/30）

出土遺物は埋土中より緑釉陶器の小片1点、須恵器の小片1点、土師器の小片が数点出土したが、風化が著しくいずれも図化に耐えうるものではなかった。

断面形は最初の硬化面までは緩やかなすり鉢状で、硬化面から床面までは急に角度を変えU字状を呈しているところがほとんどであった。また、埋土中からは桜島文明軽石が検出されたところから、本遺構は14世紀頃に埋没したものと考えられる。

第3節　時期不明の遺構について

溝状遺構および道路状遺構について

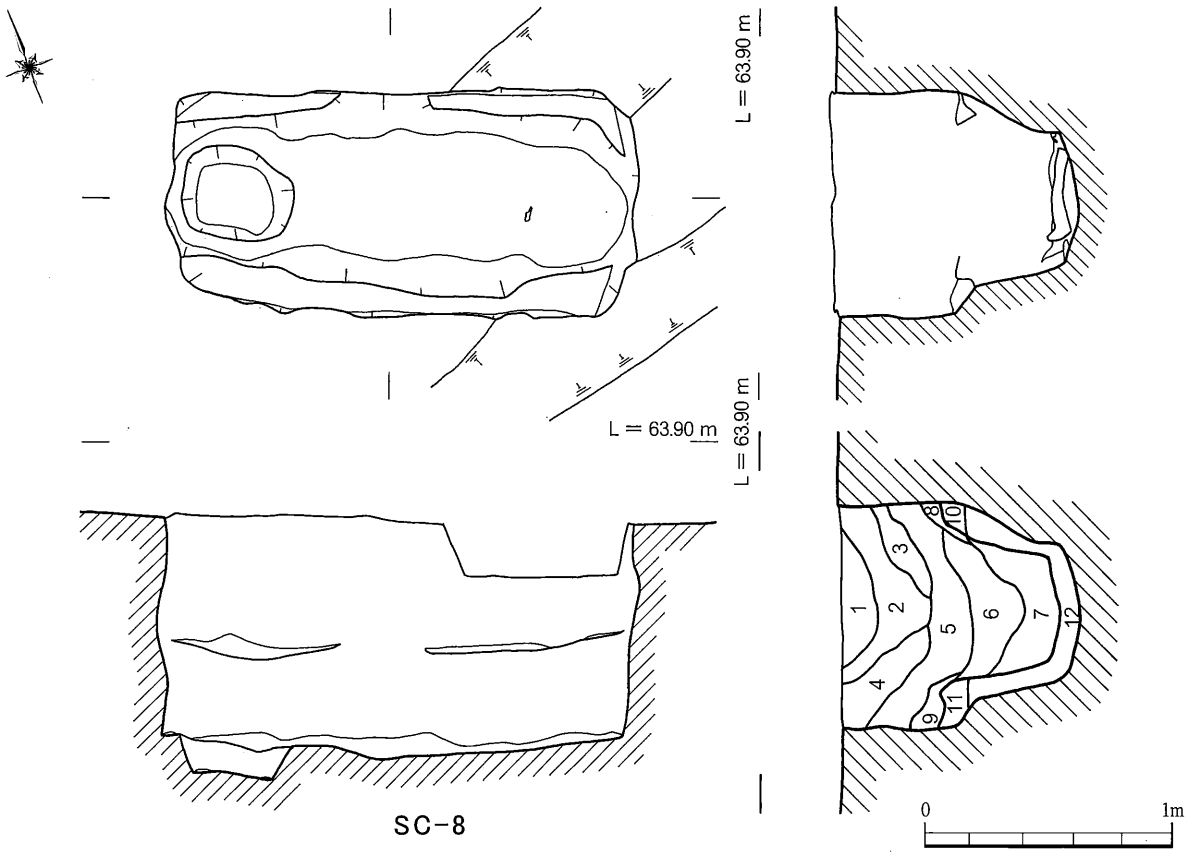
調査区の西側と東側に溝状遺構が7条検出された。SE-4・13以外は全て東西方向に伸びる溝状遺構である。いずれの溝状遺構もまず土層観察のためのトレンチを設定し掘り下げを行い、土層観察を行うことから始めた。しかしSG-1のような硬質の土層が検出されなかったので、埋土を全て除去し平面の記録を行うこととなった。

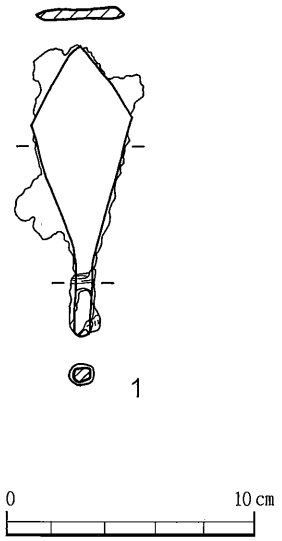
なお、どの溝状遺構の埋土とも自然堆積を呈していた。

出土遺物としてはSE-2からは土師器の小皿の小片や染付けの椀の小片などが数点出土しているが、風化が著しくいずれも図化に耐えうるものではなかった。他の溝状遺構からは遺物は出土しなかった。

SG-5だけはSG-1のような硬質の土層の堆積は見られなかったが完掘したところ、床面に凹凸面が確認されたため、溝状遺構とは区別して道路状遺構として報告しておく。埋土中から土師器の小片や染付けの椀の小片、底部に糸切りの痕跡が見られる擂鉢の破片などが少量出土しているが、風化が著しくいずれも図化に耐えうるものではなかった。

SE-3・4とSG-5は埋土状況が似ており、またSE-2と12も埋土状況が似ていたためそれぞれ同時期又は近い時期に存在していたものと考えられる。またSE-2はSG-1と並行に存在しており、何らかの関係がある可能性も考えられる。



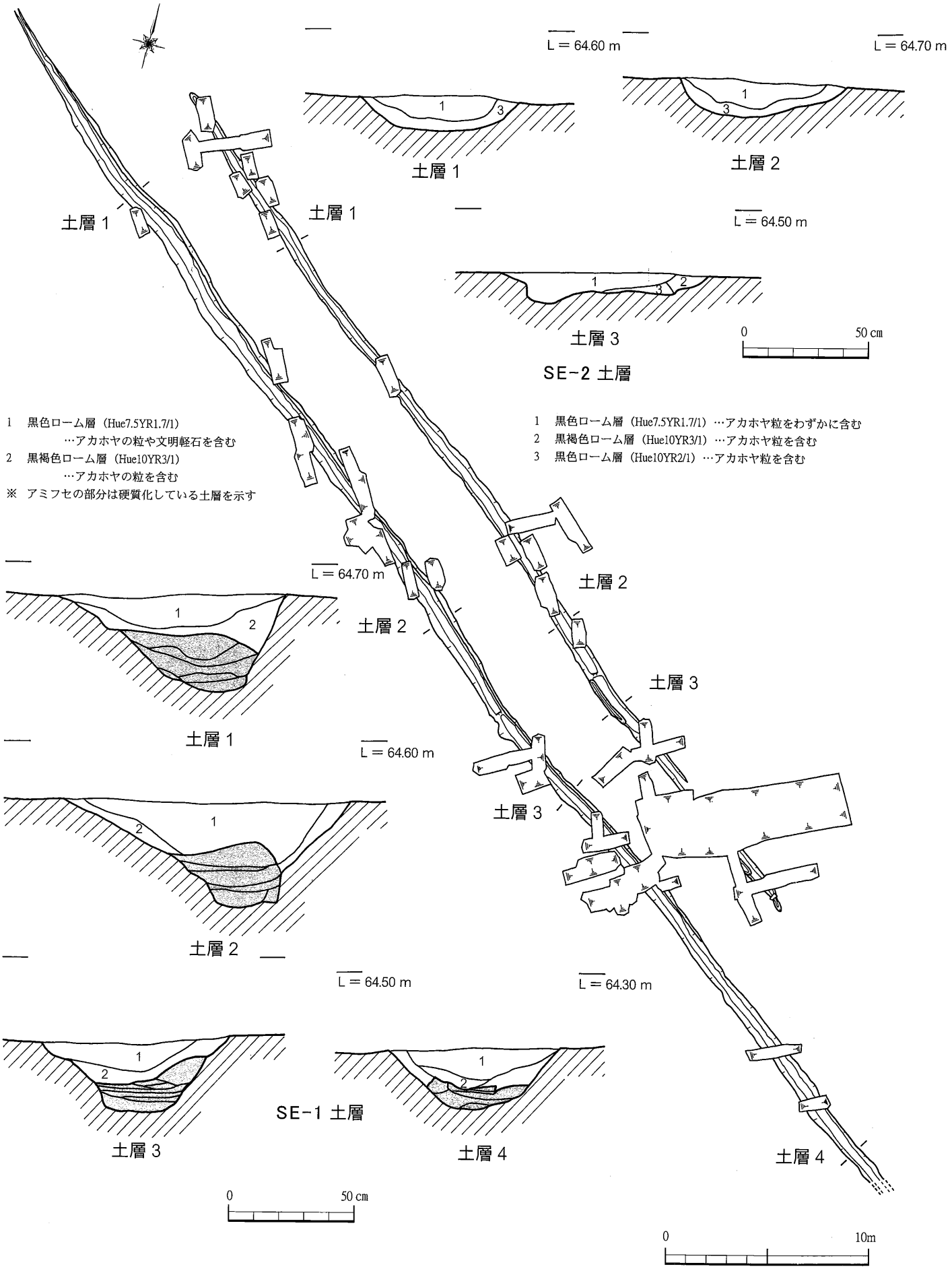


1　黒色ローム層（Hue7.5YR2/1）…軟質。アカホヤ粒を含む。
2　黒ローム層（Hue7.5YR1.7/1）…軟質。アカホヤ粒を含む。
3　黒色シルト質ローム層（Hue10YR2/1）…軟質。アカホヤ粒を含む。
4　黒褐色シルト質ローム層（Hue10YR2/2）…軟質。アカホヤ粒を含む。
5　黒色シルト質ローム層（Hue10YR1.7/1）…軟質。アカホヤ粒を含む。
6　黒褐色シルト質ローム層（Hue7.5YR2/2）…軟質。アカホヤ粒を含む。
7　黒褐色シルト質ローム層（Hue7.5YR3/2）…軟質。アカホヤ粒を含む。
8　極暗褐色砂質ローム層（Hue7.5YR2/3）…硬め、アカホヤ粒、基本土層３層・４層含む。
9　黒褐色ローム層（Hue10YR2/3）…硬め、アカホヤ粒、基本土層３層を含む。
10　暗褐色ローム層（Hue10YR3/4）…硬め、アカホヤ粒、黒褐色土ブロックを含む。
11　暗褐色ローム層（Hue10YR3/4）…10 と同質
12　褐色ローム層（Hue10YR4/6）…硬め、アカホヤ粒、暗褐色土ブロックを含む。
※ 10 ～ 12 は木棺の裏込めと考えられる。
※ 8・9 も木棺の裏込めの可能性が考えられる。

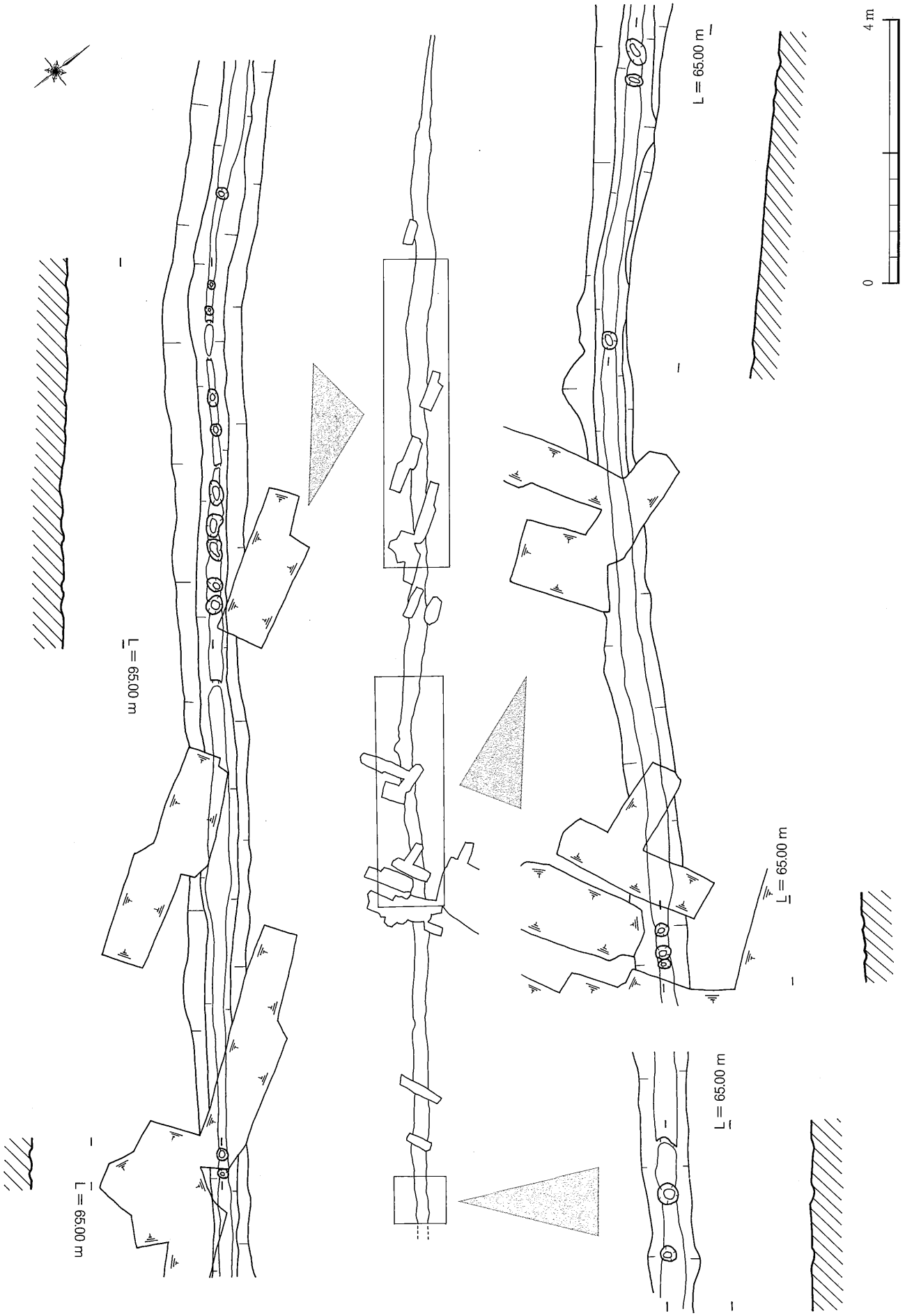
第 62 図　弥生時代土壙墓実測図③（S ＝ 1/30）及び出土遺物実測図（S ＝ 2/3）

第 14 表　弥生時代墳墓計測表

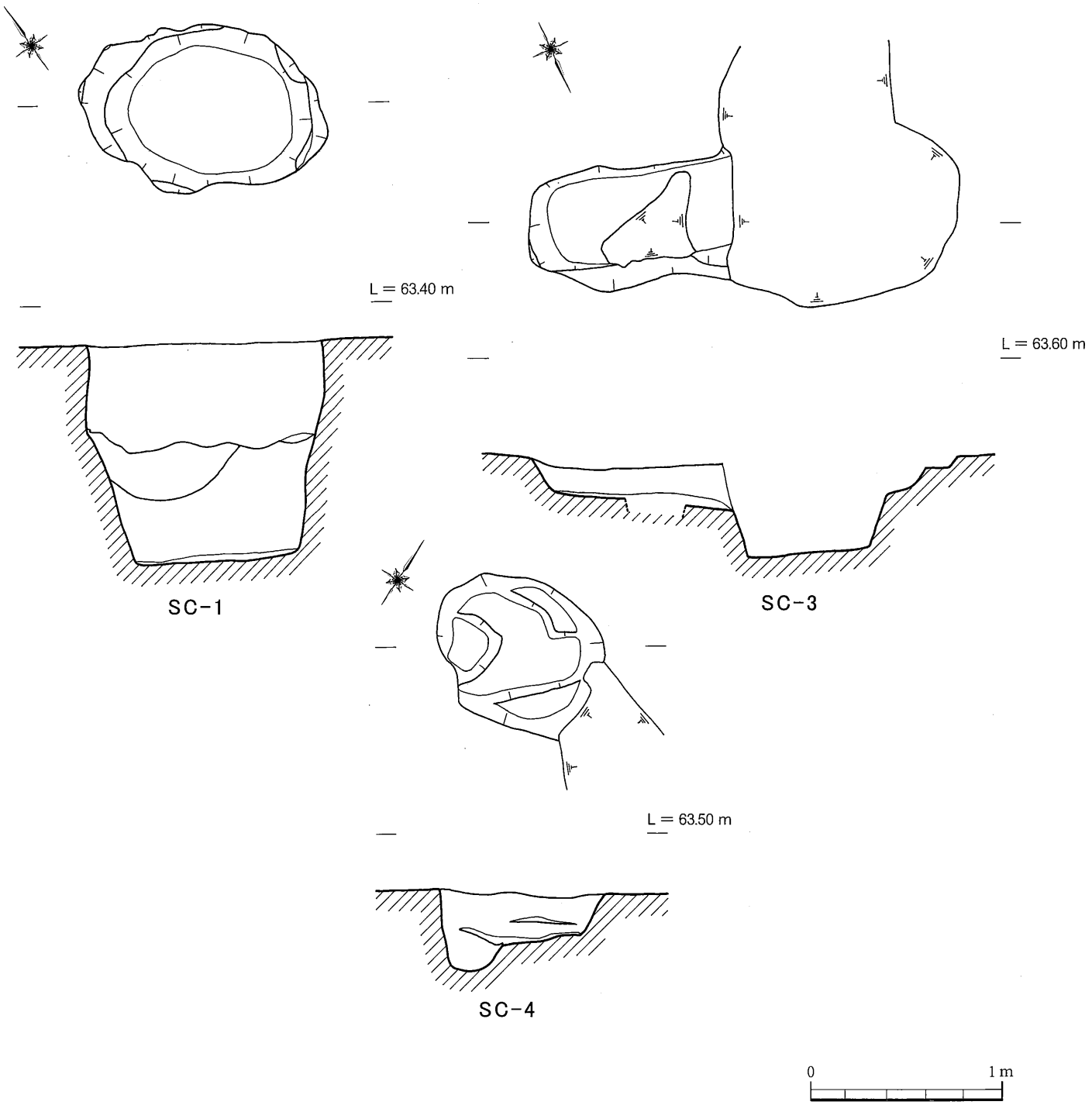
遺構番号	長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	主軸方位	床長軸（m）	床短軸（m）	出土遺物	備考
SC-2	1.92	0.92	0.73	N-86°　-W	1.92	0.43	無	
SC-6	1.94	0.97	0.62	N-89°　-W	1.43	0.6	無	木棺墓？
SC-7	1.83	0.89	0.56	N-89°　-W	1.48	0.36	無	床面に掘り込み有
SC-8	1.85	0.88	0.93	N-86°　-W	1.82	0.53	鉄鏃１点	木棺墓？・床面に掘り込み有



第 63 図　道路状遺構（SG-1）及び溝状遺構（SE-2）土層断面図（S＝1/250　1/20）



第 64 図　SG-1 床面及び断面実測図（S ＝ 1/80）



第65図　アカホヤ火山灰層上面検出土坑実測図（S＝1/30）

2．土坑について

SC-1はSC-2より15m西側に位置する。平面形は130cm×88 cmの不正惰円形プランを呈する。本遺構は中段付近で一部オーバーハングしており、深さは112cmを測る。遺物は出土していない。

SC-3は調査区の南東部において検出された。本遺構は西側を大きく撹乱されており本来の形状は不明瞭であるが、平面形が103＋αcm×63 cm長方形の素掘りの土坑であろう。また、中央部付近も撹乱を受けている。弥生時代の土壙墓と軸を同じであることから、土壙墓の可能性も考えられるが、検出面が土壙墓と同じであるが土坑の深さが浅く二段掘りを呈していない点から別の遺構と判断した。遺物は出土してない。

SC-4はSC-3より6m程度西側に位置する。東側に撹乱されているため本来の形状は不明であるが、直径90cmの不整円形の土坑であろう。中段にテラスがあり、床面には直径20cmの小穴を有する。遺物は出土していない。

弥生時代墳墓群

SC-7

SC-8 土層断面

写真図版 18　アカホヤ火山灰層上面検出遺構①

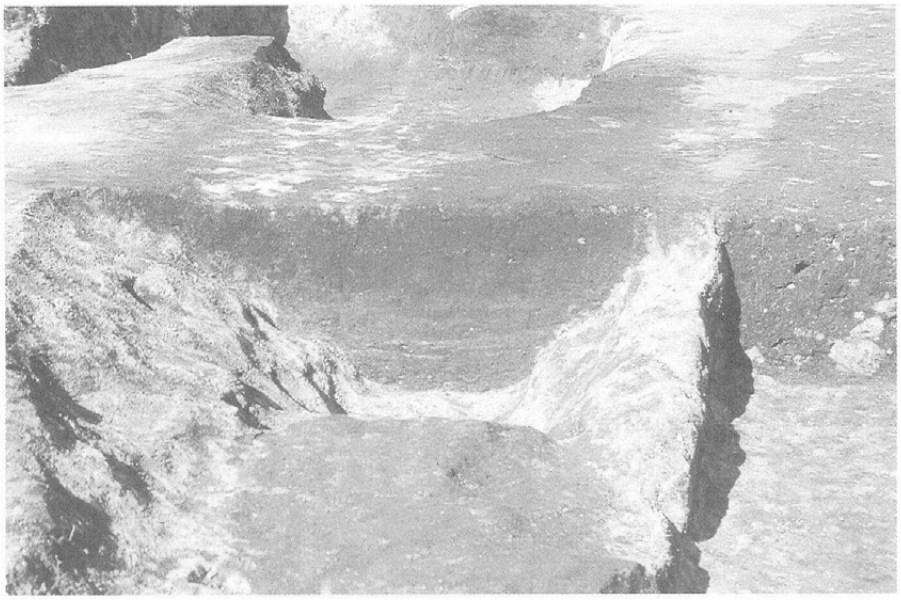
SC-8

SC-8 出土鉄鏃

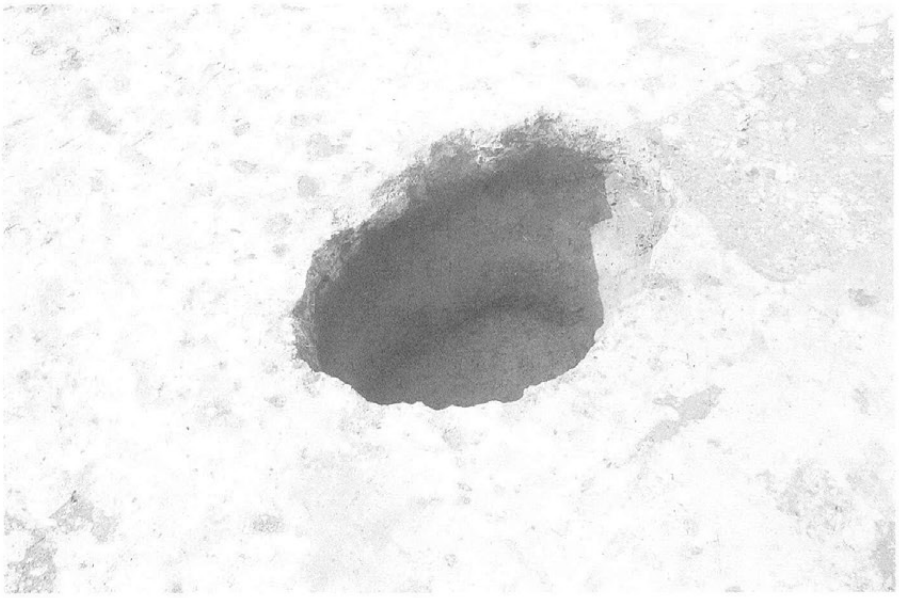
SG-1・SG-2 検出状況

写真図版 19　アカホヤ火山灰層上面検出遺構②

SG-1・SE-2　完掘



SG-1　土層断面①



SC-1

写真図版 20　アカホヤ火山灰層上面検出遺構③

第5章　まとめ

後期旧石器時代調査の第1ブロック（角錐状石器の製作ブロック）について

第1ブロックの接合資料についてもう少し考察をおこなうことによって、角錐状石器の制作方法を考察していきたい。本遺跡の角錐状石器は基本的には縦長剥片を素材とするものであり、接合資料からもそれを読み取ることができる。しかし、角錐状石器の未製品と考えられる73・161・接合資料19・201の素材は縦長剥片ではない。二次加工のある剥片73は前述のとおり横剥ぎの打面調整剥片である。このことから本遺跡の角錐状石器の製作には一応縦長剥片を素材とすることを意識しているが、ある一定の規模（条件）を越えた剥片に関しては角錐状石器の素材として取り扱っているようである。

母岩A・Bについての調整剥片の生産は、最初は素材の縦長剥片の主要剥離面側から作出している。それが3周目以降の縁辺の調整に差し掛かると背面側からの調整も行われるようになる。接合資料1の13及びそれに接合する調整剥片の接合資料（第10図の水色）と122とを並べてみると大体4～5周の縁辺の調整が行われて完成に至っているようである。母岩Cについては素材が剥片というよりは分割礫であると想像され、まず片縁の主要剥離面側から調整剥片を生産し、その後同じ縁辺の背面側から調整剥片を生産するというように、まず片面の調整が終わってもう一方の面の調整にとりかかるような状況が見受けられる。

なお角錐状石器の規模については122が本ブロックにおいて唯一完形に復元できた接合資料であり、その他の欠損品などを観察しても基部の幅・厚みに関しては同じような規模であることから122程度の大きさの角錐状石器の生産を試みていたものと考えられる。また、ブロック1と関係があるかもしれないSR-3から出土している角錐状石器4も厚みは122より少し厚いが長さは同じくらいであることからもそのことを支持できる。しかし、73・88・161・168・201などの角錐状石器の未製品と考えられる資料を見ると122よりもずいぶん小さいものもある。二次加工をおこなう中で製品が小さくなりすぎたために未製品のまま廃棄されたかもしれないが、122よりも小規模な角錐状石器の製作を意図していた可能性も考えられる。

本ブロックにおいて角錐状石器の完存品は一点も出土していない。本ブロックを構成するものは角錐状石器の未製品（二次加工のある剥片を含む）・欠損品・調整剥片・敲石のみである。敲石の大きさを考えると母岩を分割することは困難であると考えられる。つまり本ブロックを形成した製作者は、どこかである程度石材を分割し、それを本遺跡に持ち込み、第1ブロックの位置で素材剥片の生産を行い、さらに二次加工を加えて、角錐状石器を完成させ、使用可能な製品と共に第1ブロックを立ち去っているという様子を想定することができる。（ただし、100ｇという敲石では剥片剥離が不可能ということならば、どこかで素材剥片を生産した上で、本遺跡に持ち込んで角錐状石器の生産をおこなったということともなる。このことについては石器製作実験などで実証できれば良いと考えている。）

後期旧石器時代調査の第3・第4ブロック（瀬戸内技法関連の接合資料）について

第3ブロックにおいて瀬戸内技法及びその影響を受けるような接合資料が多く出土している。その中で典型的な瀬戸内技法の第2工程を示すような接合資料としては接合資料31しか挙げることができない。全ての接合資料で、剥片素材の石核を用いて連続的に横剥ぎの剥片を生産している様子はうかがえるものの、山形の打面を自然面と剥離面によって作り出していたり、目的剥片を生産する際の打面や打点の位置が大きく動いているものがあったりと、典型的な瀬戸内技法と呼べないような接合資料のほうが多く見られる。

一方でこのような状況の中で製作されたナイフ形石器を見てみると第3ブロックからは国府型ナイフ形石器に分類されるナイフ形石器しか出土していない。しかもそのほとんどが欠損品であり、使用に耐えうるナイフ形石器については本遺跡の外に持ち出してしまっているものと考えられる。その中で完全な形を呈しているものは、もともと完存品である337と、欠損品から完形に接合することできた294だけである。これを計測すると長さは3.8～3.5cm・幅は1.2～1.1cmと両者共に小型品である。欠損品のナイフ形石器の幅や厚みを計測しても同じくらいの規模であることから、おそらく第3ブロックで製作された国府型ナイフ形石器は全て同規模のものだったと考えられる。また第3ブロックで生産されている横剥ぎの剥片に目を向けても大型のナイフ形石器が製作できるくらいの規模の剥片は出土していない。比較的大型の翼状剥片が生産可能でありそうな接合資料31についても、翼状剥片260を生産する際に、山形の打面はすでに形成されているにもかかわらず剥片250・254を作出

して、大型の翼状剥片が生産されないように作業面を減じている。このことからも小型のナイフ形石器だけを生産する意図が感じられ、第3ブロックは小型の国府型ナイフ形石器を生産するための場所であったといえる。

また第4ブロックでは瀬戸内技法の工程を示すような接合資料は出土していないが、341・342のような剥片素材の石核の底面を取り込んで連続的に横長剥片を生産したような痕跡が見られる剥片や340のような山形に打面を作り、横長剥片を連続的に生産したような石核が出土している。このような瀬戸内技法の影響を受ける資料が存在していることから、第4ブロックと第3ブロックの関連性が高く、同時期に存在したブロックであるということができるだろう。また第4ブロックの中にあるSR-4についても同時期のものと想定される。

なお、吉留秀敏氏が瀬戸内技法資料の編年案を打ち出しているが、それに対比させると第3・第4ブロックの資料についてはⅢ期の様相になるものと考えられる。

吉留秀敏　2001「第二部特説編　第一章旧石器時代　－筑紫野地域における瀬戸内技法関連資料の評価」『筑紫野市史　資料編（上）　考古資料』筑紫野市

玦状耳飾について（出土状況の解説と時期認定について）

玦状耳飾はアカホヤ火山灰層を重機で除去した後の縄文時代早期の遺物包含層（基本層序の第3層）の掘り下げ作業中に出土した。縄文早期の遺物包含層の掘り下げを開始した次の日に出土し、発掘作業員さんたちを驚かせた資料である。玦状耳飾の出土した地点に撹乱はなく、縄文早期の所在であることは間違いないが、早期のどの段階に位置するものかということを検討してみようと思う。

本遺跡から出土した玦状耳飾と平面分布が一番近い位置にある土器は縄文を施文する土器（第3章遺物№.52・53）である。この土器は43点の破片が出土しているが、平面分布を見ても一箇所にまとまっており、その分布が集中する範囲内だけで接合する点や胎土が同じである点からも、第3章で述べたとおり全て同一個体と考えられる。この土器は施文方法・胎土・器形から考察すると松木田式に該当するものと考えられる。

近年、玦状耳飾のアカホヤ火山灰層下位での出土事例が増加している南九州地域であるが、それらの玦状耳飾の帰属時期は早期末葉とされているものばかりである。松木田式の段階に玦状耳飾が存在することになると、現在の状況を大幅に覆すものとなることに違和感を覚える。

前述のとおり、本遺跡の早期の遺物包含層における遺物の平面分布だけの検討から玦状耳飾の時期を決定しようとすると、どうしても松木田式の時期という考えが当てはまってしまうだろう。しかし、今回の出土状況は一個体の土器と一個の石器がただ隣接しているというだけである。このような出土状況で隣接する二つの遺物同士を同時期のものと認めることができるのであろうか。たまたま別々の時期に遺物が一つずつそこに取り残され、それが発掘調査においてほぼ同時に発見されてしまうという現象は当然考えられるであろう。

筆者はこれまで船引地区遺跡群における複数の土器型式が混在する早期の遺物包含層中の土器と特徴的な石鏃の平面分布の状況に注目して、その石鏃が早期のどの段階に帰属するのかということについていくつか仮説をたてている。これらの仮説はある程度の時間幅で線引きされた土器と特徴的な石鏃が平面分布図の上で重なっている場合に、その石鏃の帰属する時期を分布が重なる土器の時期と同じであろうと考えているものである。しかし、同じ種類の複数の個体の土器が混在する範囲の中に、同じ形態の石鏃や同じ石材を使用する石鏃が数多く分布しないような場合にはこのような仮説は立てられないものと考えている。同じ土器型式の複数の個体や一定量を越えた特徴的な石器が平面分布の上で重なるという現象には、少なくとも同じ時期に使用されていたものが何らかの要因によって、一緒にその場に取り残されてしまったという状況が想定できるが、一個体ずつの遺物の重なりについては有機的な関係があるものと積極的に考えていない。

つまり、本遺跡における玦状耳飾と縄文施文の土器の平面分布の関係は偶然の一個体ずつの遺物の重なりであり、縄文施文の土器が玦状耳飾の時期を決定できないと考えられる。さらに玦状耳飾の出土層位を考えてみても、3層の掘り下げを開始したばかりの段階で出土した玦状耳飾に対して、縄文を施文する土器は同じ3層から出土している破片はあるものの、3層と4層との出土点数を比較すると4層からは39点も出土しており、本来この土器が包含されていた層は4層の可能性が高いという点も玦状耳飾との有機的な関係を否定するものである。

本遺跡における玦状耳飾の時期決定については、近隣の宮崎市高岡町の永迫第2遺跡出土の資料と形態的特徴や出土状況（アカホヤ火山灰層の直下の出土）が類似する点、本遺跡の早期の遺物包含層から最も多く出土している土器が撚糸文を施文する塞ノ神式土器であり、遺物包含層の主体時期もその段階のものであろうという考え方から、塞ノ神式土器A類の段階以降のものとして位置づけておく。

附編　清武町下猪ノ原遺跡第１地区における自然科学分析

Ⅰ．下猪ノ原遺跡第1地区における放射性炭素年代測定

株式会社　古環境研究所

１．試料と方法

試料名	地点	遺構	種類	前処理・調整	測定法
No. 1	SIH	SI-2	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 2	SIH	SI-3	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 3	SIH	SI-8	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 4	SIH	SI-10	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 5	SIH	SI-11	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 6	SIH	SI-13	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 7	SIH	SI-14	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 8	SIH	SI-20	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 9	SIH	SI-23	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS
No. 10	SIH	SI-24	炭化物	酸 - ｱﾙｶﾘ - 酸洗浄，石墨調整	AMS

AMS：加速器質量分析法（Accelerator Mass Spectrometry）

２．測定結果

試料名	測定No. (Beta-)	^{14}C 年代 (年 BP)	δ^{13}C (‰)	補正^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代（西暦） (1σ:68%確率，2σ:95%確率)
No.1	202903	7820 ± 50	-27.0	7790 ± 50	交点：cal BC 6630 1σ：cal BC 6660-6560 2σ：cal BC 6690-6480
No.2	202904	7750 ± 40	-25.8	7740 ± 40	交点：cal BC 6560 1σ：cal BC 6610-6490 2σ：cal BC 6650-6470
No.3	202905	8890 ± 50	-26.4	8870 ± 50	交点：cal BC 8160, 8130, 7980 1σ：cal BC 8200-7950 2σ：cal BC 8230-7800
No.4	202906	9820 ± 50	-26.5	9800 ± 50	交点：cal BC 9250 1σ：cal BC 9270-9230 2σ：cal BC 9300-9210
No.5	202907	8800 ± 50	-25.0	8800 ± 50	交点：cal BC 7930 1σ：cal BC 7970-7770 2σ：cal BC 8180-8040, 8010-7720

試料名	測定No. (Beta-)	^{14}C 年代 (年 BP)	δ^{13}C (‰)	補正^{14}C 年代 (年 BP)	暦年代（西暦） (1σ:68%確率, 2σ:95%確率)
No.6	202908	8930±50	-26.8	8900±50	交点：cal BC 8180, 8040, 8010 1σ：cal BC 8220-7970 2σ：cal BC 8240-7930
No.7	202909	7800±40	-26.0	7780±40	交点：cal BC 6610 1σ：cal BC 6650-6560 2σ：cal BC 6670-6490
No.8	202910	9240±50	-27.1	9210±50	交点：cal BC 8430, 8360, 8340 1σ：cal BC 8480-8300 2σ：cal BC 8570-8280
No.9	202911	8710±40	-26.8	8680±40	交点：cal BC 7630 1σ：cal BC 7740-7610 2σ：cal BC 7780-7600
No.10	202912	8990±40	-26.3	8970±40	交点：cal BC 8230 1σ：cal BC 8250-8200 2σ：cal BC 8260-8180, 8110-8000

（1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は、国際的慣例によりLibbyの5,568年を用いた。

（2）デルタδ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

（3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料のδ^{13}C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代である。

（4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を較正することにより算出した年代（西暦）。calはcalibrationした年代値であることを示す。較正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。

暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（シグマ）（68%確率）と2σ（95%確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

文献

Stuiver et al. (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.
中村俊夫（1999）放射性炭素法．考古学のための年代測定学入門．古今書院，p.1-36.

Ⅱ．下猪ノ原遺跡第１地区における樹種同定

１．はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

２．試料

試料は、縄文時代早期の集石遺構などから採取された炭化材９点および炭化種子１点である。

３．方法

試料を割折して炭化材の新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目）、接線断面（板目）の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡によって 50 ～ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。炭化種子については、肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴及び現生標本との対比によって同定を行った。

４．結果

表１に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

コナラ属コナラ節　Quercus sect. Prinus　ブナ科　図版２

横断面：年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節には、カシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ 15 m、径 60cm ぐらいに達する。材は強靭で弾力に富み、建築材などに用いられる。

コナラ属クヌギ節　Quercus sect. Aegilops　ブナ科　図版３

横断面：年輪のはじめに大型の道管が１～２列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節には、クヌギ、アベマキがあり、本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、高さ 15 m、径 60cm に達する。材は強靭で弾力に富み、器具、農具などに用いられる。

ブナ科　Fagaceae

横断面：部分的ではあるが大型の道管と火炎状に配列する小道管が見られる。放射断面：放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりブナ科のクリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれかであるが、試料が小片で保存状態が悪いことから、ブナ科の同定にとどめた。

（炭化種子）
不明　unknown
炭化による変形が著しく、同定には至らなかった。

5．所見

分析の結果、コナラ属コナラ節７点、ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）１点、コナラ属クヌギ節１点が同定された。

このうち、コナラ属コナラ節とコナラ属クヌギ節は、日当たりの良い山野に生育する落葉高木で、温帯ないし冷温帯を中心に分布し、二次林要素も含まれる。放射性炭素年代測定（第Ｉ章）では、おおむね 9,000 年 BP 前後の年代値が得られている。なお、コナラ節やクヌギ節の種実（ドングリ）は、水さらしや加熱処理などのアク抜きをしないと食用にならない。

文献

佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p. 296

表1　下猪ノ原遺跡第1地区における樹種同定結果

遺跡名	遺構名	炭化物No.	結果（学名 / 和名）	
SIH	SI - 2		Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
SIH	SI - 8	1	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
SIH	SI - 8	4	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
SIH	SI - 8	9	Fagaceae	ブナ科（クリ、シイ属、コナラ属コナラ節のいずれか）
SIH	SI - 8	12	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
SIH	SI - 8	13	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
SIH	SI - 8	14	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
SIH	SI - 8	16	Quercus sect. Prinus	コナラ属コナラ節
SIH	SI - 8	炭化種子	unknown	不明
SIH	SI-10		Quercus sect. Aegilops	コナラ属クヌギ節

調 査 抄 録

フリガナ	シモイノハルイセキ				
書名	下猪ノ原遺跡第1地区				
副書名	県営農免農道整備事業にかかる埋蔵文化財調査報告書				
巻次	第1集				
シリーズ名	清武町埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ番号	第29集				
編集者名	秋成雅博				
発行機関	清武町教育委員会				
所在地	宮崎県宮崎郡清武町大字船引204番地				
発行年月日	2010年2月				
所在遺跡名	所在地	市町村：遺跡番号	北緯	東経	調査期間
下猪ノ原遺跡	清武町大字船引字下猪ノ原	清武町：205	31° 52′ 05″（日本測地形）	131° 22′ 22″（日本測地形）	2002.12.9～2003.12.24
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
7000㎡	農業関連	集落・墳墓	旧石器 縄文（早期） 弥生 中世	礫群 集石遺構 陥し穴 土壙墓 溝 土坑 など	石器 縄文土器 弥生土器 鉄器 土師器 など
特記事項					
角錐状石器製作関連の接合資料・瀬戸内技法関連の接合資料/縄文時代早期の玦状耳飾/弥生時代終末期の墳墓					

清武町埋蔵文化財調査報告書　第29集

下猪ノ原遺跡第一地区

県営農地保全整備事業船引工区にかかる埋蔵文化財調査報告書

発行年月日　２０１０年２月17日
編集発行　清武町教育委員会
〒889-1696　宮崎県宮崎郡清武町大字船引204
TEL.0985（85）8111　FAX.0985（85）2634
印　　刷　有限会社　いろは企画
〒889-1603　宮崎県宮崎郡清武町正手３丁目19-2
TEL.0985（85）5889　FAX.0985（85）5889